

# FAX System (J)

## 使用説明書

ご使用前に必ずこの使用説明書をお読みください。  
また、お読みになった後は、複写機本体の使用説明書と  
いっしょに大切に保管してください。

## 商標について

- Microsoft、Windows、Windows NT および Internet Explorer は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Windows Me および Windows XP は、Microsoft Corporation の商標です。
- Ethernet はゼロックス社の登録商標です。
- IBM ならびに IBM PC/AT は、米国 IBM International Business Machines Corporation の商標です。
- Adobe、Acrobat は、アドビシステムズ社の登録商標です。

その他、本使用説明書中に記載されている会社名や製品名は、各社の商標または登録商標です。  
なお、本文中には TM および ® は明記しておりません。

日本語変換はオムロンソフトウェア(株)のモバイル W n n を使用しています。

“Mobile Wnn” (c) OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1999-2002 All Rights Reserved

# FAX System (J) をご購入いただきまして 誠にありがとうございます。

この使用説明書は、ファクスを良好な状態でご使用いただくために、正しい操作方法・日常の手入れおよび簡単なトラブルの処置などができるようにまとめたものです。

ご使用前に必ずこの使用説明書をお読みください。また、お読みになった後は、複写機本体の使用説明書といっしょに大切に保管してください。

この使用説明書及び本製品への表示では、本製品を正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。



**危険**：この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。



**警告**：この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



**注意**：この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

## 絵表示

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



「注意一般」



「感電注意」



「高温注意」



「禁止一般」



「分解禁止」

●記号は行為を規制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容が描かれています。



「強制一般」



「電源プラグをコンセントから抜け」



「必ずアース線を接続せよ」

本製品使用時の汚れなどによって本使用説明書の注意・警告事項が判読できない場合や、本使用説明書を紛失した場合には、弊社製品取り扱い店等へご連絡の上、新しい使用説明書を入手してください。（有償）

## 〈お願い〉

使用説明書の内容は、機械性能改善のために、予告なく変更する場合がありますので御了承ください。

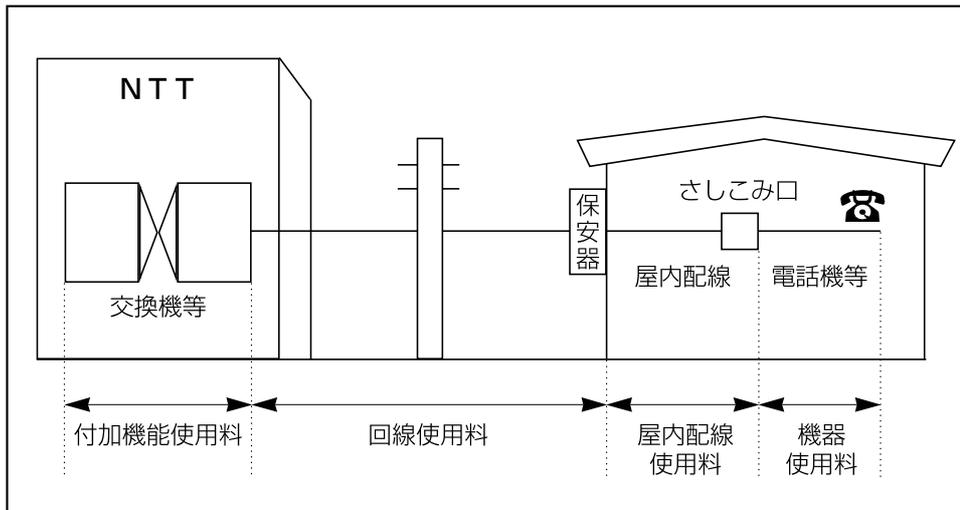
## ご使用にあたってのお願い

本品をご使用にあたって、NTTのレンタル電話機が不要となる場合は、NTTへご連絡ください。  
ご連絡いただいた日をもって、「機器使用料」は不要となります。  
詳しくは、局番なしの116番（無料）へお問い合わせください。

### [電話料金の内訳]

①回線使用料	ご契約者名簿により住宅用と事務用に区分され、回線使用料が異なります。
②屋内配線使用料	保安器から屋内の電話さしこみ口までの屋内配線をNTTからレンタルでご利用いただいている場合の料金です。
③機器使用料	NTTの電話機などをレンタルでご利用いただいている場合の料金です。
④付加機能使用料	プッシュ回線、キャッチホン、クレジット通話などをご利用いただいている場合の付加機能の使用料金です。

### [NTTの基本料などのしくみ]





# 本書の構成

本書は、機械本体にオプションの FAX System (J) を装着した場合に使用可能となるファクス機能についての説明です。本書では、初めてファクスを使う方から、機械の操作に手慣れた方までが、戸惑いなくお使いになれるように、いくつかの章に分けて説明しています。

以下に各章の内容を記しますので、本書をご利用になる際の参考にしてください。

## 重要です！ まず初めに お読みください

本ファクスシステムをご購入後、必ず知っておいていただきたいことについて説明しています。ファクスを取り扱う際の注意事項など、安全にお使いいただくために必ずお守りいただきたい事項を記載しています。コピー編の安全上の注意事項と合わせて、必ずお読みください。

## 1 章 名称・準備・特徴

各部の名称やはたらき、そして実際にお使いになる前の設定・準備事項について説明しています。また、本機の特徴についても説明していますので一緒にお読みください。

## 2 章 基本編

「原稿を送る」、「原稿を受ける」といったような一般的なファクスの使い方について説明しています。基本的な機能はこの章を読んでいただければご使用いただけます。

## 3 章 活用編

ファクスの使い方に少し慣れたら、この活用編の機能にチャレンジしてみましょう。送る時刻を指定したり、同じ原稿を複数の相手先に連続して送ったり、両面原稿をそのまま送信したり、今までよりもっと効率的にファクスを使うことができるようになります。

## 4 章 こんなときには

ご使用中にトラブルが発生したときは、まずこの章をお読みください。エラーメッセージに対する処置方法や、各機能を設定する際の確認事項が記載されています。処置方法や確認事項をよくお読みになり、正しい処置を行ってください。

## 5 章 応用編

本機を使いこなせる自信のある方は、この応用編の機能にチャレンジしてみましょう。送信先や受信先を制限したり、極秘文書を誰にも見られることなく受け取ったり、といった高度なファクス通信を行うことができます。また、本機には他社機と互換性のある F コード通信機能や、ファクスの通信状況を把握するのに便利な部門管理機能も搭載されています。

## 6章 通信情報の管理

最近行われた送受信の状況をメッセージ表示で確認する方法を説明しています。  
また、通信結果や機械の設定・登録状況を把握するための管理レポート類の出力方法についても説明しています。

## 7章 各種設定と登録

エラー時に発生するブザー音の音量を調整するなど、機械や機能に関する各種の設定や登録について説明しています。  
本機のご使用状況に応じて、設定・登録を行ってください。

## 8章 オプション

オプションのハンドセットの使い方やオプション機器を装着した場合に使える機能について説明しています。  
オプションメモリを増設するとよりきれいな送信・受信が可能となるウルトラファインモードが使えるようになります。

## 9章 Network FAX 設定 (オプション)

機械本体にプリンタ/スキャナキット (オプション) を装着し、Network FAX 機能を使用する方法として、セットアップ方法および本体の設定方法について説明しています。付属の CD-ROM に納められている使用説明書の機能編 (オンラインマニュアル) も合わせてお読みください。

## 10章 ご参考

この章には、本ファクスシステムの仕様を記載しています。  
また、付録としてメニュー構成一覧、エラーコード一覧表を記載しています。ご使用になられる際の参考資料としてご活用ください。

# 目次

<b>重要です！ まず初めにお読みください</b> .....	<b>X</b>
<b>機械を設置するときのご注意</b> .....	<b>X</b>
<b>取り扱い上のご注意</b> .....	<b>X</b>
<b>1章 ファクスの操作方法（名称・準備・特徴）</b> .....	<b>1-1</b>
<b>機械各部の名称</b> .....	<b>1-1</b>
本体各部の名称とはたらき .....	1-1
操作パネルの名称とはたらき .....	1-2
ファクスの基本画面 .....	1-3
<b>準備しましょう</b> .....	<b>1-5</b>
電話回線の種類を設定する（電話回線種別の設定） .....	1-5
発信元記録を設定する（発信元記録設定） .....	1-6
こちらの情報を登録する（自局情報登録） .....	1-6
日付と時刻を登録する（日時登録） .....	1-8
<b>本機の特徴について</b> .....	<b>1-9</b>
コピーモードからファクスモードへの移行 .....	1-9
初期モードについて .....	1-9
管理者番号について .....	1-9
リセットキーを押したとき .....	1-10
自動的に設定をリセットする（オートクリア機能） .....	1-10
3桁の番号で文書を管理する（文書番号） .....	1-10
自動的に節電モードに移行する（オートシャットオフ機能） .....	1-10
ネットワーク上のPCから送信する（Network FAX 機能（オプション）） .....	1-11
2つのジョブを同時に処理する（デュアルアクセス機能） .....	1-12
送信・受信が同時にできる（マルチポート（オプション）） .....	1-14
複数の原稿を一括で送信する（一括送信機能） .....	1-14
原稿を回転して送信する（回転送信機能） .....	1-14
Fコードで相手先を確認する（Fコード通信機能） .....	1-14
用紙がなくても受信する（代行受信機能） .....	1-15
セットされている用紙に合わせて回転受信する（回転受信機能） .....	1-15
停電時にもメモリをバックアップする（画像メモリバックアップ機能） .....	1-15
コピー中に受信原稿を出力する（ファクス優先出力） .....	1-16
受信原稿の出力中にコピーする（コピー優先出力） .....	1-16
3桁の数字で相手先を指定する（短縮番号） .....	1-17
NTTのFネットを使用する（Fネット無鳴動受信機能） .....	1-17

<b>2章 ファクスの操作方法（基本編）</b> .....	<b>2-1</b>
自動で送信する .....	2-1
自動で受信する（FAX 専用自動受信） .....	2-6
通信を中止する .....	2-8
メモリ送信（原稿読み取り中）の中止のしかた .....	2-8
メモリ送信（通信中）の中止のしかた .....	2-8
ダイレクト送信の中止のしかた .....	2-9
受信の中止のしかた .....	2-9
文字を入力する .....	2-10
入力画面について .....	2-12
ローマ字漢字入力とかな漢字入力での文字変換のしかた .....	2-14
区点入力での文字変換のしかた .....	2-15
半角自局名称の入力のしかた .....	2-16
ワンタッチキーで送信する（ワンタッチダイヤル） .....	2-19
登録のしかた .....	2-19
登録内容の変更と削除のしかた .....	2-21
使いかた .....	2-22
ワンタッチダイヤルリストの出力のしかた .....	2-23
3桁の数字で相手先にダイヤルする（短縮ダイヤル） .....	2-24
電子電話帳でダイヤルする（宛先帳） .....	2-25
検索のしかた .....	2-25
宛先帳の使用のしかた .....	2-26
宛先帳リストの出力 .....	2-27
同じ相手にダイヤルする（リダイヤル） .....	2-28
自動リダイヤルのしかた .....	2-28
手動リダイヤルのしかた .....	2-28
<b>3章 ファクスの操作方法（活用編）</b> .....	<b>3-1</b>
両面原稿を送信する（両面送信） .....	3-1
原稿を拡大して送信する（拡大送信） .....	3-3
通信中に次の原稿を予約する（送信予約） .....	3-5
たくさんの相手先に送信する（順次同報送信） .....	3-6
別の原稿を優先して送信する（割込送信） .....	3-7
指定の時間に送信する（時刻指定通信） .....	3-8

登録したダイヤルとテンキー入力でダイヤル（チェーンダイヤル） .....	3-9
登録のしかた .....	3-9
登録内容の変更と削除のしかた .....	3-10
使いかた .....	3-11
予約中の原稿を編集する（メモリ編集） .....	3-12
通信原稿の印字のしかた .....	3-12
通信の即時実行のしかた .....	3-13
通信の削除のしかた .....	3-13
通信内容の変更のしかた .....	3-14
手動で送信する（手動送信） .....	3-17
手動で受信する（手動受信） .....	3-18

#### 4 章 こんなときには ..... 4-1

ファクスデータ表示が点灯しているとき .....	4-1
電源プラグを抜くときの注意 .....	4-1
電源断レポートが出力される時 .....	4-1
エラーが発生したとき .....	4-2
こんな表示が出たときは .....	4-3
「故障かな？」と思ったら .....	4-5

#### 5 章 ファクスの操作方法（応用編）..... 5-1

ファクスと電話を自動で切り替える（FAX/TEL 自動切替受信） .....	5-1
ファクスと留守番電話を自動で切り替える（FAX/ 留守番電話自動切替受信） .....	5-3
ファクス番号と電話番号を使い分ける（ダイヤルイン） .....	5-4
ダイヤルイン FAX/TEL 番号の登録のしかた .....	5-4
ダイヤルイン設定のしかた .....	5-5
接続した電話機から受信を開始させる（リモート切替機能） .....	5-6
リモート切替ダイヤルの登録のしかた .....	5-6
使いかた .....	5-6
相手の操作で通信を開始する（ポーリング通信） .....	5-7
ポーリング送信のしかた .....	5-7
ポーリング受信のしかた .....	5-8
F コードを使って通信する（F コード通信） .....	5-9
F コードについて .....	5-9
F コードボックスについて .....	5-10
親展で通信する（F コード親展通信） .....	5-11
F コード親展ボックスの登録のしかた .....	5-11

F コード親展ボックスの登録内容の変更 / 削除のしかた	5-12
F コード親展送信のしかた	5-13
F コード親展ボックスからの出力のしかた	5-14
F コード親展ボックスリストの出力のしかた	5-15
F コード親展ボックスへの原稿の入力のしかた	5-16
F コード掲示板受信のしかた	5-17
<b>中継機で原稿を転送する (F コード中継同報指示送信)</b>	<b>5-19</b>
F コード中継ボックスの登録のしかた	5-19
F コード中継ボックスの登録内容の変更 / 削除のしかた	5-21
F コード中継同報指示送信のしかた	5-22
F コード中継ボックスリストの出力のしかた	5-23
<b>受信した原稿を他のファクスに転送する (メモリ転送)</b>	<b>5-24</b>
転送先の登録のしかた	5-24
登録内容の変更のしかた	5-25
メモリ転送設定のしかた	5-25
<b>複数の相手先をグループで送信する (グループダイヤル)</b>	<b>5-26</b>
登録のしかた	5-26
登録内容の変更と削除のしかた	5-27
使いかた	5-28
グループダイヤルリストの出力のしかた	5-28
<b>送信内容をプログラムにする (プログラムダイヤル)</b>	<b>5-29</b>
登録のしかた	5-29
登録内容の変更と削除のしかた	5-30
使いかた	5-31
プログラムダイヤルリストの出力のしかた	5-31
<b>パスワードが一致したときだけ通信を行う (パスワードチェック通信)</b>	<b>5-32</b>
許可 TEL 番号の登録のしかた	5-32
許可 TEL 番号の変更 / 削除のしかた	5-33
許可 ID 番号の登録のしかた	5-34
許可 ID 番号の変更 / 削除のしかた	5-35
パスワードチェック通信設定のしかた	5-35
<b>原稿を暗号化して通信する (暗号通信)</b>	<b>5-36</b>
暗号鍵の登録のしかた	5-36
暗号鍵の登録内容変更 / 削除のしかた	5-38
暗号ボックスの登録のしかた	5-38
暗号ボックスの登録内容の変更 / 削除のしかた	5-40
送信側の操作のしかた	5-41
受信側の操作のしかた	5-41

暗号ボックスからの出力のしかた .....	5-42
暗号鍵リストの出力のしかた .....	5-43
暗号ボックスリストの出力のしかた .....	5-43
<b>部門ごとに使用を管理する（部門管理機能） .....</b>	<b>5-44</b>
部門管理起動中にファクスを使用するとき .....	5-45
部門管理起動中の登録操作のしかた .....	5-45
部門管理起動中の応用操作のしかた .....	5-46
部門管理起動中のレポート出力操作のしかた .....	5-46
送信カウンタの参照のしかた .....	5-47
部門管理レポートの出力のしかた .....	5-48

## **6 章 通信情報の管理 .....**

**6-1**

<b>通信結果の内容を確認する（通信結果表示） .....</b>	<b>6-1</b>
送信結果のみかた .....	6-1
受信結果のみかた .....	6-2
<b>各種管理レポートを出力する（管理レポート出力） .....</b>	<b>6-3</b>
通信管理レポートの出力のしかた .....	6-3
通信予約確認レポートの出力のしかた .....	6-3
ユーザー設定リストの出力のしかた .....	6-4

## **7 章 各種設定と登録 .....**

**7-1**

各種レポートの出力条件を設定する（レポート出力設定） .....	7-1
掲示板機能の設定をする（掲示板設定） .....	7-3
呼び出しベルの回数を設定する（ベル回数設定） .....	7-4
スピーカの音量を調節する（音量調整） .....	7-5
原稿の読み込み条件を設定する（原稿送り装置読込設定） .....	7-6
送信方法の初期値を設定する（送信モードの初期値設定） .....	7-7
受信方法を設定する（受信モード設定） .....	7-8
受信した日時記録方法を設定する（受信日時記録設定） .....	7-9
使用する用紙を設定する（ファクス給紙設定） .....	7-10
手差しから受信用紙を送る（手差し給紙設定） .....	7-11
2枚の原稿を1枚にまとめて受信する（2 in 1 受信設定） .....	7-12
電話回線を2回線使用する（受信専用ポート設定） .....	7-13
サービスセンターから通信で機械を診断する（リモート診断設定） .....	7-14
年月日の表示のしかたを設定する（年月日表示設定） .....	7-15
ファクス通信網を使用して受信する（F ネット無鳴動受信設定） .....	7-16
リモート診断のための ID を登録する（個別 ID 登録） .....	7-17

漢字変換の初期値を設定する（漢字変換設定） .....	7-18
受信サイズを等倍、縮小から選択する（受信サイズ設定） .....	7-19
2枚の受信原稿を両面に記録する（両面受信設定） .....	7-20

## 8章 オプション ..... 8-1

ハンドセット .....	8-1
各部の名称とはたらき .....	8-1
電話のかけかた .....	8-2
オプションメモリ .....	8-3
マルチポート .....	8-3

## 9章 Network FAX 設定（オプション） ..... 9-1

セットアップする .....	9-2
本体とコンピュータを接続する .....	9-3
本体で初期条件を設定する .....	9-4
Network FAX 受信設定のしかた .....	9-4
送信原稿保存設定のしかた .....	9-5
ファイル形式設定のしかた .....	9-5
Network FAX の各種登録をする .....	9-6
Network FAX 設定リストを出力する .....	9-10

## 10章 ご参考 ..... 10-1

仕様 .....	10-1
メニュー構成一覧 .....	10-2
出荷値設定一覧表 .....	10-4
受信サイズと出力用紙優先順位表 .....	10-6
区点コード表 .....	10-7
エラーコード一覧表 .....	10-13
さくいん .....	10-17

# 重要です！ まず初めにお読みください

本書は、ファクス機能についての説明書です。  
ご使用前には必ず本体のコピー編の使用説明書と合わせてお読みいただき、またお読みになった後は機械の近くに大切に保管してください。  
ご使用にあたって、右記の内容についてはコピー編の使用説明書をお読みください。

 注意ラベルについて

 機械を設置する時のご注意

 取り扱い上のご注意

用紙の補給

トナーコンテナと廃棄トナーボックスの交換

紙詰まりが発生したら

トラブルが発生した場合

機械の清掃のしかた

## 機械を設置する時のご注意

### ■ 設置環境について

- 本製品は、外光が頭上もしくは頭上の後方から入射するような場所への設置は避けてください。光の関係で原稿サイズを誤検知する場合があります。設置場所を変更できないときは、弊社代理店またはお買い上げ店にご相談ください。

### ■ 設置電源・アースについて

- 複写機や空調機器と同じ系統の電源は避けてください。

## 取り扱い上のご注意

### 注意

- 原稿送り装置を開いた状態のまま、放置しないでください。けがの原因となることがあります。



その他の注意事項

- 送/受信中やコピー中には次のことをしないでください。
  - 本体を開ける。
  - メインスイッチを切る。
  - 電源プラグを抜く。

- 本製品は日本国内でのみ使用が可能です。海外では安全規格や回線が異なり使用できません（国際電話回線により国内から海外への交信は可能です）。

- 電話回線や通信事情の悪い地域ではご使用になれない場合があります。

- キャッチホンサービスをご利用されている場合、ファクス送/受信中に電話がかかってくると、割り込み信号が入るため、送/受信がうまく行えないことがあります。

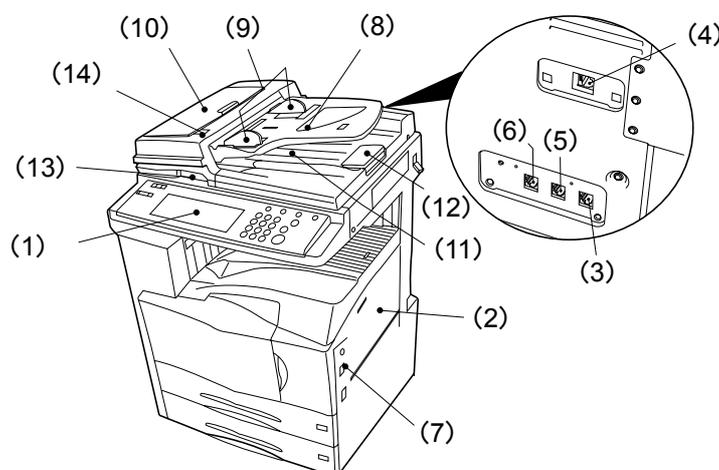
- 機械がいかなる状態のときであっても、機械内部のモーターの駆動音が聞こえるときは、前カバーや左カバーを開けたり、電源を切ったりしないでください。

# 1 章 ファクスの操作方法 (名称・準備・特徴)

## 機械各部の名称

### 本体各部の名称とはたらき

本機をファクスとして利用する場合に使用する部位について説明しています。  
その他の部位についての説明は、コピー編の使用説明書を参照してください。



(1) 操作パネル	ファクスの操作はここでいきます。
(2) 手差し	手差しにも用紙をセットすることができます。手差しを使用するときは P7-11、「手差しから受信用紙を送る（手差し給紙設定）」を“ON”にしてください。手差しの取り扱いについては、コピー編の使用説明書をご参照ください。
(3) LINE 接続コネクタ (L)	電話回線用のモジュラーコードを接続してください。このコネクタがポート 1 になります。注意：マルチポート（オプション）を増設して 1 回線しか使用しないときは、このポート 1 を使用してください。ポート 1 を使用しないとオプションのハンドセットや市販の電話機を接続しているとき、使用できません。
(4) LINE 接続コネクタ (L2)	マルチポート（オプション）を装着するとポート 2 が使用できます。電話回線用のモジュラーコードを接続してください。

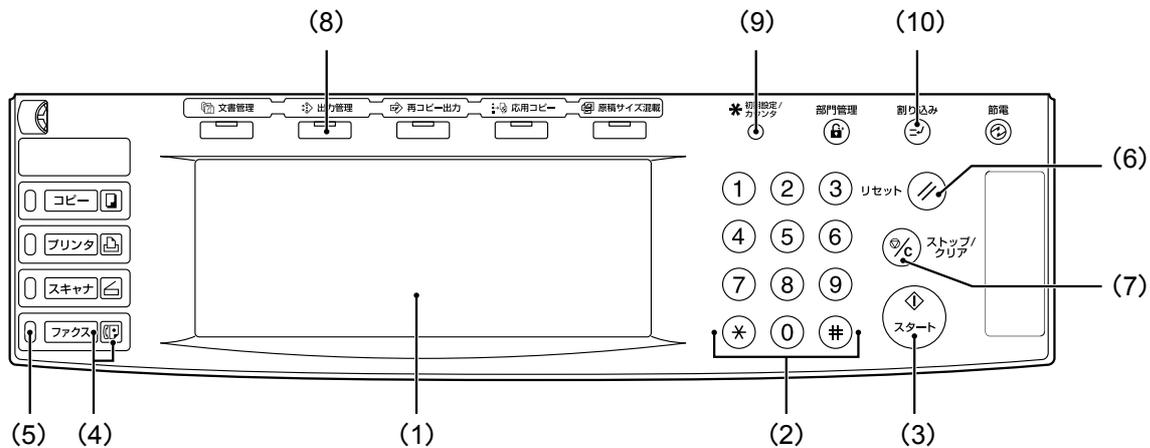
### ●原稿送り装置

片面原稿と両面原稿の両方で使用できる両面原稿送り装置です。

(5) TEL 接続コネクタ (T1)	オプションのハンドセットや市販の電話機を併用する場合は、ここに接続してください。
(6) TEL 接続コネクタ (T2)	オプションのハンドセットや市販の電話機を併用する場合は、ここに接続してください。
(7) メインスイッチ	ファクスやコピーの操作を行うときは、このスイッチを ON(1) にしてください。タッチパネルが点灯し、機械の操作が可能になります。
(8) 原稿テーブル	ここにシート原稿を重ねてセットしてください。A4 サイズ以下は 100 枚まで、A3 および B4 は 70 枚までセットできます。
(9) 原稿挿入ガイド	原稿幅に合わせて調節してください。
(10) 原稿送り装置原稿反転カバー	原稿送り装置部で原稿が詰まったときに開いてください。
(11) 原稿排出カバー	読み込みが終わった原稿はここに排出されます。
(12) 排出ガイド	および A3 および B4 の原稿をセットするときはこのガイドを開いてください。
(13) 原稿送り装置開閉取手	原稿送り装置を開閉するときは、この取手を持ってください。
(14) 原稿セット表示	原稿送り装置の原稿の状態を表示します。原稿が正しくセットされると緑色に点灯します。

## 操作パネルの名称とはたらき

本機をファクスとして利用する場合に使用するキーや表示について説明しています。  
コピーをとる際に使用するキーについての説明は、コピー編の使用説明書を参照してください。

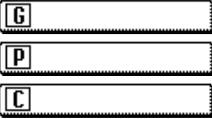
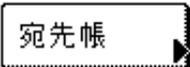
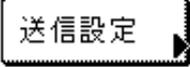
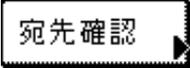
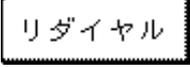


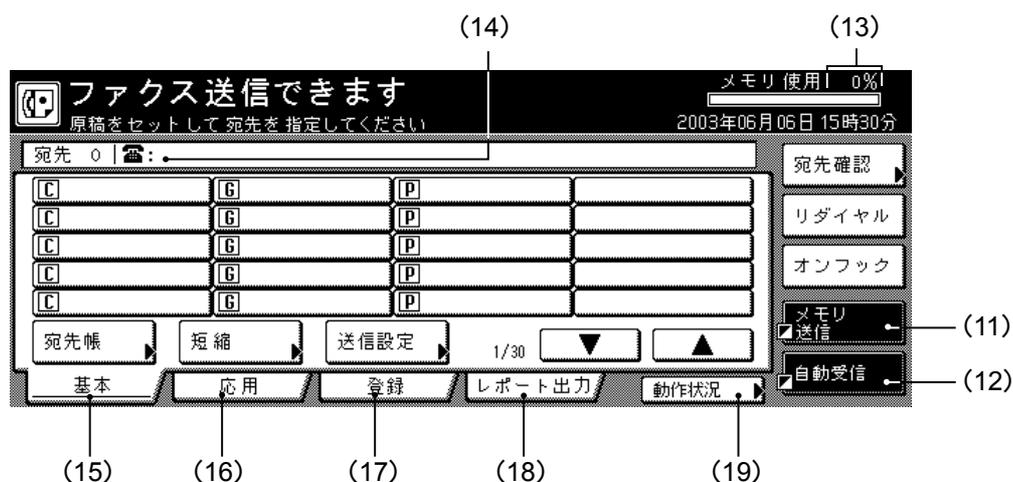
(1) タッチパネル	操作の手順や不具合などを表示します。また操作で使用するキーが表示され、本使用説明書では“〇〇”キーと表示しています。 注意！：パネル上を先のとがったものやペンなどで突いたりしないでください。
(2) テンキー	相手先のファクス番号を入力するときなどに使用します。 ※ダイヤル回線利用時でも*キーを押すと、それ以降の番号をトーン信号で送出させることができます。
(3) スタートキー 	ファクスの通信を開始するときに押してください。
(4) ファクスキー／表示 	コピーモードからファクスモードに切り替えるときに押してください。ファクスモードのときはファクス表示が点灯します。
(5) ファクスデータ表示 	送信中または受信中は点滅します。送信原稿または受信原稿などがメモリに蓄積されると点灯します。
(6) リセットキー 	操作を途中で中止するときに押してください。機械はファクスの初期モードに戻ります。
(7) ストップ/クリアキー 	現在行われている動作を中止するときに押してください。また、ダイヤル登録時などに入力した番号を消去するときや名称登録時などに入力した名称を消去するときに押してください。
(8) 出力管理キー／表示 	コピー中にファクスを優先して出力するときに押してください。(P1-16 参照)
(9) 初期設定キー 	ファクスに関する初期設定を選択、変更するときに押してください。
(10) 割り込みキー／表示 	ファクスの受信中に割り込んでコピーをとりたいたときに押してください。割り込みモードになると、キーランプが点灯します。(P1-16 参照)

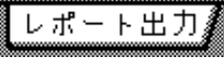
## ファクスの基本画面

コピーモードなどからファクスキーを押して、ファクスモードに切り替えたときのタッチパネル上の画面を「ファクスの基本画面」と呼びます。基本的なキーのはたらきは以下の通りです。



(1) メッセージ表示部	現在の使用状況や次の操作の案内などを表示し、エラーメッセージも表示します。
(2) 宛先数表示部	ダイヤルするため選択した相手先の数が表示されます。
(3) ワンタッチキー 	ワンタッチダイヤル、グループダイヤル (G)、プログラムダイヤル (P)、チェーンダイヤル (C) が登録されるとここに表示されます。
(4) “宛先帳”キー 	宛先帳を使用するときに押してください。(P2-25 参照)
(5) “短縮”キー 	短縮ダイヤルで相手先にダイヤルするときに押してください。(P2-24 参照)
(6) “送信設定”キー 	原稿サイズ、原稿の画質、送信濃度、送信時刻など送信条件を設定するときに押してください。設定画面が表示されます。
(7) “▲”、“▼”キー 	表示されているワンタッチキー以外のワンタッチキーを表示させるときに押してください。
(8) “宛先確認”キー 	ワンタッチキーなどを押して複数の相手先を選択した後、一覧で相手先を確認するときに押してください。
(9) “リダイヤル”キー 	最後に送った相手先にもう一度ダイヤルするときに押してください。
(10) “オンフック”キー 	このキーを押すと、受話器を置いたままでも、上げたときと同じ状態になります。



<p>(11) 送信モード切替キー</p> 	<p>メモリ送信を行うときには“メモリ送信”を表示させてください。ダイレクト送信を行うときには“ダイレクト送信”を表示させてください。このキーを押すたびに表示が替わります。</p>
<p>(12) 受信モード切替キー</p> 	<p>受信モードを選択するときに押してください。“自動受信”、“手動受信”、“留守番電話接続”の選択画面に替わります。</p>
<p>(13) メモリ表示</p>	<p>原稿が読み取られるとメモリに蓄積されたデータ量を示します。メモリが100%に近づくにつれてデータ量は増加し、100%までくると原稿の読み取りができなくなります。</p>
<p>(14) 電話番号表示部</p>	<p>入力された電話番号がここに表示されます。</p>
<p>(15) “基本”キー</p> 	<p>ファクスの基本画面に戻るときに押してください。</p>
<p>(16) “応用”キー</p> 	<p>ポーリングなど応用機能を使用するときに押してください。</p>
<p>(17) “登録”キー</p> 	<p>各種登録を行うときに押してください。</p>
<p>(18) “レポート出力”キー</p> 	<p>各種レポートを出力するときに押してください。</p>
<p>(19) “動作状況”キー</p> 	<p>送信中、受信中あるいは出力中に表示されます。動作の内容を確認するときはこのキーを押してください。</p>

## 準備しましょう

ファクスシステムを導入後、本機をファクスとして初めてご使用になる場合は、以下に続く「電話回線の種類を設定する(電話回線種別の設定)」から「日付と時刻を登録する(日時登録)」の操作を、それぞれの操作説明にしたがって行ってください。

※ファクスシステムの設置にお伺いしたサービス担当者がこれらの作業をする場合、導入時にお客様が操作を行う必要はありません。

### 電話回線の種類を設定する(電話回線種別の設定)

電話会社と契約されている電話回線の種別に合わせて設定を行ってください。この回線種別を誤って選択すると、ファクスを送信したり、受信したりすることができませんのでご注意ください。

※操作の前にファクスの初期モードであることを確認してください。(P1-9、「初期モードについて」参照)

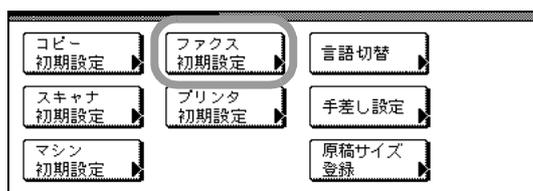
※マルチポート(オプション)を装着して電話回線を2回線使用する場合は、それぞれ設定してください。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

- 1** 初期設定キーを押してください。初期設定画面が表示されます。



- 2** “ファクス初期設定”キーを押してください。



- 3** 設定項目で“回線”が反転していることを確認して、“設定値変更”キーを押してください。

- 4** “プッシュ回線”キー、“ダイヤル回線 10PPS”キーまたは“ダイヤル回線 20PPS”キーを押してください。

>マルチポートを装着していない場合



>マルチポートを装着している場合



- 5** “閉じる”キーを押してください。手順3に戻ります。

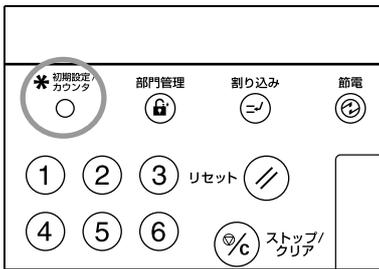
- 6** 設定を終了し、初期モードに戻るときはリセットキーを押してください。

## 発信元記録を設定する（発信元記録設定）

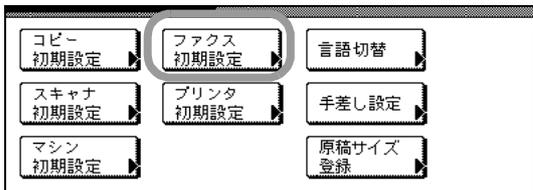
発信元記録とは、相手先の記録紙に印字される、送信日時、送信ページ数、名前や電話番号などのこちら側（発信元）の情報のことです。本機では、発信元記録を受信側で印字させるかどうかを選択することができます。また、その印字位置についても、送信ページ画像の内側、外側のどちらにつけるかを選択できます。

- ※操作の前にファクスの初期モードであることを確認してください。（P1-9、「初期モードについて」参照）
- ※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

- 1 初期設定キーを押してください。初期設定画面が表示されます。



- 2 “ファクス初期設定”キーを押してください。



- 3 “▼”キーで“発信元記録”を反転させて、“設定値変更”キーを押してください。

- 4 印字させるときは、その位置を、印字させないときは“印字なし”キーを押してください。



- 5 “閉じる”キーを押してください。手順3に戻ります。

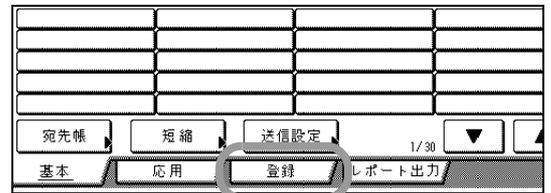
- 6 設定を終了し、初期モードに戻るときはリセットキーを押してください。

## こちらの情報を登録する（自局情報登録）

自局情報（自局番号 / 自局名称 / 自局ID）を登録しておく、相手機側で出力される記録紙にその情報が印字されるので、受信側ではどこから送られてきた原稿なのかを容易に知ることができます。

- ※登録内容を変更するときも、同様の操作を行ってください。
- ※マルチポート（オプション）を装着して2回線使用の場合は、2回線分の自局番号が登録できます。
- ※操作の前にファクスの初期モードであることを確認してください。（P1-9、「初期モードについて」参照）
- ※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。

- 1 “登録”キーを押してください。登録項目の選択画面が表示されます。

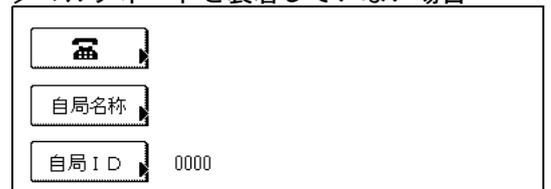


- 2 “自局情報”キーを押してください。現在の登録内容が表示されます。

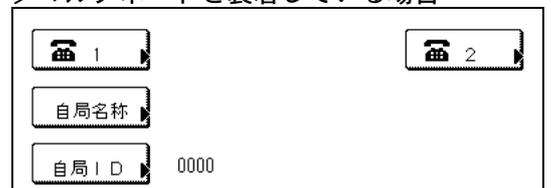


- ※自局番号を登録するとき：“☎”キーを押して手順3に進んでください。
- 自局名称を登録するとき：“自局名称”キーを押して手順5に進んでください。
- 自局IDを登録するとき：“自局ID”キーを押して手順7に進んでください。

### >マルチポートを装着していない場合



### >マルチポートを装着している場合



**3 ●自局番号登録**

テンキーを使って、登録する自局番号を入力してください。

※最大 20 桁まで入力できます。

※ストップ/クリアキーを押すと、入力した番号はクリアされます。

※入力を修正するときは、“←”キーまたは“→”キーを押してカーソルを移動させ、“削除”キーを押して数字を削除し、入力しなおしてください。



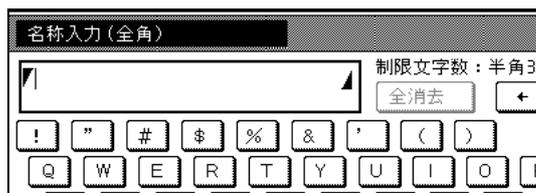
**4** “確定”キーを押してください。手順2に戻ります。

※2回線使用する場合はもう一方の“☎”キーを押して、手順3、4を行ってください。

**5 ●自局名称登録**

登録する自局名称を入力してください。ファクス送信時やレポート出力時にここで登録された名称が記録されます。入力のしかたは、P2-10、「文字を入力する」を参照してください。

※全角で最大 16 文字、半角で最大 32 文字まで入力できます。



**6** 登録する半角自局名称を入力してください。入力のしかたは、P2-16、「半角自局名称の入力のしかた」を参照してください。

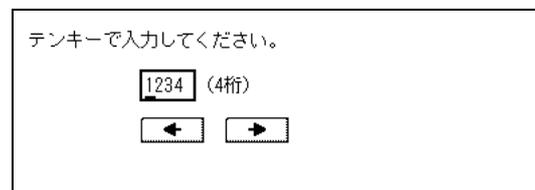
※半角最大 32 文字まで入力できます。

**7 ●自局 ID 登録**

テンキーを使って、登録する自局 ID の番号を 4 桁で入力してください。

※ストップ/クリアキーを押すと表示はクリアされ、“0000”に戻ります。

※入力を修正するときは、“←”キーまたは“→”キーを押してカーソルを移動させ、入力しなおしてください。



**8** “確定”キーを押してください。手順2に戻ります。

**9** 設定を終了し、初期モードに戻るときはリセットキーを押してください。

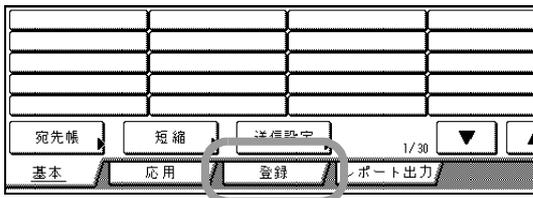
## 日付と時刻を登録する（日時登録）

メッセージ表示に表示される日付、時刻を設定することができます。ここで設定した時刻をもとに時刻指定通信が行われますので、必ず正しい日付と時刻を設定してください。

※操作の前にファクスの初期モードであることを確認してください。（P1-9、「初期モードについて」参照）

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。

- 1** “登録”キーを押してください。登録項目の選択画面が表示されます。



- 2** “日時”キーを押してください。現在の登録内容が表示されます。



- 3** 日付を年、月、日の順でテンキーを使って入力してください。  
※カーソルを移動させるときは、“←”キーまたは“→”キーを押してください。



- 4** “時刻”キーを押して、時刻をテンキーを使って入力してください。  
※24時間制で入力してください。

- 5** “確定”キーを押してください。手順2に戻ります。

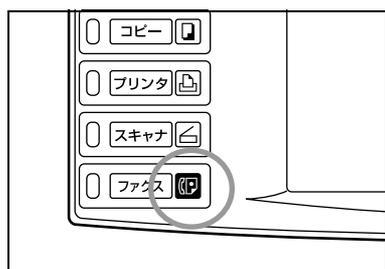
- 6** 設定を終了し、初期モードに戻るときはリセットキーを押してください。

## 本機の特徴について

ここでは、本機をファクスとして使用する場合の特徴や知っておいていただきたい事柄について説明しています。

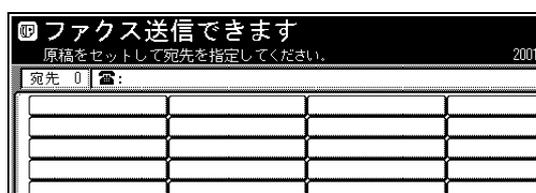
### コピーモードからファクスモードへの移行

本機は、元々コピー機能を標準装備しており、コピーモードが初期設定となっています。そのため、こちらから相手先へファクス原稿を送信するときは、一度ファクスモードに切り替える必要があります。受信については、通常は自動受信モードが設定されているので、コピーモードであっても相手先からのファクスを受信し、自動的に印字出力が行われます。コピーモードのときは、通常コピー表示が点灯しています。ファクスモードへ切り替えるときは、ファクスキーを押してください。ファクスモードに移行すると、ファクス表示が点灯し、タッチパネルもファクスの基本画面に変わります。



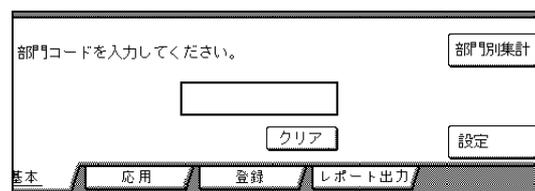
### 初期モードについて

ファクスキーでファクスモードにしたときやファクスの送 / 受信動作が正常に終了したときに表示される画面をファクスの基本画面といい、その状態を初期モードと呼びます。メッセージ表示部には“ファクス送信できます”が表示されます。ファクスモードで操作を始める際には、タッチパネルの画面がファクスの基本画面になっているかを必ず確認してください。また、オートクリア機能が働いたときも、初期モードに戻ります。



### ●部門管理モード設定時の画面

ファクスモードであっても、部門管理が設定されている場合には以下のように表示されます。



操作を行うためには、部門コードまたは管理者番号の入力が必要です。正しいコードを入力し“設定”キーを押すと、通常のファクスの初期モード表示に変わります。



#### 補足

部門管理設定が設定されているときに各種番号登録や設定を行うためには、管理者番号入力画面において管理者番号を入力する必要があります。部門コードを入力して操作を行おうとしても、登録や設定のメニューは表示されません。詳しくは、P5-44、「部門ごとに使用を管理する(部門管理機能)」およびコピー編の使用説明書を参照してください。

### 管理者番号について

本機では、ファクスモードでの使用を部門ごとに管理したり、暗号通信時のセキュリティを高める目的で、下記(1)と(2)の場合には管理者番号の入力が必要となります。管理者番号は1つだけしか登録できませんので、本機の管理責任者の方が使用されるようおすすめいたします。※管理者番号は工場出荷時の段階で“3000”(30枚機)、“4000”(40枚機)、“5000”(50枚機)に設定されています。管理者番号を変更するときはコピー編の使用説明書を参照してください。

- (1) 常に入力が必要な場合
  - ・ 部門管理モードを設定するとき
  - ・ 部門コードを登録するとき
  - ・ 暗号鍵を登録するとき
  - ・ 暗号鍵リストを出力するとき
  - ・ SMTP 認証のパスワードを登録するとき (Network FAX 設定)

## 1章 ファクスの操作方法（名称・準備・特徴）

### (2) 部門管理モード設定時に入力が必要な場合

- ・ 通信管理レポート以外のレポート/リスト類を出力するとき
- ・ 各種設定や登録を行うとき



#### 補足

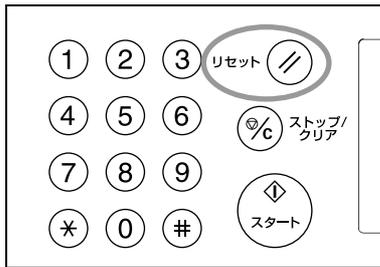
登録した管理者番号は何かにかき留めておかれることをおすすめいたします。もしこの番号がわからなくなってしまうと、各種の設定・登録・変更・取消などができなくなることもありますのでご注意ください。

## リセットキーを押したとき

操作を途中で中止したいときなどは、リセットキーを押してください。機械はファクスの初期モードに戻ります。

※原稿がセットされている状態のときは、一度検知した原稿サイズはクリアされません。

※操作の状況によっては、リセットキーを受けつけないことがあります。



## 自動的に設定をリセットする (オートクリア機能)

送信や用紙の印字出力後、あるいは操作途中に 10 ~ 270 秒間キー入力などの操作が行われないと、それまでに設定していた内容などをクリアし、初期モードに戻す機能です。

※原稿がセットされている状態のときは、原稿サイズはクリアされません。

## 3桁の番号で文書を管理する（文書番号）

本機では、3桁の文書番号を使って送信や受信についての管理を行います。

文書番号は、通信の予約や実際の送・受信が行われたときに、行われた順に付与されます。付与されるタイミングは、通信の形態によって異なります。

文書番号は、操作中のメッセージ表示や通信結果表示、開始時刻を指定したときに出力されるタイマー予約レポートや通信予約確認レポートでも確認することができます。(P6-1、「通信結果の内容を確認する（通信結果表示）」、P6-3、「通信予約確認レポートの出力のしかた」、P7-1、「各種レポートの出力条件を設定する（レポート出力設定）」参照)

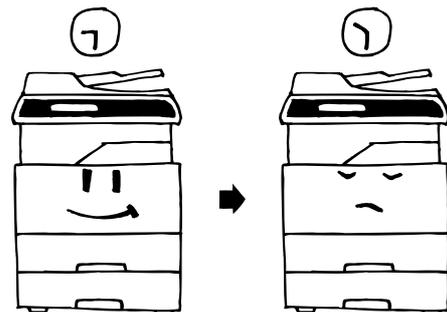


## 自動的に節電モードに移行する (オートシャットオフ機能)

オートシャットオフ機能は、キー入力や原稿のセットなどの操作あるいは印字出力などが一定時間経過しても何も行われない場合に、機械内部の定着ヒーターとファンを停止状態にする節電機能です。

複写機やファクスは、一般に送受信動作や印字作業中よりも待機状態が多く、待機時に消費する電力が全体の大きな割合を占めています。待機中に定着ヒーターやファンを停止状態にすることにより、不要な電力の消費を抑えることができ、電気料金の削減を行うことができます。

※オートシャットオフ機能が働くまでの時間（オートシャットオフタイム [初期値: 15分]）は変更することができます。本機を頻繁に使用される場合はオートシャットオフタイムを長めに、待機時間が長い場合はオートシャットオフタイムを短めに設定されることをお勧め致します。（コピー編の使用説明書参照）



※オートシャットオフ機能が働くと、メインスイッチが自動的に OFF(○) になり、操作パネルの表示などは全て消灯します。  
原稿を送信したり、その他のファクス操作を行うときは、メインスイッチを ON(|) にしてください。

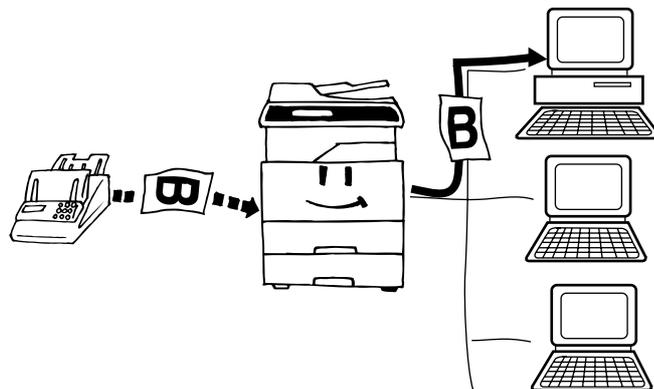
### ●オートシャットオフが働いているときに原稿を受信したとき

オートシャットオフが働いている状態でも受信した原稿は出力されます。



### ●受信機能

外部ファクスなどから送られた原稿を本ファクスで受信し、プリンタ/スキャナキットを介してネットワーク上のサーバー PC (付属の Scanner File Utility がインストールされている PC) の指定されたフォルダーに保存します。このとき原稿は PDF ファイルか TIFF ファイルで保存できます。

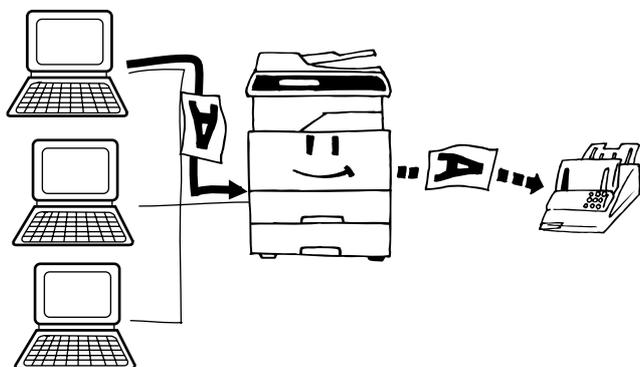


### ネットワーク上の PC から送信する (Network FAX 機能 (オプション))

プリンタ/スキャナキットを装着することによって、Network FAX 機能が使用できます。ネットワーク上の PC で作成した原稿を外部ファクスへ送信したり、逆に外部ファクスからネットワーク上の PC に受信することができます。主な機能は以下の通りです。

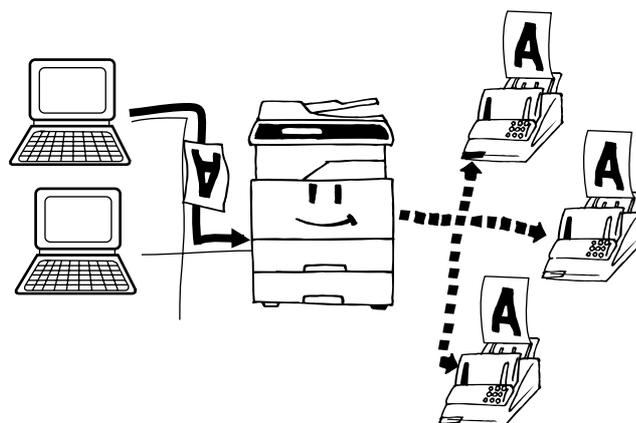
#### ●送信機能

ネットワーク上に本ファクスと PC がある状態で、PC のアプリケーションで作成した原稿を本機に装着したプリンタ/スキャナキットで画像を転送し、外部ファクス等に送信します。



#### ●アドレス帳機能

送信する際、あらかじめ相手先のファクス番号を登録しておくことができます。また、その登録した相手先を最大 80 件までグループ化することができます。これにより、順次同報送信が簡単に行うことができます。さらに他のアプリケーションで作成された CSV 形式のアドレス帳であれば本アドレス帳にインポートすることができます。



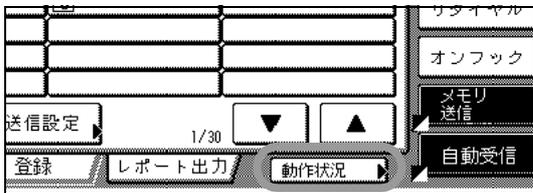
## 2つのジョブを同時に処理する (デュアルアクセス機能)

2つの処理を同時並行で行う機能です。例えば、通信中であっても次に原稿を送信するための操作を行うことができます。また、コピー中にファクスの受信を行うこともできます。受信した原稿はコピーが終わった後で自動的にプリントされます。

本機では、デュアルアクセス機能が働くため、メッセージ表示部に“ファクス送信できます”が表示されていれば、送信のための操作を行うことができます。この機能に関して、特に設定などの必要はありません。

### >通信中の動作を確認するには

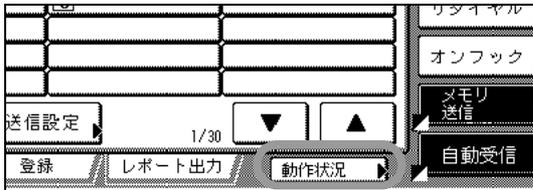
画面右下に表示される“動作状況”キーを押してください。文書番号や送信先が表示されます。



※このとき“通信中止”キーを押すと、現在行われている通信を中止することができます。“閉じる”キーを押すと、画面は元に戻ります。

### >出力中の動作を確認するには

画面右下に表示される“動作状況”キーを押してください。



※“閉じる”キーを押すと、画面は元に戻ります。

### <デュアルアクセス機能が働かないとき>

デュアルアクセス機能が働かない場合もあります。例えば、送信または受信中に各種機能の登録や設定をすることはできません。通信が終わってから操作を行ってください。また、マルチポート（オプション）を増設していない場合は、相手先と回線がつながり通信中であるときに、別の相手先からファクスを受信することはできません。しかし、マルチポート（オプション）を増設すれば、1回線が使用中であっても、別の相手先から受信することができます。

デュアルアクセスの可否については、「●デュアルアクセス可否表」を参照してください。

※時刻指定送信などのように指定時刻が来れば、自動的に送信が行われるようなものは、現在行われている処理が終わると、その動作が開始されます。

## ●デュアルアクセス可否表

現行動作	追加動作
(1) ダイレクト送信（通信設定中）※	
(2) メモリ送信（通信設定中）	
(3) メモリ送信（原稿の読み込み中）	
(4) ダイレクト送信（通信中）	
(5) ダイレクト受信（通信中）	
(6) メモリ送信（通信中）	
(7) メモリ受信（通信中）	
(8) ダイレクト受信時の画像出力中（回線接続状態）	
(9) 受信画像出力中（回線断の状態）	
(10) 通信後の通信結果レポートまたは通信管理レポート出力中	
(11) レポート手動出力中	
(12) ファクス設定・登録中	
(13) 通常コピー中または原稿の読み込み中	
(14) コピー出力中	
(15) プリンタ（オプション）出力中	
(16) ネットワークスキャナ（オプション）使用中	

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)
	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×	△ <sup>5</sup>	△ <sup>4</sup>	△ <sup>4</sup>	○	×
×		×	×	○	○	○	○	○	○	×	△ <sup>5</sup>	△ <sup>4</sup>	△ <sup>4</sup>	○	×
×	×		×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	×
×	×	×		●	●	●	●	●	●	×	×	×	×	○	×
○	○	○	●	●	●	●	●	●	●	×	×	△ <sup>3</sup>	△ <sup>3</sup>	△ <sup>3</sup>	○
○	○	○	●	●	●	●	●	●	●	○	×	○	○	○	○
○	○	○	●	●	●	△ <sup>6</sup>	●	●	●	○	×	○	○	○	○
○	○	○	●	●	●	●	△ <sup>7</sup>	△ <sup>7</sup>	△ <sup>7</sup>	×	×	△ <sup>3</sup>	△ <sup>3</sup>	△ <sup>3</sup>	△ <sup>8</sup>
○	○	○	○	○	○	○	△ <sup>1</sup>		△ <sup>1</sup>	×	×	△ <sup>3</sup>	△ <sup>3</sup>	△ <sup>3</sup>	△ <sup>8</sup>
○	○	○	○	○	○	○	△ <sup>1</sup>	△ <sup>1</sup>		×	×	△ <sup>3</sup>	△ <sup>3</sup>	△ <sup>3</sup>	△ <sup>8</sup>
○	○	○	○	○	○	○	△ <sup>1</sup>	△ <sup>1</sup>	△ <sup>1</sup>		×	△ <sup>3</sup>	△ <sup>3</sup>	△ <sup>3</sup>	△ <sup>8</sup>
×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△ <sup>5</sup>	△ <sup>4</sup>	△ <sup>4</sup>	○	×
×	×	×	×	△ <sup>2</sup>	○	○	△ <sup>2</sup>	△ <sup>1</sup>	△ <sup>1</sup>	×	×		—	—	×
○	○	○	○	△ <sup>2</sup>	○	○	△ <sup>2</sup>	△ <sup>1</sup>	△ <sup>1</sup>	△ <sup>1</sup>	○	—		—	△ <sup>8</sup>
○	○	○	○	△ <sup>2</sup>	○	○	△ <sup>2</sup>	△ <sup>1</sup>	△ <sup>1</sup>	△ <sup>1</sup>	○	—	—		△ <sup>8</sup>
×	×	×	×	○	○	○	△ <sup>8</sup>	△ <sup>8</sup>	△ <sup>8</sup>	△ <sup>9</sup>	×	×	×	△ <sup>8</sup>	

### <表のみかた>

表中の記号は以下の意味を示しています。

※：表の現行動作に含まれないメニュー操作中は、この動作と同様に動作します。

○：現行動作に対して無条件で追加動作が動作します。

—：本体側動作のため、ファクス側には無関係。

×

●：マルチポート（オプション）を増設しているときは、現行動作に対して無条件で追加動作が動作します。増設していないときは、追加動作は動作しません。

△：現行動作に対して条件付きで追加動作が動作します。各数字の意味は次の通り。

1：ファクスモードで印字可能になれば出力する。

2：ダイレクト受信の場合は代行受信を行い、ファクスモードで印字可能になれば出力する。

3：印字を中断し、コピー割り込みが可能。

4：コピーモードに移行すると、ファクスモードで設定中の内容はクリアされる。

5：追加動作でファクス初期設定が可能ですが、それまで行っていた通信設定等はキャンセルされます。

6：マルチポート（オプション）を増設しているときは、現行動作と追加動作の対象となる文書あるいはボックス（親展ボックスなど）が異なる場合、追加動作が動作します。増設していないときは、追加動作は動作しません。

7：マルチポート（オプション）を増設しているときは、ファクスモードで印字可能になれば出力します。また、追加動作が通信の場合、代行受信します。増設していないときは、追加動作は動作しません。

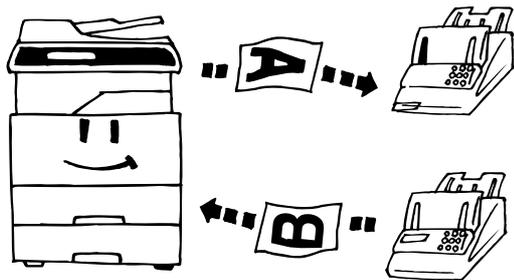
8：TWAINは不可。Scan to PC、E-mailは可。

9：TWAINは不可。Scan to PC、E-mailは単送信モードでは可、連続送信モードでは不可。

## 送信・受信が同時にできる（マルチポート（オプション））

オプションのマルチポートを増設することによって、電話回線が2回線まで使用できます。これにより、複数の相手先に送信する順次同報送信などは、2回線で原稿を別々の相手先に送信するため、作業時間を短縮することができます。送信中に相手先から受信できないということも少なくなります。

また、受信する機会が多い場合には、一回線を受信専用にすることもできます。



## 複数の原稿を一括で送信する（一括送信機能）

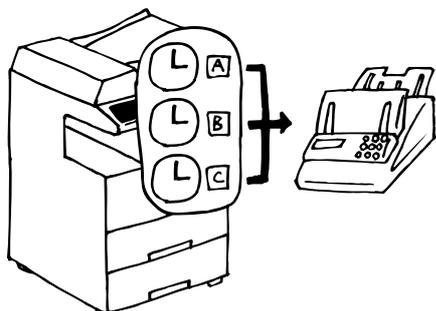
相手先だけでなく送信指定時刻も同一の予約原稿がメモリ内に複数ある場合、最大10通信分を自動的にまとめて一度の通信で送信を行います。予約された数だけ通信を繰り返すといったムダがなくなり、通信コストの削減にもつながります。

※ダイレクト送信は一括送信されません。

※別々に予約された2つの順次同報送信において、同じ同報先（同じ相手先番号）があった場合、同時刻の指定であっても一括送信されません。

※予約時刻になり原稿が送信される際に、同じ相手先に対してリダイヤル待機中の原稿があるときは、そのリダイヤル待機原稿も一括送信されます。

※部門管理モード設定時は、同じ部門コードを使って送信を予約した原稿だけが一括送信されます。したがって、相手先と送信指定時刻が同一であっても予約の際に使用した部門コードが異なる場合には別通信となります。

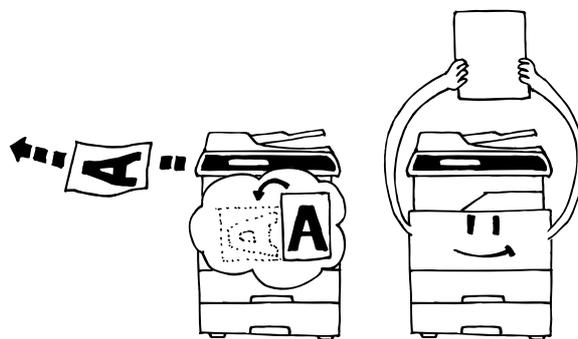


## 原稿を回転して送信する（回転送信機能）

原稿送り装置あるいはコンタクトガラス上に、A4ヨコサイズの原稿がセットされたとき、読み込んだ原稿データを反時計回りに自動的に90°回転し、A4タテサイズの原稿として送信する機能です。

※原稿送り装置に原稿をセットして回転送信を行うためには、原稿送り装置読み込みの設定を“定形原稿”に設定しておく必要があります。（P7-6、「原稿の読み込み条件を設定する（原稿送り装置読込設定）」参照）

※A4ヨコサイズの原稿をセットしたときのみ回転送信が行われます。



## Fコードで相手先を確認する（Fコード通信機能）

Fコード通信とは、他社機でも採用されているFコードと呼ばれる番号や文字列を付加してやりとりを行う通信をいいます。

Fコードを使用することにより、本来自社機間でしか行えなかった親展通信のような機能通信が他社機との間でも可能になります。

本機には、こうしたFコード通信機能が備わっています。本機では、Fコード通信用に設けたFコードボックスを使って原稿の受け渡しを行うことにより、他社機との親展通信、掲示板通信、中継同報を可能にしています。

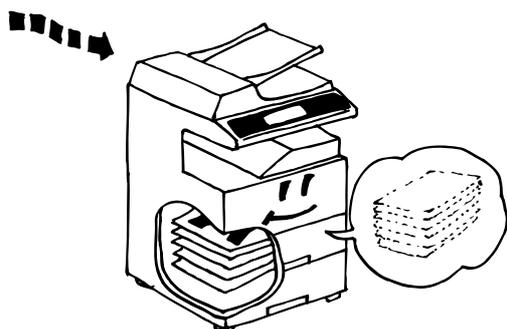
Fコード通信を行うためには、相手機も同様のFコード通信機能が備わっている必要があります。そのため、事前に相手側とお互いの機械性能などについて十分な打ち合わせを行ってから実際の通信を行うようにしてください。

本機のFコード通信機能についての具体的な説明は、P5-9、「Fコードを使って通信する（Fコード通信）」を参照してください。

## 用紙が無くても受信する (代行受信機能)

用紙切れや紙詰まりなどで出力できない場合でも、送られてきた原稿をいったんメモリに受信し記憶します。そして、出力可能な状態になれば印字出力を行う機能です。

※停電などにより電源断状態になった場合、代行受信が行われた原稿については保持できず消えることがあります。失われた原稿については再受信を行ってください。(P4-1 参照)

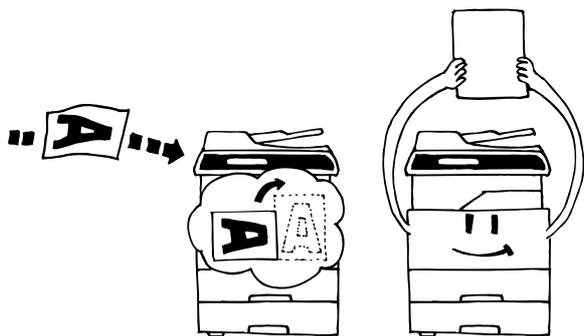


## セットされている用紙に合わせて回転受信する (回転受信機能)

受信原稿とカセットにセットされている用紙の向きが異なる場合でも、A4サイズどうしであれば、受信画像を反時計回りに90°回転して出力します。この機能は機械が自動で行います。特に設定などを行う必要はありません。

※向きの異なる同サイズの用紙がセットされている場合でも、条件によっては回転受信できないことがあります。受信サイズと出力される用紙サイズ、用紙の向きについては、P10-6、「受信サイズと出力用紙優先順位表」をご覧ください。

※相手機側で発信元記録の印字位置がページ画像の外側に設定されているときは、回転受信されず縮小印字されることがあります。

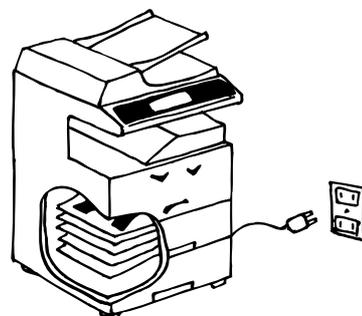


## 停電時にもメモリをバックアップする (画像メモリバックアップ機能)

停電や電源プラグを誤って抜いてしまったなどの不慮の事故があった場合でも、バックアップ電池により、画像メモリに受信していた原稿や送信待機原稿を約60分間 (オプションメモリ8MBを増設し16MBになった場合) は保持しておくことができます。

したがって、機械がその内容を保持している間に再び電源が投入されれば、予約されていた通信などは、ほぼ元通り行われます。復活できず、失われてしまった内容などがある場合は、電源が再投入されると自動的に出力される電源断レポートで確認してください。

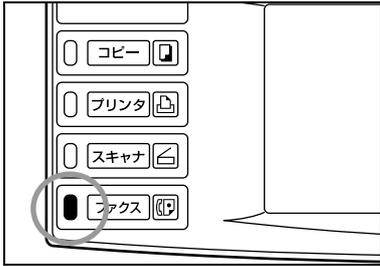
※ご使用状況や環境によっては、バックアップできる時間に差異が生じることがあります。



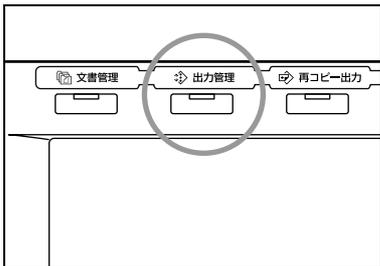
## コピー中に受信原稿を出力する （ファクス優先出力）

複数のコピージョブが設定されている場合にファクス受信が行われたとき、現在行われているコピージョブが終了すると他のコピージョブより先にファクス出力を行います。現在のコピージョブを中断してファクスの出力を優先させるときは以下の手順で行ってください。

- (1) ファクス原稿を受信するとファクスデータ表示が点灯します。



- (2) 出力管理キーを押してください。出力状況画面が表示されます。



- (3) “▼”キーを押してファクスジョブを選択してください。

ジョブ	入力元	原稿	セット	登録日時	状態
123	☐ コピー	100	100	10/10 23:00	出力中
---	☒ フリント	---	---	---	待機中
---	☒ ファクス	---	---	---	待機中
124	☐ コピー	1	5	10/10 23:00	待機中

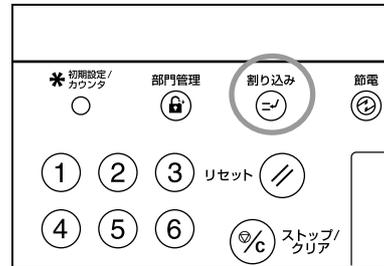
出力状況

- (4) “割り込み出力”キーを押してください。ファクスの受信原稿を出力します。コピージョブはファクスの受信原稿出力後、自動的に再開します。

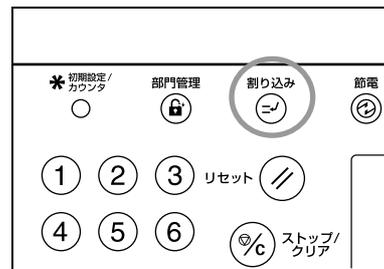
## 受信原稿の出力中にコピーする （コピー優先出力）

逆にファクスの受信原稿の出力中にその出力を中断してコピー作業を優先して行うことができます。

- (1) 割り込みコピーキーを押してください。コピーの操作が可能になります。

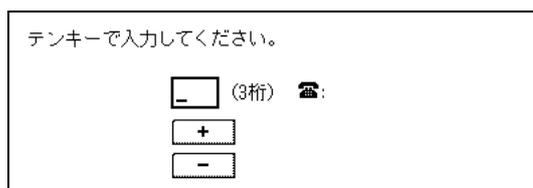


- (2) コピー終了後、割り込みコピーキーをもう一度押してください。ファクスの受信原稿の出力を再開します。



### 3桁の数字で相手先を指定する (短縮番号)

600個の各ワンタッチキーにはワンタッチダイヤル、プログラムダイヤル、グループダイヤル、チェーンダイヤルのいずれかが登録可能です。このワンタッチキーには001～600の3桁の番号が割り付けられています。この3桁の番号を短縮番号と呼び、この番号を入力することによって相手先にダイヤルすることもできます。(P2-24参照) 基本画面には1度に20個のワンタッチキーしか表示できないため、画面を切り替える手間を省くことができます。



### NTTのFネットを使用する (Fネット無鳴動受信機能)

NTTが提供するファクス通信網 (F ネット) に接続してファクス通信をする場合に無鳴動で自動的に受信することができます。

※この機能を使用するかどうかは、P7-16、「ファクス通信網を使用して受信する (F ネット無鳴動受信設定)」を参照してください。



# 2章 ファクスの操作方法 (基本編)

## 自動で送信する

ここでは、テンキーを使ってごく一般的な原稿の送信方法について説明しています。原稿についての注意事項などをよくお読みになり、正しい操作を行ってください。

### 1 ファクスモードへの切替

ファクスモードでファクスの基本画面になっているか確認してください。初期モード状態でないときは、リセットキーを押してください。

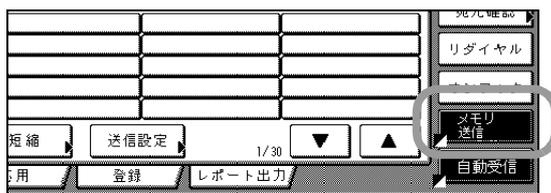


### 2 送信モードの確認

送信モードを確認してください。

※本機の送信モードには、メモリ送信とダイレクト送信の2つのモードがあります。(＜送信モードについて＞参照) 本機では、メモリ送信モードが初期設定になっており、“メモリ送信”が表示されます。

※送信モードをメモリ送信からダイレクト送信に切り替えるときは“メモリ送信”キーを押して“ダイレクト送信”を表示させてください。



### ＜送信モードについて＞

- メモリ送信モード（原稿送り装置に原稿をセットする場合）  
原稿送り装置から順次原稿をメモリに読み込み記憶した後に相手先へのダイヤルを行います。利用者は送信の完了を待たずとも、自分の原稿を手元に戻ることができるため非常に便利です。複数ページのシート原稿の送信に適した方法です。
- メモリ送信モード（コンタクトガラスに原稿をセットする場合）  
原稿送り装置にセットできないブック原稿などの送信に適しています。コンタクトガラス上に順次セットされる原稿を1ページずつメモリに読み込み、全ての原稿の読み込みが終わってから相手先へのダイヤルを行います。この方法で送信を行う場合は、原稿を1ページ読み込むごとに、読み込み継続を行う必要があります。P2-5、＜原稿をコンタクトガラスにセットしたとき＞を参照してください。
- ダイレクト送信モード（原稿送り装置に原稿をセットする場合）  
相手先と回線がつながってから、原稿送り装置にセットされた原稿の読み込みを始めます。複数ページの原稿がセットされている場合は、1ページ分の原稿を送信してから、次の原稿の読み込みを開始します。  
※通信を中止するときは、ストップ/クリアキーを押してから原稿を原稿送り装置からとりのぞいてください。
- ダイレクト送信モード（コンタクトガラスに原稿をセットする場合）  
原稿送り装置にセットできないブック原稿などの送信に適しています。相手先と回線がつながってから、コンタクトガラス上にセットされた原稿を読み込み送信するという動作を原稿のページ数分繰り返して行う方法です。この方法で送信を行う場合は、原稿を1ページ送信するごとに、読み込み継続を行う必要があります。P2-5、＜原稿をコンタクトガラスにセットしたとき＞を参照してください。

### 3 原稿のセット

#### ●使用できる原稿

##### > 原稿送り装置にセットする場合

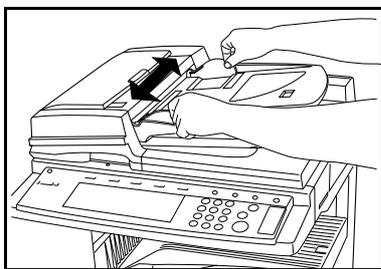
- ・種類 ... シート原稿
- ・サイズ ... A3 ～ A5R
  - ※ 1600mm を超える長さの原稿が送信された場合、メッセージ表示部に原稿送り装置での紙詰まり表示が出ます。
- ・厚さ ... 片面原稿：35 ～ 160g/m<sup>2</sup>  
両面原稿：50 ～ 120g/m<sup>2</sup>
- ・セット可能原稿枚数（普通紙）  
A4 以下：100 枚（50 ～ 100g/m<sup>2</sup>）  
A3、B4：70 枚（50 ～ 100g/m<sup>2</sup>）

##### > コンタクトガラスにセットする場合 最大サイズ ... A3

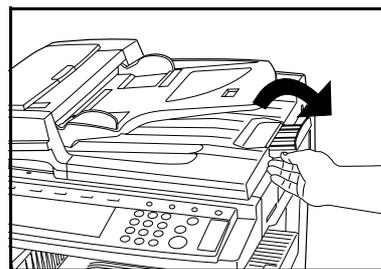
#### ●原稿についての注意事項

- ・文字の色が極端に薄い原稿は、送信されてもはっきり印字されないことがあります。
- ・インクや糊などが乾いていない原稿は、完全に乾かしてからセットしてください。
- ・原稿送り装置に原稿をセットする場合、クリップやステイプルで綴じられた原稿は、故障の原因となりますので、必ずそれらを取り除いてからセットしてください。
- ・使用可能なサイズ以外の原稿は送信できない場合があります。
- ・原稿送り装置にパンチ穴の空いた原稿をセットすると、まれに相手先で出力された用紙にグレーのすじが印字されることがあります。そのようなときは、原稿のセット方向を変えて送信しなおしてください。

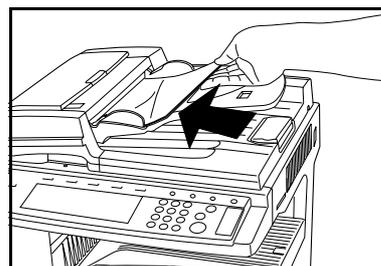
- (1) 原稿の幅に合わせて原稿挿入ガイドを調節してください。



- (2) A3 および B4 などのサイズの大きな原稿をセットするときは、排紙ガイドを開いてください。



- (3) 原稿面を上にして原稿テーブルにセットしてください。正しくセットされると原稿セット表示が緑色に点灯します。

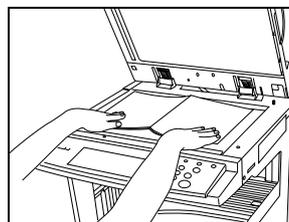


- ※奥側の原稿挿入ガイドに貼付されている目盛を超えないよう原稿をセットしてください。規定枚数を超える原稿をセットすると、原稿が詰まる原因になります。
- ※原稿送り装置の詳細についてはコピー編の使用説明書を参照してください。
- ※両面原稿をセットして、表と裏の両方の原稿を送信することもできます。（P3-1 参照）

#### <コンタクトガラスへの原稿のセット方法>

原稿送り装置を開いて、コンタクトガラス上に原稿をセットすることもできます。ブック原稿などは、コンタクトガラス上にセットしてください。

- (1) 原稿は原稿サイズ指示に確実に合わせ、原稿面を下向きにセットしてください。



- (2) シート原稿をセットした場合には、原稿送り装置を閉めてください。



## 注意

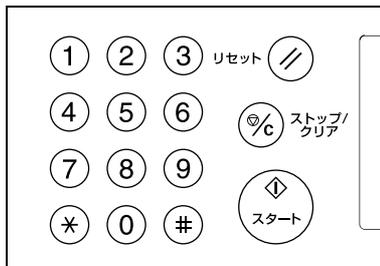
原稿送り装置を開いたままで、放置しないでください。けがの原因となることがあります。

## 4 相手先をダイヤル

テンキーを使って相手先の番号を入力してください。

※相手先の番号は 32 桁まで入力できます。

※間違えて入力した場合は、“←”キーや“→”キーを押して、訂正したい箇所までカーソルを移動させ、正しい番号を入力してください。また、ストップ/クリアキーを押すと、最初から入力しなおすことができます。



### < “ポーズ” キーについて >

このキーを押すとダイヤル時に約 3 秒の待ち時間が設定されます。0 発信（構内交換機を使用して内線から外線への発信）するときや、情報サービスを受けるときなどのダイヤル待ち時間の設定に使用します。

### < ダイヤルのしかた >

ダイヤルのしかたはテンキーを使って行う他、以下のような方法があります。

- ・ワンタッチダイヤル…P2-19 参照
- ・短縮番号からのダイヤル…P2-24 参照
- ・プログラムダイヤル…P5-29 参照
- ・グループダイヤル…P5-26 参照
- ・手動リダイヤル…P2-28 参照

## 5 画質の選択

5 種類の画質モードの中から原稿に適したモードを選択できます。

- ・ノーマル：普通の大きさの文字の原稿を送るとき
- ・ファイン：比較的小さい文字や細かい線のある原稿を送るとき
- ・スーパーファイン：微細な文字や線のある原稿を送るとき
- ・ウルトラファイン：微細な文字や線のある原稿をできるかぎりきれいに送るとき  
オプションメモリを増設しないときはウルトラファインは選択できません。
- ・ハーフトーン：文字だけでなく写真も入っている原稿をきれいに送りたいとき

※工場出荷時は“ノーマル”モードに設定されています。

- (1) 画質を変更するときは、“原稿の画質”キーを押してください。



- (2) 5 つの画質から選択してください。



- (3) “閉じる”キーを押してください。

### < 注意事項 >

- ・ファインやスーパーファインを選択すると画像は鮮明になりますが、ノーマルモードに比べて送信時間は長くなります。
- ・ハーフトーンモードではグレイ（灰色）をきれいに再現しますが、ノーマルモードやファインモードよりも送信時間は長くなります。
- ・ウルトラファインで送信する場合は、オプションメモリ（8MB）を増設する必要があります。オプションメモリを増設していない場合は、ウルトラファインは選択できません。
- ・スーパーファインやウルトラファインで送信する場合は、受信側の機械もそれらのモードで受信する機能を備えていなければなりません。受信側がその機能を備えていない場合は、ファインの画質で送信されます。
- ・拡大送信の拡大倍率が 150% 以上のときはスーパーファインとウルトラファインは選択できません。原稿の画質は自動的にファインに変更されます。（P3-3 参照）

## 6 原稿濃度の選択

原稿の読み取り時の濃度は3段階で調節できます。

こく：薄い原稿を濃く送信するとき

ふつう：普通の濃さで送信するとき

うすく：地色があるときなど濃い原稿を薄く送信するとき

※原稿濃度は工場出荷時は、“ふつう”に設定されています。

- (1) 原稿濃度を変更するときは、“濃度設定”キーを押してください。



- (2) 3つの濃度から選択してください。



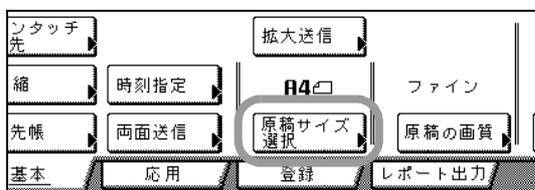
- (3) “閉じる”キーを押してください。

## 7 原稿サイズの指定

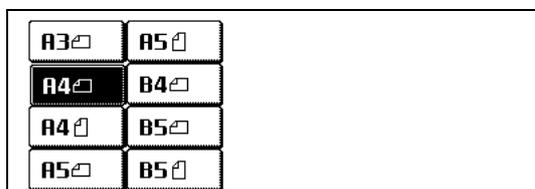
コンタクトガラス上に原稿をセットして原稿送り装置を閉じないで送信する場合は、原稿サイズを指定してください。

原稿送り装置から原稿を読み取るときは指定する必要はありません。

- (1) 原稿サイズを指定するときは、“原稿サイズ選択”キーを押してください。



- (2) 原稿サイズを選択してください。



- (3) “閉じる”キーを押してください。

### ＜送信原稿の保存

#### プリンタ/スキャナキット（オプション）装着時＞

送信原稿をネットワーク上の管理者用PCに保存する場合は以下の手順で行ってください。

原稿のファイル形式はPDFまたはTIFFが選択できます。

※送信原稿を保存するときは、管理者用PCのIPアドレス/ホスト名が登録されている必要があります。（P9-6参照）

- (1) “送信原稿保存”キーを押してください。



- (2) “ON”キーを押してください。



- (3) “PDF”キーまたは“TIFF”キーを押してファイル形式を選択してください。

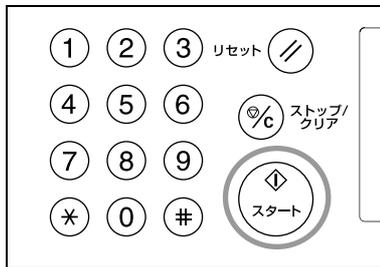


- (4) “閉じる”キーを押してください。

## 8 送信スタート

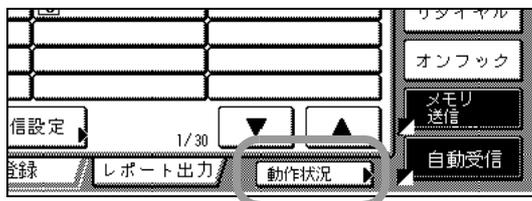
スタートキーを押してください。機械は送信のための動作を開始します。

※原稿読み取り中やダイヤル中には原稿濃度や画質が選択できます。



### >送信の確認をするには…

画面右下に表示される“動作状況”キーを押してください。文書番号や送信先が表示されます。



### >送信を中止するには…

上記の確認画面で“通信中止”キーを押すと、通信をキャンセルすることができます。“閉じる”を押すと画面は元に戻ります。

#### >マルチポートを装着していない場合



#### >マルチポートを装着している場合



### <原稿をコンタクトガラスにセットしたとき>

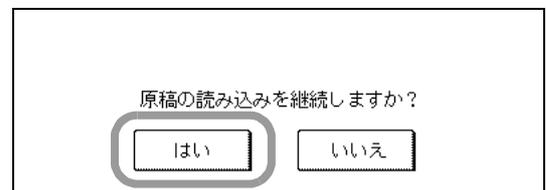
原稿をコンタクトガラスにセットしたときは、原稿サイズを検知させるために原稿送り装置を閉じてください。また、ブック原稿などで原稿送り装置を閉じないときは原稿サイズを選択してください。(P2-4参照)

※原稿をコンタクトガラスにセットしたときは、スタートキーを押した後で以下のような原稿の読み込み画面が表示されます。以下の手順を行ってください。

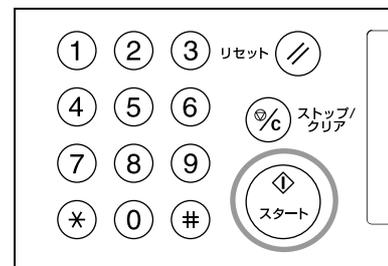
#### >さらに原稿があるとき

(1) 次の原稿と交換してください。  
※原稿を原稿送り装置にセットすることもできます。

(2) “はい”を選択してください。

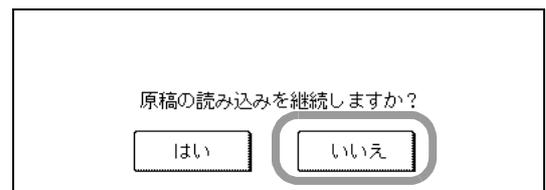


(3) スタートキーを押してください。  
※原稿を原稿送り装置にセットしたときは、自動的に読み込みを行い、送信を行います。  
※残りの原稿に対しても同じように (1) ~ (3) を行ってください。



#### >読み取る原稿がないとき

(1) “いいえ”を選択してください。自動的に送信動作を開始します。



## 自動で受信する（FAX 専用自動受信）

ファクス専用として使用する場合は、FAX 専用受信モードを選択してください。受信時には特に操作の必要はありません。

※メインスイッチがOFF(○)状態のときでもそのファクス原稿を受信し、出力します。

※FAX 専用受信モードで受信を行うときは、P7-8、「受信方法を設定する（受信モード設定）」を参照して、“ファクス受信”を選択してください。

※ダイヤルイン設定（P5-5 参照）が“ON”に設定されているときは、相手先が本機のファクス用番号にかけてきたときは自動受信が行われます。電話用番号にかけてきたときは受信モードに関係なく手動受信が行われます。

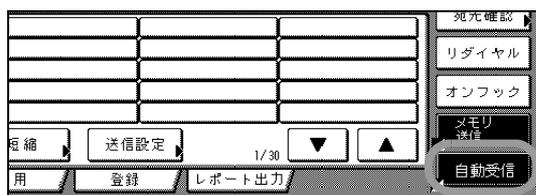
### <受信モードについて>

受信モードには FAX 専用自動受信の他、以下のようなモードがあります。

- ・手動受信…P3-18 参照
- ・FAX/TEL 自動切替受信…P5-1 参照
- ・FAX/留守番電話自動切替受信…P5-3 参照

#### 受信モードの確認

“自動受信”が表示されていることを確認してください。



※受信モードを変更するとき

- (1) 受信モードを変更するときは受信モード切替キーを押してください。
- (2) 変更する受信モードのキーを押してください。



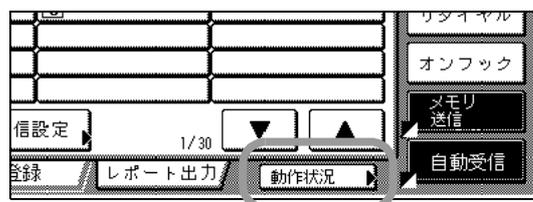
#### 1 受信開始

相手先のファクスから原稿が送られてくると、設定された回数の呼出しが行われた後、受信を開始します。

※受信が開始されると画面右下に“動作状況”キーが表示されます。

>受信を中止するには…

- (1) 画面右下に表示される“動作状況”キーを押してください。

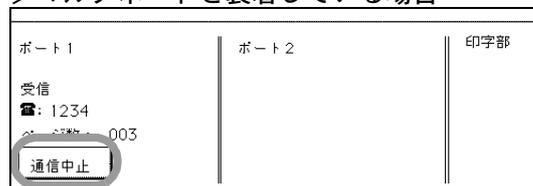


- (2) “通信中止”キーを押すと、受信を中止します。

>マルチポートを装着していない場合



>マルチポートを装着している場合



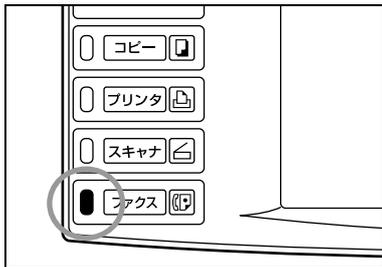
### <受信時コピー切替機能>

機械がダイレクト受信（画像メモリを使わない受信）中であるときでも、コピーをとることができます。

- ・受信中に割り込みキーを押してください。ダイレクト受信が代行受信に切り替わり、コピー操作が可能となります。

### <代行受信>

用紙切れや紙詰まりなどで出力できない場合、機械は送られてきた原稿をいったん画像メモリに記憶します。そして出力可能な状態になると、印字出力を行います。

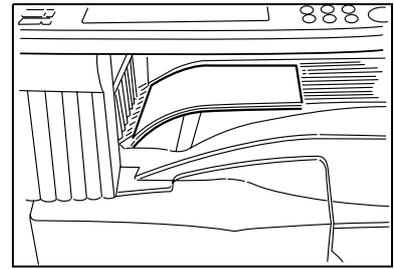


代行受信が行われたときは、ファクスデータ表示が点灯し、メッセージ表示に“受信原稿があります”が表示されます。受信原稿を出力するときは、用紙をセットするか、紙詰まりを解除してください。

※停電などにより電源断状態になった場合、代行受信が行われた原稿については保持できず消えることがあります。失われた原稿については再受信を行ってください。

## 2 印字出力

受信した原稿は、コピー収納部に印字された面を下にして出力されます。



※コピー収納部や制限収納枚数は複写機本体によって異なります。コピー編の使用説明書を参照してください。制限収納枚数を超えるときは、コピー収納部の用紙を全て取り出してください。

※用紙がカセットになかったり、紙詰まりなどで機械が出力できない状態であっても受信は行われます。（代行受信）

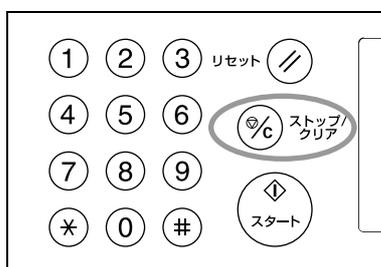
※ウルトラファインで受信するためには、オプションメモリ（8MB）を増設する必要があります。

## 通信を中止する

本機には通信中断機能が備わっているため、通信途中であってもその通信を中止することができます。通信の中止方法は、送信モード（メモリ送信あるいはダイレクト送信）や通信形態によって異なります。ここでは、様々なケースでの通信の中止方法を説明します。

### メモリ送信（原稿読み取り中）の中止のしかた

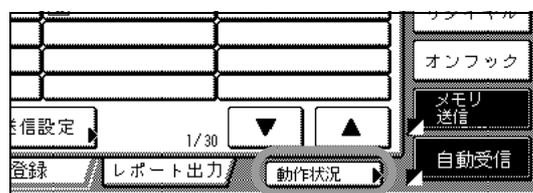
メモリ送信で原稿の読み取りを行っているときに、送信を中止するときは、ストップ/クリアキーを押してください。読み取り中の原稿を排出し、初期モードに戻ります。原稿送り装置に原稿が残っているときは、原稿テーブルから取り出してください。



### メモリ送信（通信中）の中止のしかた

メモリ送信で原稿の読み取りが終了し、通信が行われているときに中止するときは、下記の手順で行ってください。

- 1 画面右下の“動作状況”キーを押してください。メッセージ表示に現在行われている通信状況が表示されます。



- 2 “通信中止”キーを押してください。初期モードに戻ります。  
※順次同報送信などで残りの通信がある場合には、残りの通信を継続するかどうか確認する画面が表示されます。

#### >マルチポートを装着していない場合

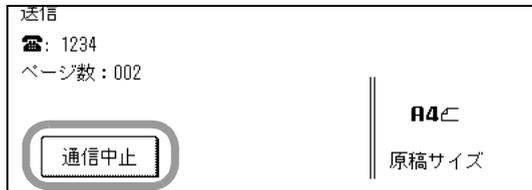


#### >マルチポートを装着している場合



## ダイレクト送信の中止のしかた

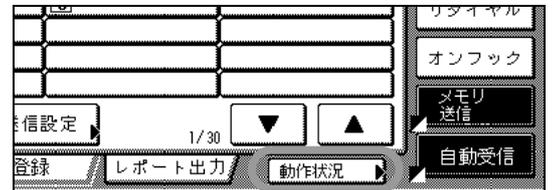
ダイレクト送信で相手先にダイヤルされた後以下のような画面が表示されます。送信を中止するときは、“通信中止”キーまたはストップ/クリアキーを押してください。読み取り中の原稿を排出し、初期モードに戻ります。原稿送り装置に原稿が残っているときは、原稿送り装置から取り出してください。



## 受信の中止のしかた

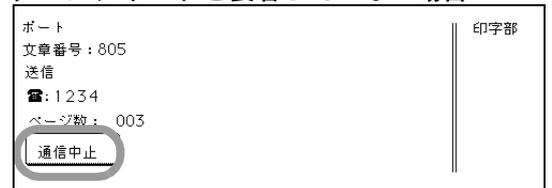
受信を中止するときは、下記の手順で行ってください。

- 1 画面右下の“動作状況”キーを押してください。メッセージ表示に現在行われている通信状況が表示されます。

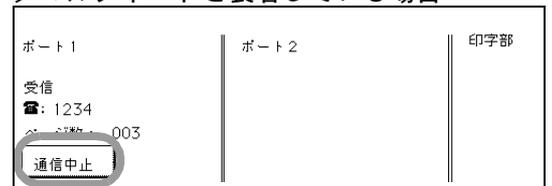


- 2 “通信中止”キーを押してください。初期モードに戻ります。  
※ポーリング受信で残りの通信がある場合には、残りの通信を継続するかどうか確認する画面が表示されます。

### > マルチポートを装着していない場合



### > マルチポートを装着している場合



## 文字を入力する

全角の自局名称やワンタッチダイヤル等の相手先名称や部門名などを登録するときには以下の方法で行ってください。漢字の入力はローマ字入力とかな入力の両方からできます。また、漢字変換の際には文節変換が可能です。  
※これから以降の説明は自局名称登録を基に行います。表示される制限文字数等は登録する名称によって異なります。

文字を入力するときにはまず「入力方式」と「入力文字」をそれぞれ選択してください。

※入力方式と入力文字の優先して選択される出荷時設定値は、P7-18、「漢字変換の初期値を設定する（漢字変換設定）」で選択できます。



### ●入力方式の選択

入力方式には以下の3種類があります。

“ローマ字漢字入力”：ローマ字入力（例えば、“か”と入力するとき“K”“A”と入力する）で漢字等を入力するときを使用してください。

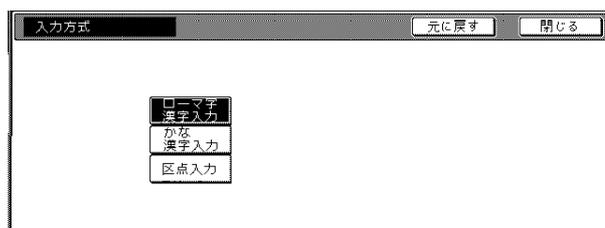
“かな漢字入力”：かな入力で漢字等を入力するときを使用してください。

“区点入力”：4桁の区点コードを入力して漢字等を入力するときを使用してください。

(1) “入力方式”キーを押してください。入力方式の選択画面が表示されます。



(2) 入力方式を選択して、“閉じる”キーを押してください。



## ●入力文字の選択

入力文字には以下の5種類があります。

“全角ひらがな”：漢字変換できます。無変換のときは全角ひらがなになります。

“全角カタカナ”：全角カタカナを入力するときに使用してください。

“半角カタカナ”：半角カタカナを入力するときに使用してください。

“全角英数”：無変換で全角アルファベット、全角数字を入力するときに使用してください。

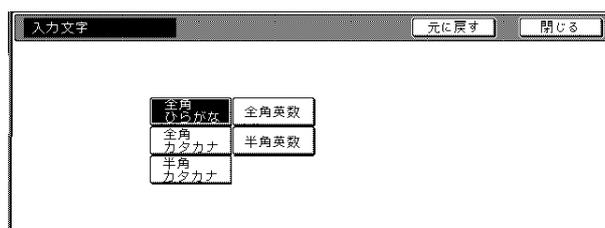
“半角英数”：無変換で半角アルファベット、半角数字を入力するときに使用してください。

(1) “入力文字”キーを押してください。入力文字の選択画面が表示されます。



(2) 入力文字を選択して、“閉じる”キーを押してください。

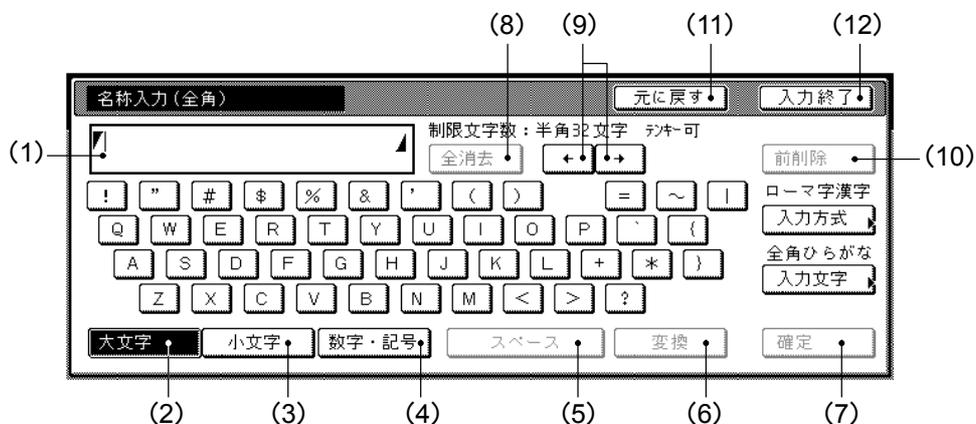
※入力方式として“区点入力”を選択したときは、入力文字は選択できません。



## 入力画面について

## ●ローマ字漢字入力

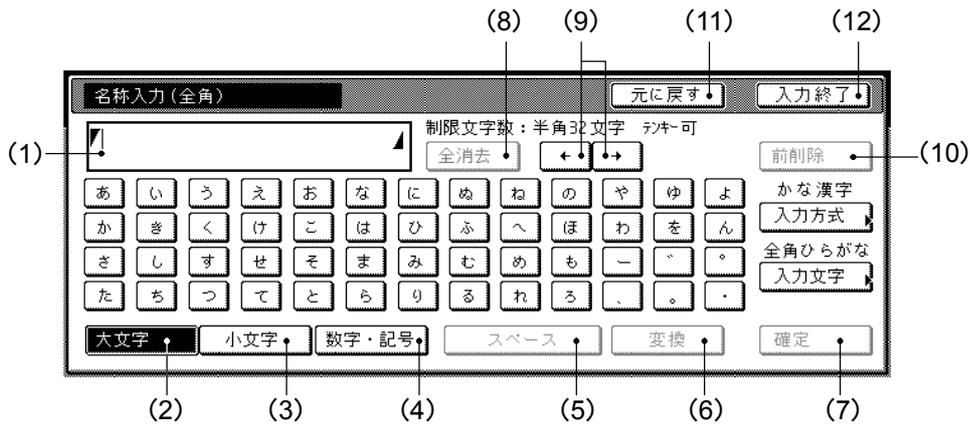
以下の画面は入力文字として“全角ひらがな”を選択した場合です。



- (1) 文字表示部：入力した文字を表示します。全角で16文字、半角で32文字表示できます。
- (2) “大文字”キー：アルファベットの大文字を使用するときに押してください。
- (3) “小文字”キー：アルファベットの小文字を使用するときに押してください。
- (4) “数字・記号”キー：数字や記号を入力するときに押してください。
- (5) “スペース”キー：スペースを入力するときに押してください。
- (6) “変換”キー：入力した文字を漢字等に変換するときに押してください。
- (7) “確定”キー：文字表示部で入力した文字を確定するときに押してください。
- (8) “全消去”キー：確定した文字を全て消去するときに押してください。
- (9) “←”“→”キー：カーソルを移動させるときに押してください。
- (10) “前削除”キー：カーソルの左の文字を削除するときに押してください。
- (11) “元に戻す”キー：文字入力の前の画面に戻るときに押してください。
- (12) “入力終了”キー：入力した名称の内容を確定するときに押してください。

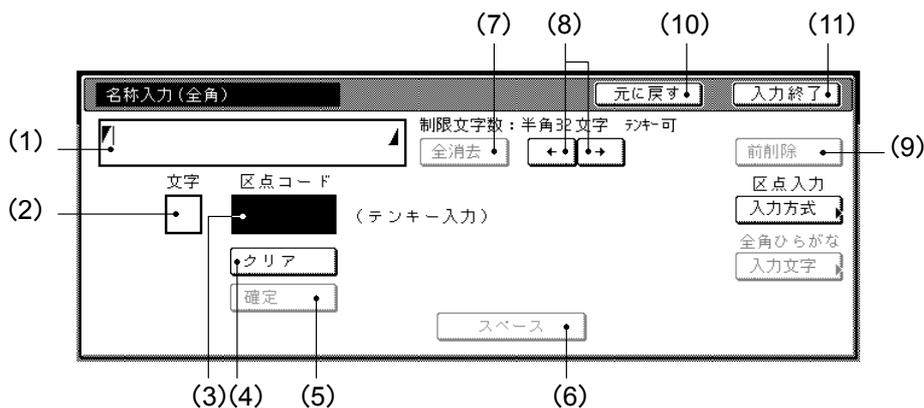
## ●かな漢字入力

以下の画面は入力文字として“全角ひらがな”を選択した場合です。



- (1) 文字表示部：入力した文字を表示します。全角で16文字、半角で32文字表示できます。
- (2) “大文字”キー：全角ひらがなを使用するときに押してください。
- (3) “小文字”キー：あ、い、う、え、お、つ、や、ゆ、よを入力するときに押してください。
- (4) “数字・記号”キー：数字や記号を入力するときに押してください。
- (5) “スペース”キー：スペースを入力するときに押してください。
- (6) “変換”キー：入力した文字を漢字等に変換するときに押してください。
- (7) “確定”キー：文字表示部で入力した文字を確定するときに押してください。
- (8) “全消去”キー：確定した文字を全て消去するときに押してください。
- (9) “←”“→”キー：カーソルを移動させるときに押してください。
- (10) “前削除”キー：カーソルの左の文字を削除するときに押してください。
- (11) “元に戻す”キー：文字入力の前の画面に戻るときに押してください。
- (12) “入力終了”キー：入力した名称の内容を確定するときに押してください。

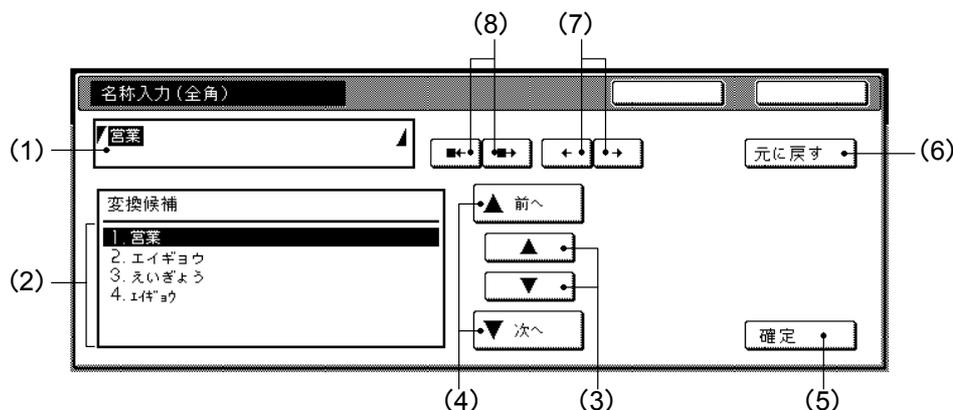
## ●区点入力



- (1) 文字表示部：入力した文字を表示します。全角で16文字、半角で32文字表示できます。
- (2) 入力文字表示部：区点コードに対応した文字を表示します。
- (3) 区点コード表示部：入力した区点コードを表示します。
- (4) “クリア”キー：入力した区点コードを消去するときに押してください。
- (5) “確定”キー：区点コードに対応した文字を確定するときに押してください。
- (6) “スペース”キー：スペースを入力するときに押してください。
- (7) “全消去”キー：入力を全て消去するときに押してください。
- (8) “←”“→”：カーソルを移動させるときに押してください。
- (9) “前削除”キー：カーソルの左の文字を削除するときに押してください。
- (10) “元に戻す”キー：文字入力の前の画面に戻るときに押してください。
- (11) “入力終了”キー：入力した名称の内容を確定するときに押してください。

## ローマ字漢字入力とかな漢字入力で文字変換するしかた

ローマ字漢字入力、かな漢字入力のそれぞれの入力画面で変換前の文字を入力した後、“変換”キーを押すと以下のような文字変換画面が表示されます。



- (1) 文字表示部：入力した文字を表示します。全角で16文字、半角で32文字表示できます。
- (2) 変換候補リスト：選択中の文節に対する変換候補を表示します。
- (3) “▲”キー、“▼”キー：変換候補を選択するときに押してください。
- (4) “▲前へ”キー、“▼次へ”キー：表示されている以外に変換候補がある場合、変換候補をスクロールするときに押してください。
- (5) “確定”キー：未確定文字をすべて確定するときに押してください。
- (6) “元に戻す”キー：“変換”キーを押す前に戻るときに押してください。
- (7) “←”キー、“→”キー：変換対象の文節を移動させるときに押してください。
- (8) “■←|”キー、“■→|”キー：変換対象文節の長さを変更するときに押してください。

## 【入力例】“京都営業所”と入力するとき

一文字ずつ入力できますが、ここでは一度にひらがなを入力し文節に変換していく方法を説明します。

## 1 ローマ字漢字入力の場合

“KYOUTOEIGYOUSHO”と順にタッチパネル上で入力してください。

漢字かな入力の場合“きょうとえいぎょうしょ”と順にタッチパネル上で入力してください。

文字表示部に“きょうとえいぎょうしょ”と表示されます。



2 “変換”キーを押してください。文字変換画面に替わります。  
反転されている部分が変換する文字です。

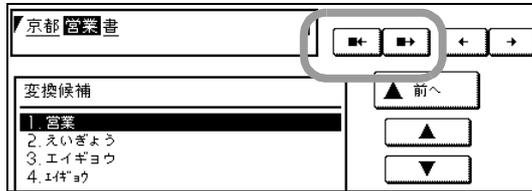
3 “■←|”キー、“■→|”キーを押して、変換する部分（この場合まず“きょうと”）を反転させてください。変換候補が表示されます。



4 “▲”キー、“▼”キーを押して、変換する文字（この場合“京都”）を選択してください。  
※表示されている以外の変換候補がある場合、“▲前へ”キーまたは“▼次へ”キーを押して画面をスクロールしてください。

**5** “→”キーを押してください。“京都”が確定します。

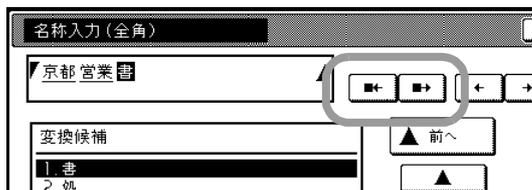
**6** “■←|”キー、“■→|”キーを押して、次の変換する部分(この場合“えいぎょう”)を反転させてください。変換候補が表示されます。



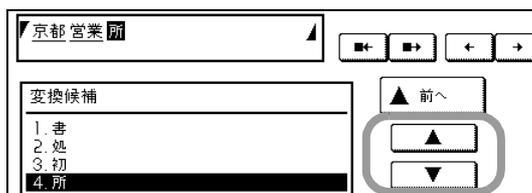
**7** “▲”キー、“▼”キーを押して、変換する文字(この場合“営業”)を選択してください。

**8** “→”キーを押してください。“営業”が確定します。

**9** “■←|”キー、“■→|”キーを押して、次の変換する部分(この場合“しょ”)を反転させてください。変換候補が表示されます。



**10** “▲”キー、“▼”キーを押して、変換する文字(この場合“所”)を選択してください。



**11** 文字の変換が終了するれば、“確定”キーを押してください。

**12** “入力終了”キー(または“次へ”キー)を押してください。各名称の登録画面に戻ります。

## 区点入力で文字変換するしかた

※入力できる文字は全角文字に限ります。半角文字は入力できません。

※各文字の区点コードは、P10-7、「区点コード表」を参照してください。

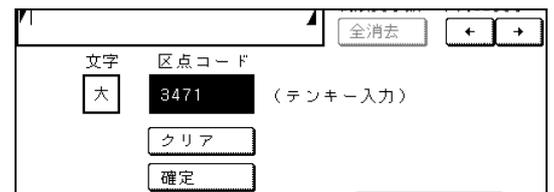
### 【入力例】“大阪”と入力する場合

**1** P10-7、「区点コード表」を参照して、入力に必要な全ての文字の区点コード(4桁)をメモしてください。

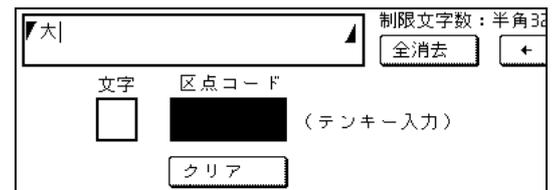
この例で入力する“大”の区点コードは“3471”、“阪”の区点コードは“2669”となります。

※漢字を探すときは、音読みで探してください。

**2** テンキーを使って“3”、“4”、“7”、“1”と入力してください。入力文字表示部に“大”の文字が表示されます。



**3** “確定”キーを押してください。文字表示部に“大”の文字が表示されます。



**4** 手順2～3と同様にして、区点コード“2669”を入力してください。“阪”の文字が“大”の後に続いて入力されます。“確定”キーを押してください。



**5** 入力が終了したときは、“入力終了”キー(または“次へ”キー)を押してください。各名称の登録画面に戻ります。

## 半角自局名称の入力のしかた

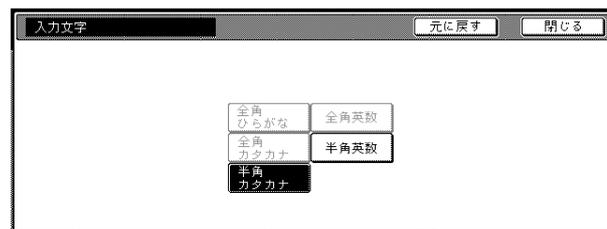
### ●入力画面の切替

入力画面は「半角カタカナ」と「半角英数」の2種類です。

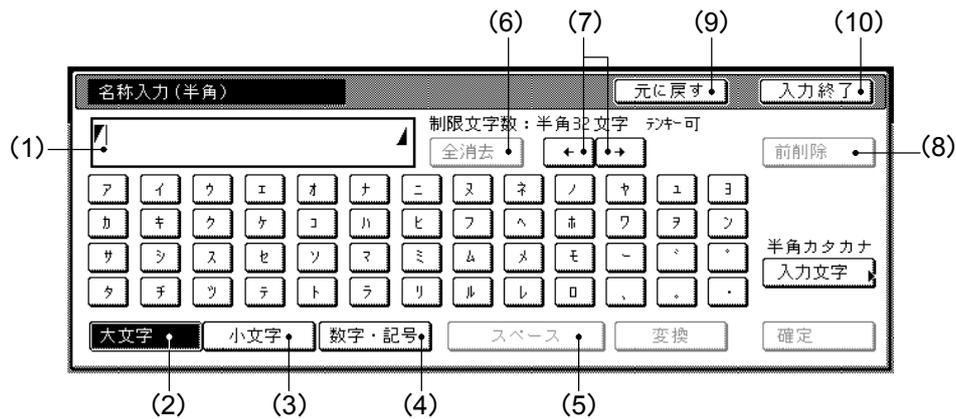
(1) 入力画面を変更するときは、“入力文字”キーを押してください。



(2) 入力文字を選択して、“閉じる”キーを押してください。

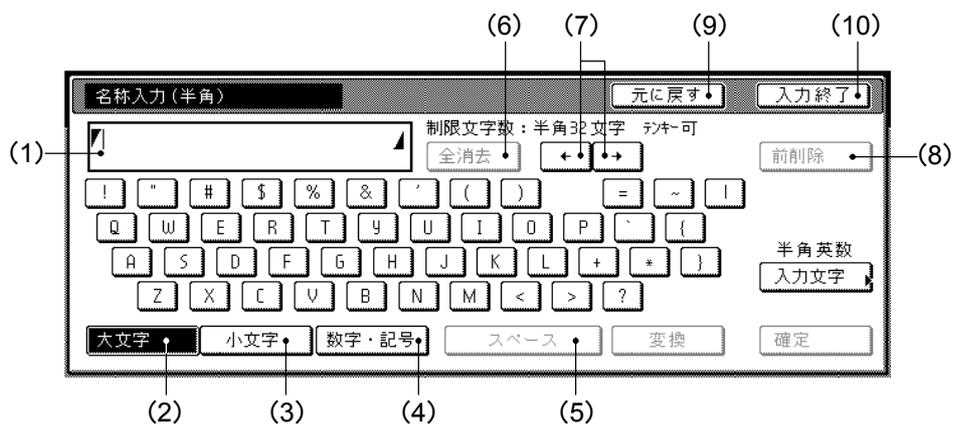


## 「半角カタカナ」画面



- (1) 文字表示部：入力した文字を表示します。半角で32文字表示できます。
- (2) “大文字”キー：半角カタカナを入力するときに押してください。
- (3) “小文字”キー：ア、イ、ウ、エ、オ、ツ、ヤ、ユ、ヨを入力するときに押してください。
- (4) “数字・記号”キー：数字や記号を入力するときに押してください。
- (5) “スペース”キー：スペースを入力するときに押してください。
- (6) “全消去”キー：確定した文字を全て消去するときに押してください。
- (7) “←”“→”キー：カーソルを移動させるときに押してください。
- (8) “前削除”カーソルの左の文字を削除するときに押してください。
- (9) “元に戻す”キー：文字入力の前の画面に戻るときに押してください。
- (10) “入力終了”キー：入力した名称の内容を確定するときに押してください。

## 「半角英数」画面



- (1) 文字表示部：入力した文字を表示します。半角で32文字表示できます。
- (2) “大文字”キー：アルファベットの大文字を使用するときに押してください。
- (3) “小文字”キー：アルファベットの小文字を使用するときに押してください。
- (4) “数字・記号”キー：数字や記号を入力するときに押してください。
- (5) “スペース”キー：スペースを入力するときに押してください。
- (6) “全消去”キー：確定した文字を全て消去するときに押してください。
- (7) “←”“→”キー：カーソルを移動させるときに押してください。
- (8) “前削除”カーソルの左の文字を削除するときに押してください。
- (9) “元に戻す”キー：文字入力の前の画面に戻るときに押してください。
- (10) “入力終了”キー：入力した名称の内容を確定するときに押してください。

●文字の入力

※ 32文字まで入力することができます。

【入力例】“キョウト Sp”

**1** 入力文字で“半角カタカナ”を選択していることを確認して、“キ”を入力してください。



**2** “小文字”キーを押してください。

**3** “ョ”を入力してください。



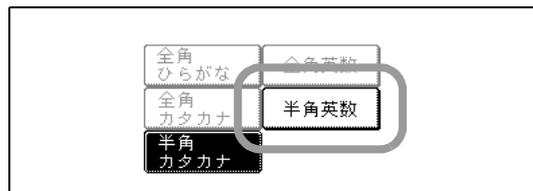
**4** “大文字”キーを押してください。

**5** “ウト”と順に入力してください。



**6** “入力文字”キーを押してください。

**7** “半角英数”キーを押して、“閉じる”キーを押してください。



**8** “S”キーを押してください。



**9** “小文字”キーを押してください。

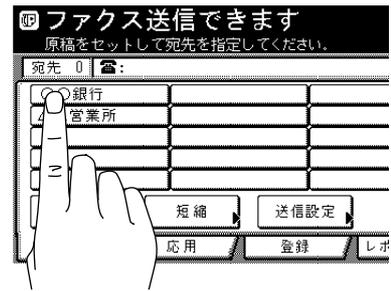
**10** “p”を押してください。



**11** 入力が全て終了したら、“入力終了”キーを押してください。登録内容確認の画面に戻ります。

## ワンタッチキーで送信する (ワンタッチダイヤル)

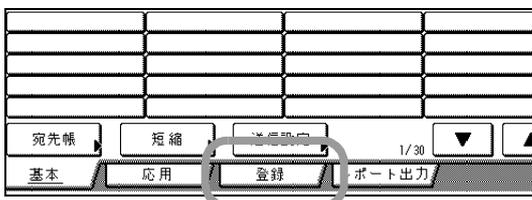
ワンタッチキーに相手先のファクス番号を登録しておくことで、ワンタッチダイヤルとして使うことができます。また、ワンタッチダイヤルは、Fコード通信時や暗号通信時の相手先指定にも使われます。



### 登録のしかた

- ※最大 600 のワンタッチダイヤルが登録できます。ワンタッチダイヤルはプログラムダイヤル、グループダイヤル、チェーンダイヤルと合わせて 600 の相手先が登録できます。
- ※選んだワンタッチキーの番号 (001 ~ 600) が自動的に短縮番号になります。
- ※1つのワンタッチダイヤルに関してFコード通信、暗号通信の両方の設定はできません。
- ※登録したワンタッチダイヤルの内容を確認するときは、ワンタッチダイヤルリストを出力してください。
- ※ワンタッチダイヤルの登録時には、ファクス番号だけでなく相手先名称も登録されることをおすすめします。相手先名称が登録されていると、宛先帳機能を使って相手先を検索するときに役立ちます。
- ※操作の前にファクスの初期モードであることを確認してください。(P1-9、「初期モードについて」参照)
- ※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1** “登録”キーを押してください。登録画面に替わります。



- 2** “ダイヤル”キーを押してください。ダイヤル登録に替わります。

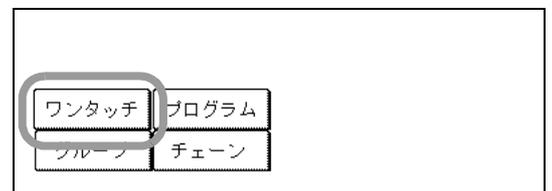


- 3** 画面上で未登録のワンタッチキーを押してください。

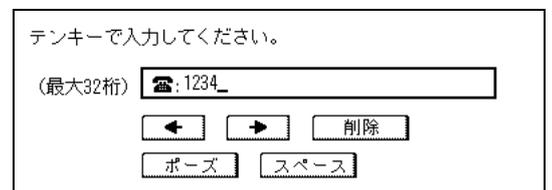
※未登録のワンタッチキーが表示されないときは、“▲”キー、“▼”キーを押して画面を替えてください。

登録するダイヤルを指定してください。	
001	006
002	007
003	008
004	009
005	010

- 4** “ワンタッチ”キーを押してください。



- 5** テンキーで相手先のファクス番号を入力してください。(最大 32 桁)



- ※“←”、“→”キー：カーソルの移動
- “削除”キー：カーソル上の文字を削除 (カーソルが最後尾にあるときは前の文字を削除)
- “スペース”キー：スペースを入れる
- “ポーズ”キー：ダイヤルの間にポーズ (-) を入れる

- 6** “次へ”キーを押してください。

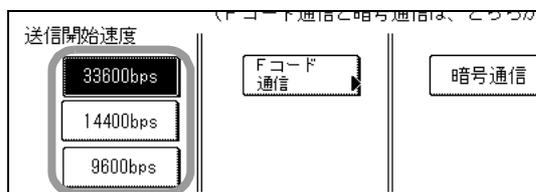
**7** 相手先名称を入力してください。（最大 20 文字）  
 ※文字の入力のしかたは、P2-10、「文字を入力する」を参照してください。

**8** 登録内容を確認してください。変更するときは、各種の設定キーを押して変更してください。  
 ※“検索文字”は相手先名称の頭文字が表示され、宛先帳で検索する際に使用します。変更する場合はこのキーを押してください。  
 ※表示されている内容で登録を確定するときは、手順 20 に進んでください。

●詳細設定

**9** 送信開始速度、Fコード通信、暗号通信など詳細な設定を行うときは、“詳細設定”キーを押して、次の手順に進んでください。

**10** 送信開始速度を選択してください。33600bps、14400bps、9600bps の中から選択してください。



**11** Fコード通信を設定するときは、“Fコード通信”キーを押して次の手順に進んでください。暗号通信を設定するときは手順 15 に進んでください。  
 登録を確定するときは“閉じる”キーを押して手順 20 に進んでください。

**12** Fコード通信でこのワンタッチダイヤルを使用するときは、“する”キーを押してください。サブアドレスとパスワードの入力画面が表示されます。



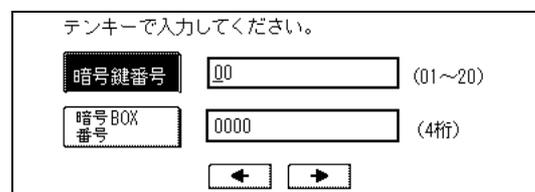
**13** サブアドレスとパスワードをテンキーでそれぞれ入力してください。（最大 20 桁）  
 ※サブアドレスからパスワードに入力を切り替えるときは“パスワード”キーを押してください。  
 ※サブアドレスは F コード通信を行う際、相手先の原稿受渡しボックス（F コードボックス）を指定するために必要です。  
 ※パスワードは、F コード通信を行うときに使用します。相手先との取り決め上、不要な場合は入力する必要はありません。

**14** “閉じる”キーを 2 回押してください。手順 20 に進んでください。

**15** 暗号通信を設定するときは“暗号通信”キーを押してください。

**16** 暗号通信でこのワンタッチダイヤルを使用するときは、“する”キーを押してください。暗号鍵番号と暗号 BOX 番号の入力画面が表示されます。

**17** 暗号鍵番号（01～20）をテンキーで入力してください。



**18** “暗号 BOX 番号”キーを押して、暗号 BOX 番号（4 桁）をテンキーで入力してください。

**19** “閉じる”キーを 2 回押してください。

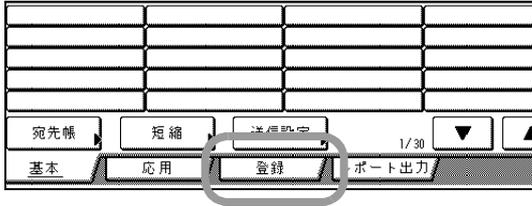
**20** 登録を確定するときは、“確定”キーを押してください。手順 3 に戻ります。引き続き他のワンタッチダイヤルを行うときは手順 3～20 を行ってください。

**21** 登録を終了し、初期モードに戻るときはリセットキーを押してください。

## 登録内容の変更と削除のしかた

※登録内容の変更時、Fコード通信の設定がONのときは暗号通信に関する登録を行うことはできません。また、同様に暗号通信の設定がONのときはFコード通信に関する登録を行うことができません。

- 1** “登録”キーを押してください。登録画面に替わります。



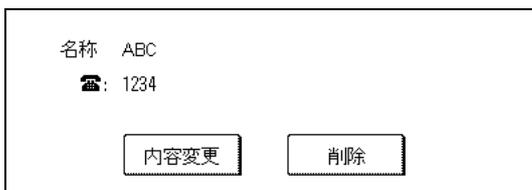
- 2** “ダイヤル”キーを押してください。ダイヤル登録に替わります。



- 3** 変更または削除するワンタッチキーを押してください。  
※目的のワンタッチキーが表示されないときは、“▲”キー、“▼”キーを押して画面を替えてください。

登録するダイヤルを指定してください。		
001	ABC	006
002		007
003		008
004		009
005		010

- 4** 登録内容を変更するときは“内容変更”キーを、削除するときは“削除”キーを押してください。変更するときは手順6、削除するときは次の手順に進んでください。



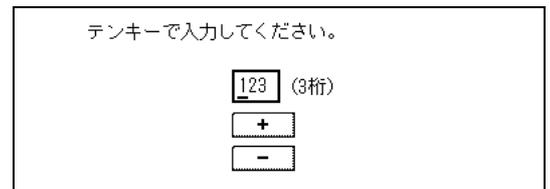
- 5** >ワンタッチダイヤルを削除するとき

“はい”キーを押してください。  
手順3に戻ります。その他のワンタッチダイヤルキーの削除を行うときは手順3～5を繰り返してください。削除を終了するときにはリセットキーを押してください。

- 6** >登録内容を変更するとき

短縮番号（選択されたワンタッチキーの表示番号）を変更するときは“短縮番号”キーを押してください。その他の項目の変更を行うときは、それぞれのキーを押してください。変更の方法はP2-19、「登録のしかた」を参照してください。  
※詳細内容の変更を行うときは、“詳細設定”キーを押してから設定項目を選択してください。

- 7** 登録されていないワンタッチキーの短縮番号（001～600）を入力してください。  
※3桁の数字が入力されると“+”キーまたは“-”キーで数字を変えることができます。



- 8** “閉じる”キーを押してください。

- 9** 全ての項目の変更が終了したら、“確定”キーを押してください。  
手順3に戻ります。その他のワンタッチダイヤルキーの変更を行うときは手順3～9を繰り返してください。変更を終了するときにはリセットキーを押してください。

### 使いかた

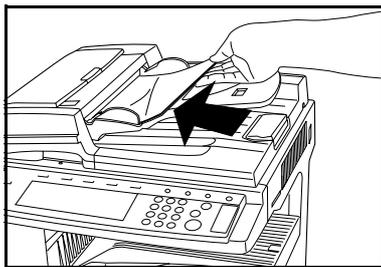
あらかじめ登録されたワンタッチダイヤルを使って相手先にダイヤルすることができます。

※画質や原稿濃度など送信条件の選択は P2-3、2-4 を参照してください。

※操作の前にファクスの初期モードであることを確認してください。（P1-9、「初期モードについて」参照）

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

#### 1 原稿をセットしてください。



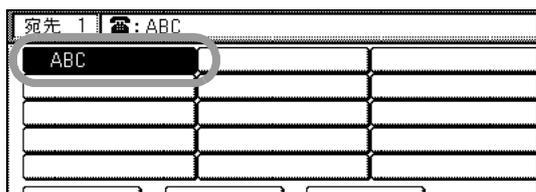
#### 2 画質や原稿濃度などの送信条件を変更するときは、“送信設定”キーを押してください。変更しないときは、手順5に進んでください。

#### 3 変更する内容のキーを押してください。変更のしかたは P2-3、2-4 を参照してください。

#### 4 変更が終了すれば、“ワンタッチ宛先”キーを押してください。



#### 5 ワンタッチダイヤルが登録されているワンタッチキーを押してください。



#### 6 スタートキーを押してください。機械は送信のための動作を開始します。 ※コンタクトガラスに原稿をセットしたときは、原稿1枚ごとに原稿読み取り継続の操作を行う必要があります。（P2-5 参照）

## ワンタッチダイヤルリストの出力のしかた

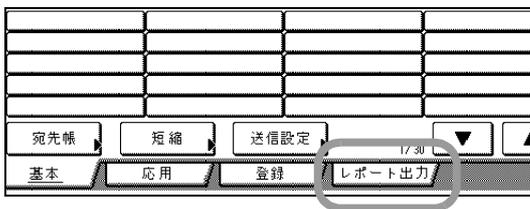
ワンタッチダイヤルに登録されているファクス番号は、ワンタッチダイヤルリストを出力することによって確認できます。

※ワンタッチダイヤルが全く登録されていない場合、ワンタッチダイヤルリストは出力されません。

※操作の前にファクスの初期モードであることを確認してください。(P1-9、「初期モードについて」参照)

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

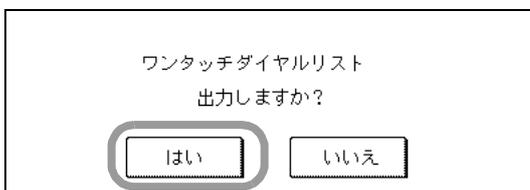
- 1 “レポート出力”キーを押してください。レポート出力選択画面が表示されます。



- 2 “ワンタッチダイヤルリスト”キーを押してください。



- 3 出力する場合は“はい”キーを押してください。ワンタッチダイヤルリストの出力が開始されます。

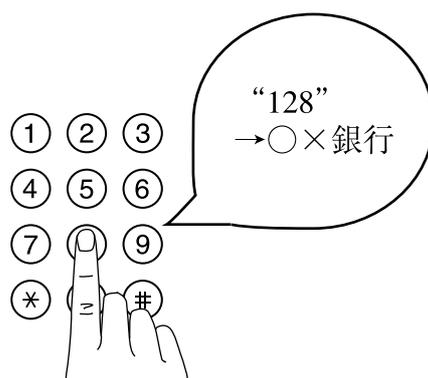


### 3桁の数字で相手先にダイヤルする（短縮ダイヤル）

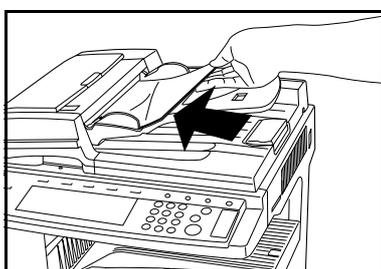
各ワンタッチキーにはワンタッチダイヤル、プログラムダイヤル、グループダイヤル、チェーンダイヤルのいずれかが登録可能です。このワンタッチキーには001～600の3桁の番号が割り付けられています。この3桁の番号を短縮番号と呼び、この番号を入力することによって相手先のダイヤルを行います。

※操作の前にファクスの初期モードであることを確認してください。（P1-9、「初期モードについて」参照）

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。



**1** 原稿をセットしてください。



**2** 画質や原稿濃度などの送信条件を変更するときは、“送信設定”キーを押してください。変更しないときは、手順5に進んでください。

**3** 変更する内容のキーを押してください。変更のしかたはP2-3、2-4を参照してください。

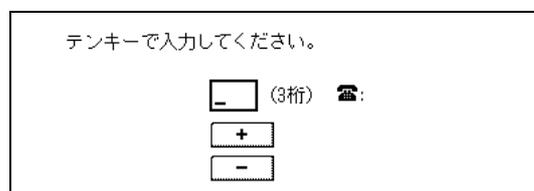
**4** 変更が終了すれば、“短縮”キーを押してください。手順6に進んでください。



**5** “短縮”キーを押してください。

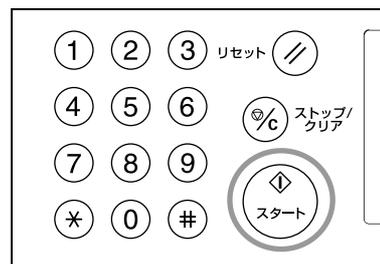


**6** テンキーで登録されているワンタッチキーの短縮番号（001～600）を入力してください。  
※3桁の数字が入力されると“+”キーまたは“-”キーで数字を変えることができます。



**7** “閉じる”キーを押してください。基本画面に戻り、選択されたワンタッチキーが反転表示されます。

**8** スタートキーを押してください。機械は送信のための動作を開始します。



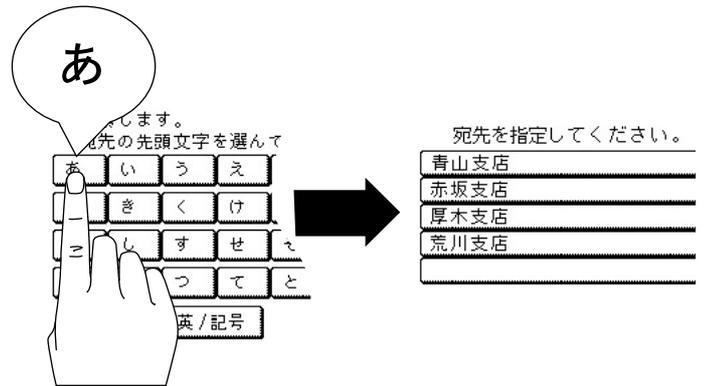
## 電子電話帳でダイヤルする (宛先帳)

ワンタッチダイヤル、グループダイヤル、プログラムダイヤル、チェーンダイヤルなどワンタッチキーに登録されている相手先の名前を検索し、その検索した相手先にすぐにダイヤルできる機能です。

宛先帳を使用すると登録している相手先が多い場合などは非常に役立ちます。

※ワンタッチダイヤル、グループダイヤル、プログラムダイヤル、チェーンダイヤルの登録時に、名称（相手先名称／グループ名称／プログラム名称）を登録してください。

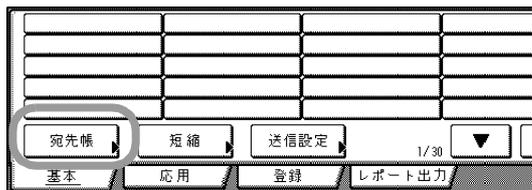
※相手先番号の登録時（プログラムダイヤル、グループダイヤル、メモリ転送、Fコード中継ボックス登録時）や各種機能通信の相手先番号入力にも宛先帳を使用することができます。



## 検索のしかた

ワンタッチダイヤル、グループダイヤル、プログラムダイヤル、チェーンダイヤルに登録されている“検索文字”によって検索ができます。検索文字は50音の“かな”と数字とアルファベットの“英記号”に分かれます。それぞれの画面を切り替えてください。登録されているダイヤル名称は短縮番号の順番に表示します。

**1** “宛先帳”キーを押してください。検索文字を選択する画面に替わります。



**2** 名称が登録されている検索文字を選択するときは、“かな”キーまたは“英記号”キーを押して画面を切り替えてください。

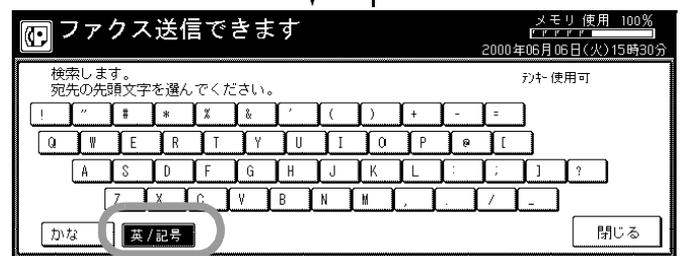
「かな」画面



“英記号”  
キーを押す

“かな”  
キーを押す

「英記号」画面



**3** 検索文字を押してください。検索文字に登録されている名称が表示されます。

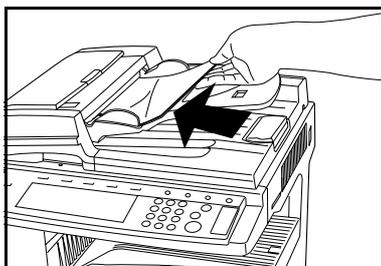
## 宛先帳の使用のしかた

[例] “京都営業所”を検索し、送信する場合（京都営業所が検索文字“き”に登録されている場合）

※操作の前にファクスの初期モードであることを確認してください。（P1-9、「初期モードについて」参照）

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。

**1** 原稿をセットしてください。



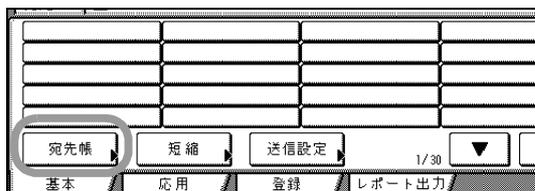
**2** 画質や原稿濃度などの送信条件を変更するときは、“送信設定”キーを押してください。変更しないときは、手順5に進んでください。

**3** 変更する内容のキーを押してください。変更のしかたはP2-3、2-4を参照してください。

**4** 変更が終了すれば、“宛先帳”キーを押してください。手順6に進んでください。



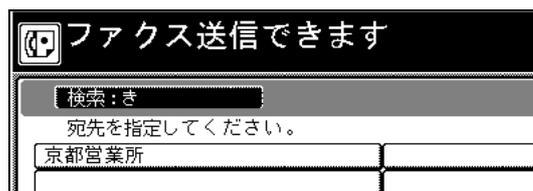
**5** “宛先帳”キーを押してください。



**6** パネル上で検索する名称の頭文字を押してください。



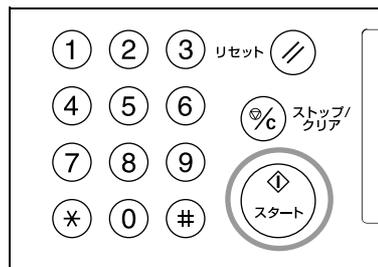
**7** 押した頭文字で登録されているワンタッチキーが表示されます。



**8** 相手先が登録されているワンタッチキーを押してください。表示されていない場合は“▲”キーまたは“▼”キーを押してください。

**9** “確定”キーを押してください。基本画面に戻ります。

**10** スタートキーを押してください。機械は送信の動作を開始します。



## 宛先帳リストの出力

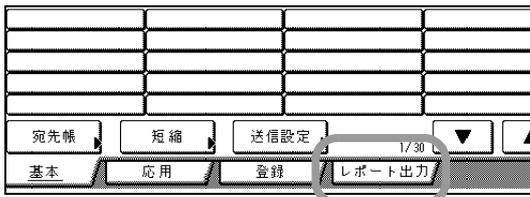
宛先帳機能で検索できる相手先は宛先帳リストを出力すれば確認できます。

※ワンタッチキーに何も登録されていないときは出力されません。

※操作の前にファクスの初期モードであることを確認してください。(P1-9、「初期モードについて」参照)

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

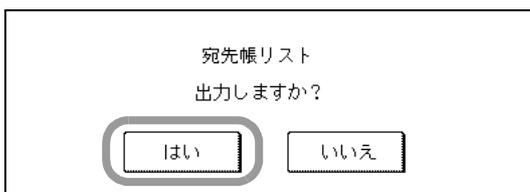
- 1 “レポート出力”キーを押してください。レポート出力選択画面が表示されます。



- 2 “宛先帳リスト”キーを押してください。



- 3 出力する場合は“はい”キーを押してください。宛先帳リストの出力が開始されます。



## 同じ相手にダイヤルする（リダイヤル）

リダイヤルは、直前にダイヤルした相手先の番号をもう一度ダイヤルする機能です。

### 自動リダイヤルのしかた

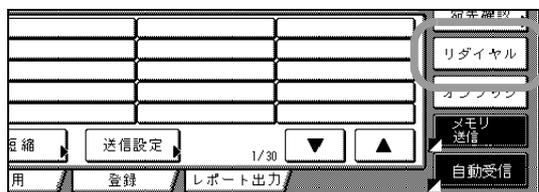
原稿を送信しようとしても、相手先がすでに通信中で応答しないときもあります。そんなときに機械が再び自動でダイヤルを行ってくれる機能です。

※機械が自動で行うため、何ら操作の必要はありません。自動リダイヤルは一定の間隔をあけて数回行われますので、相手先の通信が長引いた場合でも安心です。

※ダイレクト送信時は、自動リダイヤルは行われません。

### 手動リダイヤルのしかた

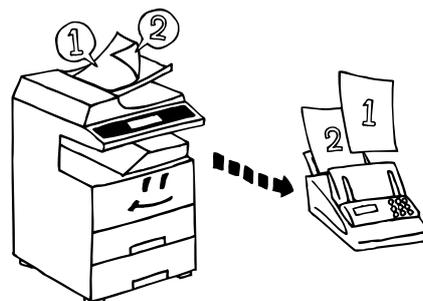
送信を試みたが、相手先が応答しない。そんなときに“リダイヤル”キーを押すと、直前にダイヤルした相手先の番号を、機械がもう一度ダイヤルする機能です。“リダイヤル”キーを押してください。機械がもう一度ダイヤルを行います。



# 3章 ファクスの操作方法 (活用編)

## 両面原稿を送信する (両面送信)

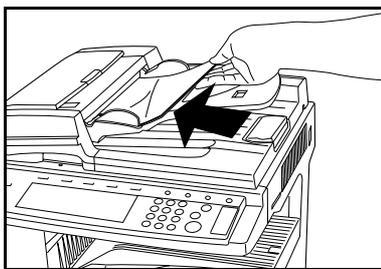
両面原稿の表と裏の両方の原稿を送信することができる機能です。両面送信は、両面原稿送り装置から原稿を読み取りメモリ送信を行います。送信設定時にはカバーページ [片面印字された送り状] の有無と原稿裏面を天地反転して読み込むかどうかの設定が可能です。各種機能通信と組み合わせて行うことも可能ですがここでは、1宛先に両面原稿を送信する方法をご紹介します。



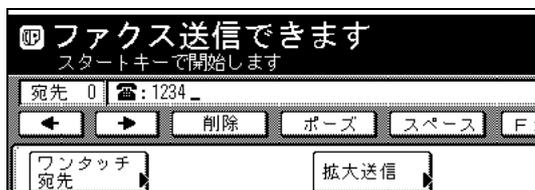
※ 両面送信を行うためには、事前に原稿送り装置読込設定で“定型原稿”を選択しておく必要があります。(P7-6、「原稿の読み込み条件を設定する (原稿送り装置読込設定)」参照)

※ 操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

**1** 両面原稿を両面原稿送り装置にセットしてください。



**2** 相手先のファクス番号を入力してください。  
※テンキーでダイヤルする場合は手順4に、短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、グループダイヤル、プログラムダイヤル、チェーンダイヤルを使用するときは手順3に進んでください。



**3** “送信設定”キーを押してください。

**4** “両面送信”キーを押してください。

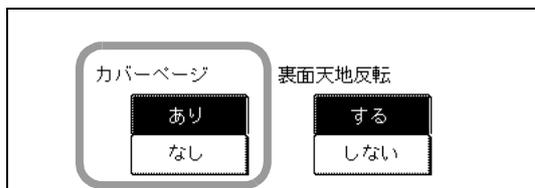


**5** 両面送信をするため“する”キーを押してください。

**6** カバーページ（片面印字された送り状）の有無を“あり”キーまたは“なし”キーを押して選択してください。

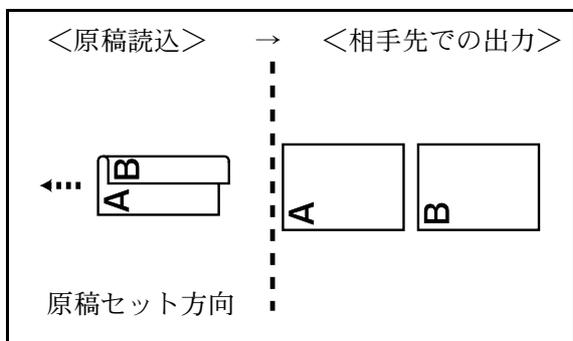
＞両面原稿の先頭に片面印字された送り状などを添付して送信するときは、“あり”を反転させてください。原稿1枚目の片面（裏面）は読み込まずに送信を行います。

＞両面原稿だけを送るときは、“なし”を反転させてください。

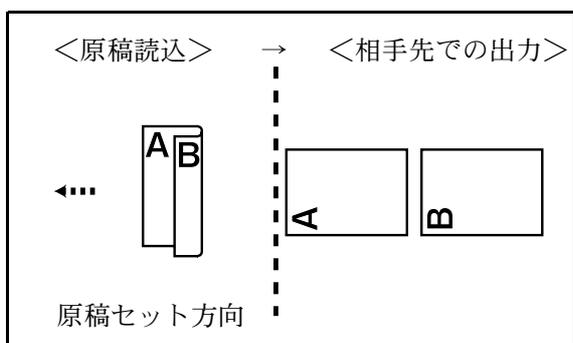


**7** 原稿裏面を天地反転して読み込むかどうかを“する”キーまたは“しない”キーを押して選択してください。

＞下のイラストのように原稿をセットするときは、“する”を選択してください。読み込み時にメモリ内で原稿の裏面を180度回転します。

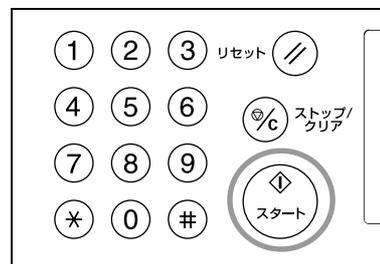


＞下のイラストのように原稿をセットするときは、“しない”を選択してください。



**8** “閉じる”キーを押してください。

**9** スタートキーを押してください。機械はいったん原稿をメモリに読み込み、送信のための動作を開始します。



## 原稿を拡大して送信する (拡大送信)

文字が小さい原稿などを送信するとき実際の原稿より大きいサイズに拡大して送信することができます。原稿サイズと送信サイズは以下の表の通り固定です。

原稿サイズと送信サイズの組合せ表

		送信サイズ				
		A3	A4 タテ	A5 タテ	B4	B5 タテ
原稿サイズ	A3					
	A4 タテ	141%			122%	
	A4 ヨコ					
	A5 タテ	200%	141%		173%	
	A5 ヨコ					
	B4	115%				
	B5 タテ	163%	115%		141%	
	B5 ヨコ					

※ 拡大送信はメモリ送信時のみ可能です。

※ 回転送信と拡大送信は併用できません。またポーリング送信の原稿の読み込み、Fコード親展ボックスへの原稿の入力時には使用できません。

※ 順次同報送信時は全ての宛先で共通の設定となります。

※ コンタクトガラスへ複数枚の原稿をセットする場合、1枚目の原稿の設定が有効となり、原稿ごとの設定はできません。

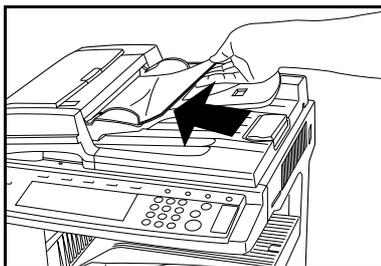
※ 拡大送信を設定した後、原稿サイズを変更すると拡大送信の設定は無効となります。

また、原稿送り装置で設定した後に原稿送り装置から原稿を抜き取った場合やコンタクトガラスに原稿をセットして設定した後に原稿送り装置に原稿をセットすると設定は無効となります。

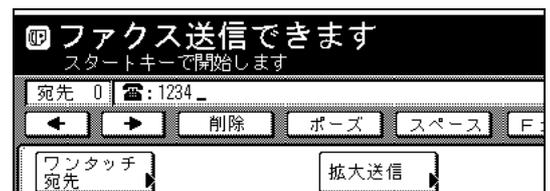
※ 倍率が150%を越える場合、スーパーファインやウルトラファインの画質は選択できません。

**1** 原稿送り装置またはコンタクトガラス上に原稿をセットしてください。

※ コンタクトガラスに原稿をセットしたときは、原稿1枚ごとに読み込みの継続の選択を行う必要があります。(P2-5 参照)



**2** 相手先のファクス番号を入力してください。  
 ※ 相手先番号の入力には、テンキーでのダイヤル、短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、グループダイヤル、プログラムダイヤル、チェーンダイヤル、宛先帳機能を使用することができます。



**3** “拡大送信”キーを押してください。

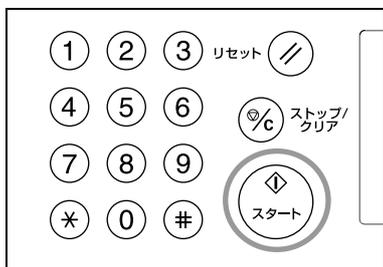


**4** 送信サイズを押してください。  
表示されるサイズは「原稿サイズと送信サイズの組合せ表」の通りです。



**5** “閉じる”キーを押してください。

**6** スタートキーを押してください。送信のための動作を開始します。

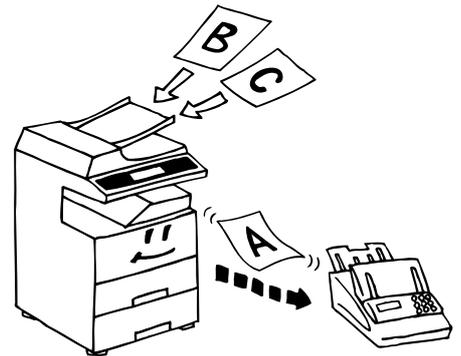


## 通信中に次の原稿を予約する (送信予約)

送信予約とは、機械が通信中であるときに次の送信を予約することです。通信中に原稿をセットして相手先のファクス番号を入力しておく、その通信が終われば自動的に送信が開始されます。送信予約は同報送信やポーリング受信などで通信が長引く場合に、急ぎの原稿を早く送信したいときに便利な方法です。本機では複数の相手先と順次連続した通信を行っているときや複数の送信予約が行われているときに、送信予約を行えば、送信予約した原稿を先に割り込ませて、送信させることができます。

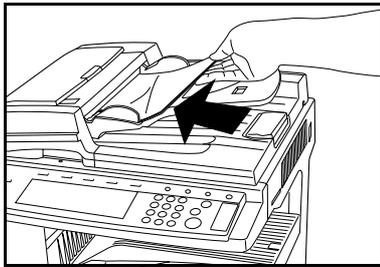
※時刻指定をした通信や割り込み通信と合わせて最大 50 件まで予約することができます。

※順次同報送信などの機能通信を予約することもできます。

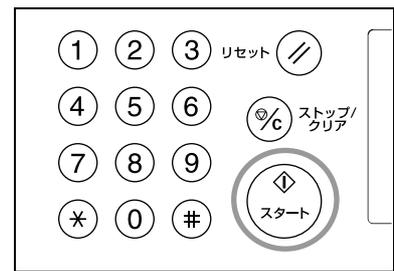


※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

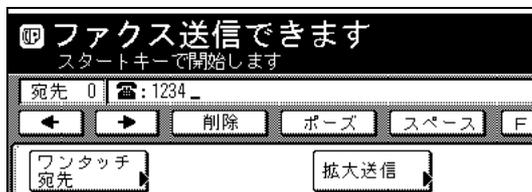
- 1** 原稿送り装置またはコンタクトガラス上に原稿をセットしてください。



- 3** スタートキーを押してください。セットした原稿がメモリに読み込まれます。  
※ダイレクト送信モード時は、セットされた原稿は原稿送り装置またはコンタクトガラス上で待機状態となります。



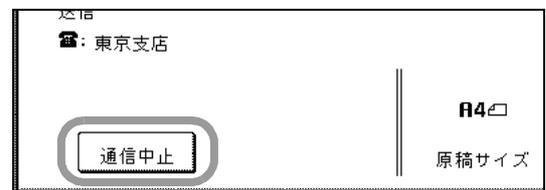
- 2** 相手先のファクス番号を入力してください。  
※相手先番号の入力には、テンキーでのダイヤル、短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、グループダイヤル、プログラムダイヤル、チェーンダイヤル、宛先帳機能を使用することができます。



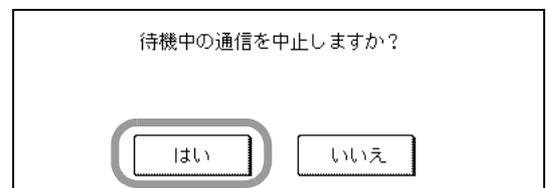
- ・通信が終了すると、機械は送信のための動作を開始します。

### <ダイレクト送信予約の待機中に送信を中止するとき>

- (1) 待機画面で“通信中止”キーを押すかストップ/クリアキーを押してください。



- (2) 待機中の送信を中止するときは、“はい”キーを押してください。



## たくさんの相手先に送信する（順次同報送信）

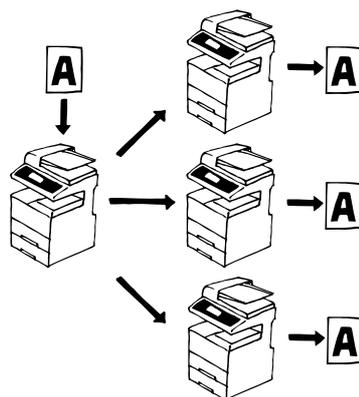
一度の操作で同じ原稿を順次何カ所もの相手先に送ることができる機能です。本社から複数の支店に同じ原稿を送る場合など、この機能を使うと操作が一回で済むので非常に便利です。

機械は送信する原稿をいったんメモリに蓄積（記憶）し、その後で指定された相手先の分だけ自動的にダイヤルと送信を繰り返して行います。

※原稿を送信する複数の相手先番号の全てを、短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、グループダイヤルのいずれかによって入力する場合は、1回の操作で最大300ヶ所の相手先に送信することができます。

※Fコード通信や時刻指定通信も合わせて行うことができます。

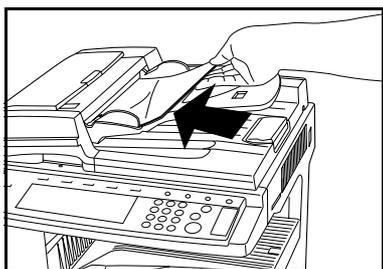
※相手先が複数の場合、ダイレクト送信モードが設定されている場合でも、送信はメモリ送信で行われます。



※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

**1** 原稿送り装置またはコンタクトガラスに原稿をセットしてください。

※コンタクトガラスに原稿をセットしたときは、原稿1枚ごとに読み込みの継続の選択を行う必要があります。（P2-5 参照）



**2** 相手先のファクス番号を入力してください。

※相手先番号の入力にはテンキーによるダイヤル、ワンタッチキーによるワンタッチダイヤル、グループダイヤル、チェーンダイヤルの他、短縮ダイヤル、宛先帳も使用することができます。

＞テンキーで入力するとき

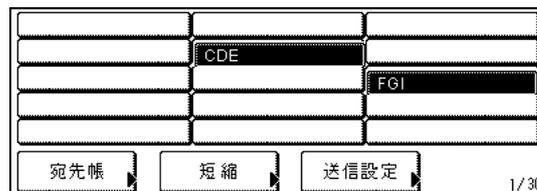
複数の相手先を入力するときは、“次宛先”キーを押してください。次の相手先の入力が可能になります。



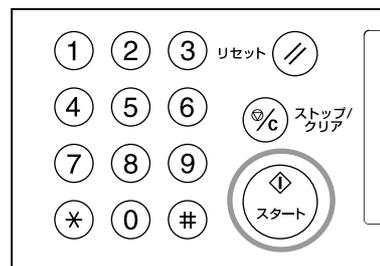
※テンキーで入力した後ワンタッチキーで入力するときは、“ワンタッチ宛先”キーを押してください。ワンタッチキーが表示されます。

＞ワンタッチキーで入力するとき

ワンタッチダイヤル、グループダイヤルが登録されているワンタッチキーを押してください。選ばれたワンタッチキーが反転します。  
※チェーンダイヤルの後、ワンタッチダイヤルを続けることもできます。



**3** スタートキーを押してください。送信のための動作を開始します。



## 別の原稿を優先して送信する (割込送信)

複数の相手先と順次連続した通信 (同報送信やポーリング受信など) が行われているときや、既にメモリに送信予約された原稿があるときでも、手持ちの原稿を割り込ませて先に送信させることができます。

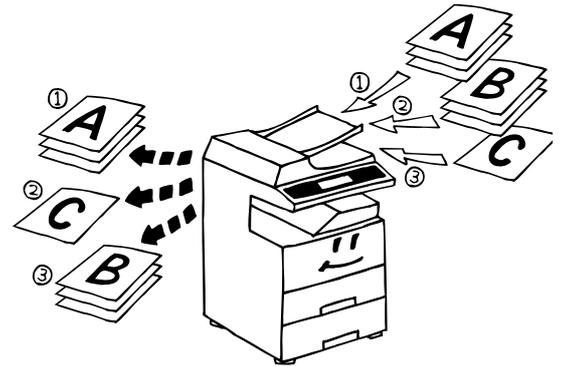
※ 割込送信は、1宛先に送信する場合にのみ可能です。

※ 送信予約や時刻指定された通信などがすでに 50 件ある場合、割込送信を行うことはできません。

※ 割込操作のタイミングによっては、現在行われている送信のすぐ後に割り込めない場合があります。

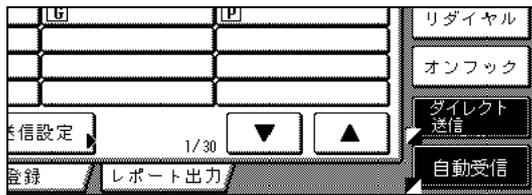
※ 割込送信を中止する場合は、セットした原稿を取り除いてください。

※ 割込送信の待機中に送信を中止するときは、P3-5、〈ダイレクト送信予約の待機中に送信を中止するとき〉を参照して操作を行ってください。



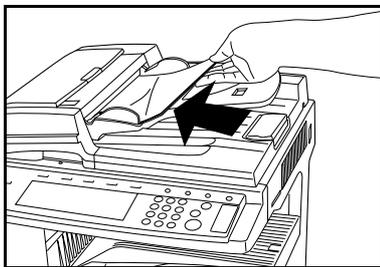
※ 操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1** “メモリ送信”キーを押して、“ダイレクト送信”を表示させてください。



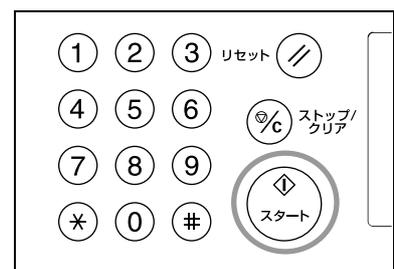
- 2** 原稿送り装置またはコンタクトガラス上に原稿をセットしてください。

※ コンタクトガラスに原稿をセットしたときは、原稿 1 枚ごとに読み込みの継続の選択を行う必要があります。(P2-5 参照)



- 3** 相手先のファクス番号を入力してください。  
※ 相手先番号の入力にはテンキーによるダイヤル、ワンタッチキーによるワンタッチダイヤル、チェーンダイヤルの他、短縮ダイヤル、宛先帳も使用することができます。

- 4** スタートキーを押してください。原稿は原稿送り装置上またはコンタクトガラス上で待機中となります。そして現在行われている通信が終了すれば、機械は送信を開始します。



## 指定の時間に送信する（時刻指定通信）

通信を開始する時刻をあらかじめセットしておく、指定の時刻がくれば機械が自動的に通信を行う機能です。時刻指定通信は、順次同報送信などの各種機能通信とも併用することができます。ここでは、1宛先に開始時刻を指定して原稿を送信する方法をご紹介します。

注意：通信開始時刻は本機に設定されている時刻に基づいて行います。あらかじめ設定時刻を確認してください。

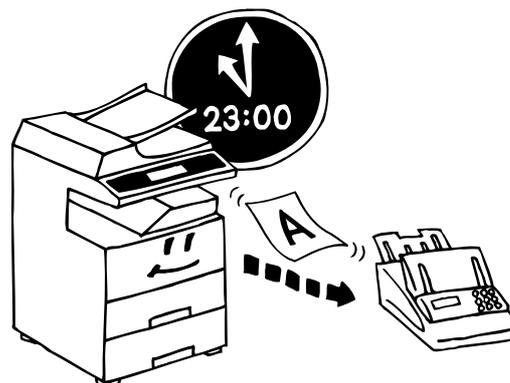
※ 開始時刻を指定した場合、ダイレクト送信モードが設定されている場合でも、送信はメモリ送信で行われます。

※ 時刻の指定は、00：00～23：59までの1分単位で行うことができます。

※ 送信予約、割込通信と合わせて最大50件まで時刻指定通信を行うことができます。

※ 指定時刻が同じ通信予約が2つ以上ある場合、原則的には予約が行われたもの順に通信が開始されますが、予約順が逆でも、単一相手先への通信は複数相手先への通信よりも優先して先に行われます。

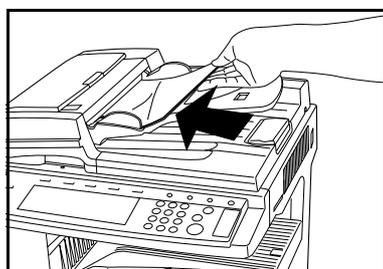
※ 待機通信の中止や予約した内容の変更を行うことができます。（P3-12、「予約中の原稿を編集する（メモリ編集）」参照）



※ 操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

**1** 原稿送り装置またはコンタクトガラスに原稿をセットしてください。

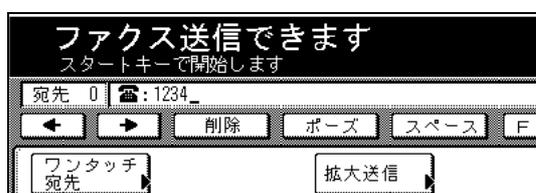
※コンタクトガラスに原稿をセットしたときは、原稿1枚ごとに読み込みの継続の選択を行う必要があります。（P2-5 参照）



**2** 相手先のファクス番号を入力してください。

※テンキー、短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、チェーンダイヤル、宛先帳が使用できます。

※ワンタッチダイヤル、チェーンダイヤルでファクス番号を入力したときは、“送信設定”キーを押してください。

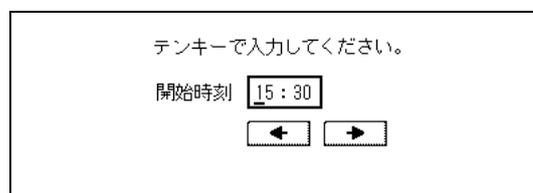


**3** “時刻指定”キーを押してください。



**4** “する”キーを押すと、時刻の設定画面が表示されます。

**5** 送信開始時刻をテンキーで入力してください。※修正するときは“←”キーまたは“→”キーでカーソルを移動させてください。



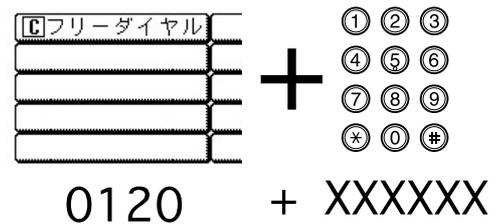
**6** “閉じる”キーを押してください。

**7** スタートキーを押してください。機械は原稿をメモリへ読み込み、指定時刻になると送信を開始します。

※タイマー予約レポート出力の設定が“ON”に設定されているときは、タイマー予約レポートが出力されます。（P7-1 参照）

## 登録したダイヤルとテンキー入力でダイヤル (チェーンダイヤル)

チェーンダイヤルとは、ワンタッチキーに登録済みの番号 (チェーン番号) を相手先のファクス番号の前につなげてダイヤルする機能です。  
 [例] チェーンダイヤルとしてワンタッチキーに“0120”が登録されていて、0120-XX-XXXX とダイヤルするとき  
 ワンタッチキー (“0120”が登録されている) を押し、テンキーで“XXXXXX” と入力してください。



※チェーンダイヤルは、相手先番号入力時の先頭で一度だけ使用できます。

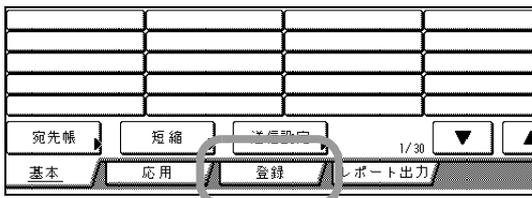
※チェーンダイヤルは順次同報送信などの各種機能通信の相手先番号入力にも使用できます。

※チェーンダイヤルとグループダイヤルは併用できません。

### 登録のしかた

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

- 1 “登録”キーを押してください。登録画面に替わります。



- 2 “ダイヤル”キーを押してください。ダイヤル登録に替わります。



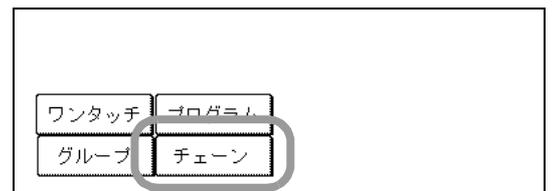
- 3 画面上で未登録のワンタッチキーを押してください。

※未登録のワンタッチキーが表示されないときは、“▲”キー、“▼”キーを押して画面を替えてください。

登録するダイヤルを指定してください。

001	006
002	007
003	008
004	009
005	010

- 4 “チェーン”キーを押してください。



- 5 テンキーでチェーン番号を入力してください。(最大 32 桁)



※“←”、“→”キー：カーソルの移動  
 “削除”キー：カーソル上の文字を削除 (カーソルが最後尾にあるときは前の文字を削除)  
 “スペース”キー：スペースを入れる  
 “ポーズ”キー：ダイヤルの間にポーズ (-) を入れる

**6** “次へ”を押してください。

**7** チェーン名称を入力してください。（最大 20 文字）

※文字の入力のしかたは、P2-10、「文字を入力する」参照してください。

**8** 登録内容を確認してください。変更するときは、各種の設定キーを押して変更してください。

※“検索文字”は相手先名称の頭文字が表示され、宛先帳で検索する際に使用します。変更する場合はこのキーを押してください。

登録内容を確認後、確定キーを押してください。

	1234
名称	DDI
検索文字	D

**9** 登録を確定するときは“確定”キーを押してください。

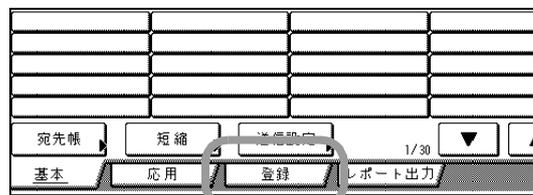
手順3に戻ります。別のチェーンダイヤルの登録を行うときは、3～9を繰り返してください。

**10** 登録を終了し、初期モードに戻るときはリセットキーを押してください。

## 登録内容の変更と削除のしかた

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

**1** “登録”キーを押してください。登録画面に替わります。



**2** “ダイヤル”キーを押してください。



**3** 変更または削除するワンタッチキーを押してください。

※目的のワンタッチキーが表示されないときは、“▲”キー、“▼”キーを押して画面を替えてください。

登録するダイヤルを指定してください。

001	 BCD	006
002		007
003		008
004		009
005		010

**4** 登録内容を変更するときは“内容変更”キーを、削除するときは“削除”キーを押してください。変更するときは手順6、削除するときは次の手順に進んでください。

名称	BCD
	1234
内容変更	削除

## >チェーンダイヤルを削除するとき

- 5** “はい”キーを押してください。  
手順3に戻ります。その他のチェーンダイヤルの削除を行うときは手順3～5を繰り返してください。削除を終了するときにはリセットキーを押してください。

## >登録内容を変更するとき

- 6** 短縮番号 (選択されたワンタッチキーの表示番号)を変更するときには“短縮番号”キーを押してください。その他の項目の変更を行うときは、それぞれのキーを押してください。変更の方法はP3-9、「登録のしかた」を参照してください。

- 7** 登録されていないワンタッチキーの短縮番号 (001～600)を入力してください。  
※3桁の数字が入力されると“+”キーまたは“-”キーで数字を変えることができます。



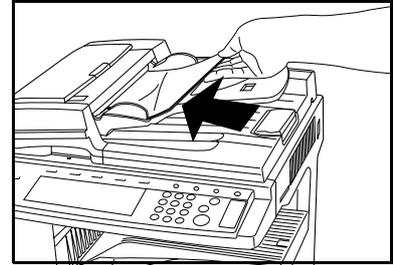
- 8** “閉じる”キーを押してください。

- 9** 全ての項目の変更が終了したら、“確定”キーを押してください。  
手順3に戻ります。その他のワンタッチキーの変更を行うときは手順3～9を繰り返してください。変更を終了し、初期モードに戻るときはリセットキーを押してください。

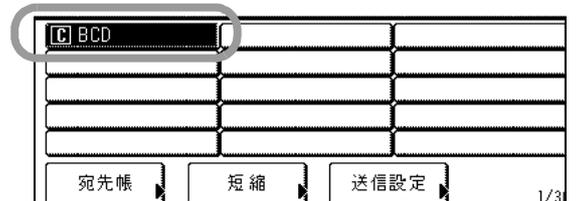
## 使いかた

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

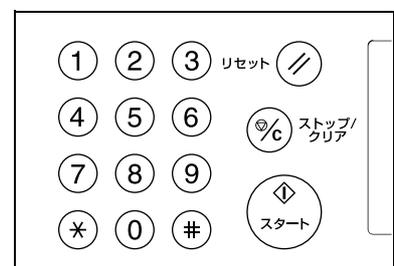
- 1** 原稿をセットしてください。



- 2** チェーンダイヤルが登録されているワンタッチキーを押してください。



- 3** 相手先のファクス番号を入力してください。  
※相手先番号の入力には、テンキーによるダイヤル、短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、または宛先帳を使用することもできます。  
※番号を入力すると、電話番号表示部に選択されたチェーン名称と後から入力した番号や名称だけが表示されます。  
※テンキーで入力している途中でストップ/クリアキーを押すと、番号を最初から入力しなおすことができます。



- 4** スタートキーを押してください。機械は通信のための動作を開始します。

## 予約中の原稿を編集する（メモリ編集）

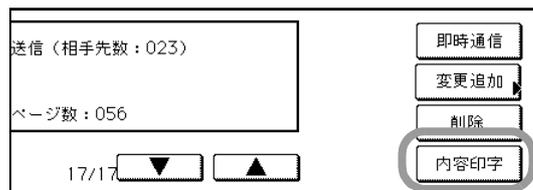
メモリ内で待機中の通信に関して、予約内容の変更や予約された通信の中止を行うことができます。また、その他にも送信待ちの原稿を出力させたり、指定時刻を待たずに通信をすぐに開始させたりすることなどもできます。  
 ※操作の途中で通信が始まると各操作はできなくなります。

### 通信原稿の印字のしかた

メモリ内で待機中の送信原稿を確認したいとき、その原稿を出力させることができます。

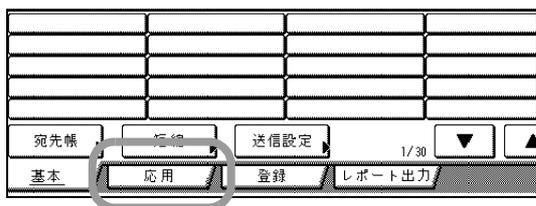
※原稿を出力させても送信は予定どおり行われます。  
 ※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

**4** “内容印字”キーを押してください。



**5** “はい”キーを押してください。原稿が出力されます。

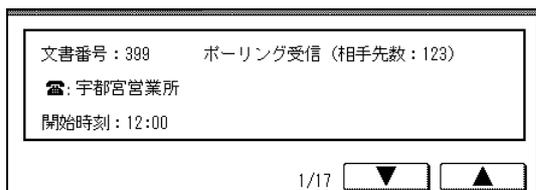
**1** “応用”キーを押してください。応用画面に替わります。



**2** “通信予約状況”キーを押してください。予約されている通信の内容が1通信ずつ表示されます。



**3** 目的の通信を“▲”キーまたは“▼”キーを押して選択してください。



## 通信の即時実行のしかた

メモリ内で待機中の通信を、指定時刻を待たずにすぐに開始させることができます。

※リダイヤル待機中の原稿を即時送信させることもできます。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

**1** P3-12、「通信原稿の印字のしかた」の手順1～3を行ってください。

**2** “即時通信”キーを押してください。

**3** “はい”キーを押してください。すぐに通信のための動作を開始します。

## 通信の削除のしかた

通信予約されたメモリ内の待機通信を削除することができます。

※メモリ内で転送待機中の通信を削除することはできません。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

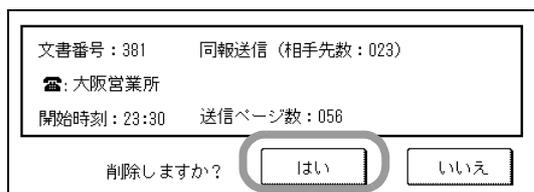
**1** “応用”キーを押してください。応用画面に替わります。

**2** “通信予約状況”キーを押してください。予約されている通信の内容が1通信ずつ表示されます。

**3** 目的の通信を“▲”キーまたは“▼”キーを押して選択してください。

**4** “削除”キーを押してください。

- 5** “はい”キーを押してください。通信を削除し、初期モードに戻ります。他の通信を削除するときは手順1～5を繰り返してください。



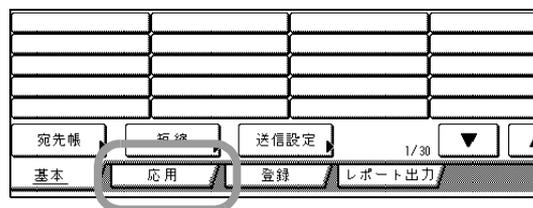
## 通信内容の変更のしかた

メモリ内に保持（記憶）されている通信の内容について、時刻の変更や宛先の変更追加及び削除を行うことができます。変更方法は、送受信の各機能通信を利用する場合などによって異なります。

ここでは、順次同報送信の場合を例にあげて説明を行います。その他の機能通信の予約内容を変更する場合は、下記の操作説明を参考にしながら、メッセージ表示の指示にしたがって行ってください。

- ※ポーリング送信やリダイヤル待機中の通信については、内容の変更を行うことはできません。また、Network FAX 機能（オプション）での送信、順次同報送信、Fコード送信の内容の変更はできません。
- ※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

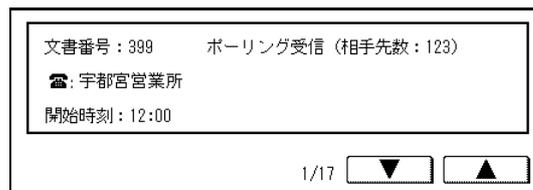
- 1** “応用”キーを押してください。応用画面に替わります。



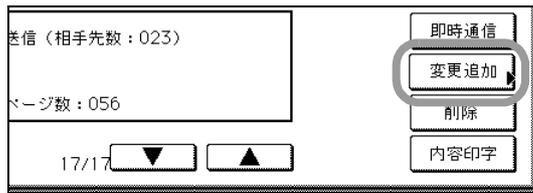
- 2** “通信予約状況”キーを押してください。予約されている通信の内容が1通信ずつ表示されます。



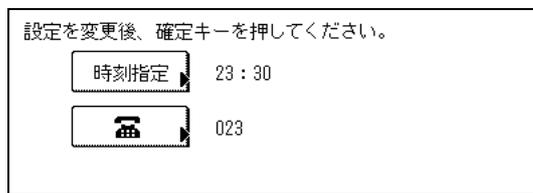
- 3** 目的の通信を“▲”キーまたは“▼”キーを押して選択してください。



**4** “変更追加”キーを押してください。



**5** 指定した時刻の変更を行うときは“時刻指定”キーを相手先の変更を行うときは“☎”キーを押してください。“時刻指定”キーを押したときは次の手順へ“☎”キーを押したときは手順8に進んでください。



#### >指定した時刻を変更するとき

**6** テンキーで開始時刻を入力してください。  
※修正するときは“◀”キーまたは“▶”キーでカーソルを移動させてください。

**7** “閉じる”キーを押してください。手順5に戻ります。相手先の変更を行うときは“☎”キーを押してください。変更しないときは手順16に進んでください。

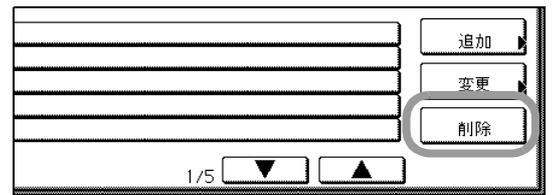
#### >相手先を変更するとき

**8** 現在の設定されている内容が表示されます。

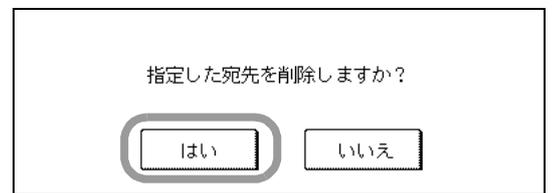
- ・削除する場合はそのワンタッチキー（複数可能）を押して次の手順に進んでください。
- ・追加する場合は“追加”キーを押して手順11に進んでください。
- ・変更する場合はそのワンタッチキーを押して手順13に進んでください。

#### ●削除

**9** “削除”キーを押してください。

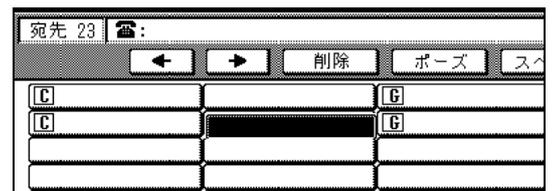


**10** “はい”キーを押してください。手順8に戻ります。その他の変更、削除、追加が可能です。手順8～15を繰り返してください。その他の変更を行わない場合は“閉じる”キーを押して手順16に進んでください。



#### ●追加

**11** 相手先のファクス番号を入力してください。テンキーによるダイヤル、短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、グループダイヤル、チェーンダイヤル、宛先帳が使用できます。



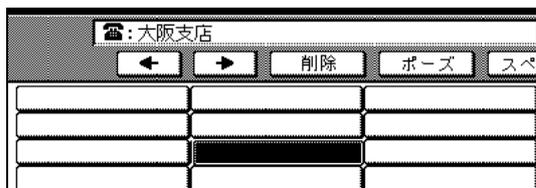
※複数の相手先をテンキー入力する場合は、1つのファクス番号を入力した後に“次宛先”キーを押してください。

**12** “宛先指定終了”キーを押してください。手順8に戻ります。その他の変更、削除、追加が可能です。手順8～15を繰り返してください。その他の変更を行わない場合は“閉じる”キーを押して手順16に進んでください。

#### ●変更

**13** “変更”キーを押してください。

**14** 相手先のファクス番号を変更してください。  
テンキーによるダイヤル、短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、グループダイヤル、チェーンダイヤル、宛先帳が使用できます。



**15** “宛先指定終了”キーを押してください。手順8に戻ります。その他の変更、削除、追加が可能です。手順8～15を繰り返してください。その他の変更を行わない場合は“閉じる”キーを押して手順16に進んでください。

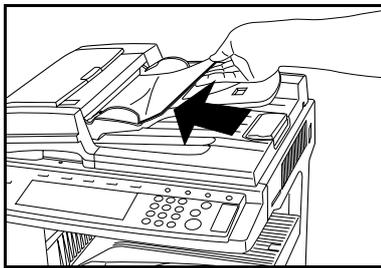
**16** “確定”キーを押してください。初期モードに戻ります。タイマー予約レポートの出力設定が“ON”に設定されている場合は、タイマー予約レポートが出力されます。(P7-1 参照)

## 手動で送信する (手動送信)

相手先との回線がつながったことを確認した後、スタートキーを押して送信する方法です。原稿を送信する前に相手と電話で話したいときや、相手側機がファクスへの切り替えを必要とする場合には、この方法で送信してください。  
 ※相手先と会話をし手動送信を行うためには、本機にオプションのハンドセットあるいは併用電話機 (市販品) を接続する必要があります。

※操作を途中で中止するときは、“オンフック”キーを押すか受話器をおいてください。

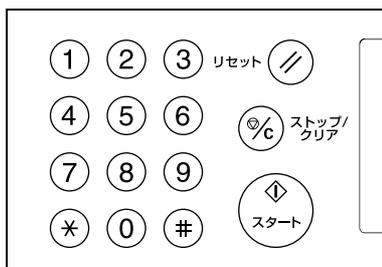
- 1** 原稿送り装置に、原稿をセットしてください。  
 ※コンタクトガラスに原稿をセットして手動送信はできません。



- 2** 電話の受話器 (またはオプションのハンドセット) を上げるかオンフックキーを押してください。  
 ※“オンフック”キーを押したときは、“オンフック”キーが反転表示します。



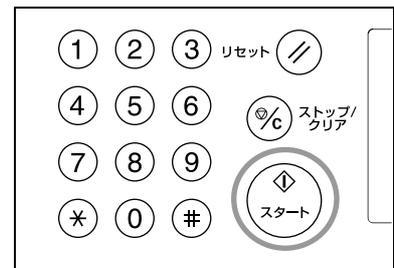
- 3** 相手先の番号を入力してください。



- 4** 相手先のファクスとつながったかどうか確認してください。

> “ピー” という音が聞こえたときは…

相手側はファクスです。  
 スタートキーを押してください。機械は原稿の送信を開始します。



> 相手先の話し声が聞こえたときは…

相手側の電話につながっています。  
 会話が終わったら、スタートキーを押してください。  
 機械は原稿の送信を開始します。  
 ※相手先と会話するためには、オプションのハンドセットあるいは併用電話機 (市販品) を接続する必要があります。

- 5** 画面右下に“動作状況”が表示されるか、送信が始まったら、受話器 (またはオプションのハンドセット) を元に戻してください。



## 手動で受信する（手動受信）

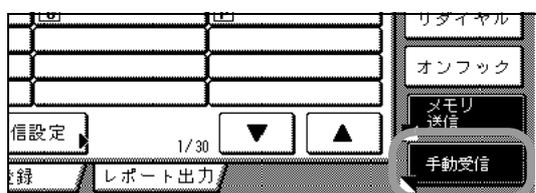
相手先との回線がつながったことを確認した後、スタートキーを押して受信する方法です。原稿を受信する前に相手と電話で話したいときなどは、この方法で受信してください。

※会話を行うためには、本機にオプションのハンドセットあるいは併用電話機（市販品）を接続することが必要です。

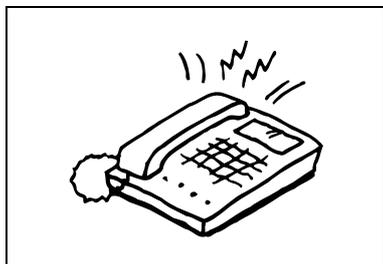
※本機の受信モードは、通常 FAX 専用自動受信モードに設定されています。手動受信を行うためには、受信モードを手動受信モードに変更する必要があります。

### ●準備事項

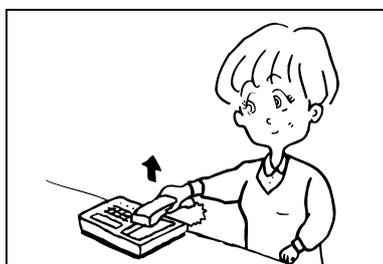
※“手動受信”が表示されているか確認してください。表示されていないときは、受信モード切替キーを押して、“手動受信”キーを押してください。



**1** 着信すると接続された電話機（またはオプションのハンドセット）で呼出音が鳴ります。



**2** 電話の受話器（またはオプションのハンドセット）を上げてください。



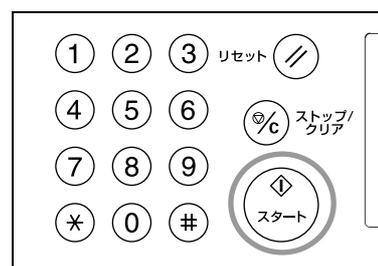
**3** 相手先のファクスとつながったかどうか確認してください。

＞“ポーッポーッ”という音が聞こえたときは…

相手側はファクスです。

スタートキーを押してください。機械は原稿の受信を開始します。

※トーン信号を出せる電話機を使用されているときは、リモート切替機能が使用できます。（P5-6、「接続した電話機から受信を開始させる（リモート切替機能）」参照）



＞相手先の話し声が聞こえたときは…

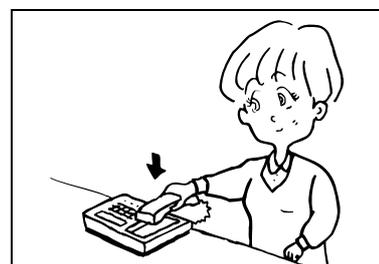
相手側の電話につながっています。

会話が終わったら、スタートキーを押してください。

本機がファクスに切替わったことを相手側に知らせます。

相手側が送信を行うと、本機は受信を開始します。

**4** 画面右下に“動作状況”が表示されるか受信が始まったら、受話器（またはオプションのハンドセット）を元に戻してください。

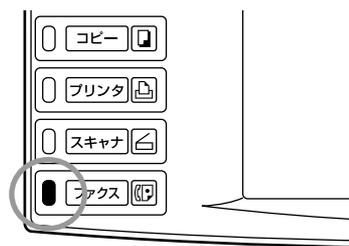


# 4章      こんなときには

## ファクスデータ表示が点灯しているとき

メモリを使った送/受信を行うと一度画像メモリ内に原稿が蓄積（記憶）されるため、ファクスデータ表示が点灯します。また、コピーモードでコピーを行っているときに代行受信が行われたときもファクスデータ表示は点灯します。

※メモリへの蓄積（記憶）中は、ファクスデータ表示は点滅します。



## 電源プラグを抜くときの注意

メモリは原稿データを電氣的に記憶していますので、電源プラグを抜くときはファクスデータ表示が点灯しているかどうかを必ず確認してください。原稿がメモリの中に蓄積（記憶）されているような場合は、それらを全て出力し、ファクスデータ表示が消灯したことを確認してから電源を切るようにしてください。

※画像メモリバックアップ機能が働くため、電源断になっても約 60 分間（オプションメモリ 8MB 増設時）は、メモリ内の原稿データを保持しておくことができます。

## 電源断レポートが出力されるとき

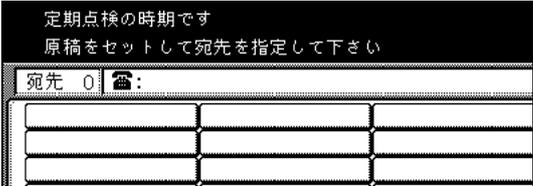
電源が切られることにより原稿や予約されていた通信などの情報が失われた場合は、再度電源が入ると電源断レポートが出力されます。失われた情報などは、このレポートで確認してください。

※失われた情報が何もない場合、電源断レポートは出力されません。

## エラーが発生したとき

異常が発生するとメッセージ表示部にその内容が表示されます。P4-3、「こんな表示が出たときは」を参照して対処してください。通信エラーが発生したときは、それを知らせるメッセージとともに受信／送信結果レポートが出力されアラーム音が鳴ります。受信／送信結果レポートに表記されるエラーコードを確認して P10-13、「エラーコード一覧表」で内容を確認してください。また、通信管理レポートでもエラーコードを確認することができます。(P6-3、「通信管理レポートの出力のしかた」参照)

※受信／送信結果レポート（アラーム音を含む）を出力するかどうかは、P7-1、「各種レポートの出力条件を設定する（レポート出力設定）」の設定によって異なります。



定期点検の時期です  
原稿をセットして宛先を指定して下さい

宛先 0	☎:		

## こんな表示が出たときは

メッセージ表示部に下記のようなメッセージが出たときは、それぞれの処置方法にしたがって適切な操作あるいは作業を行ってください。

表示内容	処置方法	参照ページ
“〇〇カバーを閉じてください。” “カバーを確認してください。”	表示されているカバーが開いています。確実に閉めてください。	—
“用紙を補給してください。 (n 段目)”	<ul style="list-style-type: none"> <li>カセットに用紙が入っていません。コピー編の使用説明書を参照して、表示されている段のカセットに用紙を補給してください。</li> <li>カセットが正しく挿入されていないときにも表示されます。カセットを奥まで確実に押し込んでください。</li> </ul>	—
“用紙を補給してください。 (サイズ表示)”	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファクス給紙設定でサイズ固定モードが選択されています。表示されたサイズの用紙をカセットにセットしてください。</li> <li>受信した原稿のサイズとセットされている用紙のサイズが印字不可能な組み合わせとなっています。受信した原稿と同サイズの用紙をカセットにセットしてください。</li> </ul>	—
“受信原稿があります。”	カセットに用紙が入っていないため、代行受信が行われました。カセットに用紙を補給してください。受信した原稿が出力されます。また、同時に“用紙を補給して下さい (n 段目)”と表示されているときは、n 段目に用紙を補給してください。サイズ表示が出たときは、表示されたサイズの用紙をカセットにセットしてください。	—
“トナーを補給してください。”	トナーコンテナ内のトナーが残り少なくなっています。コピー編の使用説明書を参照して早めにトナーコンテナを交換し、同時に廃棄トナーボックスを交換してください。	—
“紙つまりです。”	機械本体で紙詰まりが発生しています。コピー編の使用説明書を参照して、機内に紙片を残さないように適切に取り除いてください。また、原稿送り装置で原稿が詰まっています。コピー編の使用説明書を参照して詰まった原稿を取り除いてください。処理が終了したら、原稿を全て揃えて再度原稿送り装置にセットしてください。読み込みが終了している原稿枚数をカウントして、詰まった原稿から読み込みを再開します。	—
“メモリーがいっぱいです。”	メモリーがいっぱいになりました。通信の実行を待つか、通信を削除してください。 原稿をメモリへ読み込み中にこのメッセージが表示されたときは、読み込んだ原稿で通信を継続するか選択してください。“はい”キーを押すと通信動作を開始します。“いいえ”キーを押すと操作を中止し初期モードに戻ります。	—
“サービス担当者に電話してください。”	サービス担当者によるメンテナンスが必要です。弊社代理店またはお買い上げ店までご連絡ください。このメッセージと同時に Cxxx の表示が出ているときは、その数字もサービス担当者にお知らせください。	—

#### 4章 こんなときには

表示内容	処置方法	参照ページ
“定期点検の時期です。”	サービス担当者によるメンテナンスが必要です。弊社代理店またはお買い上げ店までご連絡ください。	—
“通信エラーです。”	送信時または受信時に通信上のエラーが発生しました。通信結果レポートが出力されますので、記されているエラーコードを元にエラーの内容を確認してください。	10-13
“ダイヤルできません（電流検出できません）。” “ダイヤルできません（トーン検出できません）。”	モジュラーコードが電話コンセントあるいは本機のLINE接続コネクタから外れている可能性があります。また、電話回線に問題がある可能性があります。電話会社等にご確認ください。	—
“応答がありません。”	ダイヤル後、相手に接続できませんでした。相手先を確認してください。	—
“暗号鍵が登録されていません。”	暗号登録されたワンタッチダイヤルでダイヤルしたが暗号鍵が削除されていたため暗号通信ができません。ワンタッチダイヤルの暗号鍵を確認してください。	5-36 5-43

## 「故障かな？」と思ったら

トラブルが発生した場合は、次のことをお調べいただき、それでもなお異常が見られるときには、弊社代理店またはお買い上げ店までご連絡ください。

トラブル内容	確認事項	処置方法	参照ページ
原稿サイズの誤検知がたびたびおこる	外光が頭上もしくは頭上の後方から入射するような場所に本製品を設置していますか。	本製品を外光が頭上もしくは頭上の後方から入射するような場所に設置した場合、光の関係により原稿サイズを誤って検知する場合があります。弊社代理店またはお買い上げ店にご相談ください。	—
送信できない	モジュラーコードが正しく接続されていますか。	モジュラーコードを正しく接続してください。	—
	“通信エラーです”が表示されていませんか。	エラーの原因を除去した上で、もう一度送信してください。	10-13
	パスワードチェック送信を設定していませんか。	パスワードチェック送信設定を解除してください。	—
	マルチポート（オプション）を増設して1回線しか使用していないとき、使用のポートが受信専用ポートに設定されていませんか。	受信専用ポートを使用のポートから使用しないポートに変更してください。	7-13
順次同報送信ができない。	メモリがいっぱいになっていませんか。	メモリに空きができてから送信を行うか、メモリ内に空きを作ってください。	2-8 5-14 5-42
暗号ボックスの登録時、入力したボックス番号がFコード中継ボックス（またはFコード親展ボックス）のサブアドレスと同じ番号になっていませんか。	入力したボックス番号がFコード中継ボックス（またはFコード親展ボックス）のサブアドレスと同じ番号になっていませんか。	暗号ボックスのボックス番号はFコード中継ボックスとFコード親展ボックスのサブアドレスと別のものを使用してください。	—
暗号ボックスから出力できない。	暗号ボックスのボックス番号、ボックスID番号は正しいですか。	正しいボックスIDがわからない場合は、弊社代理店またはお買い上げ店にご相談ください。	—
暗号通信ができない。	送信側が暗号通信に使用するワンタッチダイヤルは、受信側との取り決めどおり正しく登録されていますか。	送信側、受信側の両方で登録内容をもう一度確認してください。	2-19
	受信側が使用する暗号ボックスは、送信側との取り決めどおり正しく登録されていますか。	送信側、受信側の両方で登録内容をもう一度確認してください。	5-38
	使用する暗号鍵は正しいですか。	送信側、受信側の両方で登録内容をもう一度確認してください。	5-36 5-43
リモート切替機能が使用できない。	ダイヤル（パルス）回線を使用していませんか。	電話機によっては ボタン等でトーン信号を送出できる場合があります。電話機の使用説明書を参照してください。	—
	リモート切替番号は正しいですか。	登録内容を確認してください。（初期設定：55）	5-6

#### 4章 こんなときには

トラブル内容	確認事項	処置方法	参照ページ
受信したが、印字出力されず、メモリにもない。	メモリ転送がセットされていませんか。	転送先を確認してください。	5-24
受信できない。	モジュラーコードが正しく接続されていますか。	モジュラーコードを正しく接続してください。	—
	“通信エラーです”が表示されていませんか。	エラーの原因を除去した上で、もう一度相手先から送信してもらってください。	10-13
	パスワードチェック受信を設定していませんか。	パスワードチェック受信設定を解除してください。	5-35
代行受信できない。	メモリがいっぱいになっていませんか。	メモリに空きができてから受信を行うか、メモリ内に空きを作ってください。	2-8 5-14 5-42
ポーリング受信ができない。	相手側機でポーリング送信操作が正しくおこなわれていますか。	相手側機を確認してください。	—
Fコード中継同報指示送信ができない。	相手側中継機は同様のFコード中継機能を有していますか。	相手側中継機が同様のFコード中継機能を有していない場合、Fコード中継同報指示送信は行えません。相手側機を確認してください。	—
	相手側中継機で原稿受渡しボックス(Fコード中継ボックス)が登録されていますか。	相手側機を確認してください。	—
	入力したサブアドレスやFコードパスワードは中継機で登録されているFコード中継ボックスのサブアドレスやパスワードと一致していますか。	入力内容に誤りがない場合は、相手先に問い合わせてください。	—
	相手側中継機のメモリがいっぱいになっていませんか。	相手側機を確認してください。	—
Fコード親展ボックス(またはFコード中継ボックス)の登録時、入力したサブアドレスがエラーとなり、登録できない。	登録されている暗号ボックスのボックス番号と入力したサブアドレスが同じ番号になっていませんか？	Fコード親展ボックス(またはFコード中継ボックス)のサブアドレスと暗号ボックスのボックス番号は同じ番号で登録できません。登録する番号を変更してください。	—
Fコード親展送信ができない。	相手側機は同様のFコード親展通信機能を有していますか。	相手側機が同様のFコード親展通信機能を有していない場合、Fコード親展通信は行えません。相手側機を確認してください。	—
	相手側機で原稿受渡しボックス(Fコード親展ボックス)が登録されていますか。	相手側機を確認してください。	—
	入力したサブアドレスやFコードパスワードは正しいですか。	入力内容に誤りがない場合は、相手先に問い合わせてください。	—
	相手側機のメモリがいっぱいになっていませんか。	相手側機を確認してください。	—

トラブル内容	確認事項	処置方法	参照ページ
Fコード親展ボックスから出力できない。	入力したFコード親展ボックスのサブアドレスやFコードパスワードは正しいですか。	Fコード親展ボックスの登録内容を確認してください。	5-11
Fコード掲示板受信ができない。	相手側機は同様のFコード掲示板通信機能を有していますか。	相手側機が同様のFコード掲示板通信機能を有していない場合、Fコード掲示板受信は行えません。相手側機を確認してください。	—
	相手側機で原稿受渡しボックス（Fコード親展ボックス）が登録されていますか。	相手側機を確認してください。	—
	入力したサブアドレスやFコード通信パスワードは正しいですか。	入力内容に誤りがない場合は、相手先に問い合わせてください。	—
Fコード親展ボックスへ入力できない。	入力したFコード親展ボックスのサブアドレスは正しいですか。	Fコード親展ボックスの登録内容を確認してください。	5-11



# 5章 ファクスの操作方法 (応用編)

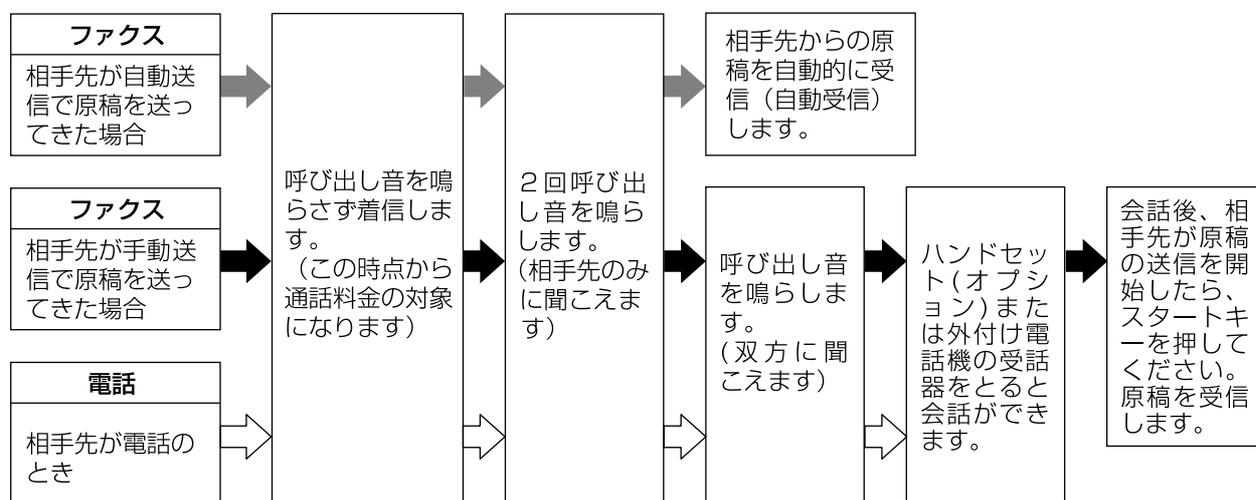
## ファクスと電話を自動で切り替える (FAX/TEL 自動切替受信)

1回線で電話とファクスの両方を使用するときには便利な受信方法です。ファクス原稿が送られてくれば自動的に受信を行い、相手先が電話のときは本機で呼出音が鳴り、応答を促します。

※FAX/TEL 自動切替受信を行うためには、本機にオプションのハンドセットあるいは併用電話機 (市販品) を接続することが必要です。

※電話機で呼出音が設定回数分鳴った後は、受信側が応答しない場合でも発信側に電話料金がかかります。

### [受信の流れ]

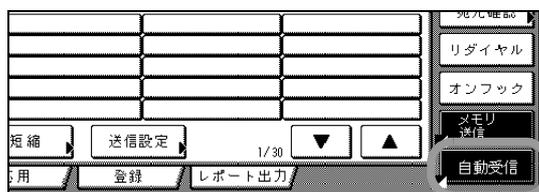


### ●準備事項

※P7-8、「受信方法を設定する (受信モード設定)」を参照して、「FAX/TEL 自動切替」を選択してください。

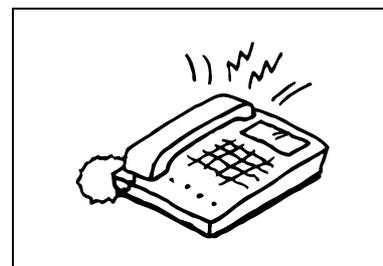
※ダイヤルイン設定 (P5-5 参照) が「ON」に設定されているときは、FAX/TEL 自動切替受信は使用できません。「OFF」に設定してください。

※基本画面で「自動受信」が表示されていることを確認してください。表示されていないときは、受信モード切替キーを押して、「自動受信」を押してください。



**1** まず接続された電話機 (またはオプションのハンドセット) で呼出音が鳴ります。

※呼出音が鳴る回数は変更することができます。(P7-4、「呼び出しベルの回数を設定する (ベル回数設定)」参照)



**2** 応答してください。

### ＞相手先が電話のとき

(1) 本機で呼出音が鳴り、応答を促します。30 秒間以内に電話の受話器を上げてください。

※30 秒間以内に受話器（またはオプションのハンドセット）を上げない場合、ファクスの受信に切り替わります。



(2) 会話をしてください。

※会話終了後に手動で受信することもできます。

（P3-18、「手動で受信する（手動受信）」参照）

### ＞相手先がファクスのとき

ファクスの受信を開始します。

## ファクスと留守番電話を自動で切り替える (FAX/留守番電話自動切替受信)

留守番電話機とファクスを併用するとき便利な方法です。ファクス原稿が送られてくれば自動的に受信を行い、相手先が電話のときは接続された留守番電話機の機能にしたがうため、不在の場合には相手先からのメッセージを留守番電話に残すことができます。

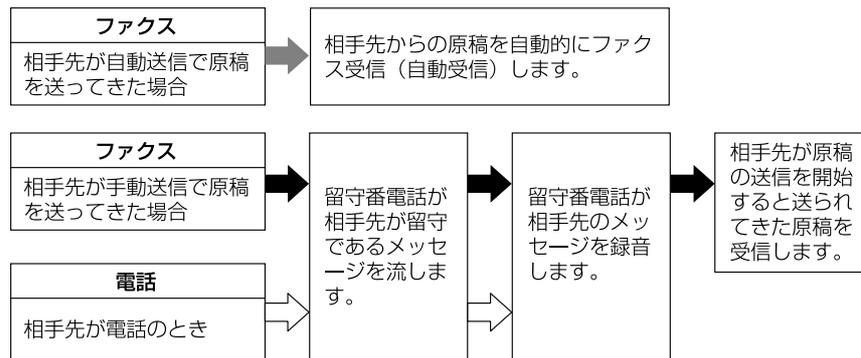
※ FAX/留守番電話自動切替受信を行うためには、本機に留守番機能付電話機 (市販品) を接続する必要があります。

※ 応答メッセージ等は、各留守番電話機の使用説明書を参照してください。

※ 留守番電話機側で設定する呼出音の回数は、本機で設定する呼出音の回数より少なく設定してください。

※ FAX/留守番電話自動切替受信機能の使用時、相手先からの電話がつながってから、1分間経過するまでの間に30秒以上無音状態が続くと、本機の無音検出機能が働き、ファクス受信に切り替わってしまうことがありますのでご注意ください。

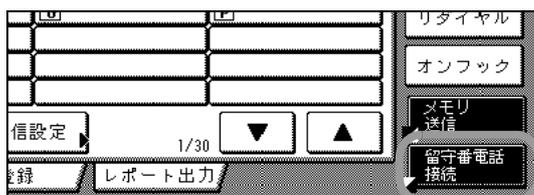
### [受信の流れ]



### ●準備事項

※ダイヤルイン設定 (P5-5 参照) が“ON”に設定されているときは、FAX/留守番電話自動切替受信は使用できません。“OFF”に設定してください。

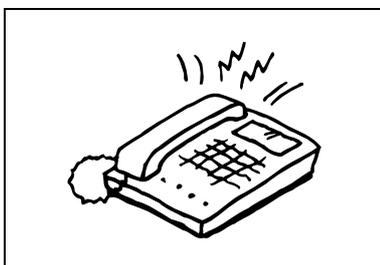
※基本画面で“留守番電話接続”が表示されていることを確認してください。表示されていないときは、受信モード切替キーを押して、“留守番電話接続”を押してください。



**1** 接続された電話機で設定された回数の呼出音が鳴ります。

※呼出音が鳴る回数を変更することができます。(P7-4、「呼び出しベルの回数を設定する (ベル回数設定)」参照)

※電話機で呼出音が鳴っているときに受話器を上げた場合は、手動受信のときと同じ状態になります。(P3-18、「手動で受信する (手動受信)」参照)



**2** 留守番電話機が応答します。

#### >相手先は電話だが不在のとき

留守番電話機から応答メッセージが流れ、用件録音を開始します。

※録音中に無音状態が30秒間続くとファクスの受信に切り替わります。

#### >相手先がファクスのとき

ファクスの受信を開始します。

## ファクス番号と電話番号を使い分ける（ダイヤルイン）

NTT のダイヤルインサービスを利用することにより、1 回線で電話とファクスとの併用を可能にする機能です。ダイヤルインサービスでは、契約時に NTT から電話用とファクス用の 2 つの番号が与えられます。相手先に対して、電話用とファクス用にそれぞれ別の番号を伝えておけば、相手側では、電話をかけるときは電話用の番号を使い、ファクスを送るときはファクス用の番号を使います。

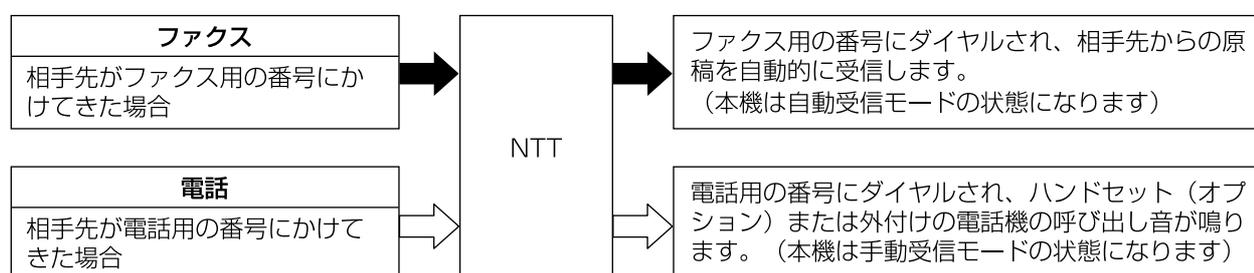
本機側では、それらの番号を事前に電話用とファクス用に登録しておくため、電話かファクスかを区別して受信することができます。

※ダイヤルインサービスのサービス内容や契約方法については、NTT の営業窓口にお問い合わせください。また、サービスをお受けになるときは、ダイヤルイン番号を 4 桁送出でお申し込みください。

※FAX/TEL 自動切替受信や FAX/留守番電話自動切替受信との併用はできません。

※電話を受けるためには、オプションのハンドセットあるいは併用電話機（市販品）を接続する必要があります。

### [受信の流れ]

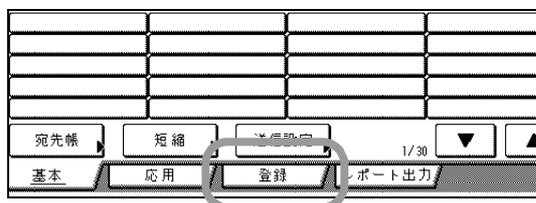


## ダイヤルイン FAX/TEL 番号の登録のしかた

NTT からファクス用として与えられた番号（4 桁）をダイヤルイン FAX 番号として登録してください。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

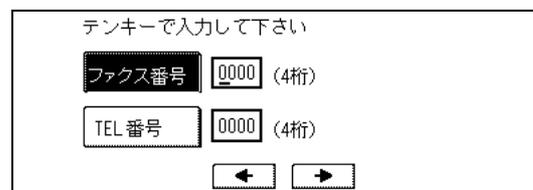
- 1 “登録” キーを押してください。登録画面に替わります。



- 2 “ダイヤルイン” キーを押してください。



- 3 テンキーで FAX 番号（4 桁）を入力してください。



- 4 “TEL 番号” キーを押して、テンキーで電話番号（4 桁）を入力してください。

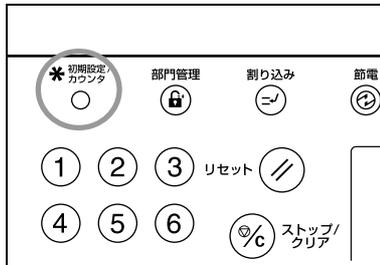
- 5 “確定” キーを押してください。手順 2 に戻ります。設定を終了するときにはリセットキーを押してください。

## ダイヤルイン設定のしかた

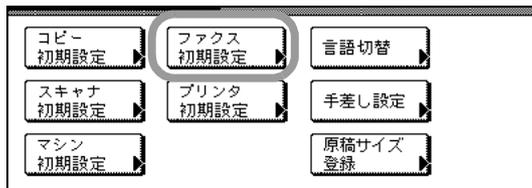
NTT のダイヤルインサービスを利用するときは、この設定を行ってください。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

- 1 初期設定キーを押してください。初期設定画面が表示されます。



- 2 “ファクス初期設定”キーを押してください。



- 3 設定項目で“▼”キーを押して、“ダイヤルイン”を選択してください。

- 4 “設定値変更”キーを押してください。

- 5 ダイヤルインを行うときは“ON”キーを行わないときは“OFF”キーを押してください。



- 6 “閉じる”キーを押してください。設定を終了し、初期モードに戻るときはリセットキーを押してください。

## 接続した電話機から受信を開始させる（リモート切替機能）

接続された電話機からの操作で、ファクスの受信を開始させることができます。本機と電話機（市販品）を離れた場所に設置して併用するときには便利な機能です。

接続された併用電話機からの操作でファクスの受信を開始させるときは、下記の操作を行ってください。

※リモート切替を行うためには、トーン信号を送出できる併用電話機（市販品）を本機に接続することが必要です。

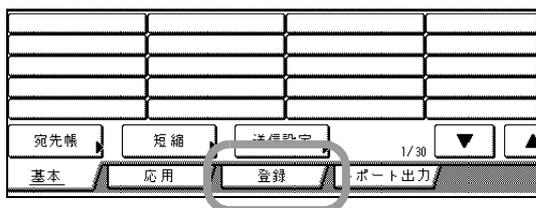
ただし、トーン信号を発信することができる電話機でも、種類によってはこの機能をうまく使用できない場合があります。詳しくは弊社代理店またはお買い上げ店までご連絡ください。

### リモート切替ダイヤルの登録のしかた

リモート切替ダイヤルは、工場出荷時設定で“55”に設定されていますが、変更することもできます。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

- 1 “登録”キーを押してください。登録画面に変わります。



- 2 “リモート切替ダイヤル”キーを押してください。ダイヤル登録に変わります。



- 3 テンキーで、新たに登録する番号を2桁で入力してください。  
※修正するときは“←”キーまたは“→”キーでカーソルを移動させてください。  
※このときストップ/クリアキーを押すと、表示されている番号はクリアされ、“00”となります。



- 4 “確定”キーを押してください。リモート切替ダイヤルの登録が終了します。

- 5 登録を終了するときは、リセットキーを押してください。

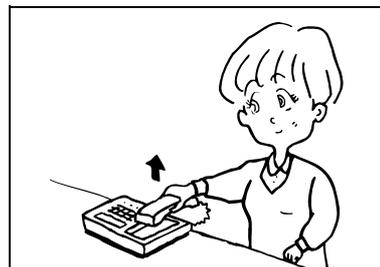
### 使いかた

接続された電話機からの操作でファクスの受信を開始させるときは、下記の操作を行ってください。

- 1 接続された電話機で呼出音が鳴ります。



- 2 電話機の受話器を上げてください。



- 3 受話器からファクスの発信音が聞こえたら、2桁のリモート切替ダイヤルを電話機側のダイヤルボタンで入力してください。  
※工場出荷時設定では、リモート切替ダイヤル（2桁）は“55”に設定されています。

- 4 回線は機械本体側に切り替わり、受信が開始されます。

## 相手の操作で通信を開始する (ポーリング通信)

ポーリング通信とは、送信側の操作で機械に送信を開始させるのではなく、受信側からの操作で送信側に送信を開始させる通信方法です。受信側は自分の都合に合わせて原稿を受け取ることができます。

本機では、ポーリング送信とポーリング受信ができます。

※この通信は、受信側から送信側にダイヤルし操作を行うため、電話料金は通常受信側の負担になります。

### ポーリング送信のしかた

ポーリング送信用として原稿をメモリに読み込ませておき、相手先からのポーリング受信要求があると自動的に送信を行う機能です。

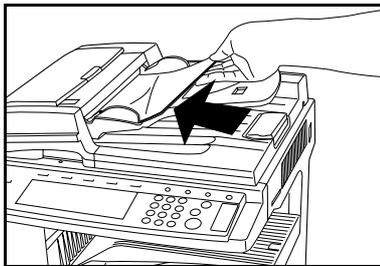
※ポーリング送信は、ダイレクト送信モードが設定されている場合であっても、全てメモリ送信で行われます。

※相手先からポーリング送信要求があるまでは、送信する原稿を後から追加、上書きすることができます。

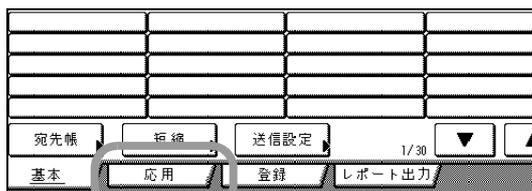
※掲示板機能と合わせて使用すると、不特定多数の相手先に同じ原稿を何度でもポーリング送信することができます。(P7-3、「掲示板機能の設定をする (掲示板設定)」参照)

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

- 1 原稿をセットしてください。  
※コンタクトガラスに原稿をセットしたときは、原稿1枚ごとに原稿読み取り継続の操作を行う必要があります。(P2-5 参照)



- 2 “応用”キーを押してください。応用画面に替わります。



- 3 “ポーリング送信”キーを押してください。ポーリング送信の原稿を初めて記憶させるときは次の手順に進んでください。ポーリング送信の原稿追加、上書きを行うときは、手順6に進んでください。



#### >原稿を初めて記憶させるとき

- 4 相手先を限定する場合は、テンキーを使って4桁のポーリングID (相手機側の自局ID番号)を入力してください。

※相手先を限定しない場合は、入力は不要です。

※“0000”以外のポーリングIDを指定する相手先の限定は、同機能を有する弊社ファクス間でのみ可能です。

テンキーで入力してください。



- 5 “確定”キーを押してください。手順8に進んでください。

#### >原稿を追加、上書きするとき

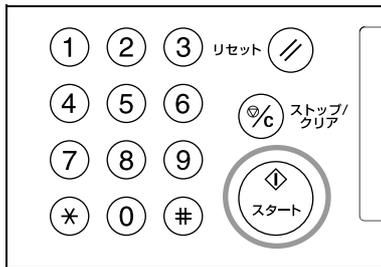
- 6 すでに記憶させている原稿に追加する場合は“追加”キーを、上書きするときは“上書き”キーを押してください。



**7** “確定”キーを押してください。  
上書きを選択したときは、手順4に戻ります。

**8** 必要に応じて送信条件を選択してください。  
※オプションの両面原稿送り装置を設置して  
いて、両面原稿を使用するときは“両面送信”  
キーを押してください。設定のしかたは  
P3-1、「両面原稿を送信する（両面送信）」を  
参照してください。

**9** スタートキーを押してください。原稿はメモリ  
に読み込まれ、送信待機状態になります。



## ポーリング受信のしかた

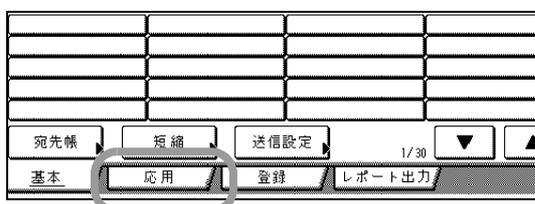
受信側から相手先にダイヤルを行い、送信側にセット  
してある原稿を自動的に送信させる機能です。複数の  
相手先を指定した場合には順次ダイヤルと受信を繰り返  
します。受信側の都合に合わせて送信させる時刻を  
指定することもできます。

※複数の相手先番号のすべてを短縮ダイヤル、ワン  
タッチダイヤル、グループダイヤルのいずれかに  
よって入力する場合は、1回の操作で最大300ヶ所  
の相手先から原稿を受信することができます。ただ  
し、暗号通信用として登録した短縮ダイヤルやワン  
タッチダイヤルは使用できません。

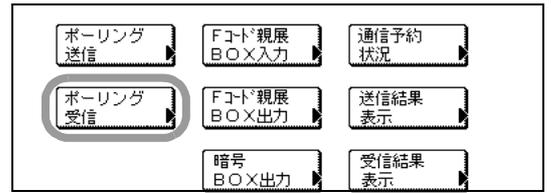
※ポーリング受信を行うためには、相手先があらかじ  
めポーリング送信操作を行っている必要があります。  
(P5-7、「ポーリング送信のしかた」参照)

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押  
してください。初期モードに戻ります。

**1** “応用”キーを押してください。応用画面に替わ  
ります。



**2** “ポーリング受信”キーを押してください。



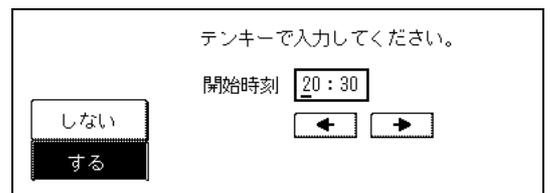
**3** 相手先のファクス番号を入力してください。  
※相手先番号の入力にはテンキーによるダイヤ  
ル、短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、グ  
ループダイヤル、チェーンダイヤル、宛先帳  
を使用することができます。



**4** 開始時刻を指定したい場合は、“時刻指定”キー  
を押してください。指定しない場合は手順8に  
進んでください。

**5** “する”キーを押してください。時刻入力画面が  
表示されます。

**6** 開始時刻をテンキーで入力してください。  
※修正するときは“←”キーまたは“→”キーで  
カーソルを移動させてください。



**7** “閉じる”キーを押してください。

**8** スタートキーを押してください。受信のための  
動作を開始します。  
※開始時刻を指定したときは、指定時刻にな  
ると受信を開始します。

## Fコードを使って通信する (Fコード通信)

Fコード通信とは、他社機でも採用されているFコードと呼ばれる番号や文字列を付加してやりとりを行う通信をいいます。Fコードを使用することにより、本来弊社機間でしか行えなかった親展通信や中継同報送信が他社機との間でも可能になります。

本機のFコード通信では、Fコードボックス (Fコード親展ボックス、Fコード中継ボックス) を使って、相手機と原稿の受け渡しを行います。その際、Fコードボックスやパスワードを指定するためにFコード (本機ではサブアドレスとパスワード) を使います。

本機では、他社機との間で親展通信や中継同報送信を行う機能が用意されています。もちろん同様のFコード通信機能が備わった弊社機間でも可能です。

※Fコード通信を行うためには、相手機にも同様のFコード通信機能が備わっている必要があります。

※Fコードを使った通信は、各種機能通信とも併用することができます。また、サブアドレスやFコードパスワードをワンタッチダイヤルにあらかじめ登録しておく、通信開始時にそれらの入力を省略することができます。詳しくは、各通信方法や登録方法の手順内の記述を参照してください。

### Fコードについて

本機では、サブアドレスとFコードパスワードがFコードにあたります。

#### ●サブアドレス

Fコード親展送信やFコード中継同報送信を行うときに送信側で、Fコード掲示板受信を行うときに受信側で入力します。サブアドレスは、相手機側に設定されたFコード親展ボックスまたはFコード中継ボックスを指定するために使われます。

サブアドレスの有効桁数は相手機によって異なります。有効桁数内で番号が一致しないと、相手機とのFコード通信は成立しません。実際にFコード通信を行うときは、事前に相手側に確認してください。本機では、サブアドレスは0～9までの数字と“#”、“\*”を使って20桁まで入力することができます。

本機間でFコード親展通信やFコード中継同報送信を行うときは、入力したサブアドレスの下4桁と相手機側で設定された4桁のサブアドレスが一致する必要があります。

#### ●Fコードパスワード

Fコード親展送信やFコード中継同報送信を行うときに送信側で入力します。Fコードパスワードは、相手機に設定されたFコード親展ボックスまたはFコード中継ボックスのパスワードを指定するために使われます。Fコードパスワードの有効桁数は相手機によって異なります。有効桁数内でFコードパスワードが一致しないと、相手機とのFコード通信は成立しません。実際にFコード通信を行うときは、事前に相手側に確認してください。本機では、Fコードパスワードは0～9までの数字と“#”、“\*”の文字を使って20桁まで入力することができます。

※本機にFコード親展ボックスが設定されていて受信側になるときは、送信側でFコードパスワードを入力しなくてもFコード通信は成立します。Fコード中継ボックスの場合、送信側でFコードパスワードの入力が必要になります。

※Fコード親展ボックスから原稿を取り出す掲示板受信で、本機が送信側になるとき、Fコード親展ボックスのパスワードを“0000”で登録した場合は、受信側が入力するFコードパスワードを省略することができます。

### F コードボックスについて

Fコードを使った通信では、他社機間でも親展通信や中継同報送信のような通信を行うことができます。それを実現するために、事前にメモリ内に仮想のボックスを作っておき、そのボックスを使って相手先と原稿の受け渡しを行います。この原稿受け渡しのための仮想ボックスを本機のFコード親展通信ではFコード親展ボックス、Fコード中継同報送信ではFコード中継ボックスとよびます。

これらのボックスは、サブアドレスとFコードパスワードを使って登録します。サブアドレスは、ボックス番号を指定するためのもので、本機では、“0000”～“9999”までの4桁の数字を使って登録します。

Fコードパスワードは、ボックスから原稿を引き出す際に必要となります。本機では、0～9までの数字と“#”、“\*”の文字を使って4桁で登録します。

※Fコード親展ボックスは100個とFコード中継ボックスは15個まで登録できます。（P5-11、「Fコード親展ボックスの登録のしかた」、P5-19、「Fコード中継ボックスの登録のしかた」参照）

※登録したFコード親展ボックスとFコード中継ボックスのボックス番号やFコードボックスへの原稿の蓄積情報は、それぞれFコード親展ボックスリストとFコード中継ボックスリストを出力すれば確認することができます。（P5-15、「Fコード親展ボックスリストの出力のしかた」、P5-23、「Fコード中継ボックスリストの出力のしかた」参照）

## 親展で通信する (Fコード親展通信)

親展通信は機密文書など他人には見られたくない原稿を誰にも見られずに受信できる通信方法です。Fコード親展通信では、受信側のFコード親展ボックスを使って機密文書などの受け渡しを行います。

※Fコード親展送信を行うときは、送・受信側でFコード通信機能および親展通信機能を備えていることが必要です。

### Fコード親展ボックスの登録のしかた

新たにFコード親展ボックス登録を行うときは、以下の手順にしたがって操作を行ってください。

※Fコード親展ボックスは最大100個まで登録できます。

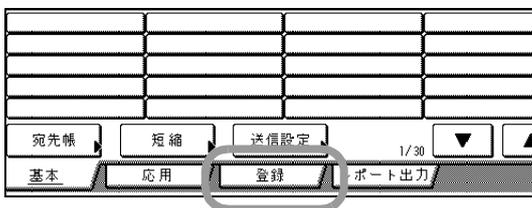
#### <注意>

Fコード親展ボックスを登録する際、すでに暗号ボックスのボックス番号やFコード中継ボックスのサブアドレスに使用されている番号をサブアドレスとしては登録できません。

※Fコードパスワードがわからなくなると、Fコード親展ボックスに入っている原稿を出力したり、Fコード親展ボックス自体を削除することができなくなります。Fコードパスワードの取扱いには充分ご注意ください。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

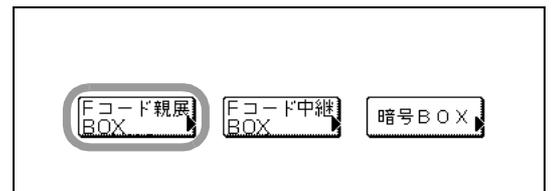
- 1** “登録”キーを押してください。登録画面に替わります。



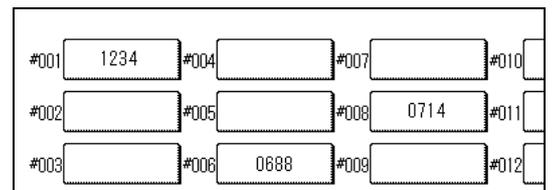
- 2** “BOX”キーを押してください。ボックス登録に替わります。



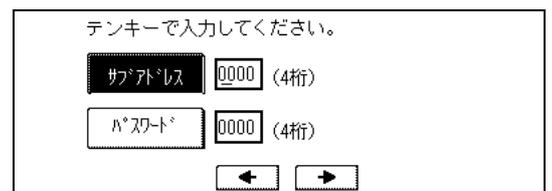
- 3** “Fコード親展BOX”キーを押してください。



- 4** 未登録のキーを押してください。  
※登録されているキーにはサブアドレスの番号が表示されます。



- 5** サブアドレス (4桁) として登録する番号をテンキーで入力してください。



- 6** “パスワード”キーを押して、Fコードパスワード (4桁) として登録する番号をテンキーで入力してください。  
※Fコードパスワードを“0000”で登録したときは、Fコードボックスからの出力時にFコードパスワードのチェックが行われません。

- 7** プリンタ/スキャナキット（オプション）を装着してNW-FAX受信をする場合は、“する”キーを押してください。  
装着していない場合は次の手順に進んでください。



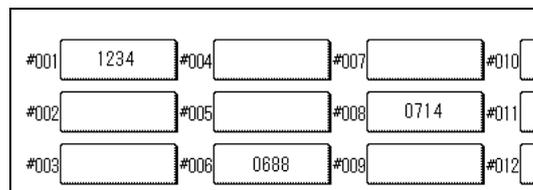
- 8** “確定”キーを押してください。  
手順4に戻ります。その他のFコード親展ボックスを登録するときは手順4～8を繰り返してください。  
終了するときはリセットキーを押してください。

## Fコード親展ボックスの登録内容の変更/削除のしかた

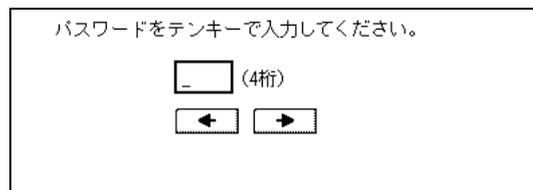
Fコード親展ボックスのFコードパスワードやサブアドレスを変更したり、Fコード親展ボックス自体を削除するときは以下の手順で行ってください。  
※Fコード親展ボックスの変更、削除にはFコードパスワードの入力が必要です。  
※原稿が入っているFコード親展ボックスは削除できません。  
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

- 1** P5-11、「Fコード親展ボックスの登録のしかた」の手順1～3を行ってください。

- 2** 目的のサブアドレスが表示されたキーを押してください。



- 3** 登録されたFコードパスワード(4桁)を入力してください。



- 4** “確定”キーを押してください。

- 5** Fコード親展ボックスを削除するときは、“削除”キーを押して次の手順に進んでください。  
登録内容を変更するときは、“内容変更”キーを押して手順7に進んでください。



### > Fコード親展ボックスを削除するとき

- 6** “はい”キーを押してください。手順2に戻ります。  
終了するときにはリセットキーを押してください。

### > 登録内容を変更するとき

- 7** P5-11、「Fコード親展ボックスの登録のしかた」の手順を参照して内容を変更してください。

- 8** “確定”キーを押してください。手順2に戻ります。  
終了するときにはリセットキーを押してください。

## Fコード親展送信のしかた

相手機に設定されたFコード親展ボックスに原稿を送信する場合、送信側では下記の手順にしたがって操作を行ってください。

※開始時刻を指定した場合、ダイレクト送信はできません。

### <前提条件>

#### ●送信側では…

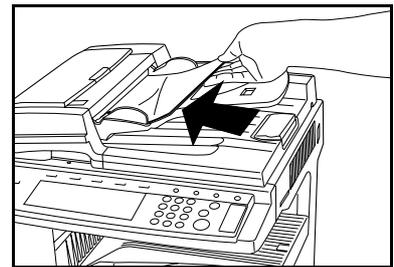
相手先で登録されている原稿受渡しボックス（本機ではFコード親展ボックスと呼ぶ）の番号（本機では4桁のサブアドレス）とFコードパスワードを入力する必要があるため、それらを事前に知っている必要があります。

#### ●受信側では…

Fコード通信機能を伴った同様の親展通信機能を相手機が備えていることが必要です。原稿受渡しボックス（本機ではFコード親展ボックス）を登録し、その番号（本機では4桁のサブアドレス）を送信側に伝えておく必要があります。原稿受渡しボックスに受信した原稿はそのボックス番号とパスワードを入力して出力します。（P5-14、「Fコード親展ボックスからの出力のしかた」参照）

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

- 1** 原稿をセットしてください。



- 2** テンキーを使って、相手先のファクス番号を入力してください。

※相手先番号の入力にはFコード通信用に登録したワンタッチダイヤルを使用することもできます。またその場合には、スタートキーを押してください。送信のための動作を開始します。

**3** “Fコード”キーを押してください。



**4** “する”キーを押してください。

**5** テンキーを使ってサブアドレスを入力してください。

※サブアドレスは、相手先の原稿受渡しボックス（Fコード親展ボックス）を指定するために必要です。0～9の数字と“\*”、“#”の文字を使って最大20桁まで入力できます。

※“←”キーまたは“→”キーでカーソルを移動させることができ、“削除”キーで入力をクリアすることができます。



**6** “パスワード”キーを押してください。

**7** テンキーを使ってFコードパスワードを入力してください。

※0～9の数字と“\*”、“#”の文字を使って最大20桁までで入力してください。

※Fコードパスワードは、相手先との取り決め上、不要な場合は入力する必要はありません。

**8** “閉じる”キーを押してください。手順2に戻ります。その他、送信条件を変更したり、時刻指定などができます。

**9** スタートキーを押してください。送信のための動作を開始します。

## Fコード親展ボックスからの出力のしかた

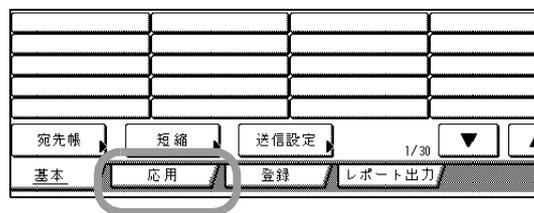
相手先から自機のFコード親展ボックスへ送られた原稿は、下記の出力操作を行って出力してください。出力が正常に行われると、Fコード親展ボックス内の原稿データは消去されます。

また、Fコード掲示板通信で本機が送信側となる場合に、Fコード親展ボックスに入力した原稿を消去するときも、Fコード親展ボックスから原稿を出力すれば、Fコード親展ボックス内の原稿データは消去されます。

※Fコード親展ボックスの登録時にFコードパスワードを“0000”で登録したときは、Fコード親展ボックスからの出力操作時にFコードパスワードの入力が不要です。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

**1** “応用”キーを押してください。応用画面に替わります。



**2** “Fコード親展BOX出力”キーを押してください。



**3** 反転しているキーを押してください。反転していないキーには原稿はありません。

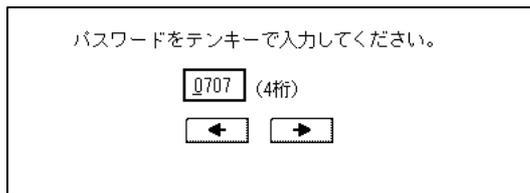
※Fコードパスワードが“0000”の場合には次の手順に進んでください。

“0000”以外の場合は手順5に進んでください。



**4** “はい”キーを押してください。Fコード親展ボックスからの出力が開始されます。

- 5** テンキーでFコードパスワード (4桁) を入力してください。

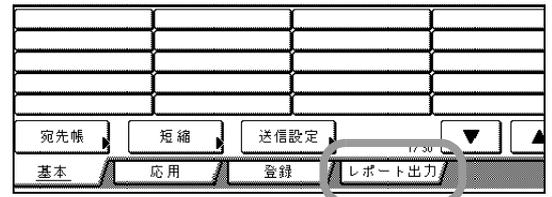


- 6** “確定”キーを押してください。  
Fコード親展ボックスからの出力が開始されます。

## Fコード親展ボックスリストの出力のしかた

Fコード親展ボックスに登録されている内容あるいはその中に保存されている原稿の情報は、Fコード親展ボックスリストを出力することによって確認できます。  
※Fコード親展ボックスが全く登録されていない場合、Fコード親展ボックスリストは出力されません。  
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

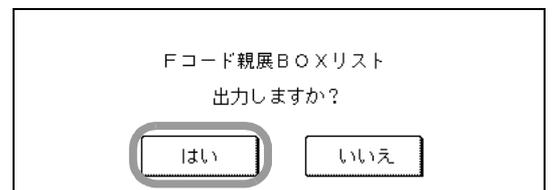
- 1** “レポート出力”キーを押してください。レポート出力選択画面が表示されます。



- 2** “Fコード親展BOXリスト”キーを押してください。



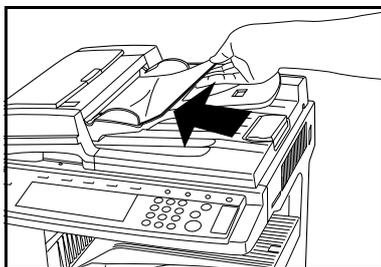
- 3** 出力する場合は“はい”キーを押してください。  
Fコード親展ボックスリストの出力が開始されます。



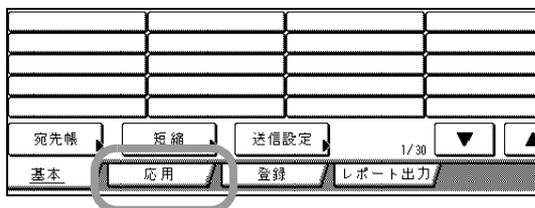
## Fコード親展ボックスへの原稿の入力のしかた

Fコード掲示板通信のためにFコード親展ボックス（原稿受渡しボックス）へ原稿を入力するときは、下記の手順にしたがって操作を行ってください。Fコード親展ボックスへは、すでに原稿がある場合でも後から原稿を追加あるいは上書き入力することもできます。  
 ※Fコード親展ボックスへ入力した原稿データを消去するときは、その原稿をFコード親展ボックスから出力させてください。（P5-14、「Fコード親展ボックスからの出力のしかた」参照）  
 ※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

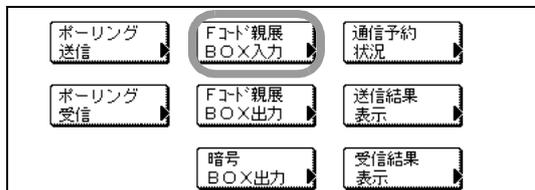
**1** 原稿をセットしてください。



**2** “応用”キーを押してください。応用画面に替わります。



**3** “Fコード親展BOX入力”キーを押してください。



**4** 4桁のサブアドレスが表示されているキーを押してください。反転しているキーには原稿があります。原稿を追加、上書きをするときは次の手順に、新規に原稿を入力するときは手順7に進んでください。

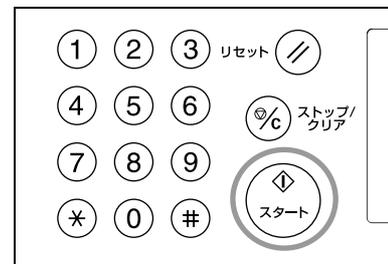


**5** 原稿を追加するときは“追加”キーを、上書きするときは“上書き”キーを押してください。

**6** “確定”キーを押してください。

**7** 送信条件の選択をしてください。  
 ※両面原稿を使用するときは“両面送信”キーを押してください。設定のしかたはP3-1、「両面原稿を送信する（両面送信）」を参照してください。

**8** スタートキーを押してください。原稿の読み込みを開始します。



## Fコード掲示板受信のしかた

Fコード掲示板通信は送信側のFコード親展ボックスを掲示板のごとく使うことにより、不特定多数の相手先との原稿の受け渡しを可能にする通信方法です。送信側では、事前に機械のメモリ内にFコードボックスを登録し、そのFコードボックスに原稿を入力しておきます。Fコードボックス内の原稿は消去するまでFコードボックス内に保持されるため、サブアドレスとFコードパスワードが合致すれば、何度でもFコードボックス内の原稿を送信することができます。受信側は、ポーリング受信操作を行って送信側のFコードボックスから原稿を受信しますが、このときサブアドレスとFコードパスワードを使って送信側のFコードボックスを指定します。他社機でも採用されているFコード（本機ではサブアドレスとFコードパスワード）を使用するため、相手機が他社機であっても、同様のFコード掲示板通信機能を備えていれば通信を行うことができます。

**制限事項：**Fコード通信機能を伴った同様の掲示板通信機能を相手機が備えていることが必要です。機械によっては、原稿受渡しボックスへ原稿を入力できなかったり、ポーリング受信が行えない場合があるので、それぞれの状況に合わせた機能を備えているかを送信側と受信側の両方で事前に確認してください。（例えば、本機が送信側で原稿受渡しボックス（Fコード親展ボックス）に原稿を入力しても、受信側の機械にポーリング受信機能が備わっていない場合は掲示板通信は成立しません。）

### <前提条件>

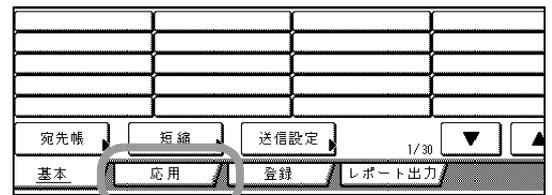
#### ●送信側では…

事前に原稿受渡しボックス（Fコード親展ボックス）を登録し、そのボックスに送信する原稿を入力しておく必要があります。そして、そのボックス番号（本機では4桁のサブアドレス）とパスワード（本機ではFコードパスワード）を受信側に伝えておく必要があります。（P5-16、「Fコード親展ボックスへの原稿の入力のしかた」参照）

#### ●受信側では…

ポーリング受信操作時に相手先で登録されている原稿受渡しボックス（Fコード親展ボックス）のボックス番号（本機では4桁のサブアドレス）とパスワード（本機では4桁のFコードパスワード）を入力する必要があります。したがって、それらの番号は事前に知っている必要があります。

**1** “応用”キーを押してください。応用画面に替わります。

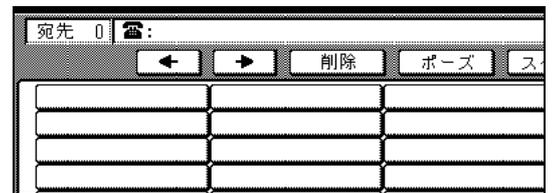


**2** “ポーリング受信”キーを押してください。



**3** テンキーを使って、相手先のファクス番号を入力してください。

※相手先番号の入力にはFコード通信用に登録したワンタッチダイヤルを使用することもできます。またその場合には、スタートキーを押してください。受信の動作を開始します。



**4** “Fコード”キーを押してください。

**5** “する”キーを押してください。

**6** テンキーを使ってサブアドレスを入力してください。

※サブアドレスは、相手先の原稿受渡しボックス（Fコード親展ボックス）を指定するために必要です。0～9の数字と“\*”、“#”の文字を使って最大20桁まで入力できます。  
※“←”キーまたは“→”キーでカーソルを移動させ、“削除”キーで入力をクリアすることができます。



**7** “パスワード”キーを押してください。

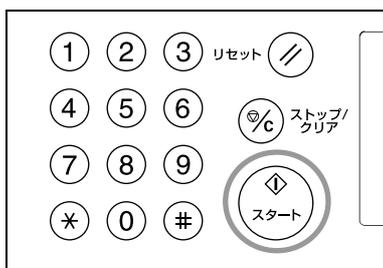
**8** テンキーを使ってFコードパスワードを入力してください。

※0～9の数字と“\*”、“#”の文字を使って最大20桁まで入力できます。

※Fコードパスワードは、相手先との取り決め上、不要な場合は入力する必要はありません。

**9** “閉じる”キーを押してください。手順3に戻ります。その他、送信条件を変更したり、時刻指定などができます。また複数の相手先を続けて入力できます。

**10** スタートキーを押してください。受信のための動作を開始します。



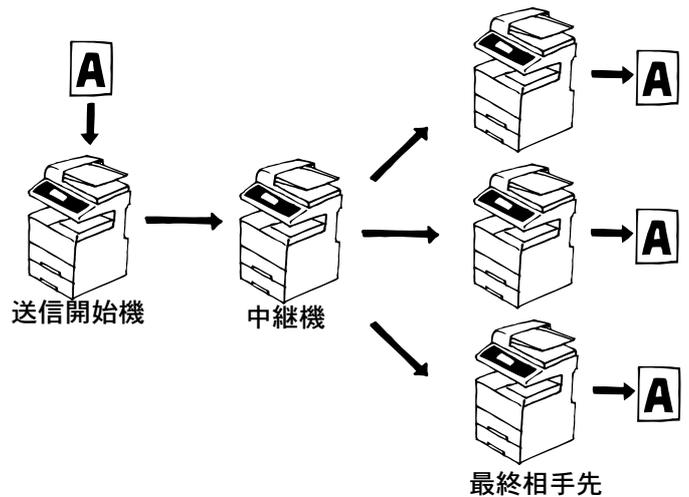
## 中継機で原稿を転送する (Fコード中継同報指示送信)

中継同報指示送信とは、多数の遠方の相手先へ原稿を送る場合に、途中で一度別のファクスに中継させて送信する方法です。

例えば、送信開始機から中継機が市外通話で中継機から複数の最終相手先が市内通話になると、電話料金を節約することができます。

※中継機ではFコード中継ボックスを登録してください。(「Fコード中継ボックスの登録のしかた」参照)登録内容はFコード中継ボックスリストで確認してください。(P5-23、「Fコード中継ボックスリストの出力のしかた」参照)

※送信開始機から中継指示送信を行うときは、P5-22、「Fコード中継同報指示送信のしかた」を参照してください。



### Fコード中継ボックスの登録のしかた

新たにFコード中継ボックスの登録を行うときは、以下の手順にしたがって操作を行ってください。

※Fコード中継ボックスは最大15個まで登録することができます。

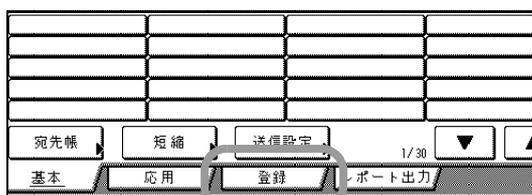
#### <注意>

Fコード中継ボックスを登録する際、すでに暗号ボックスのボックス番号やFコード親展ボックスのサブアドレスに使用されている番号をサブアドレスとしては登録できません。

※ここで登録したFコードパスワードがわからなくなると、Fコード中継ボックスの内容変更および削除ができなくなります。Fコードパスワードの取扱いには充分ご注意ください。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

**1** “登録”キーを押してください。登録画面に替わります。



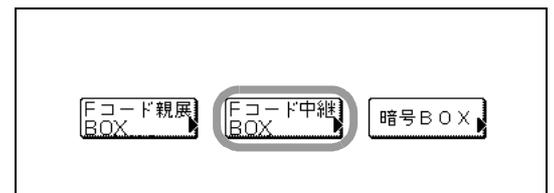
**2**

“BOX”キーを押してください。ボックス登録に替わります。



**3**

“Fコード中継BOX”キーを押してください。



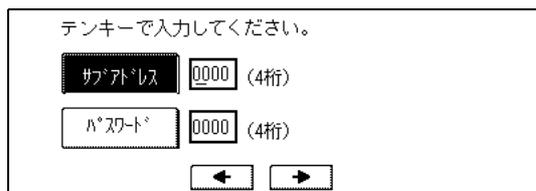
**4**

未登録のキーを押してください。

※登録されているキーにはサブアドレスの番号が表示されます。

#01		#04		#07		#10	85
#02		#05	8888	#08		#11	
#03	0715	#06		#09		#12	23

- 5** サブアドレス（4桁）として登録する番号をテンキーで入力してください。



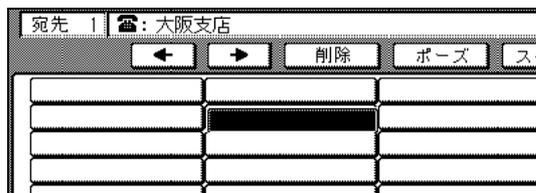
- 6** “パスワード”キーを押して、Fコードパスワード（4桁）として登録する番号をテンキーで入力してください。

※Fコードパスワード0～9の数字と“#”、“\*”が使用できます。

- 7** “次へ”キーを押してください。

- 8** 以下の手順(1)、(2)を繰り返して最終送信先のファクス番号を入力してください。（最大300局）

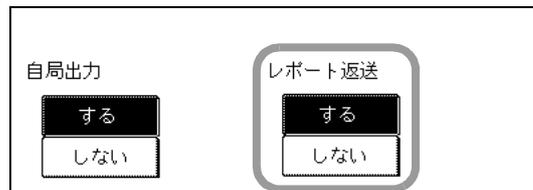
- (1) 相手先のファクス番号を入力してください。  
※相手先の入力には、テンキー、短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、グループダイヤルおよびチェーンダイヤルが使用できます。



- (2) テンキーで入力したときは、“次宛先”キーを押してください。

- 9** “宛先指定終了”キーを押してください。

- 10** 自機で受信原稿を出力するかどうか、中継同報結果レポートを送るかどうか、それぞれ“する”キー、“しない”キーを押して選択してください。



- 11** “次へ”キーを押してください。  
中継同報結果レポートを返送する場合は次の手順に、送らない場合は手順14に進んでください。

- 12** 中継同報結果レポートの送信先ファクス番号を入力してください。  
※相手先の入力には、テンキー、ワンタッチダイヤルが使用できます。

- 13** “宛先指定終了”キーを押してください。

- 14** 登録内容の確認を行ってください。  
各設定を変更することもできます。

- 15** “確定”キーを押してください。手順4に戻ります。その他のFコード中継ボックスの登録を行うときは手順4～15を繰り返してください。終了するときにはリセットキーを押してください。

## Fコード中継ボックスの登録内容の変更 / 削除のしかた

最終相手先の追加や削除の他、登録されている内容を変更するときや、Fコード中継ボックスを削除するときには以下の手順で行ってください。

※Fコード中継ボックスの内容変更および削除にはFコードパスワードの入力が必要です。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

**1** P5-19、「Fコード中継ボックスの登録のしかた」の手順1～3を行ってください。

**2** 目的のサブアドレスが表示されたキーを押してください。

#01		#04		#07		#10	85
#02		#05	8888	#08		#11	
#03	0715	#06		#09		#12	23

**3** 登録されたFコードパスワード(4桁)を入力してください。

パスワードをテンキーで入力してください。

(4桁)

**4** “確定”キーを押してください。

**5** Fコード中継ボックスを削除するときは、“削除”キーを押して次の手順に進んでください。登録内容を変更するときは、“内容変更”キーを押して手順7に進んでください。

サブアドレス 3333  
パスワード 3333

> Fコード中継ボックスを削除するとき

**6** “はい”キーを押してください。手順2に戻ります。終了するときはリセットキーを押してください。

> 登録内容を変更するとき

**7** P5-19、「Fコード中継ボックスの登録のしかた」の手順を参照して内容を変更してください。

**8** “確定”キーを押してください。手順2に戻ります。終了するときはリセットキーを押してください。

## Fコード中継同報指示送信のしかた

ここでは本機が送信開始機になり相手先の中継機のFコード中継ボックスに原稿を送り、中継機から最終相手先へ原稿を送る手順を示します。

### <制限事項>

- Fコード通信機能を伴った同様の中継同報指示通信機能を相手機が備えていることが必要です。機械によっては、送信のみ、受信のみしか行えない場合があるので、それぞれの状況に合わせた機能を備えているかを送信側と受信側の両方で事前に確認してください。
- 本機が送信側になる場合、サブアドレスは20桁まで入力できますが、この有効桁数は相手機によって異なります。事前に相手側に確認し、受信側機の有効桁数内でサブアドレスを入力することが必要です。

### <前提条件>

#### ●送信側では…

受信側で登録されている原稿受渡しボックス（本機ではFコード中継ボックス）の番号（本機では4桁のサブアドレス）とFコードパスワードを入力する必要があるため、それらを事前に知っている必要があります。

※本機が送信側の場合、相手先ファクス番号の入力には、Fコード用に登録されたワンタッチダイヤルを使用するかテンキーから入力しFコード用のサブアドレスを入力する必要があります。

※最終相手先は中継機のFコード中継ボックスの登録内容にしたがいます。

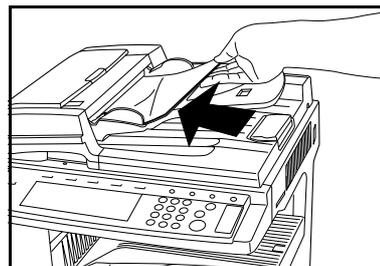
#### ●受信側では…

原稿受渡しボックス（本機ではFコード中継ボックス）を登録し、その番号（本機では4桁のサブアドレス）を送信側に伝えておく必要があります。

（P5-19、「Fコード中継ボックスの登録のしかた」参照）

※本機が受信側（中継機）となる場合は、Fコード中継ボックスの登録の際、最終相手先のファクス番号入力の全てを、ワンタッチダイヤルで行うことによって最終相手先に最大300カ所に一度の操作で送信することができます。

**1** 原稿をセットしてください。

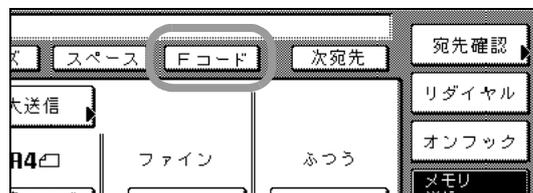


**2** テンキーを使って、相手先のファクス番号（中継機）を入力してください。

※相手先番号の入力にはFコード通信用に登録したワンタッチダイヤルを使用することもできます。またその場合には、スタートキーを押してください。送信のための動作を開始します。



**3** “Fコード”キーを押してください。



**4** “する”キーを押してください。

**5** テンキーを使ってサブアドレスを入力してください。

※サブアドレスは、相手先の原稿受渡しボックス（Fコード中継ボックス）を指定するために必要です。0～9の数字を使って最大20桁まで入力できます。

※“←”キーまたは“→”キーでカーソルを移動させ、“削除”キーで入力をクリアすることができます。



**6** “パスワード”キーを押してください。

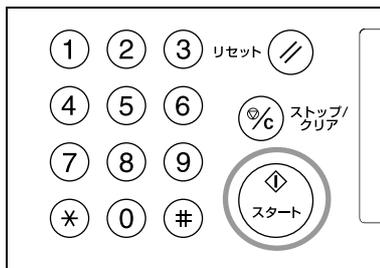
**7** テンキーを使ってFコードパスワードを入力してください。

※0～9の数字と“\*”、“#”の文字を使って最大20桁まで入力できます。

※Fコードパスワードは、相手先との取り決め上、不要な場合は入力する必要はありません。

**8** “閉じる”キーを押してください。  
手順2に戻ります。その他、送信条件を変更したり、時刻指定などができます。

**9** スタートキーを押してください。送信のための動作を開始します。



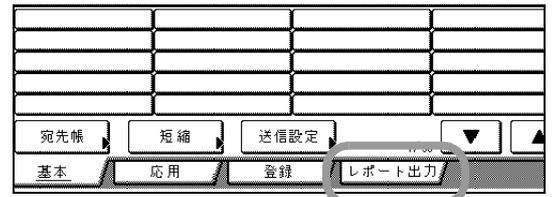
## Fコード中継ボックスリストの出力のしかた

Fコード中継ボックスに登録されている内容の情報は、Fコード中継ボックスリストを出力することによって確認できます。

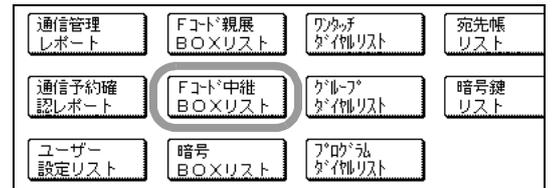
※Fコード中継ボックスが全く登録されていない場合、Fコード中継ボックスリストは出力されません。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。機械は初期モードに戻ります。

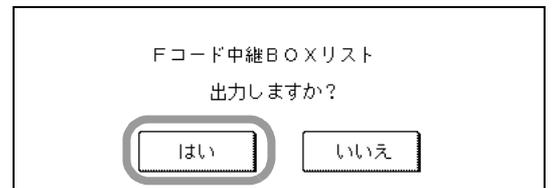
**1** “レポート出力”キーを押してください。レポート出力選択画面が表示されます。



**2** “Fコード中継BOXリスト”キーを押してください。



**3** 出力する場合は“はい”キーを押してください。Fコード中継ボックスリストの出力が開始されます。



## 受信した原稿を他のファクスに転送する（メモリ転送）

事前に登録した開始時刻から終了時刻までの間に受信した原稿をいったんメモリに記憶し、登録した相手先に転送する機能です。まずメモリ転送の登録で転送先、転送する時間帯を登録していただき、メモリ転送設定を“ON”にしてください。

※正常に転送できなかった場合は、本機で出力後、受信原稿はメモリから消去されます。

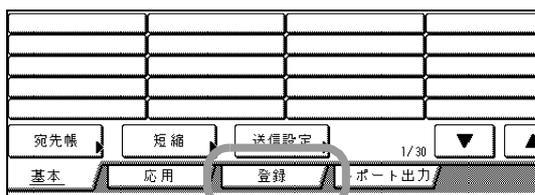
※暗号通信など、通信の種類によってはメモリ転送機能が働かないことがあります。

### 転送先の登録のしかた

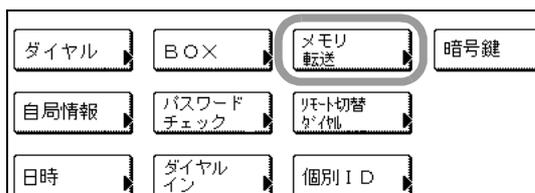
初めて登録を行うときは、下記の手順にしたがって操作を行ってください。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

- 1** “登録”キーを押してください。登録画面に変わります。



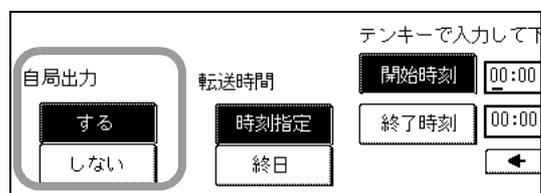
- 2** “メモリ転送”キーを押してください。



- 3** 転送先のファクス番号を入力してください。  
 ※転送先の入力には、テンキー、ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤル、チェーンダイヤルを使用することもできます。  
 ※Fコード通信するときは、テンキーで入力し、“Fコード”キーを押してサブアドレスとFコードパスワードを入力してください。また、Fコード送信のために登録したワンタッチダイヤルを使用することもできます。

- 4** “宛先指定終了”キーを押してください。

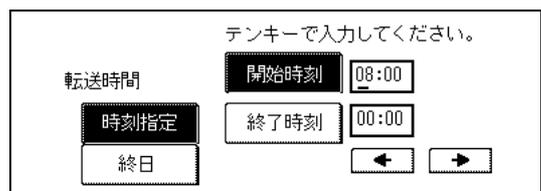
- 5** 受信した原稿をこの機械でも出力するかどうかを選択してください。  
 出力する場合は“する”キーを、出力しない場合には“しない”キーを押してください。



- 6** 転送時間を選択してください。時刻を指定するときは“時刻指定”キーを押して次の手順に進んでください。  
 指定しないときは“終日”キーを押して手順9に進んでください。“終日”を選択すると、時間に関係なく転送します。

#### >時刻指定をするとき

- 7** テンキーで転送開始時刻を入力してください。  
 ※修正するときは“←”キーまたは“→”キーでカーソルを移動させてください。



- 8** “終了時刻”キーを押して、テンキーで転送時刻を入力してください。

**9** “次へ”キーを押してください。登録内容が表示されます。

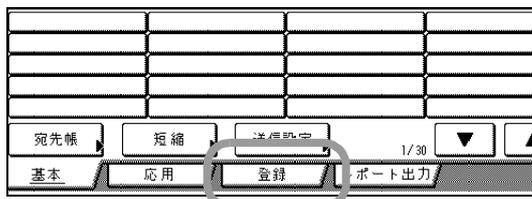
**10** 登録内容を確認して、変更する場合には各キーを押してください。

**11** “確定”キーを押してください。手順2に戻ります。終了するときはリセットキーを押してください。

## 登録内容の変更のしかた

一度登録したメモリ転送の内容を変更するときは、下記の手順にしたがって操作を行ってください。  
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

**1** “登録”キーを押してください。登録画面に替わります。



**2** “メモリ転送”キーを押してください。登録内容が表示されます。



**3** 登録内容を確認して各項目のキーを押して変更してください。変更のしかたは、P5-24、「転送先の登録のしかた」の内容を参照してください。

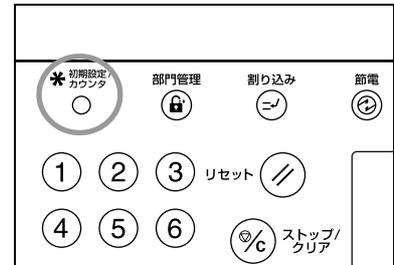
**4** 変更が終了したら、“確定”キーを押してください。手順2に戻ります。終了するときはリセットキーを押してください。

## メモリ転送設定のしかた

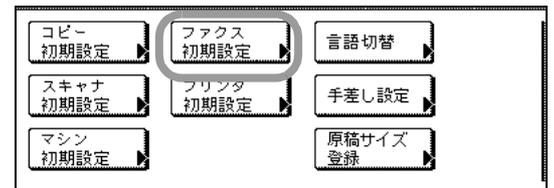
メモリ転送機能を使用するためには、あらかじめこの設定を行う必要があります。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

**1** 初期設定キーを押してください。初期設定画面が表示されます。



**2** “ファクス初期設定”キーを押してください。



**3** 設定項目で“▼”キーを押して、“メモリ転送”を選択してください。

**4** “設定値変更”キーを押してください。

**5** メモリ転送を行う場合には“ON”キーを押してください。



**6** “閉じる”キーを押してください。設定を終了するときは、リセットキーを押してください。

## 複数の相手先をグループで送信する（グループダイヤル）

ワンタッチキーに複数の相手先を登録しておく、それらの相手先に順次ダイヤルを行う機能です。

※グループダイヤルは順次同報送信などの各種機能通信の相手先番号入力にも使用できます。

※グループダイヤルとチェーンダイヤルは併用できません。

### 登録のしかた

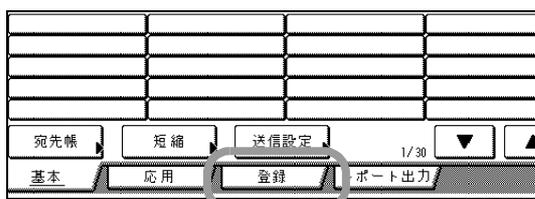
※プログラムダイヤルと合わせて最大 50 個のワンタッチキーにグループダイヤルを登録することができます。

※選んだワンタッチキーの番号（001～600）が自動的に短縮番号になります。

※グループ名称を登録しておく、宛先帳を使って検索するときに役立ちます。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

- 1** “登録”キーを押してください。登録画面に替わります。

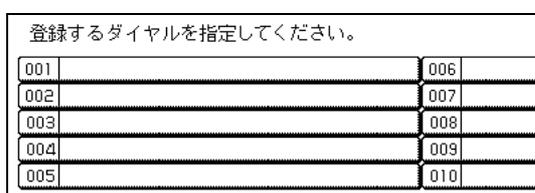


- 2** “ダイヤル”キーを押してください。ダイヤル登録に替わります。

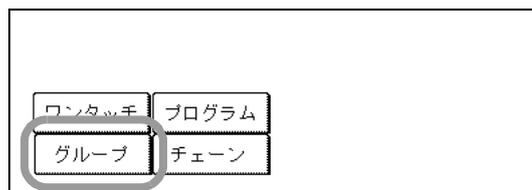


- 3** 画面上で未登録のワンタッチキーを押してください。

※未登録のワンタッチキーが表示されないときは、“▲”キー、“▼”キーを押して画面を替えてください。



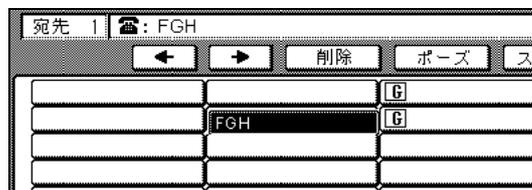
- 4** “グループ”キーを押してください。



- 5** グループにする相手先のファクス番号を入力してください。

※相手先番号の入力にはテンキー、短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、チェーンダイヤル、宛先帳を使用することができます。

※複数の相手先をテンキー入力する場合は、1つのファクス番号を入力した後に“次宛先”キーを押してください。



- 6** “宛先指定終了”キーを押してください。

- 7** グループ名称を入力してください。（最大 20 文字）

※文字の入力のしかたは、P2-10、「文字を入力する」を参照してください。

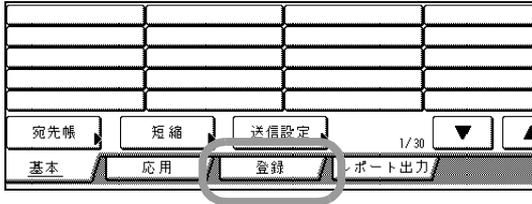
- 8** 登録内容を確認してください。変更するときは、各種の設定キーを押して変更してください。

※“検索文字”は相手先名称の頭文字が表示され、宛先帳で検索する際に使用します。変更する場合はこのキーを押してください。

- 9** “確定”キーを押してください。手順3に戻ります。引き続き他のグループダイヤルを行うときは手順3～9を行ってください。終了するときにはリセットキーを押してください。

## 登録内容の変更と削除のしかた

- 1** “登録”キーを押してください。登録画面に替わります。

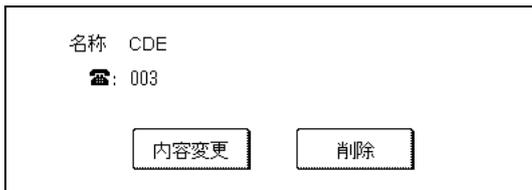


- 2** “ダイヤル”キーを押してください。



- 3** 変更または削除するワンタッチキーを押してください。  
※目的のワンタッチキーが表示されないときは、“▲”キー、“▼”キーを押して画面を替えてください。

- 4** 登録内容を変更するときは“内容変更”キーを、削除するときは“削除”キーを押してください。変更するときは手順6、削除するときは次の手順に進んでください。



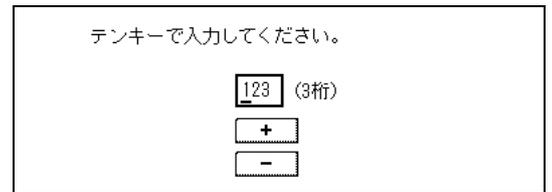
## &gt;グループダイヤルを削除するとき

- 5** “はい”キーを押してください。  
手順3に戻ります。その他のグループダイヤルの削除を行うときは手順3～5を繰り返してください。削除を終了するときはリセットキーを押してください。

## &gt;登録内容を変更するとき

- 6** 短縮番号（選択されたワンタッチキーの表示番号）を変更するときは“短縮番号”キーを押してください。その他の項目の変更を行うときは、それぞれのキーを押してください。変更の方法はP5-26、「登録のしかた」を参照してください。

- 7** 登録されていないワンタッチキーの短縮番号（001～600）を入力してください。  
※3桁の数字が入力されると“+”キーまたは“−”キーで数字を変えることができます。



- 8** “閉じる”キーを押してください。

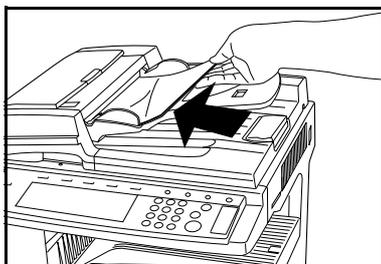
- 9** 全ての項目の変更が終了したら、“確定”キーを押してください。  
手順3に戻ります。その他のグループダイヤルの変更を行うときは手順3～9を繰り返してください。変更を終了するときはリセットキーを押してください。

## 使いかた

※グループダイヤルは、チェーンダイヤルと併用することはできません。

※グループダイヤルは通常送信だけでなく、順次同報送信やポーリング受信などの相手先の入力時にも使用することができます。

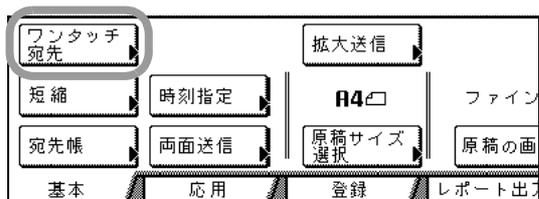
**1** 原稿をセットしてください。



**2** 画質や原稿濃度などの送信条件を変更するときは、“送信設定”キーを押してください。変更しないときは、手順5に進んでください。

**3** 変更する内容のキーを押してください。変更のしかたはP2-3、2-4を参照してください。

**4** 変更が終了すれば、“ワンタッチ宛先”キーを押してください。



**5** グループダイヤルが登録されているワンタッチキーを押してください。



**6** スタートキーを押してください。送信のための動作を開始します。

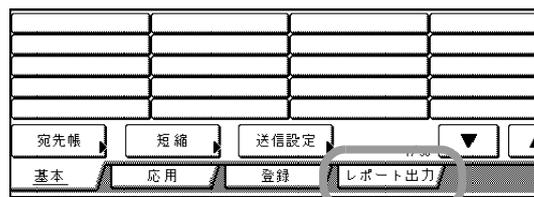
## グループダイヤルリストの出力のしかた

グループダイヤルに登録されている相手先の番号やグループ名は、グループダイヤルリストを出力することによって確認できます。

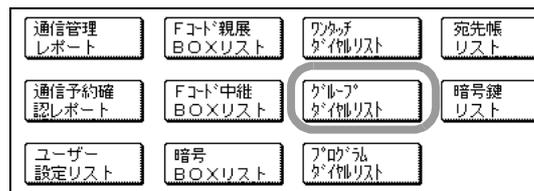
※グループダイヤルが全く登録されていない場合、グループダイヤルリストは出力されません。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

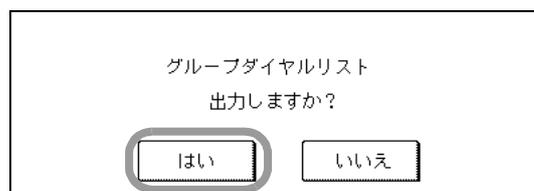
**1** “レポート出力”キーを押してください。レポート出力選択画面が表示されます。



**2** “グループダイヤルリスト”キーを押してください。



**3** 出力する場合は“はい”キーを押してください。グループダイヤルリストの出力が開始されます。



## 送信内容をプログラムにする (プログラムダイヤル)

通常送信 (順次同報も含む)、ポーリング受信の操作手順をワンタッチキーに登録しておく、プログラムとして使うことができます。また、時刻指定などなども合わせて登録することができます。

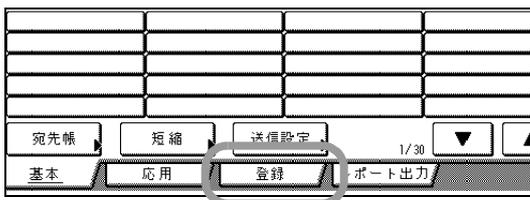
### 登録のしかた

グループダイヤルと合わせて最大 50 個のワンタッチキーにプログラムダイヤルを登録することができます。  
※選んだワンタッチキーの番号 (001 ~ 600) が自動的に短縮番号になります。

※プログラム名称を登録しておく、宛先帳を使って検索するときに役立ちます。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

- 1** “登録”キーを押してください。登録画面に替わります。



- 2** “ダイヤル”キーを押してください。ダイヤル登録に替わります。

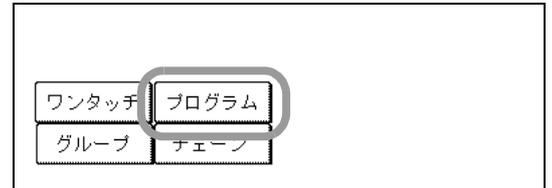


- 3** 画面上で未登録のワンタッチキーを押してください。

※未登録のワンタッチキーが表示されないときは、“▲”キー、“▼”キーを押して画面を替えてください。

登録するダイヤルを指定してください。	
001	006
002	007
003	008
004	009
005	010

- 4** “プログラム”キーを押してください。



- 5** 時刻指定をしない場合は“時刻指定”の下の“しない”キーを押してください。手順7に進んでください。



- 6** 通信の開始時刻をテンキーで入力してください。  
※修正するときは“←”キーまたは“→”キーでカーソルを移動させてください。

- 7** “送信”キーまたは“ポーリング受信”キーを押して通信種別を選択してください。

- 8** “次へ”キーを押してください。

- 9** 相手先のファクス番号を入力してください。  
※テンキー、短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、チェーンダイヤル、グループダイヤル、宛先帳を使用することができます。  
※複数の相手先をテンキー入力する場合は、1つのファクス番号を入力した後に“次宛先”キーを押してください。



**10** “宛先指定終了”キーを押してください。

**11** プログラム名称を入力してください。（最大20文字）

※文字の入力のしかたは、P2-10、「文字を入力する」を参照してください。

**12** 登録内容を確認してください。変更するときは、各種の設定キーを押して変更してください。

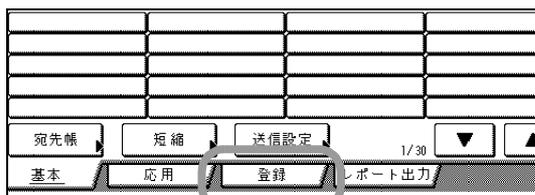
※“検索文字”は相手先名称の頭文字が表示され、宛先帳で検索する際に使用します。変更する場合はこのキーを押してください。

**13** “確定”キーを押してください。手順3に戻ります。引き続き他のプログラムダイヤルを行うときは手順3～13を行ってください。終了するときはリセットキーを押してください。

## 登録内容の変更と削除のしかた

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

**1** “登録”キーを押してください。登録画面に替わります。

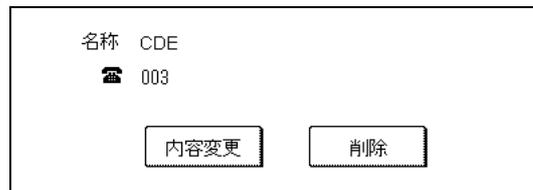


**2** “ダイヤル”キーを押してください。



**3** 変更または削除するワンタッチキーを押してください。  
※目的のワンタッチキーが表示されないときは、“▲”キー、“▼”キーを押して画面を替えてください。

**4** 登録内容を変更するときは“内容変更”キーを、削除するときは“削除”キーを押してください。変更するときは手順6、削除するときは次の手順に進んでください。



### >プログラムダイヤルを削除するとき

**5** “はい”キーを押してください。手順3に戻ります。その他のプログラムダイヤルの削除を行うときは手順3～5を繰り返してください。削除を終了するときはリセットキーを押してください。

### >登録内容を変更するとき

**6** 短縮番号（選択されたワンタッチキーの表示番号）を変更するときは“短縮番号”キーを押してください。その他の項目の変更を行うときは、それぞれのキーを押してください。変更の方法はP5-29、「登録のしかた」を参照してください。

**7** 登録されていないワンタッチキーの短縮番号（001～600）を入力してください。  
※3桁の数字が入力されると“+”キーまたは“-”キーで数字を変えることができます。

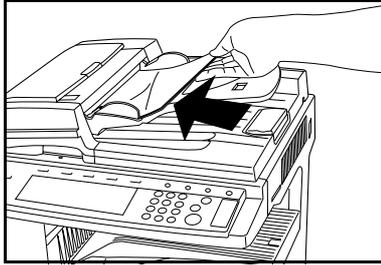


**8** “閉じる”キーを押してください。

**9** 全ての項目の変更が終了したら、“確定”キーを押してください。手順3に戻ります。その他のプログラムダイヤルの変更を行うときは手順3～9を繰り返してください。変更を終了するときはリセットキーを押してください。

## 使いかた

- 1 原稿をセットしてください。ポーリング受信の場合は、手順5に進んでください。



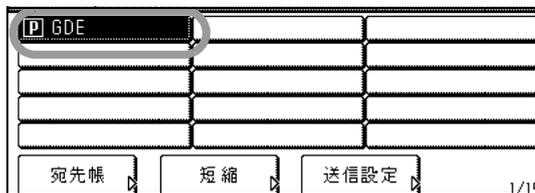
- 2 画質や原稿濃度などの送信条件を変更するときは、“送信設定”キーを押してください。変更しないときは、手順5に進んでください。

- 3 変更する内容のキーを押してください。変更のしかたはP2-3、2-4を参照してください。

- 4 変更が終了すれば、“ワンタッチ宛先”キーを押してください。



- 5 プログラムダイヤルが登録されているワンタッチキーを押してください。



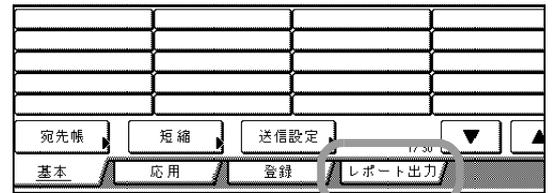
- 6 スタートキーを押してください。送信または受信のための動作を開始します。

## プログラムダイヤルリストの出力のしかた

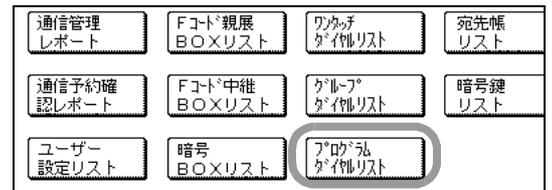
現在登録しているプログラムの内容は、プログラムダイヤルリストを出力することによって確認できます。  
 ※プログラムが全く登録されていない場合、プログラムダイヤルリストは出力されません。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

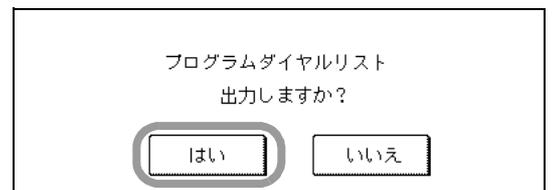
- 1 “レポート出力”キーを押してください。レポート出力選択画面が表示されます。



- 2 “プログラムダイヤルリスト”キーを押してください。



- 3 出力する場合は“はい”キーを押してください。プログラムダイヤルリストの出力が開始されます。



## パスワードが一致したときだけ通信を行う（パスワードチェック通信）

パスワード条件を満足する送信や受信だけを行えるようにする機能です。この機能を使うと、送信または受信できる相手先を限定することができます。

具体的には、事前にパスワード（許可 TEL 番号 / 許可 ID 番号）を登録し、パスワードチェック通信を行う旨の設定を行っておきます。送信操作時や受信時は、この機能についての特別な操作の必要はなく、通常通りの操作を行います。そして、実際に送信や受信が開始されたとき、パスワード条件を満足する送信や受信は正常に行われますが、条件を満足しない送信や受信はエラーとなります。

※パスワードチェック通信は、下記の〈前提条件〉や〈パスワード通信成立条件〉をよくお読みになり、送信や受信を可能にする相手先とも事前によく打ち合わせた上で行うようにしてください。

### 〈前提条件〉

- ※自機にパスワード（許可 TEL 番号または許可 ID 番号）を登録しておく必要があります。
- ※相手側機に自局 TEL 番号または自局 ID 番号が登録されている必要があります。
- ※あらかじめパスワード通信設定を行う必要があります。（P5-35、「パスワードチェック通信設定のしかた」参照）

### 〈パスワード通信成立条件〉

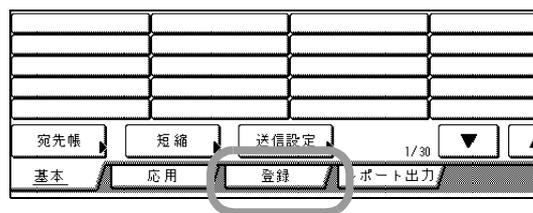
- ・自機に登録されている許可 TEL 番号と相手先の自局 TEL 番号とが一致するとき。
- ・自機に登録されている許可 ID 番号と相手先の自局 ID 番号とが一致するとき。
- ・自機（送信側）に登録されたワンタッチダイヤルを使って相手先（受信側）に送信した場合に、その登録されている番号の下4桁と受信側のファクス番号の下4桁が一致するとき。（手動送信時を除く）
- ・受信が行われる場合に、自機（受信側）のワンタッチダイヤルに登録されている相手先番号の下4桁が、送信側のファクス番号の下4桁と一致するとき。

## 許可 TEL 番号の登録のしかた

※最大5個の許可 TEL 番号を登録することができます。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

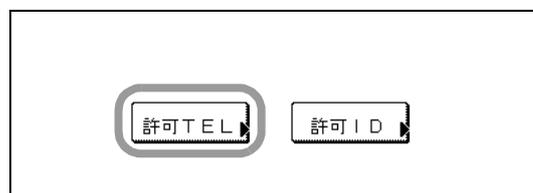
- 1 “登録”キーを押してください。登録画面に替わります。



- 2 “パスワードチェック”キーを押してください。



- 3 “許可 TEL”キーを押してください。



- 4 未登録のキーを押してください。登録されているキーには登録内容を表示しています。

#01	12345678901234567890	#04	0667643392
#02		#05	
#03			

- 5** テンキーを使って許可 TEL 番号を入力してください。(最大 20 桁)  
 ※“←”キーまたは“→”キーでカーソルを移動させることができ、“削除”キーで入力をクリアすることができます。

テンキーで入力してください。

(最大20桁) ☎: 5678\_

← → 削除

- 6** “確定”キーを押してください。手順4に戻ります。別の許可 TEL 番号の登録を行うときは、手順4～6を繰り返してください。終了するときにはリセットキーを押してください。

## 許可 TEL 番号の変更 / 削除のしかた

※ 操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

- 1** P5-32、「許可 TEL 番号の登録のしかた」の手順1～3の操作を行ってください。

- 2** 変更または削除する許可 TEL 番号が表示されたキーを押してください。

#01	12345678901234567890	#04	0667643392
#02		#05	
#03			

- 3** 許可 TEL 番号を削除するときは“削除”キーを、変更するときは“内容変更”キーを押してください。削除するときは次の手順に、変更するときは手順5に進んでください。

12345678901234567890

内容変更 削除

### >削除するとき

- 4** “はい”キーを押してください。手順2に戻ります。終了するときにはリセットキーを押してください。

### >変更するとき

- 5** ストップ / クリアキーで登録内容を消去してから入力しなおすか、“←”キーまたは“→”キーでカーソルを移動させて入力しなおしてください。“削除”キーを押すとカーソル上の文字を消去します。

テンキーで入力してください。

(最大20桁) ☎: 09876543210987654321

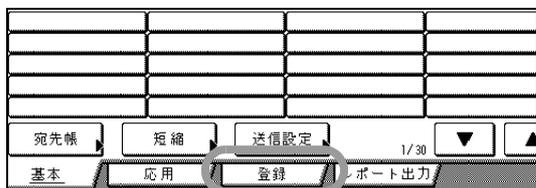
← → 削除

- 6** “確定”キーを押してください。手順2に戻ります。終了するときにはリセットキーを押してください。

## 許可 ID 番号の登録のしかた

※最大5個の許可 ID 番号を登録することができます。  
 ※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

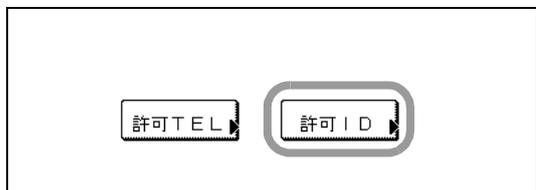
- 1** “登録”キーを押してください。登録画面に替わります。



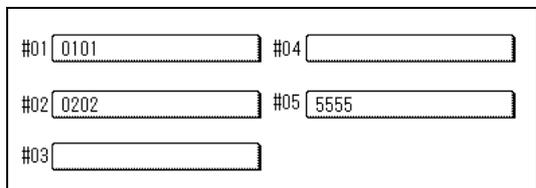
- 2** “パスワードチェック”キーを押してください。



- 3** “許可ID”キーを押してください。



- 4** 未登録のキーを押してください。登録されているキーには登録内容を表示しています。



- 5** テンキーを使って許可 ID 番号（4桁）を入力してください。  
 ※修正するときは“←”キーまたは“→”キーでカーソルを移動させてください。



- 6** “確定”キーを押してください。手順4に戻ります。別の許可 ID 番号の登録を行うときは、手順4～6を繰り返してください。終了するときにはリセットキーを押してください。

## 許可 ID 番号の変更 / 削除のしかた

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

**1** 「許可 ID 番号の登録のしかた」の手順1～3の操作を行ってください。

**2** 変更または削除する許可 ID 番号が表示されたキーを押してください。

#01	0101	#04	
#02	0202	#05	5555
#03			

**3** 許可 ID 番号を削除するときは“削除”キーを、変更するときは“内容変更”キーを押してください。削除するときは次の手順に、変更するときは手順5に進んでください。

5555	
内容変更	削除

### >削除するとき

**4** “はい”キーを押してください。手順2に戻ります。終了するときはリセットキーを押してください。

### >変更するとき

**5** ストップ/クリアキーで登録内容を消去してから入力しな おすか、“←”キーまたは“→”キーでカーソルを移動させて入力しなおしてください。

テンキーで入力してください。	
0635	(4桁)
←	→

**6** “確定”キーを押してください。手順2に戻ります。終了するときはリセットキーを押してください。

## パスワードチェック通信設定のしかた

パスワードチェック通信設定をしておくで、送信する相手先や受信できる相手先を限定することができます。これらは送信、受信別々に設定ができます。

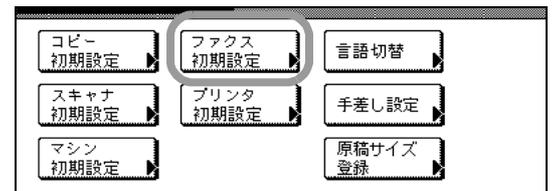
※許可 TEL 番号と許可 ID 番号が全く登録されていない場合、この設定を行ってもパスワードチェック通信は行われません。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。コピーの基本画面に戻ります。

**1** 初期設定キーを押してください。初期設定画面が表示されます。



**2** “ファクス初期設定”キーを押してください。



**3** 設定項目で“▼”キーを押して、“パスワードチェック”を選択してください。

**4** “設定値変更”キーを押してください。

**5** パスワードチェック送信を行う場合には送信の“ON”キーを押してください。



**6** パスワードチェック受信を行う場合には受信の“ON”キーを押してください。

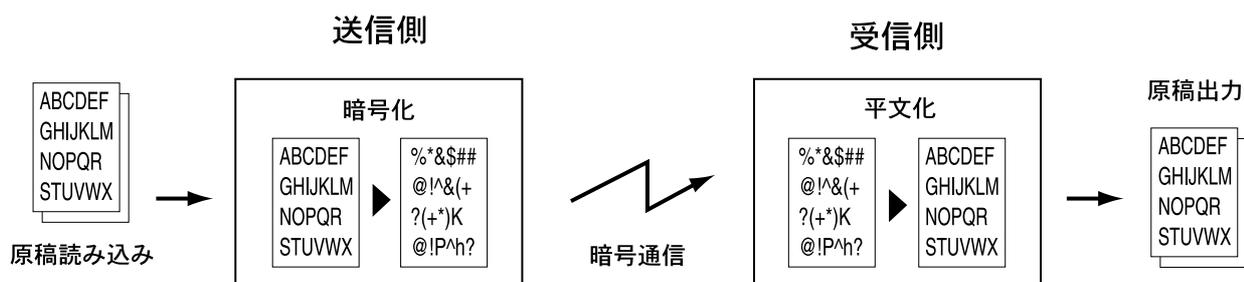
**7** “閉じる”キーを押してください。設定を終了するときはリセットキーを押してください。

## 原稿を暗号化して通信する（暗号通信）

送信機側で原稿を暗号化して通信を行う方法です。したがって、通信途中にある送信原稿を第3者が何らかの方法により盗み見ようとした場合でも、本当の原稿の内容を知ることはできません。送られた原稿は受信側で元の原稿に戻して（平文化されて）印字出力されます。第3者には絶対に知られてはならないような極秘の機密文書などを送る際に非常に有効な通信方法です。

※暗号通信を行うためには、相手側ファクスも同方式の暗号通信機能をもった弊社機であることが必要です。

※暗号通信では、原稿の暗号化、平文化を行うために、送信側と受信側で同じ16桁の暗号鍵を使用しますが、その暗号鍵が送信側と受信側で合致しない場合、暗号通信は成立しません。したがって、送信側と受信側であらかじめ取り決めを行い、両者で同じ暗号鍵を2桁の鍵番号と一緒に登録しておく必要があります。



### 送信・受信側での設定内容

設定内容	送信側	受信側	設定の参照ページ
暗号鍵番号	(A) 2桁	(B) 2桁	5-36
暗号鍵	(C) 16桁	(C) 16桁	5-36
ワンタッチダイヤルの鍵番号	(A) 2桁		2-19
送信先暗号ボックス	(D) 4桁		2-19
暗号ボックス番号		(D) 4桁	5-38
暗号ボックスでの鍵番号		(B) 2桁	5-38

※アルファベットが同じものは同じ数字を設定してください。  
例えば、暗号鍵番号は送信、受信側で同じ番号です。

## 暗号鍵の登録のしかた

暗号鍵は、送信側では暗号通信用として使用するワンタッチダイヤルの登録時に、受信側では暗号ボックスを登録する際に必要になります。

暗号鍵の作成には、0～9までの数字とアルファベットのA～Fの文字を使用し、それらを任意に16個ならべたものが暗号鍵となります。作成した暗号鍵には、01～20の2桁の鍵番号をつけて登録します。

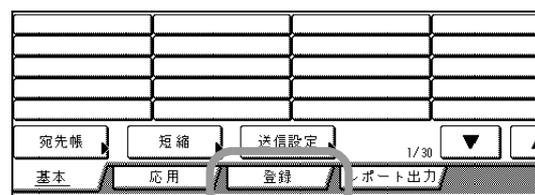
※暗号鍵は最大20個まで登録することができます。

※部門管理設定が“OFF”になっている場合は管理者番号の入力が必要です。（コピー編の使用説明書を参照してください。）

※すでに登録されている暗号鍵の変更を行う場合も同様の操作を行ってください。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

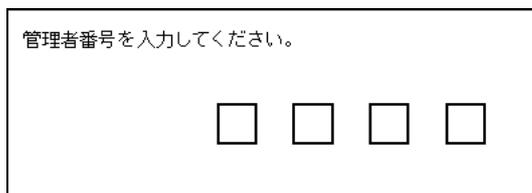
**1** “登録”キーを押してください。登録画面に替わります。



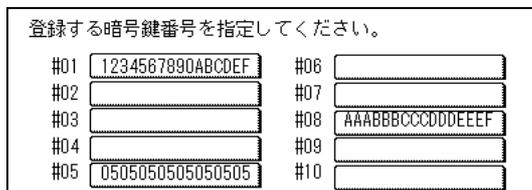
- 2** “暗号鍵”キーを押してください。  
 ※部門管理設定が“OFF”になっている場合は次の手順に、“ON”になっている場合は手順4に進んでください。



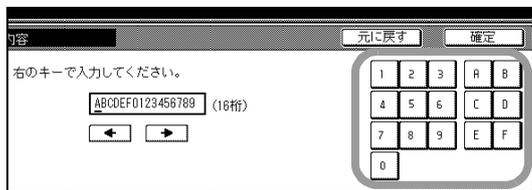
- 3** テンキーを使って、管理者番号（4桁）を入力してください。  
 管理者番号が一致すると画面が替わります。



- 4** 未登録のキーを押してください。登録されているキーには登録内容を表示しています。



- 5** タッチパネル上の数字（0～9）とアルファベット（A～F）を使って暗号鍵（16桁）を入力してください。  
 ※修正するときは“←”キーまたは“→”キーでカーソルを移動させてください。



### ＜暗号鍵と鍵番号について＞

作成した暗号鍵は、鍵番号（01～20の2桁の数字）のもとに登録します。暗号通信時に使用する暗号鍵の指定は、この鍵番号を使って行われます。

※暗号通信により原稿を受信するためには、送信側で指定した暗号鍵と受信側の暗号ボックスに設定される暗号鍵は合致していなければなりません。鍵番号は合致している必要はありません。

例えば、送信側で“鍵番号18”、“暗号鍵ABFE468C2569D341”が登録され、それが暗号通信において指定されている場合に、受信側が同じ内容の暗号鍵を鍵番号“鍵番号09”で登録している場合でも、暗号ボックスに“鍵番号09”を設定しておけば、暗号鍵自体は合致するため暗号通信が成立し、原稿を正しく出力することができます。

- 6** “確定”キーを押してください。手順4に戻ります。他の暗号鍵を登録するときは手順4～6を繰り返してください。終了するときにはリセットキーを押してください。

## 暗号鍵の登録内容変更 / 削除のしかた

※ 操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

**1** P5-36、「暗号鍵の登録のしかた」の手順 1～3 を行ってください。

**2** 変更、削除する暗号鍵が表示されたキーを押してください。

登録する暗号鍵番号を指定してください。

#01	1234567890ABCDEF	#06	
#02		#07	
#03		#08	AAABBBCCDDDEEFF
#04		#09	
#05	0505050505050505	#10	

**3** 暗号鍵を削除するときは“削除”キーを、変更するときは“内容変更”キーを押してください。削除するときは次の手順に、変更するときは手順 5 に進んでください。

AAABBBCCDDDEEFF

内容変更      削除

### >削除するとき

**4** “はい”キーを押してください。手順 2 に戻ります。終了するときはリセットキーを押してください。

### >変更するとき

**5** ストップ/クリアキーで登録内容を消去してから入力しなおすか、“←”キーまたは“→”キーでカーソルを移動させて入力しなおしてください。

内容

右のキーで入力してください。

XXXXXXXXXXXXXXXX (16桁)

←      →

1	2	3	R	B
4	5	6	C	D
7	8	9	E	F
0				

元に戻す      確定

**6** “確定”キーを押してください。手順 2 に戻ります。終了するときはリセットキーを押してください。

## 暗号ボックスの登録のしかた

暗号通信の受信側では暗号ボックスの登録が必要です。また、受信した際にすぐに自動出力を行うか別操作で出力を行うかも選択してください。

※ 暗号ボックスは最大 15 個まで登録できます。

※ ボックス ID 番号は暗号ボックスの内容を変更するときや削除を行うときに必要になりますので取り扱いに注意してください。

※ 操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

### <注意>

- ・暗号ボックスを登録する際、すでに F コード親展ボックスや F コード中継ボックスのサブアドレスに使用されている番号をボックス番号としては登録できません。
- ・即時出力で“する”を選択すると、受信後すぐに暗号ボックスから自動的に原稿を出力させる方法です。即時出力で“しない”を選択すると、いったん暗号ボックスに蓄積（記憶）させておき、出力させたいときに、出力操作を行って原稿を出力させる方法です。原稿を出力できるのは、暗号ボックス番号と暗号ボックス ID 番号を知っている人に限られるため、受信後も高い機密性を保持することができます。

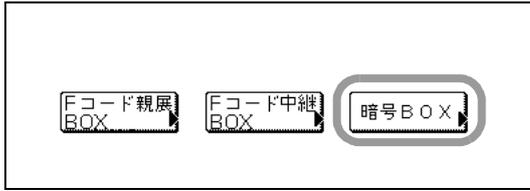
**1** “登録”キーを押してください。登録画面に替わります。

宛先帳	短縮	送信設定	1/30	▼
基本	応用	登録	ポート出力	

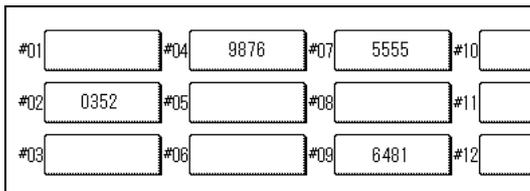
**2** “BOX”キーを押してください。

ダイヤル	BOX	メモリ転送	暗号鍵
自局情報	パスワードチェック	リモート切替	ダイヤル
日時	ダイヤルイン	個別 ID	

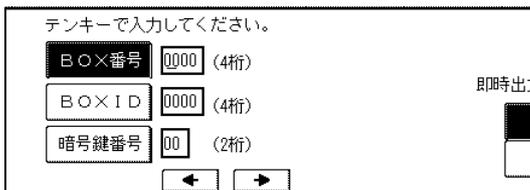
**3** “暗号BOX”キーを押してください。



**4** 未登録のキーを押してください。登録されているキーにはボックス番号を表示しています。



**5** テンキーで暗号ボックスのボックス番号 (4桁) を入力してください。



**6** “BOX ID”キーを押して、テンキーで暗号ボックスのボックス ID 番号 (4桁) を入力してください。

※ボックス ID 番号を“0000”で登録したときは、その暗号ボックスに対するチェックが行われません。

**7** “暗証鍵番号”キーを押して、テンキーで暗号鍵番号 (2桁) を入力してください。

**8** 即時出力をするかどうか選択してください。受信後すぐに出力するときは“する”キーを、別操作で出力するときは“しない”キーを押してください。



**9** プリンタ/スキャナキット (オプション) を装着してNW-FAX 受信をする場合は、“する”キーを押してください。装着していない場合は次の手順に進んでください。

**10** “確定”キーを押してください。手順4に戻ります。他の暗号ボックスを登録するときは手順4～10を繰り返してください。終了するときはリセットキーを押してください。

## 暗号ボックスの登録内容の変更 / 削除のしかた

※ 操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

**1** P5-38、「暗号ボックスの登録のしかた」の手順1～3を行ってください。

**2** 変更または削除するボックス番号が表示されたキーを押してください。

#01		#04	9876	#07	5555	#10	
#02	0352	#05		#08		#11	
#03		#06		#09	6481	#12	

**3** テンキーで暗号ボックスのボックス ID 番号（4桁）を入力してください。

BOXIDをテンキーで入力してください。

(4桁)

**4** “確定”キーを押してください。

**5** 暗号ボックスを削除するときは“削除”キーを、変更するときは“内容変更”キーを押してください。削除するときは次の手順に、変更するときは手順7に進んでください。

BOX番号: 6481  
BOXID: 6482

### >変更するとき

**7** 現在の登録内容が表示されます。変更するときはP5-38、「暗号ボックスの登録のしかた」を参照して変更してください。

**8** “確定”キーを押してください。手順2に戻ります。終了するときはリセットキーを押してください。

### >削除するとき

**6** “はい”キーを押してください。手順2に戻ります。終了するときはリセットキーを押してください。

## 送信側の操作のしかた

暗号送信を行う場合は、暗号通信用として登録したワンタッチダイヤルを使用して送信を行います。

※暗号送信は、単一宛先への送信のほか、順次同報送信でも行うことができます。

※暗号通信時は、Fコード通信を行うことができません。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

**1** 受信側と取り決めた暗号鍵の登録を行ってください。

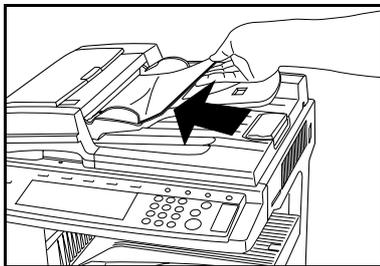
(P5-36、「暗号鍵の登録のしかた」参照)

※すでに登録されている場合は、次の手順2に進んでください。

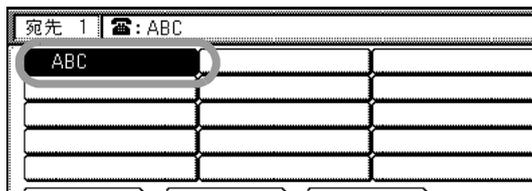
**2** 暗号通信用として使用するワンタッチダイヤルの登録を行ってください。(P2-19、「ワンタッチキーで送信する(ワンタッチダイヤル)」参照)

※すでに登録されている場合は、次の手順3に進んでください。

**3** 原稿をセットしてください。



**4** 手順2で登録したワンタッチダイヤルを使って、相手先のファクス番号を入力してください。



**5** スタートキーを押してください。送信のための動作を開始します。

※ワンタッチダイヤルで指定されている暗号鍵が自機に登録されていない場合はエラーとなり、送信は行われません。

## 受信側の操作のしかた

暗号通信を行う場合、受信側では以下の手順にしたがって操作を行ってください。

※暗号通信時は、Fコード通信を行うことができません。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

**1** 送信側と取り決めた暗号鍵の登録を行ってください。

(P5-36、「暗号鍵の登録のしかた」参照)

※すでに登録されている場合は、次の手順2に進んでください。

**2** 暗号ボックスの登録を行ってください。

(P5-38、「暗号ボックスの登録のしかた」参照)

※すでに登録されている場合は、次の手順3に進んでください。

**3** 相手機側から暗号送信が行われます。暗号通信が正常に行われた場合、暗号原稿は受信の際に暗号化される前の状態に戻され(平文化)、受信機側に設定された暗号ボックスに入ります。※暗号ボックス登録時に即時出力が“しない”で設定されている場合は、次の手順4に進んでください。

※暗号ボックス登録時に即時出力が“する”で設定されている場合は、受信後、自動的に原稿が出力されます。

**4** P5-42、「暗号ボックスからの出力のしかた」を参照して、受信した原稿を暗号ボックスから出力してください。

## 暗号ボックスからの出力のしかた

相手先から自機の暗号ボックスへ送られた原稿は、下記の操作を行って出力してください。出力が正常に行われると、暗号ボックス内の原稿データは消去されます。

※暗号ボックスの登録時にボックス ID 番号を“0000”で登録したときは、暗号ボックスからの出力操作時にボックス ID 番号の入力が不要です。入力したボックス番号が正しければ、出力が行われます。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

### >ボックス ID が“0000”以外するとき

- 4** テンキーでボックス ID 番号（4桁）を入力してください。

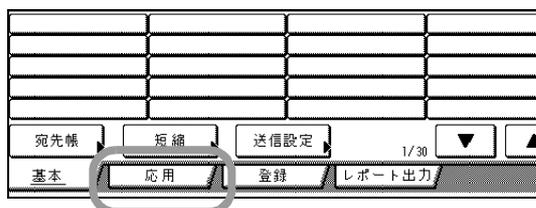


- 5** “確定”キーを押してください。暗号ボックスにある原稿が出力されます。

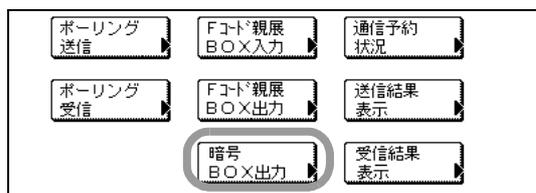
### >ボックス ID が“0000”のとき

- 6** “はい”キーを押してください。暗号ボックスにある原稿が出力されます。

- 1** “応用”キーを押してください。応用画面に替わります。

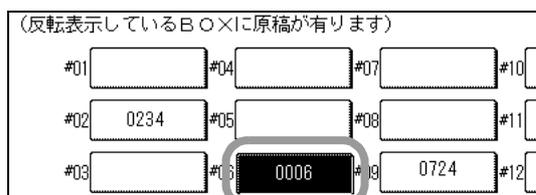


- 2** “暗号BOX出力”キーを押してください。



- 3** ボックス番号が反転しているキーを押してください。反転しているボックス番号の暗号ボックスには原稿があります。

※ボックス ID 番号を“0000”で登録されている場合には手順 6 へ、“0000”以外の番号で登録されている場合には次の手順に進んでください。



## 暗号鍵リストの出力のしかた

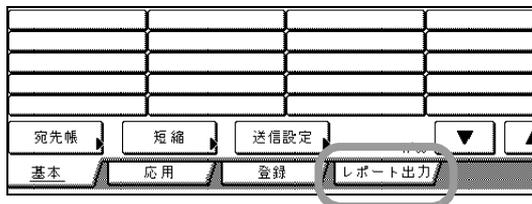
暗号通信時に使用される暗号鍵の登録内容は、暗号鍵リストを出力すれば確認できます。

※このリストの出力には、管理者番号を入力する必要があります。入力されたパスワードがあらかじめ登録されているパスワードと一致しなければ、暗号鍵リストを出力することはできません。

※暗号鍵が何も登録されていない場合、暗号鍵リストは出力されません。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

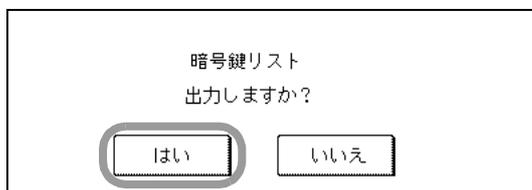
- 1 “レポート出力”キーを押してください。レポート出力選択画面が表示されます。



- 2 “暗号鍵リスト”キーを押してください。



- 3 出力する場合は“はい”キーを押してください。暗号鍵リストの出力が開始されます。  
※部門別管理設定が“OFF”の場合、ここで管理者番号の入力が必要です。



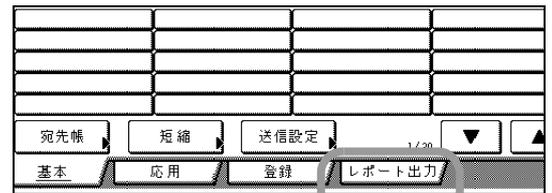
## 暗号ボックスリストの出力のしかた

暗号ボックスに登録されている内容あるいはその中に保存されている原稿の情報は、暗号ボックスリストを出力することによって確認できます。

※暗号ボックスが全く登録されていない場合、暗号ボックスリストは出力されません。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

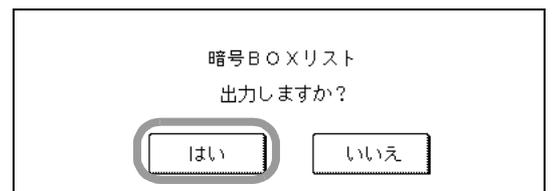
- 1 “レポート出力”キーを押してください。レポート出力選択画面が表示されます。



- 2 “暗号BOXリスト”キーを押してください。



- 3 出力する場合は“はい”キーを押してください。暗号ボックスリストの出力が開始されます。



## 部門ごとに使用を管理する（部門管理機能）

部門コードを入力してから送信や通信予約を行うことによって、最大 100 部門（ハードディスク使用時は 1000 部門）までのファクスの使用状況を各部門ごとに把握することができます。

### 部門管理の内容

項目	内容	参照
部門コードの登録	部門管理を行うときは部門コードを登録する必要があります。	コピー編使用説明書
ファクス部門管理設定	部門管理を行うときは“設定する”に設定してください。	コピー編使用説明書
ファクス送信制限	部門コードごとに送信できる原稿枚数を設定します。	コピー編使用説明書
送信カウンタの参照	部門別あるいは全部門の送信枚数の合計を表示し、参照できます。	5-47
送信カウンタのクリア	送信原稿のカウンタをクリアできます。このときコピーの使用枚数もクリアされます。	コピー編使用説明書
部門管理レポートの出力	部門管理の対象となる通信について、その送信の履歴を出力できます。	5-48

### <部門管理の対象となる通信形態>

- ・通常送信
- ・時刻指定送信
- ・順次同報送信
- ・Fコード中継同報指示送信
- ・ポーリング受信
- ・Fコード親展送信
- ・Fコード掲示板受信
- ・暗号送信
- ・本機より相手先へダイヤルした場合の手動送信 / 手動受信

### <使用機能の制限>

部門管理機能では、一般の利用者が部門コードを、管理責任者が管理者番号を使用することによって、一般の利用者が使える機能に制限を与えることができます。

> 部門コードを入力した場合に使用できる機能としては、次のものがあります。

- ・通常送信
- ・時刻指定通信
- ・順次同報送信
- ・Fコード中継同報指示送信
- ・ポーリング受信
- ・Fコード親展送信
- ・Fコード掲示板受信
- ・Fコード親展 BOX への入力
- ・Fコード親展 BOX からの出力
- ・暗号送信
- ・暗号 BOX からの出力
- ・メモリ編集機能
- ・通信予約確認レポートの出力
- ・部門管理レポートの出力
- ・本機より相手先へダイヤルした場合の手動送信 / 手動受信



### 補足

※「電話をかける」、「通信結果表示」、「通信管理レポート出力」は、部門コードの入力なしでも行うことができます。

※部門管理モード設定時、一括送信機能は部門コードが同一のものについてのみ働きます。部門コードが異なる通信は一括送信されません。(P1-14、「複数の原稿を一括で送信する（一括送信機能）」参照)

※部門管理レポートの出力設定が“ON”に設定されている場合、50 通信ごとに部門管理レポートが自動的に出力されます。ただし、部門の登録数によっては 50 通信たまる前にレポートが出力される場合があります。(P7-1、「各種レポートの出力条件を設定する（レポート出力設定）」参照)

※通常、発信元記録には自局名称が印字されますが、部門管理モード設定時に部門コードを入力して送信を行った場合は、部門名称が印字されます。

※マルチポート（オプション）装着時に使用するポートは部門コード登録時に設定されているものです。

## 部門管理起動中にファクスを使用するとき

部門管理が働いているときに、ファクスを使用するときは部門コードの入力が必要になります。通常のファクス送信など(“登録”キー、“応用”キー、“レポート出力”キーを押して行う操作を除く)を行うときは以下の手順で行ってください。

※ 部門管理が働いているときに部門コードを入力しても“登録”キーを押して行う登録作業は行えません。

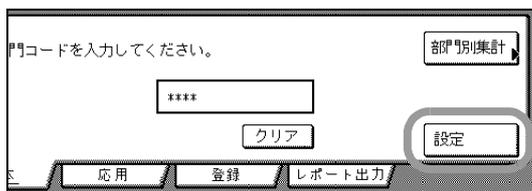
※ 部門管理が働いているときに登録操作、応用操作、レポート出力操作を行うときは、下記を参照してください。

- ・ 部門管理起動中の登録操作…このページを参照
- ・ 部門管理起動中の応用操作…P5-46 参照
- ・ 部門管理起動中のレポート出力操作…P5-46 参照

- 1 テンキーで部門コード (1～8桁) を入力してください。



- 2 “設定”キーを押してください。基本画面に替わります。

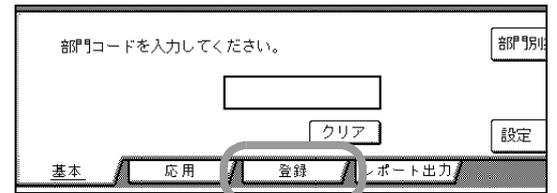


## 部門管理起動中の登録操作のしかた

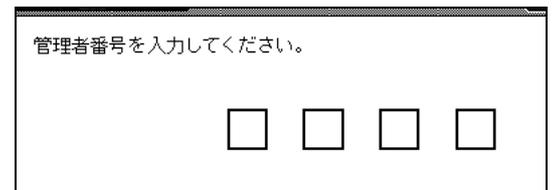
部門管理が働いているときに、各種登録(“登録”キーを押して登録する)を行うときは、管理者番号の入力が必要となります。以下の手順で行ってください。

※ 部門コードの入力では、登録操作は行えません。

- 1 “登録”キーを押してください。管理者番号の登録画面に替わります。



- 2 テンキーで管理者番号 (4桁) を入力してください。



- 3 登録画面に替わります。各種登録操作を行ってください。



## 部門管理起動中の応用操作のしかた

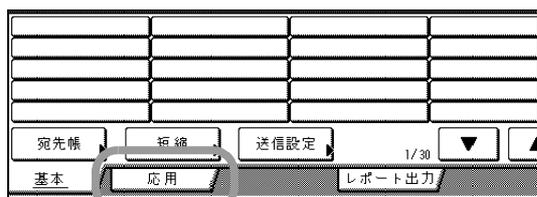
部門管理が働いているときに、各種応用機能（“応用”キーを押して操作する）を使用するときは、以下の手順で行ってください。

- 1 テンキーで部門コード（1～8桁）を入力してください。

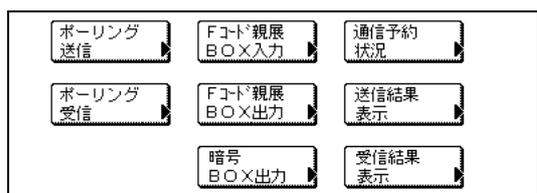


- 2 “設定”キーを押してください。

- 3 “応用”キーを押してください。



- 4 応用画面に替わります。各種応用操作を行ってください。



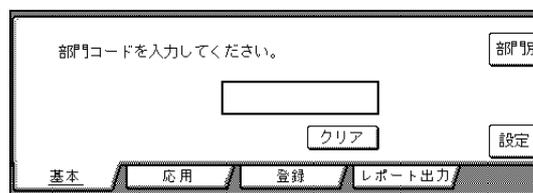
## 部門管理起動中のレポート出力操作のしかた

部門管理が働いているときに、各種レポート（“レポート出力”キーを押して操作する）を出力するときは、以下の手順で行ってください。

※ 部門コードまたは管理者番号を入力するかで出力できるレポートが変わります。  
 部門コードを入力するとき ... 通信管理レポート、通信予約確認レポート、部門管理レポートが出力できます。  
 管理者番号を入力するとき ... 全レポートが出力できます。

### ●部門コードを入力するとき

- 1 テンキーで部門コード（1～8桁）を入力してください。



- 2 “設定”キーを押してください。

- 3 “レポート出力”キーを押してください。



- 4 出力できるレポートのキーが表示されます。キーを押してください。



## ●管理者番号を入力するとき

- 1** “レポート出力”キーを押してください。

- 2** “管理者項目”キーを押してください。  
※このとき“通信管理レポート”キーを押すと通信管理レポートを出力できます。

- 3** テンキーで管理者番号（4桁）を入力してください。

- 4** レポート出力画面に替わります。各種レポートを出力させてください。

## 送信カウンタの参照のしかた

部門別の送信枚数を参照するときには以下の手順で行ってください。  
同時にコピーの使用枚数も参照することができます。

- 1** テンキーで部門コード（1～8桁）を入力してください。

- 2** “部門別集計”キーを押してください。

- 3** 画面下部にファクスの送信枚数が表示されます。参照が終われば、“閉じる”キーを押してください。部門入力画面に戻ります。

印刷ページ数		コピー	プリンタ	合計	( ) P 制限値
白黒:	0	0	0	0	
スキャナ送信		ファクス送信			
読み込みページ数:	0 ( 0 )	送信ページ数:	1 ( 0 )		
		送信時間:	0 時間 1 分		
初期設定・部門管理				00000000	

## 部門管理レポートの出力のしかた

部門管理の対象となる通信について、その通信の履歴をレポート出力することができます。部門別あるいは全部門のレポート出力することができます。

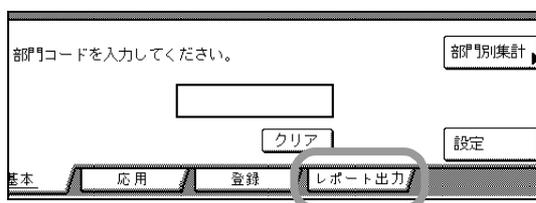
※全部門の内容を出力するときは、管理者番号の入力が必要です。部門コードを入力して出力する場合にはその部門のみのレポートが出力されます。出力のしかたは、P5-46、「部門管理起動中のレポート出力操作のしかた」を参照してください。

※部門管理モード設定時以外は、このレポートは出力できません。

※部門管理の対象となる通信が全く行われていない場合、部門管理レポートは出力されません。

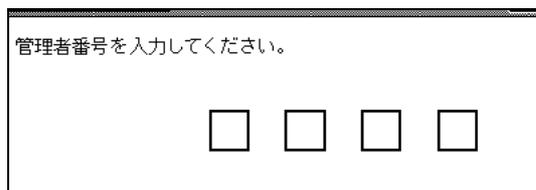
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

**1** “レポート出力”キーを押してください。



**2** “管理者項目”キーを押してください。  
 ※このとき“通信管理レポート”キーを押すと通信管理レポートを出力できます。

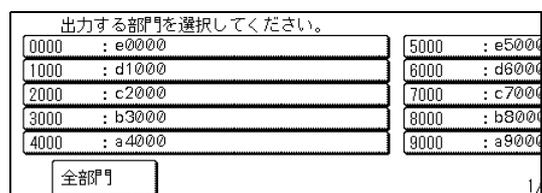
**3** テンキーで管理者番号（4桁）を入力してください。



**4** “部門管理レポート”キーを参照してください。

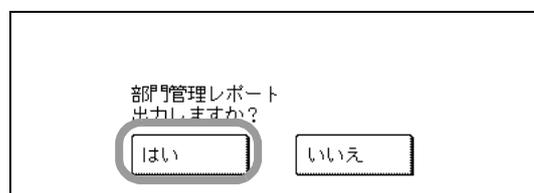


**5** 出力する部門コードが表示されたキーを押して反転させてください。複数選択できます。  
 ※全部門出力するときは“全部門”キーを押してください。登録されていて通信履歴がある場合、部門コードのキーが全て反転します。



**6** “閉じる”キーを押してください。

**7** “はい”キーを押してください。選択された部門コードの部門管理レポートを出力します。



# 6章 通信情報の管理

## 通信結果の内容を確認する（通信結果表示）

最近行われた 50 件までの通信を送信／受信別にメッセージ表示に表示させ確認することができます。  
確認できる内容は、文書番号、通信日、通信時刻、通信先名、通信ページ数、通信種類、通信結果です。  
※部門管理が“ON”の状態でも、部門コードに関係なく、送信結果、受信結果それぞれ 20 通信分の表示を行います。

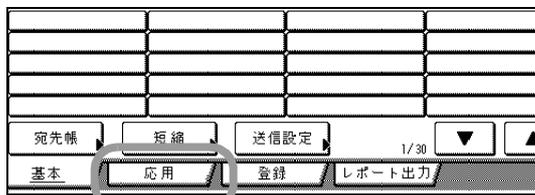
### 送信結果のみかた

最近行われた送信の情報を最大 50 件までメッセージ表示で確認することができます。

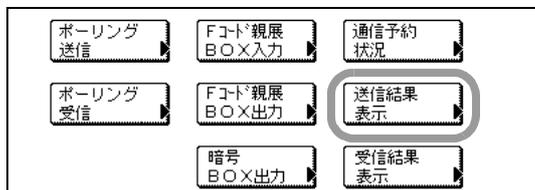
送信結果には Network FAX 機能（オプション）での送信、順次同報送信、F コード送信も含まれます。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

- 1 “応用”キーを押してください。応用画面に替わります。



- 2 “送信結果表示”キーを押してください。最新の送信文書の結果が一覧で表示されます。



- 3 6 送信以上行われた場合は“▼”もしくは“▲”キーで送信情報をかえることができます。

A screenshot of the communication result list. The list shows 6 items. The '▼' and '▲' navigation keys are circled in red.

050	岡山営業所	01月20日10:30	OK
049	京都営業所	01月20日08:15	BUSY
048	ABCDE株式会社	01月17日16:21	OK
047	046046046	01月16日11:46	OK
046	1234567890	01月15日23:56	ERROR

- 4 詳細な情報を確認するときは、目的の送信を押し“詳細”キーを押してください。

A screenshot of a communication result detail screen. It shows details for item 046. The '▼' and '▲' navigation keys are circled in red.

050	岡山営業所	01月20日10:30	OK
049	京都営業所	01月20日08:15	BUSY
048	ABCDE株式会社	01月17日16:21	OK
047	046046046	01月16日11:46	OK
046	1234567890	01月15日23:56	ERROR

- 5 “▼”キーを押すと、表示中のものより前に行われた送信の情報が、“▲”キーを押すと後に行われた送信情報が順次表示されます。確認が終わったら、“閉じる”キーを押してください。一覧の画面に戻ります。

A screenshot of a communication result detail screen. It shows details for document number 867. The '▼' and '▲' navigation keys are circled in red.

文書番号：867	同報送信	
📠：岡山営業所		
01月20日10:30	送信ページ数：005	結果：0

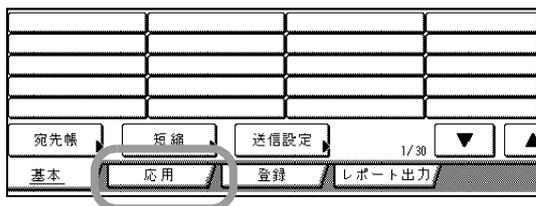
- 6 確認を終了し、初期モードに戻るときはリセットキーを押してください。

## 受信結果のみかた

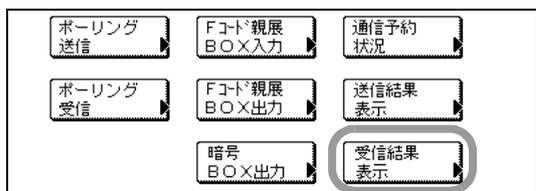
最近行われた受信の情報を最大 50 件までメッセージ表示で確認することができます。

※ 操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

- 1** “応用”キーを押してください。応用画面に替わります。



- 2** “受信結果表示”キーを押してください。最新の受信文書の結果が一覧で表示されます。



- 3** 6 受信以上行われた場合は“▼”もしくは“▲”キーで受信情報をかえることができます。

050	OKAYAMA	01月20日10:30	OK
049	KYOTO	01月20日08:15	BUSY
048	ABCDE	01月17日16:21	OK
047	046046046	01月16日11:46	OK
046	1234567890	01月15日23:59	ERROR

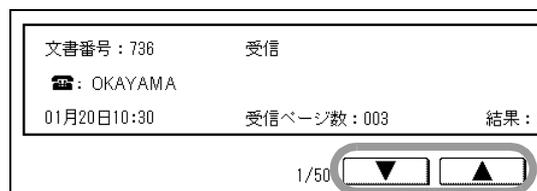
1/1

- 4** 詳細な情報を確認するときは、目的の受信を押し“詳細”キーを押してください。

050	OKAYAMA	01月20日10:30	OK
049	KYOTO	01月20日08:15	BUSY
048	ABCDE	01月17日16:21	OK
047	046046046	01月16日11:46	OK
046	1234567890	01月15日23:59	ERROR

1/10

- 5** “▼”キーを押すと、表示中のものより前に行われた受信の情報が、“▲”キーを押すと後に行われた受信情報が順次表示されます。確認が終わったら、“閉じる”キーを押してください。一覧の画面に戻ります。



- 6** 確認を終了し、初期モードに戻るときはリセットキーを押してください。

## 各種管理レポートを出力する（管理レポート出力）

通信結果やファクス機能についての設定状況などがわかる管理レポート類（通信管理レポート、通信予約確認レポート、ユーザー設定リスト）の出力方法を説明しています。

これらのレポートやリストは、見たいときにいつでも出力させることができます。

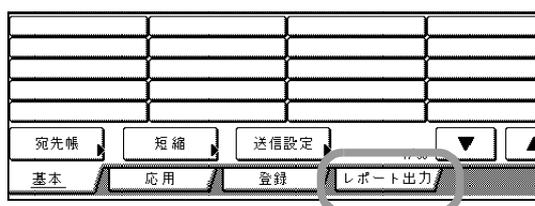
### 通信管理レポートの出力のしかた

通信管理レポートを出力することにより、本機で行われた送信や受信の状況を確認することができます。送受信を合わせて、最近通信が行われた50件までの情報が印字出力されます。

※通信が全く行われていない場合、通信管理レポートは出力されません。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

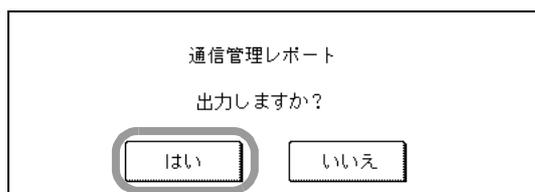
- 1 “レポート出力”キーを押してください。レポート出力選択画面が表示されます。



- 2 “通信管理レポート”キーを押してください。



- 3 出力する場合は“はい”キーを押してください。通信管理レポートを出力します。



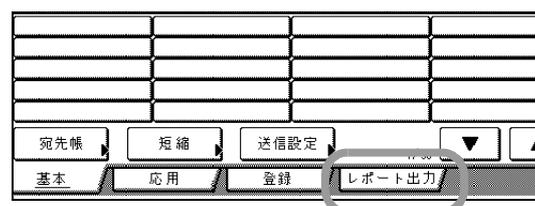
### 通信予約確認レポートの出力のしかた

通信予約確認レポートを出力することにより、メモリ内で待機している送信や受信の状況を確認することができます。

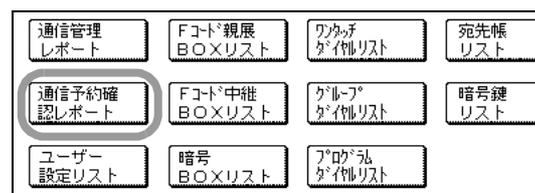
※時刻指定されている通信やポーリング送信待機原稿が全くない場合、通信予約確認レポートは出力されません。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

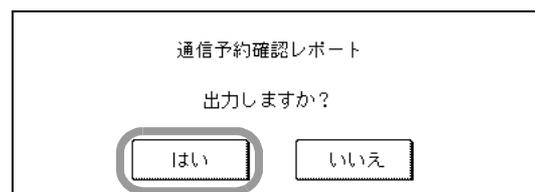
- 1 “レポート出力”キーを押してください。レポート出力選択画面が表示されます。



- 2 “通信予約確認レポート”キーを押してください。



- 3 出力する場合は“はい”キーを押してください。通信予約確認レポートを出力します。

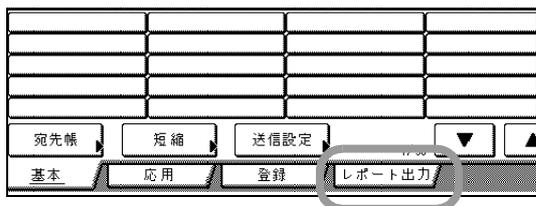


## ユーザー設定リストの出力のしかた

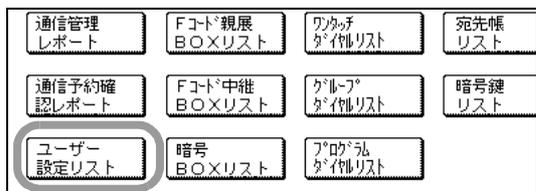
ユーザー設定リストを出力することにより、ユーザー自身が本機に設定した内容（電話回線種別等）や登録した内容（自局名称等）を確認することができます。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

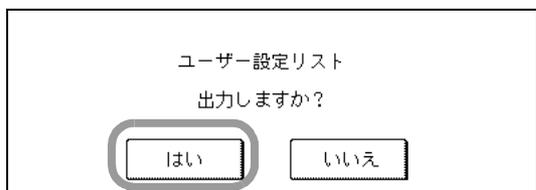
- 1 “レポート出力”キーを押してください。レポート出力選択画面が表示されます。



- 2 “ユーザー設定リスト”キーを押してください。



- 3 出力する場合は“はい”キーを押してください。ユーザー設定リストを出力します。



# 7章 各種設定と登録

## 各種レポートの出力条件を設定する（レポート出力設定）

送信や受信が正しく行われたかどうかや通信の予約内容を確認するために、6種類のレポートを出力できます。各レポートともそれぞれ自動出力させたり、自動出力を禁止したりすることができます。

### <通信管理レポート>

一定回数の通信が行われた後にそれらの通信内容をレポートにして出力します。

### <送信結果レポート>

送信が行われた後、送信が正しく行われたかどうかをレポートにして出力します。

※ 特定条件時（通信エラー、順次同報送信、時刻指定送信、暗号送信）のみ出力させることができます。

### <受信結果レポート>

受信が行われた後、受信が正しく行われたかどうかをレポートにして出力します。

※ 特定条件時（通信エラー、ポーリング受信、暗号受信、Fコード親展受信）のみ出力させることができます。

### <タイマー予約レポート>

時刻指定をして通信予約を行った後にその予約内容をレポートにして出力します。

### <部門管理レポート>

部門管理が設定されているときに部門管理の対象となる通信について、その通信を部門ごとにレポート出力します。

### <NW-FAX 送信レポート>

プリンタ/スキャナキット（オプション）を装着し、NW-FAX 送信をした後、送信が正しく行われたかどうかをEメールに添付して送信します。

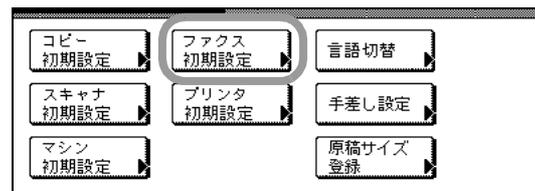
※ 特定条件時（通信エラー、順次同報送信、時刻指定送信）のみ送信させることができます。

※ 操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

**1** 初期設定キーを押してください。初期設定画面が表示されます。



**2** “ファクス初期設定”キーを押してください。



**3** 設定項目で“▼”キーを押して、“レポート出力”を選択してください。

**4** “設定値変更”キーを押してください。

- 5** 通信管理レポートを出力するかどうか選択してください。出力するときは“ON”キーを、出力しないときは“OFF”キーを押してください。



- 6** 手順5の画面で送信結果レポートを出力するかどうか選択してください。出力するときは“ON”キーを、出力しないときは“OFF”キーを押してください。特定条件時のみ出力するときは“特定条件時のみ出力”キーを押してください。

- 7** 手順5の画面で受信結果レポートを出力するかどうか選択してください。出力するときは“ON”キーを、出力しないときは“OFF”キーを押してください。特定条件時のみ出力するときは“特定条件時のみ出力”キーを押してください。

- 8** 手順5の画面でタイマー予約レポートを出力するかどうか選択してください。出力するときは“ON”キーを、出力しないときは“OFF”キーを押してください。

- 9** 部門設定を“ON”にすると部門管理レポートを出力させることができます。出力するときは“ON”キーを、出力しないときは“OFF”キーを押してください。

- 10** 手順5の画面でプリンタ/スキャナキット（オプション）を装着しているときは、NW-FAX送信レポートをEメールで送信するかどうか選択してください。送信するときは“ON”キーを、送信しないときは“OFF”キーを押してください。特定条件時のみ送信するときは“特定条件時のみ出力”キーを押してください。

- 11** “閉じる”キーを押してください。設定を終了し、初期モードに戻るときはリセットキーを押してください。

## 掲示板機能の設定をする（掲示板設定）

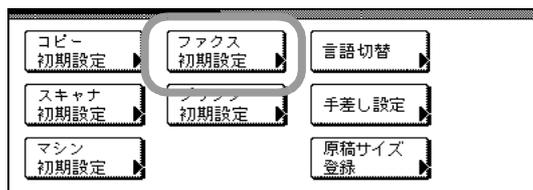
掲示板機能を使用すると、同じ原稿をポーリング受信したいとの要求が複数の相手先からあった場合でも、一度メモリからのポーリング送信の準備をするだけで、それらの相手先への送信が可能になります。掲示板機能を使用するためには、あらかじめ設定を行う必要があります。（P5-7、「ポーリング送信のしかた」参照）

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

- 1** 初期設定キーを押してください。初期設定画面が表示されます。



- 2** “ファクス初期設定”キーを押してください。



- 3** 設定項目で“▼”キーを押して、“掲示板”を選択してください。

- 4** “設定値変更”キーを押してください。

- 5** 掲示板機能を使用するときは“原稿保持”キーを、しないときは“原稿消去”キーを押してください。

※“原稿消去”を選択するとポーリング送信後、メモリ内の原稿は消去されます。“原稿保持”を選択すると、原稿は消去されずに再び待機中の状態で保持されます。



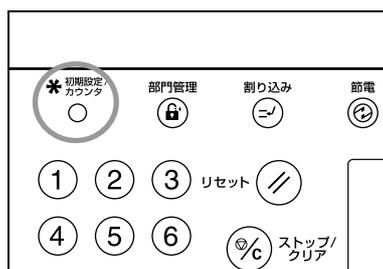
- 6** “閉じる”キーを押してください。設定を終了し、初期モードに戻るときはリセットキーを押してください。

## 呼び出しベルの回数を設定する（ベル回数設定）

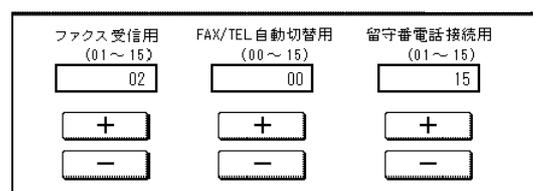
本機の各受信モード（FAX 専用自動受信、FAX/TEL 自動切替受信 FAX/ 留守番電話自動切替受信）が設定されているときに、相手先からの呼び出しに対して応答するまでの呼出回数をそれぞれ最大 15 回まで設定することができます。

※ 操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

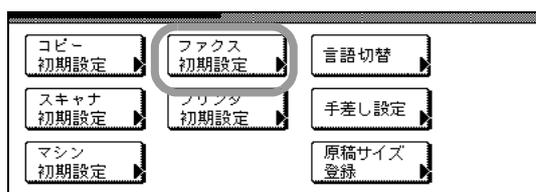
- 1** 初期設定キーを押してください。初期設定画面が表示されます。



- 5** ファクス受信用、FAX/TEL 自動切替用、留守番電話接続用それぞれに“+”キーまたは“-”キーを押してベル回数を設定してください。



- 2** “ファクス初期設定”キーを押してください。



- 6** “閉じる”キーを押してください。設定を終了し、初期モードに戻るときはリセットキーを押してください。

- 3** 設定項目で“▼”キーを押して、“ベル回数”を選択してください。

- 4** “設定値変更”キーを押してください。

## スピーカの音量を調節する（音量調整）

本機を使用する際に鳴るブザー音、モニタ音、スピーカ音のボリュームは調整することができます。必要がなければ音を鳴らさなくすることもできます。

### <ブザー音量調整>

エラー発生時になるエラー音、操作パネルのキーを押したときになるキー音などの音量を調整します。

### <モニタ音量調整>

オンフックキーを使わずにオフフック状態になったときに、内蔵スピーカから聞こえる音量を調整します。

### <スピーカ音量調整>

“オンフック”キーを押してオフフック状態になったときに、内蔵スピーカから聞こえる音量を調整します。

**3** 設定項目で“▼”キーを押して、“音量設定”を選択してください。

**4** “設定値変更”キーを押してください。

**5** ブザー音量を“大”、“小”、“OFF”の中から選択してください。

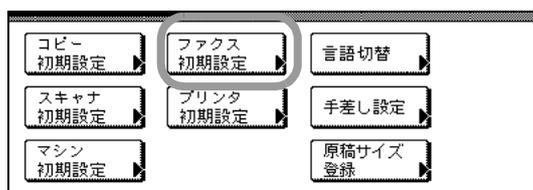
ブザー	モニタ	スピーカ
大	大	大
小	中	中
OFF	小	小
	OFF	OFF

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

**1** 初期設定キーを押してください。初期設定画面が表示されます。



**2** “ファクス初期設定”キーを押してください。



**6** モニタ音量を“大”、“中”、“小”、“OFF”の中から選択してください。

**7** スピーカ音量を“大”、“中”、“小”、“OFF”の中から選択してください。

**8** “閉じる”キーを押してください。設定を終了し、初期モードに戻るときはリセットキーを押してください。

## 原稿の読み込み条件を設定する（原稿送り装置読込設定）

原稿を原稿送り装置から読み込むとき、A4R サイズなどの定形サイズとして読み込むか、長尺原稿（給紙される方向に長い原稿）として読み込むかのどちらかを事前に設定しておくことができます。

※両面原稿を送信するためには、“定形原稿”を選択しておく必要があります。（P3-1、「両面原稿を送信する（両面送信）」参照）

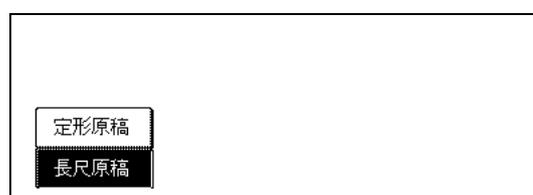
※“長尺原稿”を選択した場合、回転送信は行われません。（P1-14、「原稿を回転して送信する（回転送信機能）」参照）

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

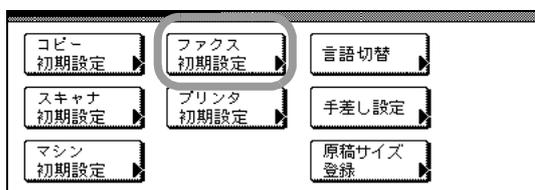
- 1** 初期設定キーを押してください。初期設定画面が表示されます。



- 5** “定形原稿”キーまたは“長尺原稿”キーを押して、原稿の形態を選択してください。



- 2** “ファクス初期設定”キーを押してください。



- 6** “閉じる”キーを押してください。設定を終了し、初期モードに戻るときはリセットキーを押してください。

- 3** 設定項目で“▼”キーを押して、“原稿送り装置読み込み”を選択してください。

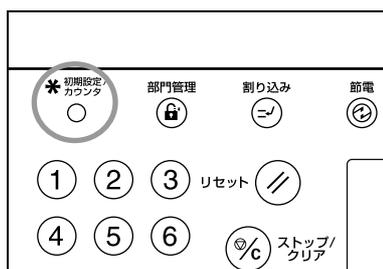
- 4** “設定値変更”キーを押してください。

## 送信方法の初期値を設定する（送信モードの初期値設定）

初期モードで選択される送信モードをメモリ送信、ダイレクト送信のうちから選択できます。ここで“ダイレクト送信”が選択されると、基本画面で“ダイレクト送信”が表示されます。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

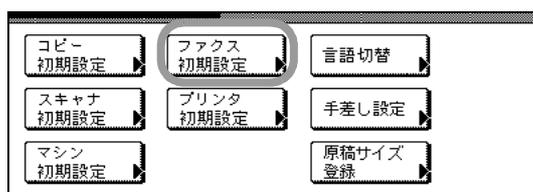
- 1** 初期設定キーを押してください。初期設定画面が表示されます。



- 5** “メモリ送信”キーまたは“ダイレクト送信”キーを押して、送信モードを選択してください。



- 2** “ファクス初期設定”キーを押してください。



- 6** “閉じる”キーを押してください。設定を終了し、初期モードに戻るときはリセットキーを押してください。

- 3** 設定項目で“▼”キーを押して、“送信モード初期値”を選択してください。

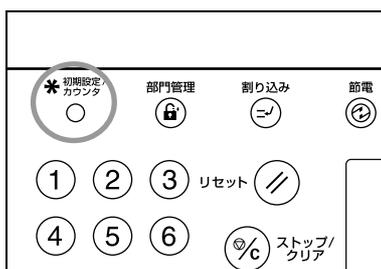
- 4** “設定値変更”キーを押してください。

## 受信方法を設定する（受信モード設定）

“自動受信”には2つの受信モードがあります。FAX専用自動受信、FAX/TEL自動切替受信のどちらかを選択してください。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

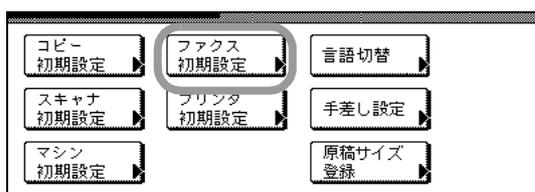
- 1** 初期設定キーを押してください。初期設定画面が表示されます。



- 5** “ファクス受信”キー、“FAX/TEL自動切替”キーを押して受信モードを選択してください。



- 2** “ファクス初期設定”キーを押してください。



- 6** “閉じる”キーを押してください。設定を終了し、初期モードに戻るときはリセットキーを押してください。

- 3** 設定項目で“▼”キーを押して、“受信モード”を選択してください。

- 4** “設定値変更”キーを押してください。

## 受信した日時を記録方法を設定する（受信日時記録設定）

受信日時記録は、受信原稿が出力されるときに、各ページの先頭に受信した日時、相手先の情報、ページ数を本機側で付加し印字する機能です。この機能を使うと、時差がある地域から原稿を受信したときに、こちら側の時間で受信した日時を見ることができるので非常に便利です。受信日時記録を印字するためには、事前に設定しておく必要があります。

※受信原稿が複数ページに分割出力される場合は、最初の1ページのみに受信日時記録が印字され、2ページ目以降には印字されません。

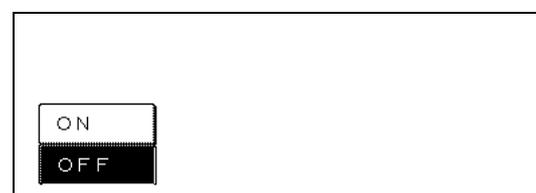
※メモリ転送設定時、転送先で出力される受信原稿には受信日時記録は印字されませんが、設定回数リダイヤルが行われたにもかかわらず、正常に転送されなかった場合、自機で出力される原稿には印字されます。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

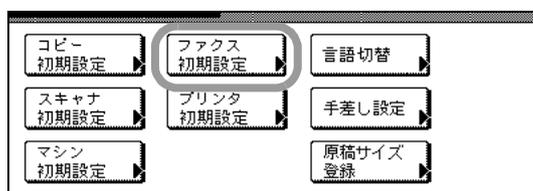
- 1** 初期設定キーを押してください。初期設定画面が表示されます。



- 5** 受信日時記録を印字するときは“ON”キーを、印字しないときは“OFF”キーを押してください。



- 2** “ファクス初期設定”キーを押してください。



- 6** “閉じる”キーを押してください。設定を終了し、初期モードに戻るときはリセットキーを押してください。

- 3** 設定項目で“▼”キーを押して、“受信日時記録”を選択してください。

- 4** “設定値変更”キーを押してください。

## 使用する用紙を設定する（ファクス給紙設定）

ファクスモードでは、受信した原稿を印字出力するときや、レポート/リスト類を出力するときの用紙の給紙モードとして、自動給紙、サイズ固定、カセット段固定の3つのモードがあります。

給紙モードは、これらの3つの中から選択することができます。

※メモリ内に原稿が蓄積（記憶）されている場合、ファクス給紙設定を変更することはできません。

### < 自動給紙モード >

機械が自動で用紙を選択し給紙するモードです。

### < サイズ固定モード >

受信サイズを指定し、その指定したサイズの用紙がセットされているカセットから出力するモードです。指定したサイズがセットされていない場合には代行受信が行われます。

※複数の用紙サイズの設定はできません。

※指定したサイズの用紙が2ヶ所以上にセットされている場合は、上段にあるカセットから優先して出力を行います。

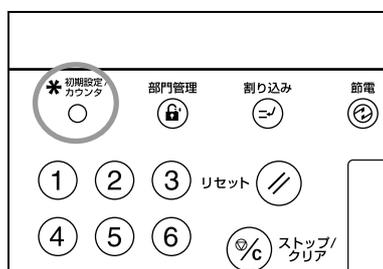
### < カセット段固定モード >

受信サイズに関係なく指定されたカセットから出力するモードです。指定したカセットに用紙がセットされていないときは、代行受信が行われます。

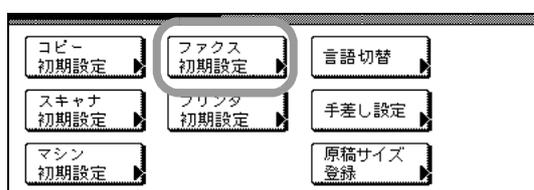
※複数のカセット段の設定はできません。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

**1** 初期設定キーを押してください。初期設定画面が表示されます。



**2** “ファクス初期設定”キーを押してください。



**3** 設定項目で“▼”キーを押して、“ファクス給紙段”を選択してください。

**4** “設定値変更”キーを押してください。

**5** “自動選択”キー、“サイズ固定”キーまたは“カセット段固定”キーを押して、給紙モードを選択してください。

“自動選択”を選択したときは手順8に進んでください。

“サイズ固定”を選択したときは次の手順に進んでください。

“カセット段固定”を選択したときは手順7に進んでください。



**6** 固定する用紙のサイズを選択してください。手順8に進んでください。

**7** 固定するカセット段を選択してください。

**8** “閉じる”キーを押してください。設定を終了し、初期モードに戻るときはリセットキーを押してください。

## 手差しから受信用紙を送る（手差し給紙設定）

ファクスの出力の際に、手差しを使用するかどうか選択できます。

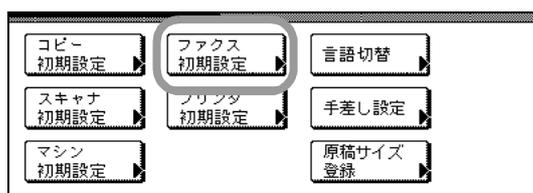
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

- 1** 初期設定キーを押してください。初期設定画面が表示されます。



- 6** “閉じる”キーを押してください。設定を終了し、初期モードに戻るときはリセットキーを押してください。

- 2** “ファクス初期設定”キーを押してください。



- 3** 設定項目で“▼”キーを押して、“手差し給紙”を選択してください。

- 4** “設定値変更”キーを押してください。

- 5** 手差しを使用するときは“ON”キーを、使用しないときは“OFF”キーを押してください。



## 2枚の原稿を1枚にまとめて受信する（2 in 1 受信設定）

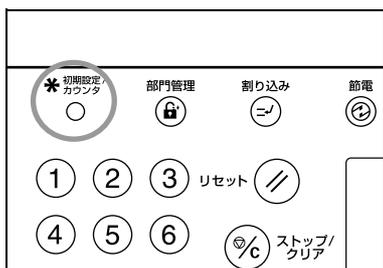
2 in 1 受信は、A5 サイズの連続した受信原稿 2 ページを A4 サイズの用紙 1 枚に印字出力させる機能です。

2 in 1 受信を行うためには、事前に設定しておく必要があります。

※「2 in 1 受信設定」と「両面受信設定」を両方 ON にすると「2 in 1 受信」は機能しません。

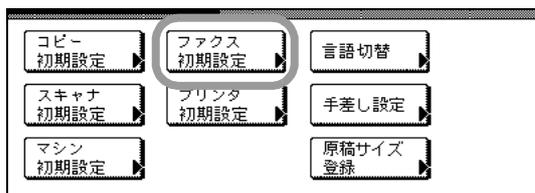
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

- 1** 初期設定キーを押してください。初期設定画面が表示されます。



- 6** “閉じる”キーを押してください。設定を終了し、初期モードに戻るときはリセットキーを押してください。

- 2** “ファクス初期設定”キーを押してください。



- 3** 設定項目で“▼”キーを押して、“2 in 1 受信”を選択してください。

- 4** “設定値変更”キーを押してください。

- 5** 2 in 1 受信を行うときは“ON”キーを行わないときは“OFF”キーを押してください。

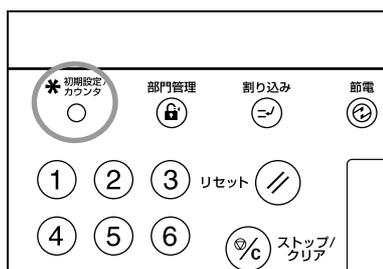


## 電話回線を2回線使用する（受信専用ポート設定）

電話回線を2回線を使用する場合、受信専用のポートを指定することができます。これにより、2回線とも送信中となって受信できないということがなくなります。受信専用のポートを指定するときは以下の手順で行ってください。※マルチポート（オプション）を装着している場合のみ設定できます。

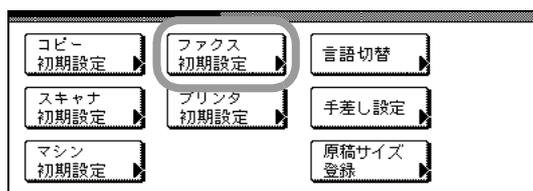
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

- 1** 初期設定キーを押してください。初期設定画面が表示されます。



- 5** “閉じる”キーを押してください。設定を終了し、初期モードに戻るときはリセットキーを押してください。

- 2** “ファクス初期設定”キーを押してください。



- 3** 設定項目で“▼”キーを押して、“受信専用ポート”を選択してください。

- 4** “ポート1”キーまたは“ポート2”キーを押してください。受信専用ポートを指定しないときは、“OFF”キーを押してください。



## サービスセンターから通信で機械を診断する（リモート診断設定）

本機で問題が発生したときにサービス実施店等に連絡をいただくと、弊社サービスセンターのコンピュータから電話回線を介して機械にアクセスし、その状況や問題点などを確認することができます。

※リモート診断機能を使用するときは、あらかじめサービス実施店と契約の上、決められた個別 ID を本機に登録する必要があります。詳しくは弊社サービス実施店またはお買い求めいただいた販売店にお問い合わせください。（P7-17、「リモート診断のための ID を登録する（個別 ID 登録）」参照）

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

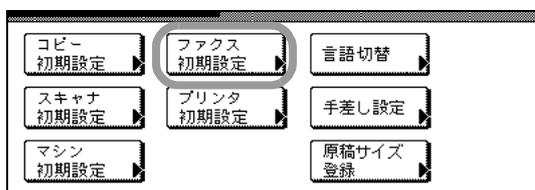
- 1** 初期設定キーを押してください。初期設定画面が表示されます。



- 5** リモート診断を行うときは“ON”キーを行わないときは“OFF”キーを押してください。



- 2** “ファクス初期設定”キーを押してください。



- 6** “閉じる”キーを押してください。設定を終了し、初期モードに戻るときはリセットキーを押してください。

- 3** 設定項目で“▼”キーを押して、“リモート診断”を選択してください。

- 4** “設定値変更”キーを押してください。

## 年月日の表示のしかたを設定する（年月日表示設定）

メッセージ表示、各種レポートの先頭および発信元記録における年、月、日の表示あるいは記録方法を設定します。  
“漢字”、“アルファベット”、“数字”から選択することができます。

【例】“漢字”：2003年07月08日 12時00分  
“アルファベット”：2003-JUL-08 12:00  
“数字”：2003-07-08 12:00

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

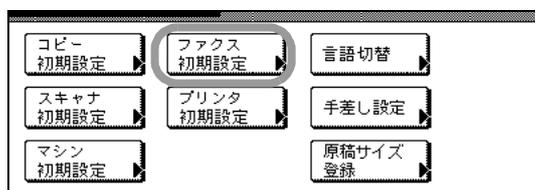
- 1** 初期設定キーを押してください。初期設定画面が表示されます。



- 5** 表示方法を“漢字”キー、“アルファベット”キーまたは“数字”キーを押して選択してください。



- 2** “ファックス初期設定”キーを押してください。



- 6** “閉じる”キーを押してください。設定を終了し、初期モードに戻るときはリセットキーを押してください。

- 3** 設定項目で“▼”キーを押して、“年月日表示”を選択してください。

- 4** “設定値変更”キーを押してください。

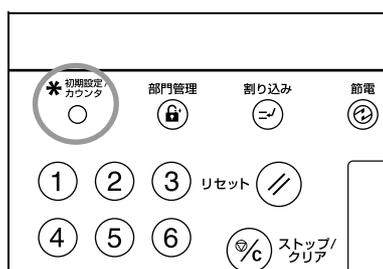
## ファクス通信網を使用して受信する（F ネット無鳴動受信設定）

この設定は初期値がOFFになっていますので、設定を変更する場合は以下の手順にしたがってください。

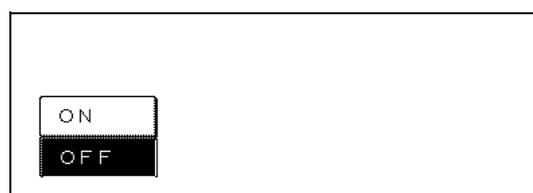
※F ネット無鳴動受信に関しては、P1-17、「NTTのF ネットを使用する（F ネット無鳴動受信機能）」を参照してください。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

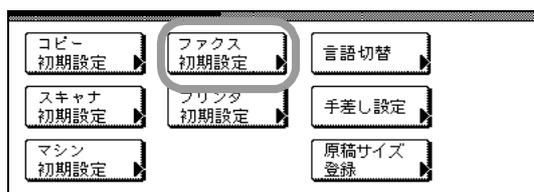
- 1** 初期設定キーを押してください。初期設定画面が表示されます。



- 5** F ネット無鳴動受信を行うときは“ON”キー、行わないときは“OFF”キーを押してください。



- 2** “ファクス初期設定”キーを押してください。



- 6** “閉じる”キーを押してください。設定を終了し、初期モードに戻るときはリセットキーを押してください。

- 3** 設定項目で“▼”キーを押して、“F ネット無鳴動受信”を選択してください。

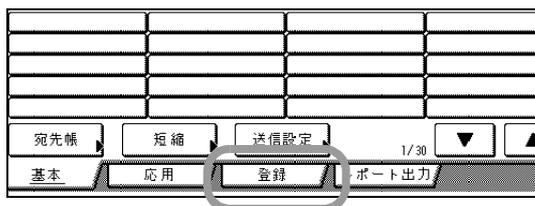
- 4** “設定値変更”キーを押してください。

## リモート診断のための ID を登録する（個別 ID 登録）

本機でリモート診断サービスを受けるときは、サービス実施店から指定された個別 ID を登録する必要があります。  
※登録内容を変更するときも、同様の操作を行ってください。

※操作を途中で中止するとき、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

- 1 “登録”キーを押してください。登録画面に替わります。



- 2 “個別 ID”キーを押してください。



- 3 テンキーで個別 ID（4桁）を入力してください。

※修正するときには“←”キーまたは“→”キーでカーソルを移動させてください。



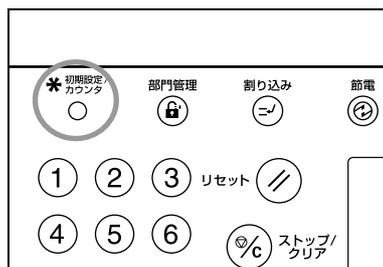
- 4 “確定”キーを押してください。手順2に戻ります。登録を終了し、初期モードに戻るときはリセットキーを押してください。

## 漢字変換の初期値を設定する（漢字変換設定）

自局名登録時やワンタッチダイヤルの相手先名称入力時などに使用する漢字の変換方法を設定するときは以下の手順で行ってください。

※ 操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

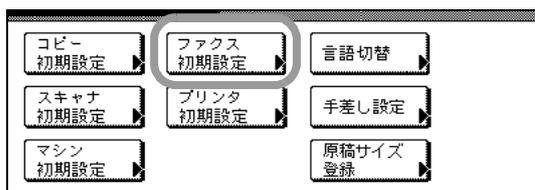
- 1** 初期設定キーを押してください。初期設定画面が表示されます。



- 5** 使用する入力文字を押して選択してください。  
※句点入力時には選択する必要はありません。

- 6** “閉じる”キーを押してください。設定を終了し、初期モードに戻るときはリセットキーを押してください。

- 2** “ファクス初期設定”キーを押してください。



- 3** 設定項目で“▼”キーを押して、“漢字変換”を選択してください。

- 4** 入力方式として“ローマ字漢字入力”キー、“かな漢字入力”キーまたは“区点入力”キーを押してください。

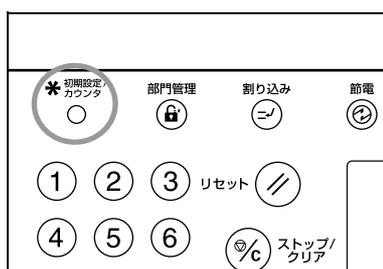


## 受信サイズを等倍、縮小から選択する（受信サイズ設定）

ファクス給紙設定で“自動選択”が選択されているとき、セットされている用紙サイズより受信原稿サイズの方が大きい場合、等倍を優先して複数の用紙で受信するか、縮小を優先してできるだけ1枚の用紙で受信するか選択できます。

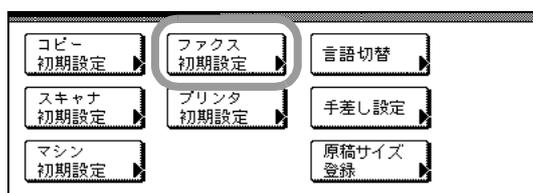
※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

- 1** 初期設定キーを押してください。初期設定画面が表示されます。



- 6** “閉じる”キーを押してください。設定を終了し、初期モードに戻るときはリセットキーを押してください。

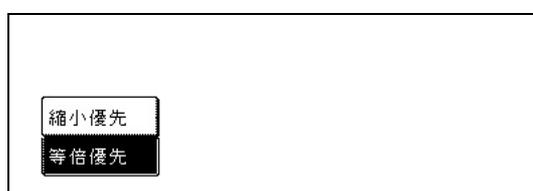
- 2** “ファクス初期設定”キーを押してください。



- 3** 設定項目で“▼”キーを押して、“受信サイズ”を選択してください。

- 4** “設定値変更”キーを押してください。

- 5** 受信サイズで縮小を優先するときは“縮小優先”キーを、等倍を優先するときは“等倍優先”キーを押してください。



## 2枚の受信原稿を両面に記録する（両面受信設定）

両面機は機内で用紙を反転させ、用紙の表裏に印字する「両面受信」ができます。

受信した複数ページの原稿の幅が全て同じであるとき、原稿サイズと同幅の用紙に両面で印字出力を行います。

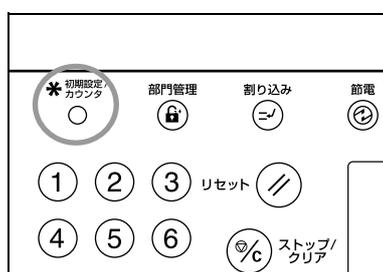
※両面受信するためには両面受信設定で“ON”が設定されている必要があります。

※両面受信設定が“ON”になっているときは、受信モードに関わらず、すべての原稿を一度メモリに蓄積（記憶）してから、一括して印字出力を行います。

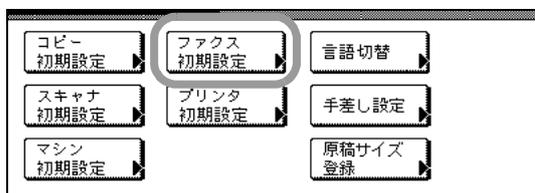
※「2 in 1 受信設定」と「両面受信設定」を両方 ON にすると「2 in 1 受信」は機能しません。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

- 1** 初期設定キーを押してください。初期設定画面が表示されます。



- 2** “ファクス初期設定”キーを押してください。



- 3** 設定項目で“▼”キーを押して、“両面受信”を選択してください。

- 4** “設定値変更”キーを押してください。

- 5** 両面受信を行うときは“ON”キーを行わないときは“OFF”キーを押してください。



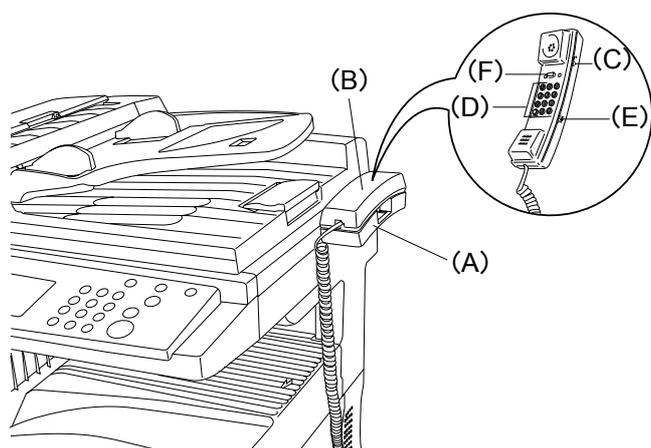
- 6** “閉じる”キーを押してください。設定を終了し、初期モードに戻るときはリセットキーを押してください。

# 8章 オプション

## ハンドセット

オプションのハンドセットを取り付けると、電話で会話ができるようになります。また、手動での送信や受信も行えるようになります。

### 各部の名称とはたらき



- (A) ハンドセット台…ハンドセットをセットしておくための台です。
- (B) ハンドセット…電話をするときや手動送受信を行うときに使用します。
- (C) 回線種別切替スイッチ…電話回線はダイヤル方法の種別によりダイヤル（パルス）回線の 10PPS または 20PPS と、プッシュ（トーン）回線の 3 種類に分かれます。ご利用になられる電話回線の種別に合わせて選択してください。  
※もし回線種別を誤って選択すると、電話をかけたり原稿を送信したりすることができなくなりますので注意してください。
- (D) ダイヤルボタン…電話をかけるときに相手先の電話番号を入力するために使用します。
- (E) 呼出音量調節スイッチ…“H” 側にすると音量は大きくなり、“L” 側にすると音量は小さくなります。“OFF” 側にすると呼出音は鳴りません。
- (F) フックボタン…回線を切るときや、ダイヤルをもう一度やりなおすときに押してください。

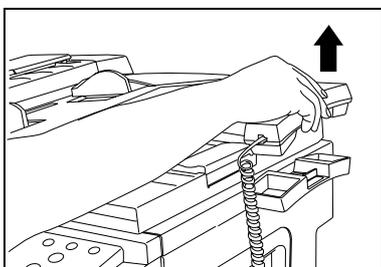
## 電話のかけかた

電話をかけるときは、以下の手順にしたがって操作を行ってください。

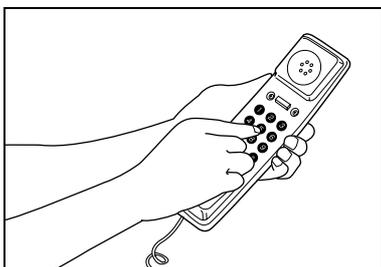
電話の受けかたは、P.3-18の「手動で受信する（手動受信）」を参照してください。

- 1** 電話をかける前に、送信や受信が行われていないことを確認してください。  
※送・受信が行われているときは、画面右下で“動作状況”が表示されます。

- 2** ハンドセットを上げるか、“オンフック”キーを押して反転表示させてください。  
※反転表示すると、音声は機械本体側のスピーカーから聞こえます。



- 3** ハンドセットのダイヤルボタンまたは本体操作パネルのテンキーを使って相手先の番号を入力してください。  
※本体の短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤル、宛先帳機能も使用できます。  
※チェーンダイヤルも併用できます。

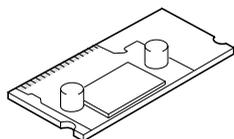


- 4** 相手先が応答したら会話をしてください。  
※手順2で“オンフック”が反転表示しているときは、話し声が本体側のスピーカーから聞こえます。ハンドセットを上げると“オンフック”に反転表示が解消し、相手と電話で話ができるようになります。

- 5** 会話が終わったら、ハンドセットをハンドセット台に置いてください。

## オプションメモリ

オプションメモリは8MBでビットマップ展開用メモリが増加し、ウルトラファインモードでの送信/受信が可能になります。また、メモリに蓄積できる受信/送信原稿のページ数を増やすことができます。



## マルチポート

オプションのマルチポートを増設することによって、電話回線が2回線使用できます。これにより、複数の相手先に送信する順次回報送信などは作業時間を短縮することができます。さらに送受信が同時に行えるため、自機の送信中に相手先から受信できないということは少なくなります。



# 9 章 Network FAX 設定 (オプション)

この章ではプリンタ/スキャナキット (オプション) を使用して Network FAX 機能、とくにセットアップ方法および本体での各種設定方法について説明しています。

設定を行う場合には、接続するコンピュータ (以下 PC と記述します) の環境によって、設定すべき内容に差異がありますので、必要な部分をお読みいただき、正しい設定を行ってください。

付属の CD-ROM に納められている使用説明書 機能編 (オンラインマニュアル) とあわせてお読みください。これには、Network FAX 機能を使用した送受信のしかたや各種設定方法など PC からの操作方法について説明しています。

## 使用説明書 機能編 (オンラインマニュアル) について

使用説明書 機能編 (オンラインマニュアル) は PDF (Portable Document Format) 形式で付属の CD-ROM に収録されています。

使用説明書 機能編 (オンラインマニュアル) には Network FAX 機能を使用するためのアプリケーションの使用方法が説明されています。主な内容は以下の通りです。

- ・各種アプリケーションのインストールのしかた
- ・Network FAX 送信のしかた
- ・Network FAX 受信のしかた
- ・アドレス帳の使用のしかた

## オンラインマニュアルの開き方

オンラインマニュアルを参照するときは以下の手順で行ってください。

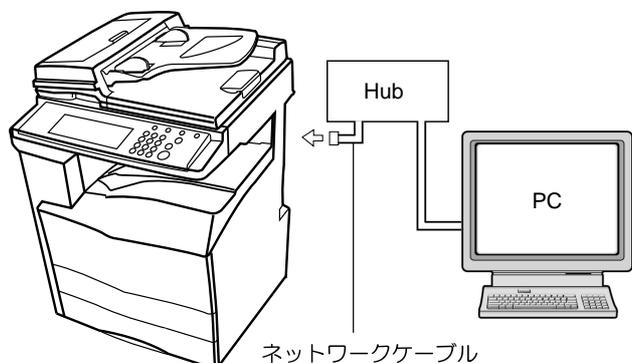
1. 付属のネットワーク FAX ライブラリの CD-ROM を PC の CD-ROM ドライブに入れてください。自動でセットアップ用のメインメニュー画面が表示されます。
2. メインメニュー画面で [ドキュメント] をクリックしてオンラインマニュアルを開いてください。  
※ オンラインマニュアルをご覧になるには Adobe Acrobat Reader4.05J 以上がインストールされている必要があります。システムにインストールされていないときは、付属の CD-ROM からインストールしてください。

## セットアップする

Network FAX 機能を使用するには以下のセットアップが必要です。

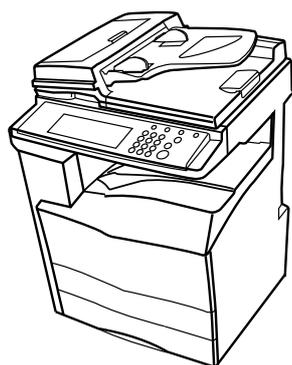
### (1) 本体とコンピュータを接続する

#### 【接続例】



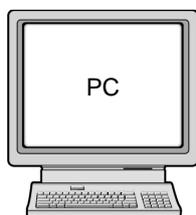
本体にネットワークケーブル  
(100BASE-TX シールド付、10BASE-T シールド付)  
を接続します。  
→ P9-3 参照

### (2) 機械本体の操作



本体での基本設定 (Network FAX 受信設定、送信  
原稿保存設定、ファイル形式設定、Network FAX  
の各種登録) を行ってください。→ P9-4 ~ 9-9

### (3) コンピュータの操作

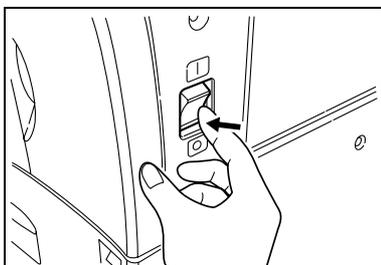


各種専用ソフトのインストール (同梱 CD-ROM に  
収録)  
→ 使用説明書 機能編 (オンラインマニュアル)  
参照

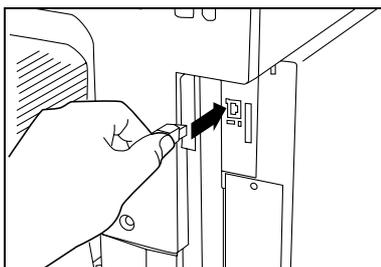
セットアップ完了

## 本体とコンピュータを接続する

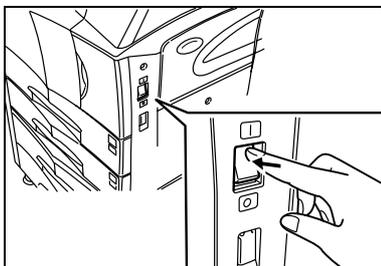
- 1** 本体のメインスイッチを OFF (○) にしてください。  
注意：ネットワークケーブルを接続する際は、必ず本機の電源を OFF にしてから接続してください。



- 2** 本体のスキヤナインタフェースコネクタにイーサケーブル 10BASE-T (シールド付) または 100BASE-TX (シールド付) のコネクタを接続してください。



- 3** 本機のメインスイッチを ON (|) にしてください。



## 本体で初期条件を設定する

### Network FAX 受信設定のしかた

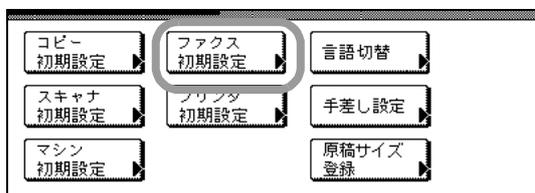
Network FAX 受信を行うときはこの設定を ON にしてください。また、受信した原稿を本体で出力させることもできます。

※ 操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

- 1** 初期設定キーを押してください。初期設定画面が表示されます。



- 2** “ファクス初期設定”キーを押してください。



- 3** 設定項目で“▼”キーを押して、“Network FAX 受信”を選択してください。

- 4** “設定値変更”キーを押してください。

- 5** Network FAX 受信を行うときは“ON”キー、行わないときは“OFF”キーを押してください。“ON”を選択したときは次の手順に、“OFF”を選択したときは手順7に進んでください。



- 6** 受信した原稿を機械でも出力するときは、自局出力の“ON”キーを、出力しないときは“OFF”キーを押してください。



- 7** “閉じる”キーを押してください。設定を終了し、初期モードに戻るときはリセットキーを押してください。

## 送信原稿保存設定のしかた

送信した原稿をサーバー PC (付属の Scanner File Utility がインストールされた PC) で保存するかどうか設定できます。

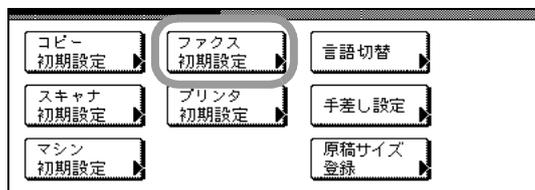
※マルチポート (オプション) を装着し、部門管理を行っている際、部門コードのポート設定が自動になっている状態で送信予約を行った場合には、ポート 1 に設定されたフォルダ番号を使用します。同様に部門管理を行っていないときに送信予約を行った場合にもポート 1 に設定されたフォルダ番号を使用します。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

- 1 初期設定キーを押してください。初期設定画面が表示されます。



- 2 “ファクス初期設定”キーを押してください。



- 3 設定項目で“▼”キーを押して、“送信原稿保存”を選択してください。

- 4 “設定値変更”キーを押してください。

- 5 原稿を保存するときは“ON”キーを、保存しないときは“OFF”キーを押してください。



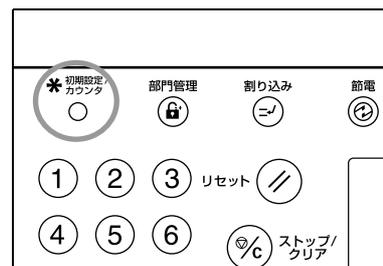
- 6 “閉じる”キーを押してください。設定を終了し、初期モードに戻るときはリセットキーを押してください。

## ファイル形式設定のしかた

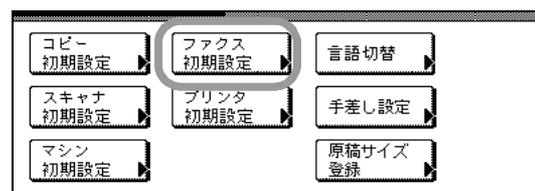
サーバー PC (付属の Scanner File Utility がインストールされている PC) で保存される送信した原稿、または受信された原稿のファイル形式を設定します。PDF ファイルまたは TIFF ファイルのどちらかを設定できます。

※操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

- 1 初期設定キーを押してください。初期設定画面が表示されます。



- 2 “ファクス初期設定”キーを押してください。



- 3 設定項目で“▼”キーを押して、“ファイル形式”を選択してください。

- 4 “設定値変更”キーを押してください。

- 5 “PDF”キーまたは“TIFF”キーを押してください。



- 6 “閉じる”キーを押してください。設定を終了し、初期モードに戻るときはリセットキーを押してください。

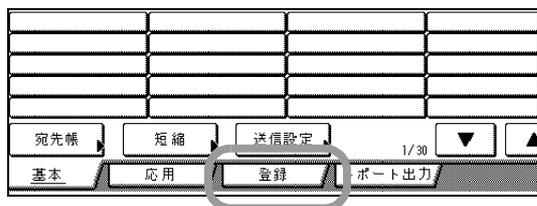
## Network FAX の各種登録をする

Network FAX 機能を使用するときは、以下の項目を登録してください。

- ・ **ファイル名 (送信 / 受信)** ...Network FAX 機能で送信または受信した原稿を指定したフォルダに保存される初期ファイル名を登録します。
- ・ **IP アドレス / ホスト名** ...Network FAX 機能で送信または受信した原稿を保存するサーバー PC のアドレス / ホスト名を登録します。その際、サーバー PC には Scanner File Utility をインストールする必要があります。
- ・ **管理者メールアドレス** ... エラー発生時の通知先 PC、送受信レポート送信先の PC のメールアドレスを登録します。またメール送信時にセキュリティを高める SMTP 認証が行えるようにアカウントとパスワードも合わせて登録してください。  
 ※これを入力しないときは通信管理レポートや電源断レポートはファクス本体で出力されます。  
 ※ SMTP 認証を行うときは、必要に応じてメールサーバーでアカウントやパスワードの設定を行ってください。  
 ※ SMTP 認証を行うときは、スキャナの SMTP 認証機能が有効になっている必要があります。スキャナの使用説明書を参照してください。
- ・ **保存フォルダ番号 (送信 / 受信)** ...Network FAX 機能で送信または受信した原稿を保存するフォルダ番号を登録します。マルチポート (オプション) を装着している場合は2つのポートそれぞれに登録してください。  
 ※保存するフォルダは Scanner File Utility で設定します。オンラインマニュアルを参照してください。

※ 操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。

- 1** “登録” キーを押してください。登録項目の選択画面が表示されます。



- 2** “Network FAX” キーを押してください。すでに登録されているときはその内容が表示されません。



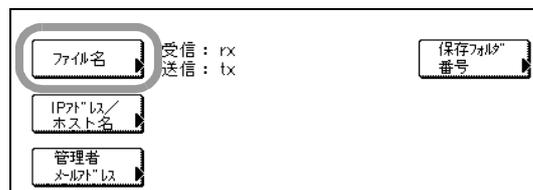
※ファイル名を登録するときは手順3に進んでください。

IP アドレス / ホスト名を登録するときは手順7に進んでください。

管理者メールアドレスおよびアカウント、パスワードを登録するときは手順10に進んでください。

保存フォルダ番号を登録するときは手順22に進んでください。

- 3** “ファイル名” キーを押してください。



- 4** Network FAX 受信時のファイル名称を登録するときは“NW-FAX 受信” キーを、送信原稿の保存ファイル名を登録するときは“送信原稿保存” キーを押してください。

※登録方法は Network FAX 受信の場合も送信原稿の保存の場合も同じです。

- 5** ファイル名を入力してください。漢字、全角ひらがな、全角カタカナ、半角カタカナ、全角英数、半角英数で入力できます。(半角最大13文字、全角6文字)



※入力のしかたは P2-10、「文字を入力する」を参照してください。

- 6** 入力終了したら“入力終了”キーを押してください。  
手順3に戻ります。

### ● IP アドレス / ホスト名の登録

- 7** “IPアドレス/ホスト名”キーを押してください。



- 8** 半角のアルファベット、数字または記号で IP アドレスまたはホスト名を入力してください。  
(最大半角 32 文字)

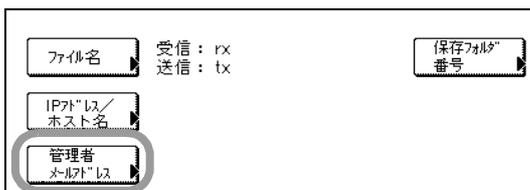


※入力のしかたは P2-17、「半角英数画面」を参照してください。入力画面では、“スペース”キー、“変換”キーおよび“確定”キーは使用できません。

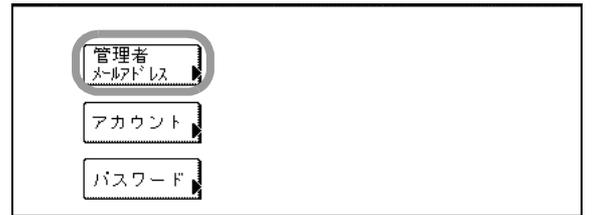
- 9** 入力終了したら“入力終了”キーを押してください。  
手順3に戻ります。

### ● 管理者メールアドレスの登録

- 10** “管理者メールアドレス”キーを押してください。



- 11** “管理者メールアドレス”キーを押してください。

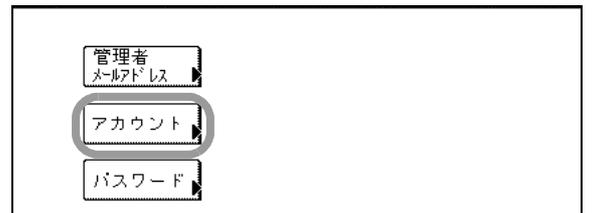


- 12** 半角のアルファベット、数字または記号で管理者メールアドレスを入力してください。(最大半角 64 文字)  
※入力のしかたは P2-17、「半角英数画面」を参照してください。入力画面では、“スペース”キー、“変換”キーおよび“確定”キーは使用できません。

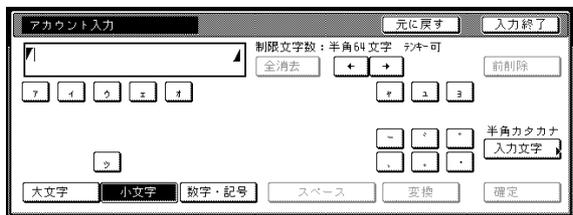


- 13** 入力終了したら“入力終了”キーを押してください。手順11に戻ります。

- 14** “アカウント”キーを押してください。



- 15** 半角のアルファベット、数字、記号または半角カタカナでアカウントを入力してください。  
(最大半角 64 文字)  
※入力のしかたは P2-16、「半角自局名称の入力のしかた」を参照してください。  
※半角カタカナを入力するときは、入力文字として「半角カタカナ」と「半角英数」が使用できます。



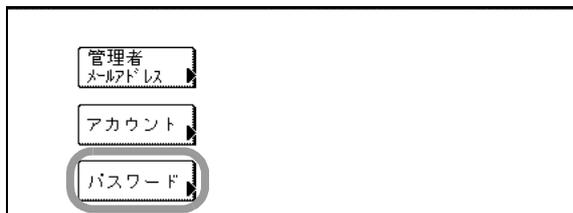
- 19** 半角のアルファベット、数字、記号または半角カタカナでパスワードを入力してください。  
(最大半角 31 文字)  
※入力のしかたは P2-16、「半角自局名称の入力のしかた」を参照してください。  
※半角カタカナを入力するときは、入力方式として「半角カタカナ」と「半角英数」が使用できます。



- 16** 入力が終了したら“入力終了”キーを押してください。手順 11 に戻ります。

- 20** 入力が終了したら“入力終了”キーを押してください。手順 11 に戻ります。

- 17** “パスワード”キーを押してください。



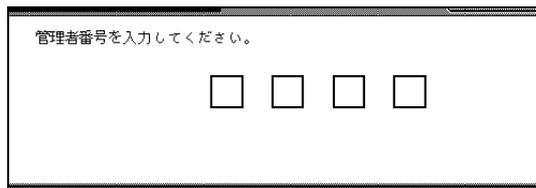
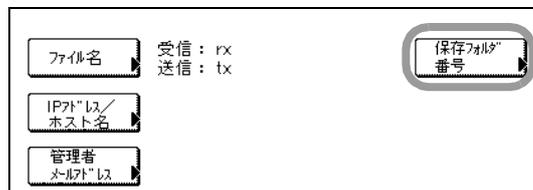
- 21** “閉じる”キーを押してください。手順 3 に戻ります。

- 18** テンキーで管理者番号 (4 桁) を入力してください。  
※管理者番号の工場出荷時設定は“3000” (30 枚機)、“4000” (40 枚機)、“5000” (50 枚機) ですが、その他、詳しい内容はコピー編の使用説明書を参照してください。  
※部門管理設定が“ON”になっているときはこの管理者番号の入力画面は表示されません。

●保存フォルダ番号の登録 (出荷時設定: 受信 001、送信 001)

※マルチポート (オプション) を装着して 2 回線使用する場合は、2 種類の保存フォルダ番号の登録ができます。

- 22** “保存フォルダ番号”キーを押してください。



- 23** NW-FAX 受信の保存番号をテンキーで入力してください。

>マルチポートを装着していない場合

保存番号 (テンキー入力)	
NW-FAX 受信	001
送信原稿 保存	002
クリア	

>マルチポートを装着している場合

*t1 保存番号 (テンキー入力)		*t2 保存番号 (テンキー入力)	
NW-FAX 受信	001	NW-FAX 受信	003
送信原稿 保存	002	送信原稿 保存	004

※“クリア”：入力をやり直すときに押ししてください。

“中止”キー：入力を中止して手順3の画面に戻るときに押ししてください。

- 24** “送信原稿保存”キーを押して、同様に保存番号をテンキーで入力してください。

>マルチポートを装着していない場合

保存番号 (テンキー入力)	
NW-FAX 受信	001
送信原稿 保存	002
クリア	

>マルチポートを装着している場合

*t1 保存番号 (テンキー入力)		*t2 保存番号 (テンキー入力)	
NW-FAX 受信	001	NW-FAX 受信	003
送信原稿 保存	002	送信原稿 保存	004

※“クリア”：入力をやり直すときに押ししてください。

“中止”キー：入力を中止して手順3の画面に戻るときに押ししてください。

※マルチポートを装着している場合は、手順23と24を参照してポート2の設定を行ってください。

- 25** 入力が終了したら“設定”キーを押してください。手順3に戻ります。

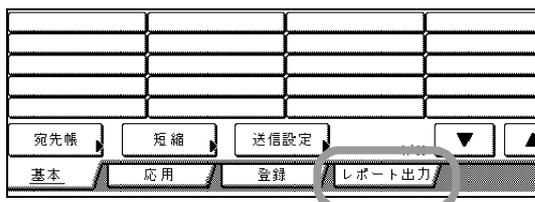
- 26** 登録を終了し、初期モードに戻るときはリセットキーを押してください。

## Network FAX 設定リストを出力する

このリストには、Network FAX 受信の設定、自局出力の設定、保存フォルダ番号など Network FAX 機能に関する設定状態が記載されます。

※ 操作を途中で中止するときは、リセットキーを押してください。初期モードに戻ります。

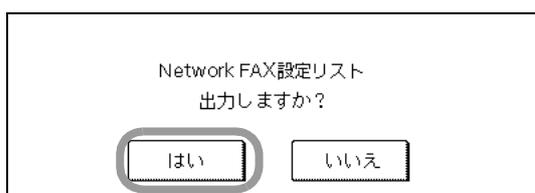
- 1 “レポート出力”キーを押してください。レポート出力選択画面が表示されます。



- 2 “NW-FAX 設定リスト”キーを押してください。



- 3 出力する場合は“はい”キーを押してください。Network FAX 設定リストの出力が開始されません。



# 10章 ご参考

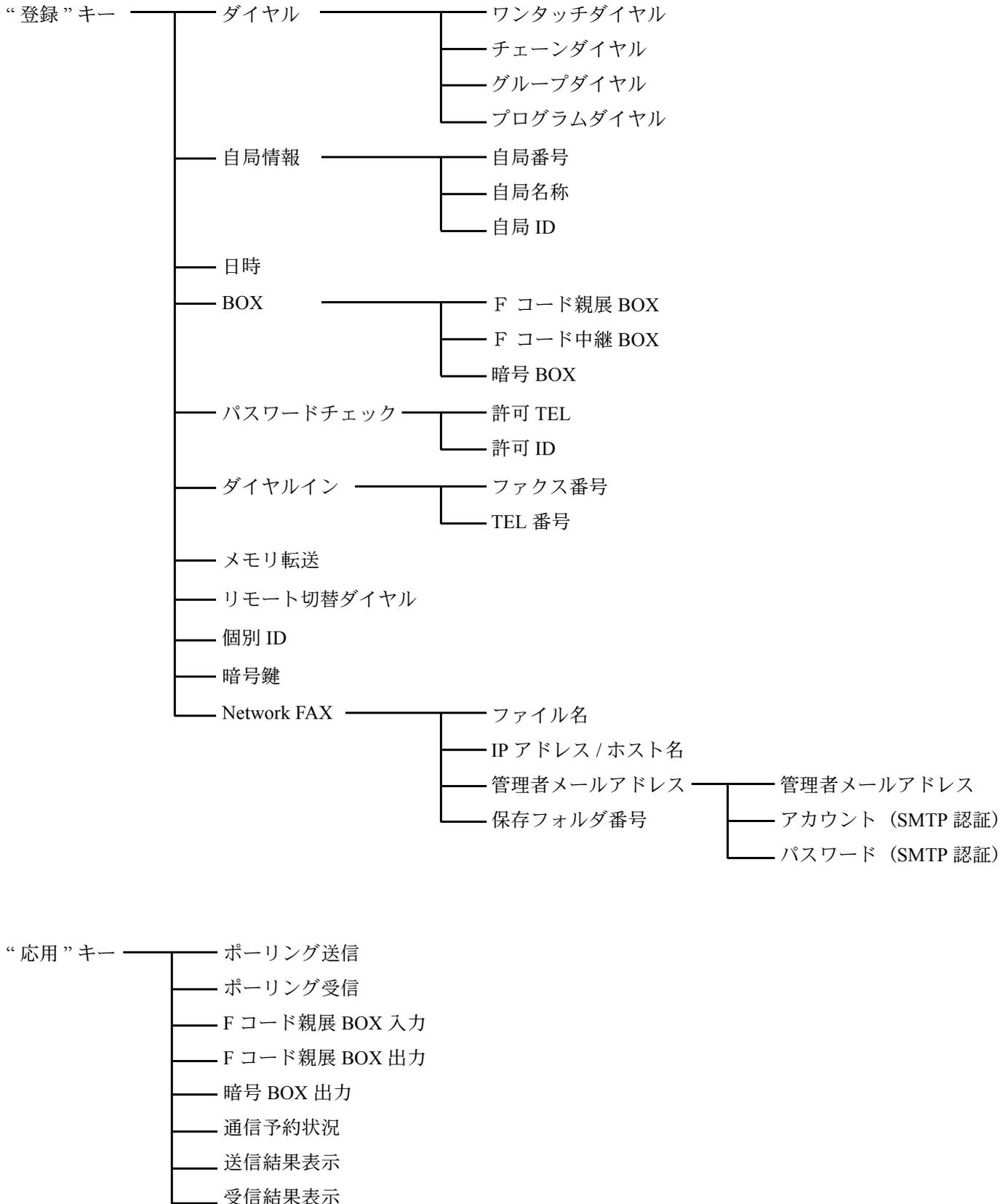
## 仕様

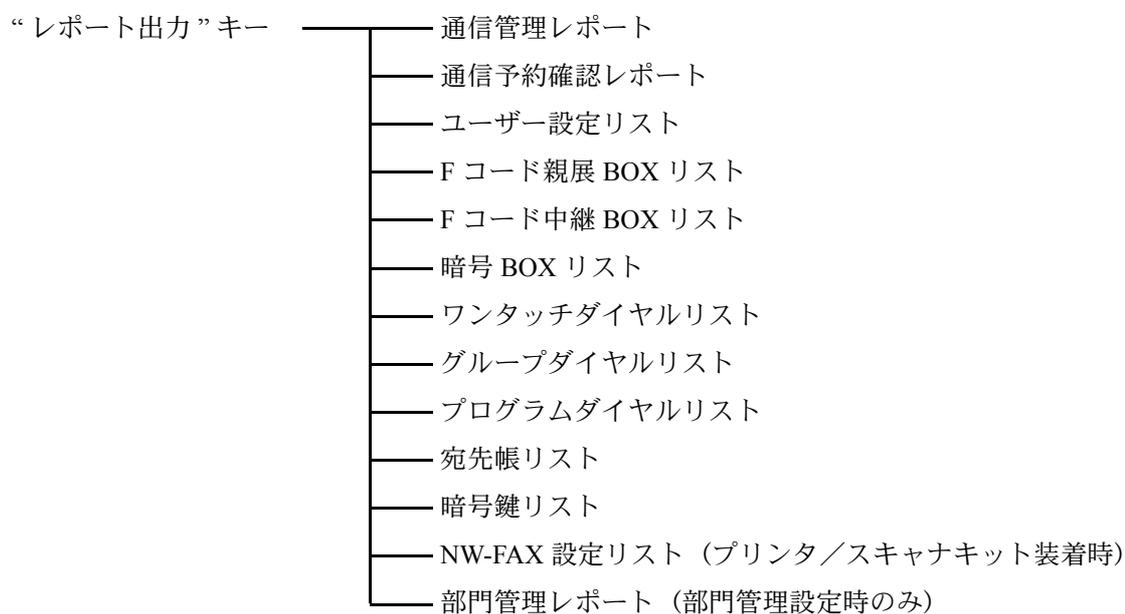
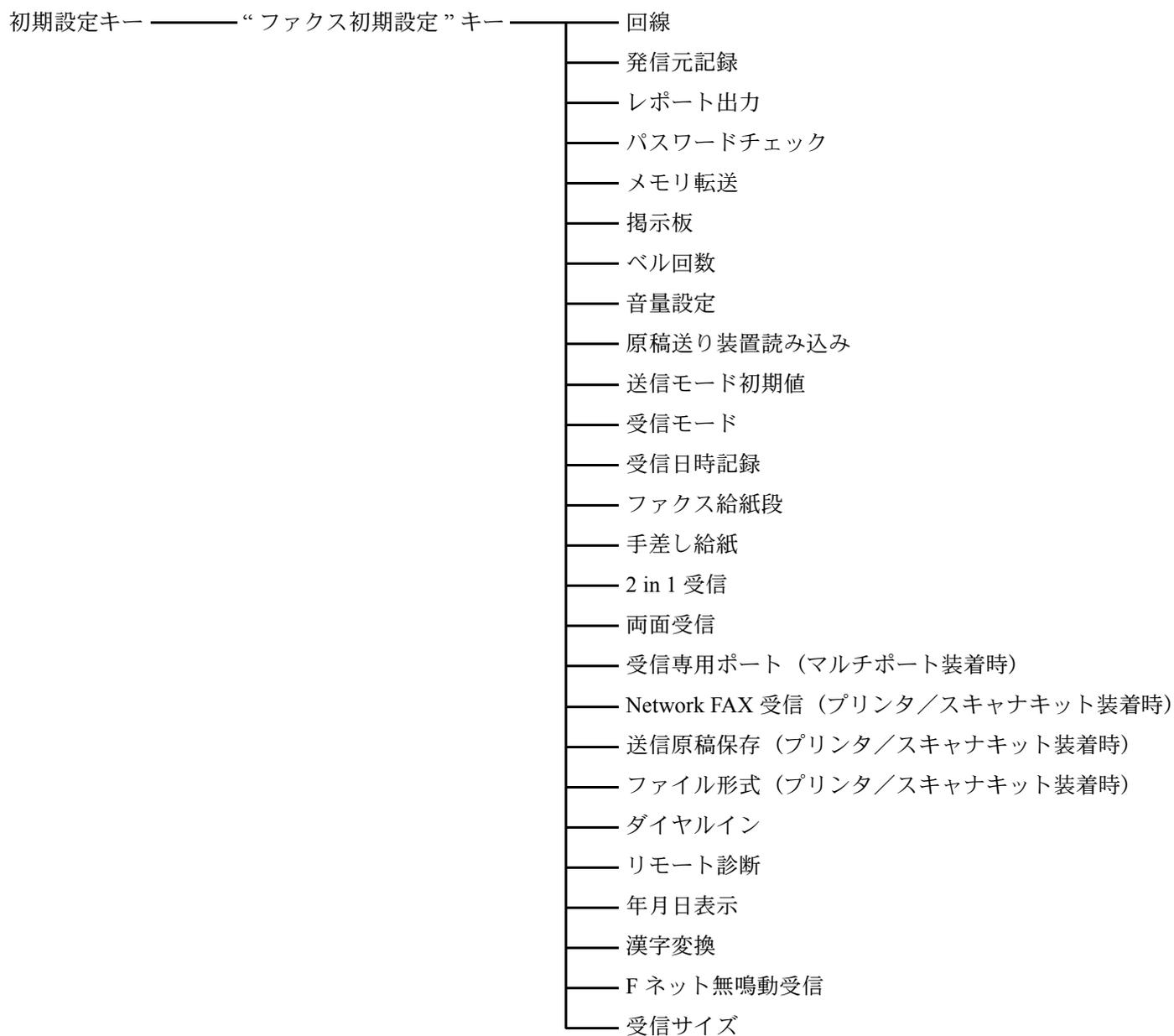
形式 .....	オプション FAX キット
相互通信 .....	G3
適用回線 .....	加入電話回線、F ネット
伝送時間 .....	3 秒未満 (33600bps, JBIG, ITU-T #1 chart)
伝送速度 .....	33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/14400/ 12000/9600/7200/4800/2400bps
符号化方式 .....	JBIG/MMR/MR/MH
誤り訂正 .....	ECM
原稿サイズ .....	最大原稿幅：297mm、最大原稿長さ：1600mm
原稿自動給紙枚数 .....	最大 100 枚
走査線密度 .....	主走査 × 副走査 ノーマル (8 dot/mm x 3.85 line/mm) ファイン (8 dot/mm x 7.7 line/mm) スーパーファイン (8 dot/mm x 15.4 line/mm) ウルトラファイン (16 dot/mm x 15.4 line/mm)
記録解像度 .....	600 x 600 dpi
中間調 .....	128 階調 (誤差拡散)
ワンタッチダイヤル .....	最大 600 宛先
同報送信 .....	最大 300 宛先
ポーリング受信 .....	最大 300 宛先
ビットマップ展開用メモリ容量 .....	4 MB
画像蓄積用メモリ容量 .....	4 MB (ワークメモリ 1MB を含む)
直流抵抗値 .....	369Ω (※本装置は、電話回線や地域などの条件によっては使用に ならない場合があります。)
出力レポート類 .....	通信管理レポート、通信予約確認レポート、ユーザー設定リスト、 ワンタッチダイヤルリスト、宛先帳リスト、プログラムダイヤルリスト、 グループダイヤルリスト、暗号鍵リスト、部門管理レポート
オプション .....	オプションメモリ (8MB)、ハンドセット、マルチポート、プリンタ/ スキャナキット

※機械の仕様は予告なく変更されることがあります。

## メニュー構成一覧

タッチパネル上の各機能キー（“応用”キー、“登録”キー、“レポート出力”キー）や初期設定キーを押したときのメニュー構成は、以下の通りになっています。本機を操作する上での参考にしてください。





## 出荷値設定一覧表

本機で設定可能な項目の工場出荷時の設定は下表の通りです。

項 目	設 定 範 囲	出荷時設定値
回線※ <sup>1</sup>	プッシュ回線、ダイヤル回線 10PPS、ダイヤル回線 20PPS	プッシュ回線
通信管理レポート出力	ON、OFF	ON
部門管理レポート出力	ON、OFF	ON
送信結果レポート出力	ON、OFF、特定条件時のみ出力	特定条件時のみ出力
受信結果レポート出力	ON、OFF、特定条件時のみ出力	OFF
タイマー予約レポート出力	ON、OFF	ON
NW-FAX 送信レポート	ON、OFF、特定条件時のみ出力	特定条件時のみ出力
発信元記録	原稿外側、原稿内側、印字なし	原稿外側
パスワードチェック送信	ON、OFF	OFF
パスワードチェック受信	ON、OFF	OFF
メモリ転送	ON、OFF	OFF
掲示板	原稿保持、原稿消去	原稿保持
ベル回数 (ファクス受信用)	1 ～ 15 回	2 回
ベル回数 (留守番電話接続用)	1 ～ 15 回	15 回
ベル回数 (FAX/TEL 自動切替用)	0 ～ 15 回	0 回
ブザー音量	OFF、小、大	小
モニタ音量	OFF、小、中、大	中
スピーカ音量	OFF、小、中、大	小
原稿送り装置読み込み	定形原稿、長尺原稿	定形原稿
送信モード初期値	メモリ送信、ダイレクト送信	メモリ送信
受信モード	ファクス受信、FAX/TEL 自動切替	ファクス受信
受信日時記録	ON、OFF	OFF
ファクス給紙段	自動選択、サイズ固定、カセット段固定	自動選択

※ 1：マルチポート（オプション）装着時、2 回線分設定可

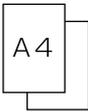
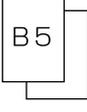
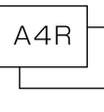
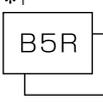
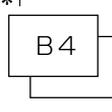
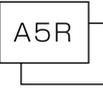
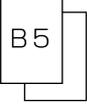
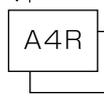
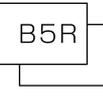
項 目	設 定 範 囲	出荷時設定値
2 in 1 受信	ON、OFF	OFF
両面受信	ON、OFF	OFF
受信専用ポート <sup>※2</sup>	OFF、ポート 1、ポート 2	OFF
Network-FAX 受信 <sup>※3</sup>	OFF、ON（自局出力 ON）、ON（自局出力 OFF）	OFF
送信原稿保存 <sup>※3</sup>	ON、OFF	OFF
ファイル形式 <sup>※3</sup>	PDF、TIFF	PDF
ダイヤルイン	ON、OFF	OFF
リモート診断	ON、OFF	OFF
年月日表示	漢字、アルファベット、数字	漢字
漢字変換	入力方式：ローマ字漢字入力、かな漢字入力、区点入力	ローマ字漢字
	入力文字：全角ひらがな、全角カタカナ、半角カタカナ、 全角英数、半角英数	全角ひらがな
F ネット無鳴動受信	ON、OFF	OFF
手差し給紙	ON、OFF	OFF
リモート切替ダイヤル	任意の 2 桁の数字 (00 ~ 99)	55
個別 ID	任意の 4 桁の数字 (0000 ~ 9999)	0000
受信サイズ	縮小優先、等倍優先	等倍優先

※2：マルチポート（オプション）装着時のみ設定可

※3：プリンタ/スキャナキット（オプション）装着時のみ設定可

## 受信サイズと出力用紙優先順位表

受信した原稿のサイズと、同サイズ同方向の用紙がカセットにセットされていない場合、本機が印字出力の際に自動で選択する用紙の優先順位は以下の通りです。

		受信サイズ					
		A5	B5	A4R	A4	B4	A3
記 録 紙	①	<sup>*1</sup> A5R	B5	A4R	A4	B4	A3
	②	A4R	<sup>*1</sup> B5R	<sup>*1</sup> A4	<sup>*1</sup> A4R	A3	
	③	<sup>*1</sup> A4	B4	A3	A3		<sup>*1</sup> 
	④	B5	A4	B4	<sup>*1</sup> B4	<sup>*1</sup> 	<sup>*1</sup> 
	⑤	<sup>*1</sup> B5R	<sup>*1</sup> A4R	<sup>*1</sup> 			
	⑥	A3	A3			<sup>*1</sup> 	
	⑦	B4		<sup>*1</sup> 			

<表のみかた>

\*1 回転受信を示しています。

は2枚の用紙に分割して出力されることを示しています。



	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
ア	1600	亜	唾	娃	阿	哀	愛	挨	始	逢	力	1850	禍	禾	稼	箇	花	苛	茄	荷	華	菓	キ	2100	機	婦	毅	気	汽	畿	祈	季	稀		
	1610	葵	茜	穉	惡	握	渥	旭	葦	蓼		1860	蝦	課	嘩	貨	迦	過	霞	蚊	俄	峨		2110	紀	徽	規	記	貴	起	軌	輝	飢	騎	
	1620	梓	庄	幹	扱	宛	姐	虻	飴	絢		綾	1870	我	牙	画	臥	芽	蛾	賀	雅	餓		駕	2120	鬼	龜	偽	儀	妓	宜	戲	技	擬	欺
	1630	鮎	或	粟	裕	安	庵	按	暗	案		闇	1880	介	会	解	回	塊	壞	迴	快	怪		悔	2130	犧	疑	祇	義	蟻	誼	議	掬	菊	鞠
	1640	鞍	杏	以	伊	位	依	偉	困	夷		委	1890	恢	懷	戒	拐	改	2140	吉	吃	喫		桔	橘	詰	砧	杵	黍	却					
イ	1650	威	尉	惟	意	慰	易	椅	為	畏	異	1900	魁	晦	械	海	灰	界	皆	絵	芥	2150	客	脚	虐	逆	丘	久	仇	休	及	吸			
	1660	移	維	緯	胃	萎	衣	謂	違	遺	医	1910	蟹	開	階	貝	凱	効	外	咳	害	崖	2160	宮	弓	急	救	朽	求	汲	泣	灸	球		
	1670	井	亥	域	育	郁	磯	一	壘	溢	逸	1920	慨	概	涯	碍	蓋	街	該	鎧	骸	湮	2170	究	窮	笈	級	糾	給	旧	牛	去	居		
	1680	稻	茨	芋	鯛	允	印	咽	員	因	姻	1930	馨	蛙	垣	柿	蛎	鈎	劃	嚇	各	廓	2180	巨	拒	拋	拳	渠	虚	許	距	鋸	漁		
	1690	引	飲	淫	胤	蔭	1940	扠	攪	格	核	殼	獲	確	穫	覺	角	2190	禦	魚	亨	享	京												
1700	院	陰	隱	韻	吋	右	宇	烏	羽	1950	赫	較	郭	閣	隔	革	学	岳	衆	額	2200	供	俠	僑	兇	競	共	凶	協	匡					
ウ	1710	迂	雨	卯	鵜	窺	丑	碓	臼	渦	嘘	1960	顎	掛	笠	檉	櫃	梹	湫	割	喝	2210	卿	叫	喬	境	峽	強	彊	怯	恐	恭			
	1720	唄	鬱	蔚	鰻	姥	厩	浦	瓜	閨	樽	1970	恰	括	活	渴	滑	葛	褐	轄	且	鯉	2220	挾	教	橋	況	狂	狹	矯	胸	脅	興		
	1730	云	運	雲	荏	餌	馥	營	嬰	影	映	1980	叶	椈	樺	鞞	株	兜	竈	蒲	釜	鎌	2230	蕎	郷	鏡	響	響	驚	仰	凝	堯	曉		
エ	1740	曳	栄	永	泳	洩	瑛	盈	穎	穎	英	1990	嚙	鴨	栢	茅	萱	2240	業	局	曲	極	玉	桐	籽	僅	勤	均							
	1750	衛	詠	銳	液	疫	益	馱	悦	謁	越	2000	粥	刈	苻	瓦	乾	侃	冠	寒	刊	2250	巾	錦	斤	欣	欽	琴	禁	禽	筋	緊			
	1760	閱	榎	厭	円	園	堰	奄	宴	延	怨	2010	勘	勸	卷	喚	堪	姦	完	官	寬	干	2260	芹	菌	衿	襟	謹	近	金	吟	銀	九		
	1770	掩	援	沿	演	炎	焰	煙	燕	猿	緣	2020	幹	患	感	慣	憾	換	敢	柑	桓	棺	2270	俱	句	区	狗	玖	矩	苦	軀	馭	駟		
	1780	艷	苑	園	遠	鉛	鴛	塩	於	汚	甥	2030	款	飲	汗	漢	澗	灌	環	甘	監	看	2280	駒	貝	愚	虞	喰	空	偶	寓	遇	隅		
オ	1790	凹	央	奧	往	応	2040	竿	管	簡	緩	缶	翰	肝	艦	莞	觀	2290	串	櫛	釧	屑	屈												
	1800	押	旺	横	欧	殴	王	翁	襖	鶯	2050	諫	貫	還	鑑	間	閑	閑	陷	韓	館	2300	掘	窟	沓	靴	轡	窪	熊	隈	糸				
	1810	鷓	黄	岡	冲	荻	億	屋	憶	臆	桶	2060	舘	丸	含	岸	巖	玩	癌	眼	岩	甌	2310	栗	繰	桑	鋏	勲	君	薫	訓	群	軍		
カ	1820	牡	乙	俺	卸	恩	温	穩	音	下	化	2070	匱	雁	頑	顔	願	企	伎	危	喜	器	2320	郡	卦	袈	袈	係	傾	刑	兄	啓	圭		
	1830	仮	何	伽	伽	佳	加	可	嘉	夏	嫁	2080	基	奇	嬉	寄	岐	希	幾	忌	揮	机	2330	珪	型	契	形	徑	患	慶	慧	憩	掲		
1840	家	寡	科	暇	果	架	歌	河	火	珂	2090	旗	既	期	棋	棄	2340	携	敬	景	桂	溪	畦	稽	系	經	繼								

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
ケ	2350	繫	野	荃	荊	蚩	計	詣	警	輕	頸	コ	2600	此	頃	今	困	坤	壘	婚	恨	懇	ク	2850	社	紗	者	謝	車	遮	蛇	邪	借	勺	
	2360	鷄	芸	迎	鯨	劇	戟	擊	激	際	桁		2610	昏	昆	根	梱	混	痕	紺	良	魂		些	2860	尺	杓	灼	爵	酌	积	錫	若	寂	弱
	2370	傑	欠	決	潔	穴	結	血	訣	月	件		2620	佐	又	峻	嵯	左	差	查	沙	磋		砂	2870	惹	主	取	守	手	朱	殊	狩	珠	種
	2380	俟	倦	健	兼	券	剣	喧	圈	堅	嫌		2630	詐	鎖	娑	坐	座	挫	債	催	再		最	2880	腫	趣	酒	首	儒	受	呪	寿	授	樹
	2390	建	憲	懸	拳	捲	2640	哉	塞	妻	宰		彩	才	採	裁	歲	濟	2890	綬	需	囚		収	周										
コ	2400	檢	権	牽	犬	献	研	硯	絹	梟	2650	災	采	犀	碎	砦	祭	斎	細	菜	裁	2900	宗	就	州	修	愁	拾	洲	秀	秋				
	2410	肩	見	謙	賢	軒	遣	鍵	険	顕	験	2660	載	際	劑	在	材	罪	財	冴	坂	阪	2910	終	繡	習	臭	舟	菟	衆	襲	讐	蹴		
	2420	齷	元	原	嚴	幻	弦	減	源	玄	現	2670	堺	柵	肴	咲	崎	埼	碕	鷺	作	削	2920	輯	週	酋	酬	集	醜	什	住	充	十		
	2430	絃	舷	言	諺	限	乎	個	古	呼	固	2680	咋	搾	昨	朔	柵	窄	策	索	錯	桜	2930	從	戎	柔	汁	渋	獸	縱	重	銃	叔		
	2440	姑	孤	己	庫	弧	戸	故	枯	湖	狐	2690	鮭	笹	匙	冊	刷	2940	夙	宿	淑	祝	縮	肅	塾	熟	出	術							
ク	2450	糊	袴	股	胡	菰	虎	誇	跨	鈷	雇	2700	察	拶	撮	擦	札	殺	薩	雜	臯	2950	述	俊	峻	春	瞬	竣	舜	駿	准	循			
	2460	顧	鼓	五	互	伍	午	吳	吾	娛	後	2710	鯖	捌	鑄	鮫	皿	晒	三	傘	參	山	2960	旬	楯	殉	淳	準	潤	盾	純	巡	遵		
	2470	御	悟	梧	檣	瑚	碁	語	誤	護	酬	2720	慘	撒	散	棧	燦	珊	産	算	纂	蚕	2970	醇	順	処	初	所	暑	曙	渚	庶	緒		
	2480	乞	鯉	交	佼	侯	候	倖	光	公	功	2730	讚	贊	酸	餐	斬	暫	残	仕	仔	伺	2980	署	書	薯	諸	諸	助	叙	女	序	徐		
	2490	効	勾	厚	口	向	2740	使	刺	司	史	嗣	四	士	始	姉	姿	2990	恕	鋤	除	傷	償												
ク	2500	后	喉	坑	垢	好	孔	孝	宏	工	2750	子	屍	市	師	志	思	指	支	孜	斯	3000	勝	匠	升	召	哨	商	唱	嘗	奨				
	2510	巧	巷	幸	広	庚	康	弘	恒	慌	抗	2760	施	旨	枝	止	死	氏	獅	祉	私	糸	3010	妾	娼	宵	将	小	少	尚	庄	床	廠		
	2520	拘	控	攻	昂	晃	更	杭	校	梗	構	2770	紙	紫	肢	脂	至	視	詞	詩	試	誌	3020	彰	承	抄	招	掌	捷	昇	昌	昭	晶		
	2530	江	洪	浩	港	溝	甲	皇	硬	稿	糠	2780	諮	資	賜	雌	飼	齒	事	似	侍	児	3030	松	梢	樟	樵	沼	消	涉	湘	燒	焦		
	2540	紅	紘	絞	綱	耕	考	肯	肱	腔	膏	2790	字	寺	慈	持	時	3040	照	症	省	硝	礁	祥	称	章	笑	粧							
ク	2550	航	荒	行	衡	講	貢	購	郊	醇	鈇	2800	次	滋	治	爾	璽	痔	磁	示	而	3050	紹	肖	莒	蔣	蕉	衝	裳	訟	証	詔			
	2560	砧	鋼	閤	降	項	香	高	鴻	剛	劫	2810	耳	自	蒔	辞	汐	鹿	式	識	鳴	竺	3060	詳	象	賞	醬	鉦	鍾	鐘	障	鞘	上		
	2570	号	合	壕	拷	濠	豪	轟	趨	克	刻	2820	軸	穴	卑	七	叱	執	失	嫉	室	悉	3070	丈	丞	乘	冗	剩	城	場	壤	嬢	常		
	2580	告	国	穀	酷	鵠	黒	獄	漉	腰	甌	2830	湿	漆	疾	質	実	菰	篠	俣	柴	芝	3080	情	擾	条	杖	淨	状	豊	穰	蒸	讓		
	2590	忽	惚	骨	狛	込	2840	屢	蕊	縞	舎	写	射	捨	赦	斜	煮	3090	釀	錠	囁	埴	飾												

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
シ	3100	拭	植	殖	燭	織	職	色	触	食	ン	3350	倉	喪	壯	奏	爽	宋	層	匠	惣	想	チ	3600	帖	帳	庁	弔	張	彫	微	懲	挑		
	3110	蝕	辱	尻	伸	信	侵	唇	娠	寢		審	3360	搜	掃	挿	搔	操	早	曹	崇	槍		槽	3610	暢	朝	潮	牒	町	眺	聴	脹	腸	蝶
	3120	心	慎	振	新	晋	森	榛	浸	深		申	3370	漕	燥	争	瘦	相	窓	糟	総	綜		聡	3620	調	謀	超	跳	眺	長	頂	鳥	勅	抄
	3130	疹	真	神	秦	紳	臣	芯	薪	親		診	3380	草	莊	葬	蒼	藻	装	走	送	遭		鎗	3630	直	朕	沈	珍	賃	鎮	陳	津	墜	椎
	3140	身	辛	進	針	震	人	仁	刃	塵		壬	3390	霜	騷	像	增	憎								3640	槌	追	鎚	痛	通	塚	拇	搦	槻
3150	尋	甚	尽	腎	訊	迅	陣	鞞	筒	諷	3400	臟	藏	贈	造	促	側	則	即	息		3650	漬	柘	辻	蔦	綴	鏑	椿	漬	坪	壺			
又	3160	須	酢	囟	厨	逗	吹	垂	帥	推	水	3410	捉	束	測	足	速	俗	属	賊	族	統	3660	孀	紬	爪	吊	釣	鶴	亭	低	停	偵		
	3170	炊	睡	粹	翠	衰	遂	醉	錐	錘	随	3420	卒	袖	其	揃	存	孫	尊	損	村	遜	3670	荆	貞	呈	堤	定	帝	底	庭	廷	弟		
	3180	瑞	髓	崇	嵩	数	枢	趨	雛	据	杉	3430	他	多	太	汰	記	唾	墮	妥	情	打	3680	悌	抵	挺	提	梯	汀	碇	禎	程	締		
	3190	梟	菅	頗	雀	裾						3440	柁	舵	梢	陀	駄	驛	体	堆	对	耐	3690	艇	訂	諦	蹄	遞							
3200	澄	摺	寸	世	瀨	畝	是	凄	制		3450	岱	帶	待	怠	態	戴	替	泰	滯	胎	テ	3700	邸	鄭	釘	鼎	泥	摘	擢	敵	滴			
セ	3210	勢	姓	征	性	成	政	整	星	晴	棲	3460	腿	苔	袋	貸	退	逮	隊	黛	鯛	代	3710	的	笛	適	鎬	溺	哲	徹	撤	轍	迭		
	3220	栖	正	清	牲	生	盛	精	聖	声	製	3470	台	大	第	醒	題	鷹	滝	瀧	卓	啄	3720	鉄	典	填	天	展	店	添	纏	甜	貼		
	3230	西	誠	誓	請	逝	醒	青	静	齐	税	3480	宅	托	扱	拓	沢	濯	琢	託	鐸	濁	3730	転	顛	点	伝	殿	澱	田	電	兔	吐		
	3240	脆	隻	席	惜	戚	斥	昔	析	石	積	3490	諾	茸	胤	蛸	只						3740	堵	塗	妬	屠	徒	斗	杜	渡	登	菟		
	3250	籍	績	脊	責	赤	跡	蹟	碩	切	拙	3500	叩	但	達	辰	奪	脱	巽	豎	迥		3750	賭	途	都	鍍	砥	砺	努	度	土	奴		
	3260	接	撰	折	設	窃	節	説	雪	絶	舌	3510	棚	谷	狸	鱈	樽	誰	丹	单	嘆	坦	3760	怒	倒	党	冬	凍	刀	唐	塔	塘	套		
	3270	蝉	仙	先	千	占	宣	專	尖	川	戰	3520	担	探	旦	歎	淡	湛	炭	短	端	筆	3770	宕	島	嶋	悼	投	搭	東	桃	栲	棟		
	3280	扇	撰	柱	栴	泉	浅	洗	染	潜	煎	3530	綻	耽	胆	蛋	誕	鍛	団	壇	彈	断	3780	盜	淘	湯	涛	灯	燈	当	痘	禱	等		
	3290	煽	旋	穿	箭	線						3540	暖	檀	段	男	談	値	知	地	弛	恥	ト	3790	答	筒	糖	統	到						
	3300	織	羨	腺	舛	船	薦	詮	賤	踐		3550	智	池	痴	稚	置	致	蚰	遲	馳	築	3800	董	蕩	藤	討	膳	豆	踏	逃	透			
	3310	選	遷	錢	銑	閃	鮮	前	善	漸	然	3560	畜	竹	筑	蓄	逐	秩	窒	茶	嫡	着	3810	鎧	陶	頭	騰	鬪	働	動	同	堂	導		
	3320	全	禪	繕	膳	糲	噌	塑	岨	措	曾	3570	中	仲	宙	忠	抽	昼	柱	注	虫	衷	3820	懂	撞	洞	瞳	童	胴	苟	道	銅	峠		
3330	曾	楚	狙	疏	疎	礎	祖	租	粗	素	3580	註	耐	鏽	駐	樽	瀕	猪	苧	著	貯	3830	鴛	匿	得	德	浣	特	督	禿	篤	毒			
3340	組	蘇	訴	阻	遯	鼠	僧	創	双	叢	3590	丁	兆	凋	喋	寵						3840	独	読	柄	椽	凸	突	椴	屈	鳶	苫			

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
ト	3850	寅	西	滯	噸	屯	惇	敦	沌	豚	遁	4100	鼻	柁	稗	匹	疋	髭	彦	膝	菱	ホ	4350	牧	睦	穆	釦	勃	没	殆	堀	幌	奔	
	3860	頓	呑	曇	鈍	奈	那	内	乍	仄	雍	4110	肘	弼	必	畢	筆	遍	桧	姫	媛		紐	4360	本	翻	凡	盆	摩	磨	魔	麻	埋	妹
ナ	3870	謎	灘	捺	鍋	櫛	馴	繩	暇	南	楠	4120	百	謬	儀	彪	標	氷	漂	瓢	票	表	マ	4370	昧	枚	每	哩	模	幕	膜	枕	鮪	枉
	3880	軟	難	汝	二	尼	弑	迓	勾	賑	肉	4130	評	豹	廟	描	病	秒	苗	锚	鉦	蒜		4380	鱒	榭	亦	俣	又	抹	末	沫	迄	俛
ニ	3890	虹	廿	日	乳	入					4140	蛭	鱗	品	彬	斌	浜	瀕	貧	賓	頻	ミ	4390	爾	磨	万	慢	滿						
又	3900	如	尿	菲	任	妊	忍	認	濡	襦	4150	敏	瓶	不	付	埠	夫	婦	富	富	布		4400	漫	蔓	味	未	魅	巴	箕	岬	密		
ネ	3910	祢	寧	葱	猫	熱	年	念	捻	燃	4160	府	怖	扶	敷	斧	普	浮	父	符	腐	ム	4410	蜜	湊	蓑	稔	脈	妙	耗	民	眠	務	
	3920	粘	乃	迺	之	囊	惱	濃	納	能	4170	膚	芙	譜	負	賦	赴	阜	附	侮	撫		4420	夢	無	牟	矛	霧	鷓	掠	婿	娘	冥	
ハ	3930	腦	膿	農	覗	蚤	巴	把	播	霸	杷	4180	武	舞	葡	蕪	部	封	楓	風	葺	メ	4430	名	命	明	盟	迷	銘	鳴	姪	牝	滅	
	3940	波	派	琶	破	婆	罵	芭	馬	俳	糜	4190	伏	副	復	幅	服						4440	免	棉	綿	緬	面	麵	摸	模	茂	妄	
	3950	排	排	敗	杯	盃	牌	背	肺	輩	配	4200	福	腹	複	覆	淵	弗	払	沸	仏	モ	4450	孟	毛	猛	盲	網	耗	蒙	儲	木	默	
	3960	倍	培	媒	梅	煤	煤	猥	買	売	賠	4210	物	鮒	分	吻	噴	墳	憤	扮	焚		奮	4460	目	李	勿	餅	尤	戾	初	貴	問	悶
	3970	陪	這	蠅	秤	矧	萩	伯	剝	博	拍	4220	粉	糞	紛	秀	文	聞	丙	併	兵	塀	4470	紋	門	匆	也	冶	夜	爺	耶	野	弥	
	3980	柏	泊	白	箔	粕	舶	薄	迫	曝	漠	4230	幣	平	弊	柄	並	蔽	閉	陛	米	頁	ヤ	4480	矢	厄	役	約	藥	訳	躍	靖	柳	藪
	3990	爆	縛	莫	駁	麥						4240	僻	壁	癖	碧	別	警	蔑	篋	偏	變		4490	鑊	愉	愈	油	癒					
	ヒ	4000	函	箱	筥	箆	箆	櫛	幡	肌		4250	片	篇	編	辺	返	遍	便	勉	婉	弁	コ	4500	諭	輸	唯	佑	優	勇	友	宥	幽	
		4010	畑	畠	八	鉢	澆	発	醜	髮	伐	罰	4260	鞭	保	舗	舗	圃	捕	歩	甫	補		輔	4510	悠	憂	揖	有	柚	湧	涌	猶	猷
		4020	拔	筏	閱	鳩	嘶	塙	蛤	隼	伴	判	4270	穂	募	墓	慕	戊	暮	母	簿	菩	倣	4520	祐	裕	誘	遊	邑	郵	雄	融	夕	予
		4030	半	反	叛	帆	搬	斑	板	汎	汎	版	4280	俸	包	呆	報	奉	宝	峰	峯	崩	庖	4530	余	与	譽	輿	預	傭	幼	妖	容	庸
		4040	犯	班	畔	繁	般	藩	販	範	采	煩	4290	抱	捧	放	方	朋						ク	4540	揚	搖	擁	曜	楊	樣	洋	溶	熔
4050		頒	飯	挽	晩	番	盤	磬	蕃	奩	匪	4300	法	泡	烹	砲	縫	胞	芳	萌	蓬		4550		窠	羊	耀	葉	蓉	要	謡	踊	遙	陽
4060		卑	否	妃	庇	彼	悲	扉	批	披	斐	4310	蜂	褒	訪	豐	邦	鋒	飽	鳳	鵬	乏	ケ	4560	養	慾	抑	欲	沃	浴	翌	翼	淀	羅
4070		比	泌	疲																														







## エラーコード一覧表

通信エラーが発生すると、送信／受信結果レポートや通信管理レポートには、以下のようなエラーコードが記録されます。以下の内容を確認してください。

※ V34 で送った場合エラーコードの“U”は“E”になります。

エラーコード	原因及び処置方法
Busy	設定されている回数の自動リダイヤルが行われたにもかかわらず、相手先と回線がつながりません。もう一度送信または受信の操作をやりなおしてください。
Stop	送信中にストップ/クリアキーが押されたため、送信が中断されました。 受信中にストップ/クリアキーが押されたため、受信が中断されました。 マルチ通信中（ポーリング受信など）に中断操作を行ったため、それ以降の相手先へのダイヤルが行われませんでした。
U00300	送信中に相手機側（受信側）で記録紙切れが発生しました。相手先を確認してください。
U00420 - U00462	相手先からの受信の際に、回線はつながったが相手機側（送信側）と通信機能に不一致があったため、受信が中断されました。
U00600 - U00690	自機の不具合により、通信が中断されました。もう一度送信または受信しなおしてください。
U00700	相手機側の不具合により、通信が中断されました。相手先を確認してください。
U00800 U00810	正しく送信できなかったページがあります。もう一度送信しなおしてください。
U00900 U00910	正しく受信できなかったページがあります。もう一度受信しなおしてください。
U01000 - U01092	送信中に通信エラーが発生しました。もう一度送信しなおしてください。
U01100 - U01199	受信中に通信エラーが発生しました。もう一度受信しなおしてください。
U01400	時刻指定をして通信を予約した際に、相手先の番号をワンタッチダイヤルなどの自機に登録されている番号を使って入力していたが、指定した時刻が来て、機械がダイヤルを開始した時点で、その番号が自機に登録されていないため、該当する相手先との通信ができませんでした。自機を確認してください。 回線設定でプッシュ回線を選択していたときに登録された#を含むダイヤルをダイヤルパルス回線に変更した状態で使用したため、該当する相手先との通信ができませんでした。
U01500	高速の送信速度で送信時、通信エラーになりました。もう一度送信を行ってみてください。

エラーコード	原因及び処置方法
U01600	高速の送信速度で受信時、通信エラーになりました。相手先の送信速度を下げてもらってもう一度送信してもらってください。
U01700 U01720	高速の送信速度で送信時、通信エラーになりました。もう一度送信を行ってください。
U01721	高速の送信速度で送信時、通信エラーになりました。相手先に使用した送信速度が無いかもかもしれません。ワンタッチダイヤルで送信を行うときは送信開始速度を中速か低速に下げ再送信してください。
U01800 - U01820	高速の送信速度で受信時、通信エラーになりました。相手先の送信速度を下げてもらってもう一度送信してもらってください。
U01821	高速の送信速度で受信時、通信エラーになりました。本機に使用した送信速度が無いかもかもしれません。相手先の送信速度を下げてもらってもう一度送信してもらってください。
U02200	F コード中継指示送信を中継機で受信したが最終相手先が F コード中継ボックスに指定されていないため送信できません。F コード中継ボックスを確認し、もう一度送信開始機に送信を行ってください。
U02400	F コード中継指示送信を中継機で受信したが送信先で入力されたパスワードと F コード中継ボックスの F コードパスワードが一致しないため通信エラーになりました。F コード中継ボックスを確認し、もう一度送信開始機に送信を行ってください。
U03000	ポーリング受信機能を使って原稿を受信しようとしたが、相手先の機械に原稿がセットされていないため、受信できませんでした。相手先を確認してください。
U03200	相手機が自社機である場合に、F コード掲示板受信機能を使って相手先の F コード親展ボックスから原稿を受信しようとしたが、指定した F コード親展ボックスには何も入っていない。相手先を確認してください。
U03300	次の (1) と (2) のどちらかが原因でエラーとなりました。相手先を確認してください。 (1) 相手機が自社機である場合に、ポーリング受信機能を使って相手先から原稿を受信しようとしたが、相手機側でパスワード通信が設定されており、必要なパスワードが不一致であったため、通信が中断された。 (2) 相手機が自社機である場合に、F コード掲示板受信機能を使って相手先の F コード親展ボックスから原稿を受信しようとしたが、相手機側でパスワード通信が設定されており、必要なパスワードが不一致であったため、通信が中断された。
U03400	ポーリング受信で相手先から原稿を受信しようとしたが、相手先で入力されたパスワードと受信側の自局 ID が一致しなかったため、受信が中断されました。相手側を確認してください。
U03500	相手機が自社機である場合に、F コード掲示板受信機能を使って相手先の F コード親展ボックスから原稿を受信しようとしたが、指定した F コード親展ボックスが相手機に登録されていませんでした。相手先を確認してください。

エラーコード	原因及び処置方法
U03600	相手機が自社機である場合に、Fコード掲示板受信機能を使って相手先のFコード親展ボックスから原稿を受信しようとしたが、指定したFコードパスワードが一致しなかったため、受信が中断されました。相手先を確認してください。
U03700	Fコード掲示板受信機能を使って相手先から原稿を受信しようとしたが、相手機にFコード掲示板送信機能がないか、どの原稿受渡しボックス（Fコード親展ボックス）にも原稿が入っていなかった。
U04000	相手機が自社機である場合に、Fコード親展送信機能を使って相手先のFコード親展ボックスに原稿を送信しようとしたが、指定したFコード親展ボックスが相手機に登録されていなかった。
U04100	相手先の原稿受渡しボックス（Fコード親展ボックス）に原稿を送信しようとしたが、相手機にはFコード親展受信機能がなかった。
U04200	暗号送信を行ったが、指定した相手先の親展ボックスが暗号通信用でないか、あるいは暗号ボックスが登録されていないため、送信が中断されました。
U04300	暗号送信を行ったが、相手先の機械には暗号通信機能がなかったため、送信が中断されました。
U04400	暗号送信を行ったが、暗号鍵が不一致であったため、送信が中断されました。
U04401	暗号送信を行ったが、暗号鍵が未登録であったため、相手先へのダイヤルが行われませんでした。
U04500	暗号受信を行ったが、暗号鍵が不一致であったため、受信が中断されました。
U05100	送信を行ったが、自機にパスワード送信の設定がされており、そのために必要なパスワードが不一致であったため、送信が中断されました。相手先を確認してください。
U05200	相手先から原稿が送信されてきたが、自機にパスワード受信の設定がされており、そのために必要なパスワードが不一致であったため、受信が中断されました。
U05300	送信を行ったが、相手先側でパスワード受信が設定されており、そのために必要なパスワードが不一致であったため、相手先側から受信を拒否されました。相手先を確認してください。
U09000	相手側機と通信形態が異なる（相手側機はG2機）ため、通信できませんでした。
U12000	Fコード中継指示送信を中継機で受信したが、Fコード中継ボックスのメモリがいっぱいになりました。メモリに空きを確保してからもう一度送信開始機に送信を行ってもらってください。

エラーコード	原因及び処置方法
U14000	Fコード親展ボックスへの受信が行われたが、自機のメモリアーバーにより受信が中断されました。メモリ内に蓄積（記憶）されている原稿を出力しメモリをあけるか、Fコード親展受信をとり止めてください。
U14100	相手機が自社機である場合に、相手先Fコードボックスへの送信を行ったが、相手機のメモリアーバーにより送信が中断されました。相手先を確認してください。
U19000	代行受信が行われたが、自機のメモリアーバーにより受信が中断されました。メモリ内に蓄積（記憶）されている原稿を出力しメモリを空けてから、もう一度受信しなおしてください。
U19100	相手先への送信を行ったが、相手先の機械のメモリアーバーにより送信が中断されました。相手先を確認してください。
U19200	メモリ送信中にデータに異常が発生し、送信が中断されました。もう一度この送信に関する操作をやりなおしてください。
U19300	送信中にデータに異常が発生し、送信が中断されました。もう一度この送信に関する操作をやりなおしてください。
U19400	受信中にデータに異常が発生し、受信が中断されました。もう一度この受信に関する操作をやりなおしてください。

## さくいん

<b>あ</b>		許可 ID 番号の変更 / 削除	5-35
		許可 TEL 番号の登録	5-32
		許可 TEL 番号の変更 / 削除	5-33
<b>い</b>			
宛先帳	2-25		
宛先帳の使用	2-26		
検索	2-25		
宛先帳リスト	2-27		
暗号鍵	5-37		
暗号鍵の登録	5-36		
暗号鍵の登録内容変更 / 削除	5-38		
暗号鍵番号	5-37		
暗号鍵リスト	5-43		
暗号通信	5-36		
暗号ボックスからの出力	5-42		
暗号ボックスの登録	5-38		
暗号ボックスの登録内容の変更 / 削除	5-40		
暗号ボックスリスト	5-43		
<b>え</b>			
一括送信機能	1-14		
<b>お</b>			
エラーが発生したとき	4-2		
エラーコード一覧表	10-13		
エラーメッセージ	4-3		
<b>か</b>			
オートクリア機能	1-10		
オートシャットオフ機能	1-10		
オプションメモリ	8-3		
オンラインマニュアル	9-1		
音量調整	7-5		
<b>き</b>			
基本画面	1-3		
許可 ID 番号の登録	5-34		
<b>く</b>			
		区点コード表	10-7
		区点入力	2-13
		グループダイヤル	5-26
		使いかた	5-28
		登録	5-26
		登録内容の変更と削除	5-27
		グループダイヤルリスト	5-28
<b>け</b>			
		掲示板設定	7-3
		原稿送り装置	1-1、2-2
		原稿送り装置読込設定	7-6
		原稿のセット	2-2
<b>こ</b>			
		「故障かな？」と思ったら	4-5
		コピー優先出力	1-16
		個別 ID 登録	7-17
<b>さ</b>			
		サブアドレス	5-9
<b>し</b>			
		自局情報登録	1-6
		時刻指定通信	3-8
		自動送信	2-1
		自動リダイヤル	2-28
		受信結果の確認	6-2
		受信サイズと出力用紙優先順位表	10-6
		受信サイズ設定	7-19
		受信専用ポート設定	7-13
		受信日時記録設定	7-9
		受信の中止	2-9
		受信モード設定	7-8
		出荷値設定一覧表	10-4
		手動受信	3-18
		手動送信	3-17
		手動リダイヤル	2-28
		順次同報送信	3-6
		仕様	10-1
		初期モード	1-9

## そ

操作パネル	1-2
送信カウンタの参照	5-47
送信結果の確認	6-1
送信原稿保存設定	9-5
送信モードの初期値設定	7-7
送信予約	3-5

## た

代行受信機能	1-15、2-7
ダイヤルイン	5-4
ダイヤルイン FAX/TEL 番号の登録	5-4
ダイヤルイン設定	5-5
ダイレクト送信の中止	2-9
短縮ダイヤル	2-24
短縮番号	1-17

## ち

チェーンダイヤル	3-9
使いかた	3-11
登録	3-9
登録内容の変更と削除	3-10

## つ

通信管理レポート	6-3
通信結果表示	6-1
通信原稿の印字	3-12
通信内容の変更	3-14
通信の削除	3-13
通信の即時実行	3-13
通信の中止方法	2-8
通信予約確認レポート	6-3

## て

手差し給紙設定	7-11
デュアルアクセス機能	1-12
電源断レポート	4-1
電話回線種別の設定	1-5

## に

日時登録	1-8
------	-----

## ね

年月日表示設定	7-15
---------	------

## は

パスワードチェック通信	5-32
パスワードチェック通信設定	5-35
発信元記録設定	1-6
ハンドセット	8-1

## ふ

ファイル形式設定	9-5
ファクス給紙設定	7-10
ファクスの基本画面	1-3
ファクス優先出力	1-16
部門管理起動中の応用操作	5-46
部門管理起動中の登録操作	5-45
部門管理起動中のレポート出力操作	5-46
部門管理機能	5-44
部門管理レポート	5-48
プログラムダイヤル	5-29
使いかた	5-31
登録	5-29
登録内容の変更と削除	5-30
プログラムダイヤルリスト	5-31
文書番号	1-10

## へ

ベル回数設定	7-4
--------	-----

## ほ

ポーリング受信	5-8
ポーリング送信	5-7
ポーリング通信	5-7
本体各部	1-1

## ま

マルチポート	1-14、8-3
--------	----------

## め

メニュー構成一覧	10-2
メモリ送信（原稿読み取り中）の中止	2-8
メモリ送信（通信中）の中止	2-8
メモリ転送	5-24
転送先の登録	5-24
登録内容の変更	5-25
メモリ転送設定	5-25
メモリ編集	3-12

<b>も</b>		<b>数字</b>	
文字の入力	2-10	2 in 1 受信設定	7-12
<b>ゆ</b>		<b>アルファベット</b>	
ユーザー設定リスト	6-4	F コード	5-9
<b>り</b>		F コード 掲示板受信	5-17
リダイヤル	2-28	F コード 親展ボックスからの出力	5-14
リモート切替機能	5-6	F コード 親展ボックスの登録	5-11
使いかた	5-6	F コード 親展ボックスの登録内容の変更 / 削除	5-12
リモート切替ダイヤルの登録	5-6	F コード 親展ボックスへの原稿の入力	5-16
リモート診断設定	7-14	F コード 親展ボックスリスト	5-15
両面受信設定	7-20	F コード 親展送信	5-13
両面送信	3-1	F コード 親展通信	5-11
<b>れ</b>		F コード 中継同報指示送信	5-19、5-22
レポート出力設定	7-1	F コード 中継ボックスの登録	5-19
<b>ろ</b>		F コード 中継ボックスの登録内容の変更 / 削除	5-21
ローマ字漢字入力	2-12	F コード 中継ボックスリスト	5-23
<b>わ</b>		F コード 通信	1-14、5-9
割込送信	3-7	F コード パスワード	5-9
ワンタッチダイヤル	2-19	F コード ボックス	5-10
使いかた	2-22	F ネット 無鳴動受信機能	1-17
登録	2-19	F ネット 無鳴動受信設定	7-16
登録内容の変更と削除	2-21	FAX 専用自動受信	2-6
ワンタッチダイヤルリスト	2-23	FAX/ 留守番電話自動切替受信	5-3
		FAX/TEL 自動切替受信	5-1
		Network FAX 機能 (オプション)	1-11
		Network FAX 受信設定	9-4
		Network FAX 設定	9-1
		Network FAX 設定リスト	9-10
		Network FAX の各種登録	9-6



本機器は社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会が定めた複写機及び類似の機器の高調波対策ガイドライン（家電・汎用品高調波抑制対策ガイドラインに準拠）に適合しています。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。  
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

**QUALITY  
CERTIFICATE**

この製品はすべての品質管理および最終検査に合格しました。

